

れる。カマドは北壁中央に検出された。遺存状態は良好で、火床部がよく焼けている。

貯蔵穴(1)が、カマドに正対して、径80cm×65cm、深さ28cmを測り、不整楕円形を呈する。また、カマド西側に貯蔵穴(2)が、径98cm×77cm、深さ51cmを測る。楕円形を呈する。

本住居跡の出土遺物のうち、壺4点、手捏1点、瓶1点、石製品2点、玉3点、支脚1点、計12点を図示した。

1～4は土師器壺である。1は口縁部から底部の1/3遺存する。口縁部ヨコナデ、外面ヘラケズリ、内面ナデ、内外面赤彩（体部下端内外面除く）。法量は復元口径14.6cm、残存器高3.7cmである。2はほぼ完形である。口縁部ヨコナデ、外面ヘラケズリ、内面ナデ。内外面赤彩。法量は口径14.0cm、器高4.6cmを測る。3は口縁部から底部の4/5である。口縁部ヨコナデ、外面ヘラケズリ、内面は器面剥離で調整不明である。内外面赤彩（内面底部除く）。法量は復元口径12.0cm、器高5.5cm、底部は丸底である。4は口縁部から底部の1/3遺存する。口縁部ヨコナデ、外面ヘラケズリ、内面ナデ。内外面赤彩（底部除く）。法量は復元口径14.8cm、残存器高7.9cm、底部は丸底である。

5は土師器瓶である。底部の1/10遺存している。外面ヘラケズリ、底部内面ヘラケズリ。法量は残存口径8.2cm、復元底径7.6cmを測る。

6は手捏土器である。口縁部から底部の2/3遺存している。指ナデと指圧痕あり。法量は復元口径8.5cm、器高4.3cm、底径3.5cmを測る。

7は土製支脚の完形である。長さ16.4cm、最大幅8.4cm、重量1070.2gである。

8・9は軽石である。8は長さ3.5cm、幅3.6cm、厚さ3.6cm、重量11gを測る。9は長さ8.0cm、幅5.0cm、厚さ2.7cm、重量35gを測る。

10～12は土玉である。10は直径1.4cm、幅1.0cm、重量1.0gである。11は直径0.7cm、幅0.9cm、重量0.65gである。12は直径0.6cm、幅0.9cm、重量0.5gである。

#### H-101（第139図）

調査区中央南部に位置する。D-195、M-037と重複する。規模は4.46m×4.78mを測り、形状は正方形を呈する。

覆土は、人為堆積で3層に分層される。

床面は全体に硬化範囲が認められる。壁高は約80cmを測る。周溝は、カマド部分を除き全周し、幅22cm、深さ5cmを測る。

ピットは床面に5本検出された。主柱穴はP-1（径86cm×91cm、深さ45cm）、P-2（径71cm×82cm、深さ38cm）、P-3（径99cm×84cm、深さ40cm）、P-4（径73cm×72cm、深さ52cm）の4本が対角線上に配され、カマドと正対して位置するP-5は（径20cm×24cm、深さ40cm）を測る。カマドは北壁中央に検出された。

本住居跡の出土遺物のうち、壺5点、甕3点、小甕1点、手捏1点、石製品1点、支脚1点、計12点を図示した。

1～5は土師器壺である。1は口縁部から底部の2/3遺存する。口縁部内外面ヨコナデ、外面ヘラケズリ、内面ヘラミガキが施されている。口径13.4cm、器高3.7cm、底部は丸底である。2は口縁部から底部の1/2遺存する。口縁部ヨコナデ、外面ヘラケズリ、内面ヘラミガキ。復元口径13.6cm、器高3.9cm、底部は丸底である。3は口縁部から胴部の1/6遺存する。口縁部ヨコナデ、外面ヘラケズリ、内面ヘラミガキがみとめられるが、器面が剥離しているため図示できなかった。法量は復元口径13.6cm、残存器高5.2cmを測

## 第2節 壁穴住居跡

る。4は口縁部から底部の1/3遺存する。口縁部ヨコナデ、外面ヘラケズリ、内面ヘラケズリ後ナデ。復元口径15.4cm、器高5.8cm、復元底径9.5cmを測る。5は口縁部から底部の1/2遺存する。口縁部ヨコナデ、外面ヘラケズリ、内面ナデ。内外赤彩。口径16.4cm、残存器高6.2cmを測る。

6～9は土師器壺である。6は口縁部から胴部の2/3遺存する。口縁部内外面ヨコナデ、外面ヘラケズリ、内面ヘラナデ。法量は口径14.9cm、残存器高14.1cmを測る。7は小型壺で体部から底部の1/3遺存である。外面ヘラケズリ、内面は荒れていて調整不明である。残存器高10.7cm、底径6.2cmを測る。8は口縁から頭部の片である。口縁部ヨコナデ、外面ヘラケズリ、内面ナデ。復元口径18.4cm、残存器高7.2cmを測る。9は底部のみである。外面ヘラケズリ、内面ヘラナデ。残存器高2.7cm、底径8.0cmである。

10は手捏土器である。ほぼ完形である。指頭痕あり。残存器高1.9cmである。底径2cmである。

11は砥石である。残存長2.5cm、最大幅2.6cm、厚さ1.5cm、重量10.0gを測る。

12は土製支脚である。残存長3.5cm、最大幅4.7cm、重量52.1gである。

### H-103（第140図）

調査区南西部に位置する。M-032と重複。規模は3.12m×3.23mを測り、形状は正方形を呈する。

覆土は自然堆積で4層に分層される。

床面は北西の隅から南東の隅にかけて硬化範囲が認められる。壁高は約20cmを測る（西壁）。周溝は、M-032と重複する部分とカマド部分を除いて全周する。幅20cm、深さ5cmを測る。

ピットは床面に1本検出され、P-1（径29cm×15cm、深さ16cm）を測る。カマドは北壁中央より東よりに検出された。

本住居跡の出土遺物のうち、壺1点、壺1点、支脚1点、玉1点、計4点を図示した。

1は土師器壺型壺である。ほぼ完形である。外面ヘラケズリ、内面ナデ。法量は口径13.8cm、器高8.0cm、底径5.8cmを測る。

2は土製支脚である。外面ヘラケズリ、内面輪積痕あり。逆コップ型で中に砂を入れて支脚として使用していたと思われる。法量は残存器高7.2cm、最大幅8.9cmを測る。

3は土師器壺である。口縁から胴部の1/2遺存する。口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ヘラケズリ、内面ヘラナデが施されている。法量は口径16.0cm、残存器高12.2cmを測る。

4は石製の臼玉である。直径1.0cm、厚さ0.5cm、孔径0.2cm、重量0.5gを測る。

### H-108（第140図）

調査区南部に位置する。H-106、H-109、M-032と重複する。規模は4.25m×4.20mを測り、形状は正方形を呈する。

覆土は、自然堆積で5層に分層される。

壁高は約50cmを測る（東壁）。周溝は、重複部分とカマド部分を除き、ほぼ全周し、幅22cm、深さ9cmを測る。

ピットは床面に5本検出された。主柱穴はP-1（径39cm×72cm、深さ66cm）・P-2（径65cm×82cm、深さ75cm）・P-3（径56cm×72cm、深さ67cm）・P-4（径47cm×87cm、深さ53cm）の4本が対角線上に配され、カマドと正対して位置するP-5は（径40cm×57cm、深さ41cm）を測る。カマドは北西壁中央から右よりに検出された。

本住居跡の出土遺物のうち、壺2点、玉1点、計3点を図示した。

1～2は土師器坏である。1はほぼ完形である。口縁部ヨコナデ、外面ヘラケズリ、内面ナデ。薄れてはいるが黒色處理が施されている。口径10.4cm、器高2.9cm、底径5.5cmを測る。2は口縁部～底部の3/4遺存する。口縁部ヨコナデ、外面ヘラケズリ、内面ナデ後ヘラミガキを施している。口径12.6cm、器高4.2cm、底部は丸底である。

3は土玉である。径0.7cm、厚さ0.5cm、孔径0.2cm、重量0.3gを測る。

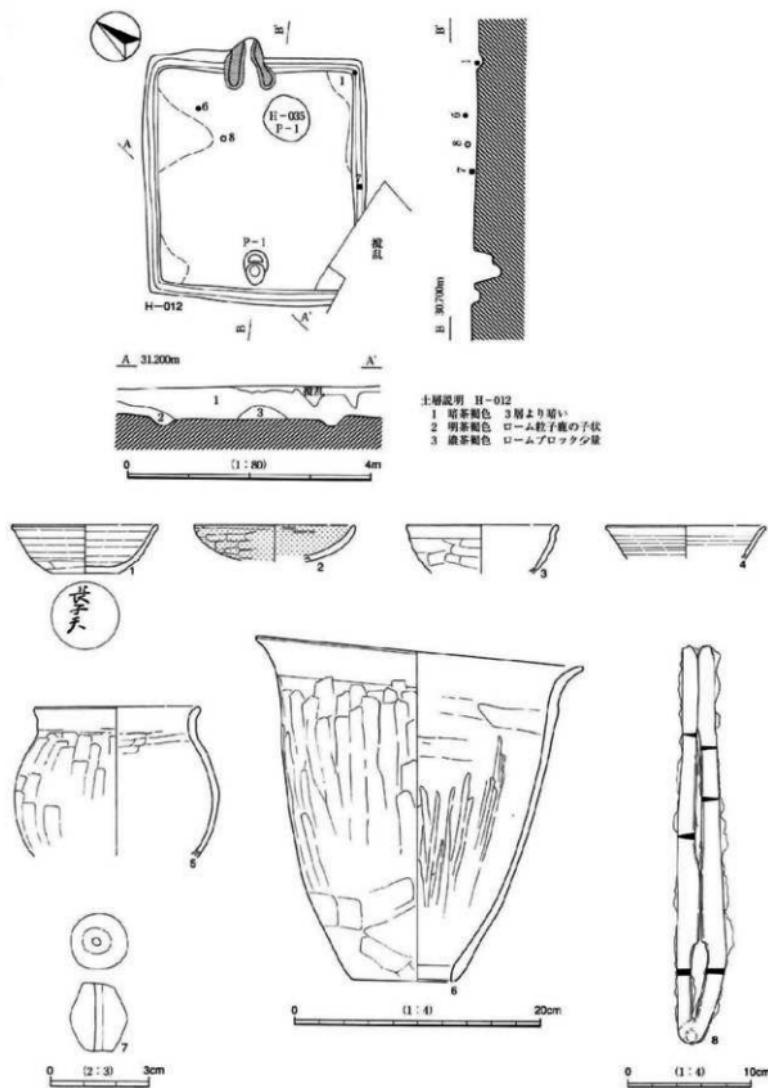
#### H-113（第141図）

調査区東部に位置する。M-044と重複する。規模は2.0m×2.0mを測り、形状は方形と思われる。周溝は、調査区外で切られているが、幅10cm、深さ1.2cmを測る。

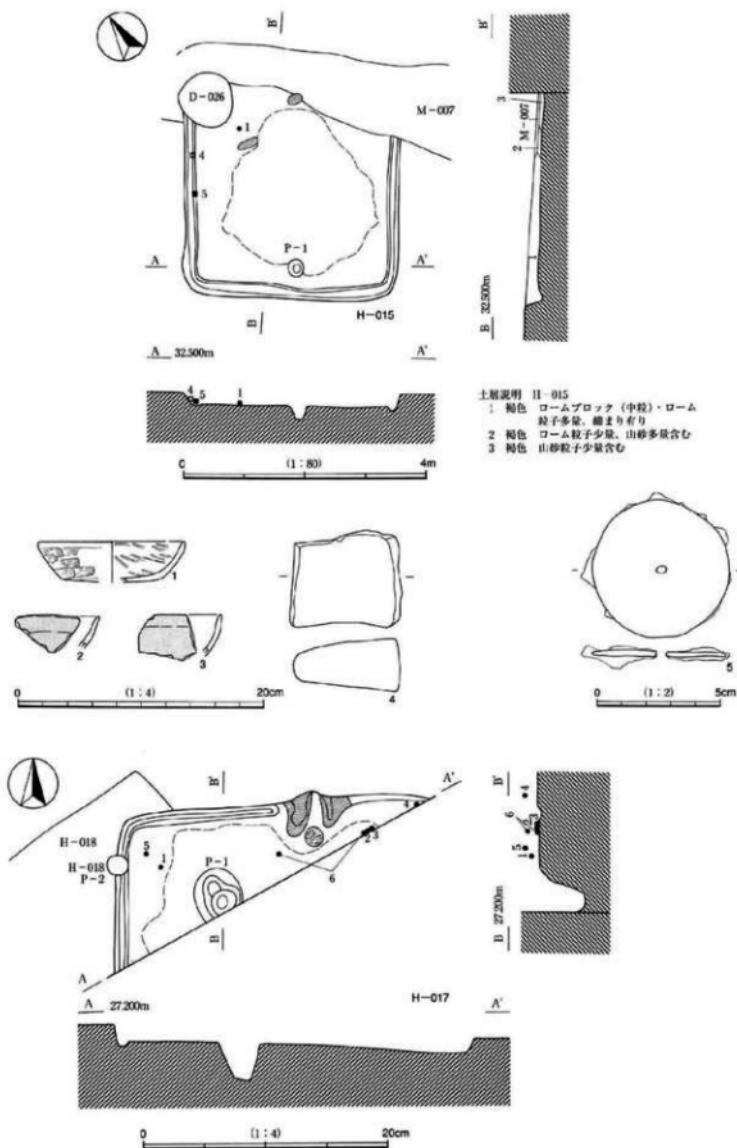
ピットは床面に1本検出された。P-1（径30cm×40cm、深さ47cm）を測る。

本住居跡から出土した遺物のうち瓶1点を図示した。

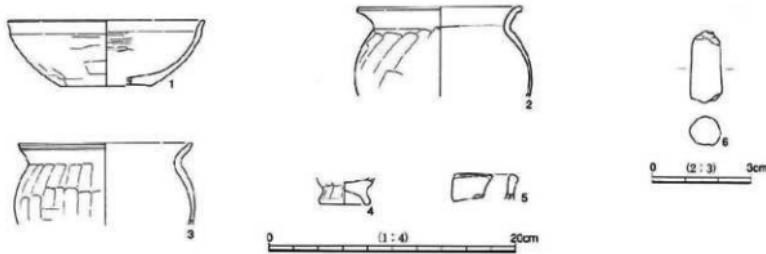
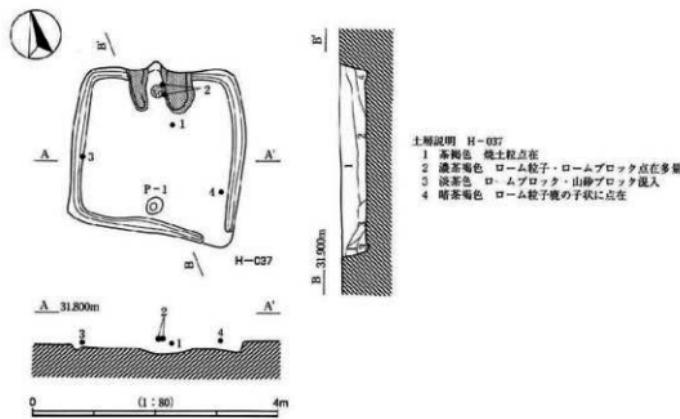
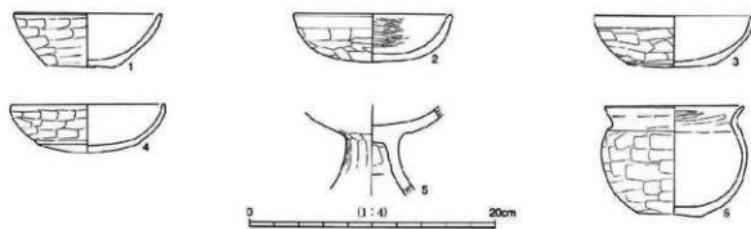
1は土師器瓶片である。



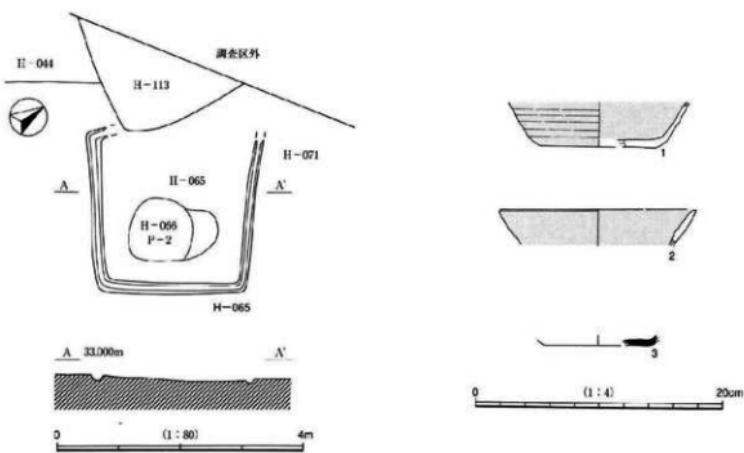
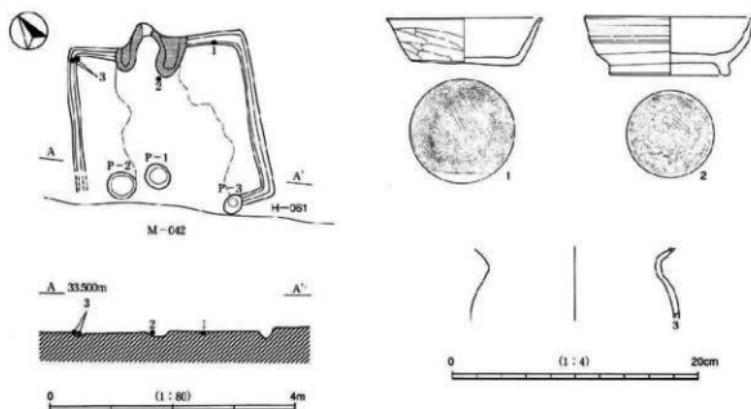
第132図 H-012実測図・出土遺物



第133図 H-015実測図・出土遺物・H-017実測図

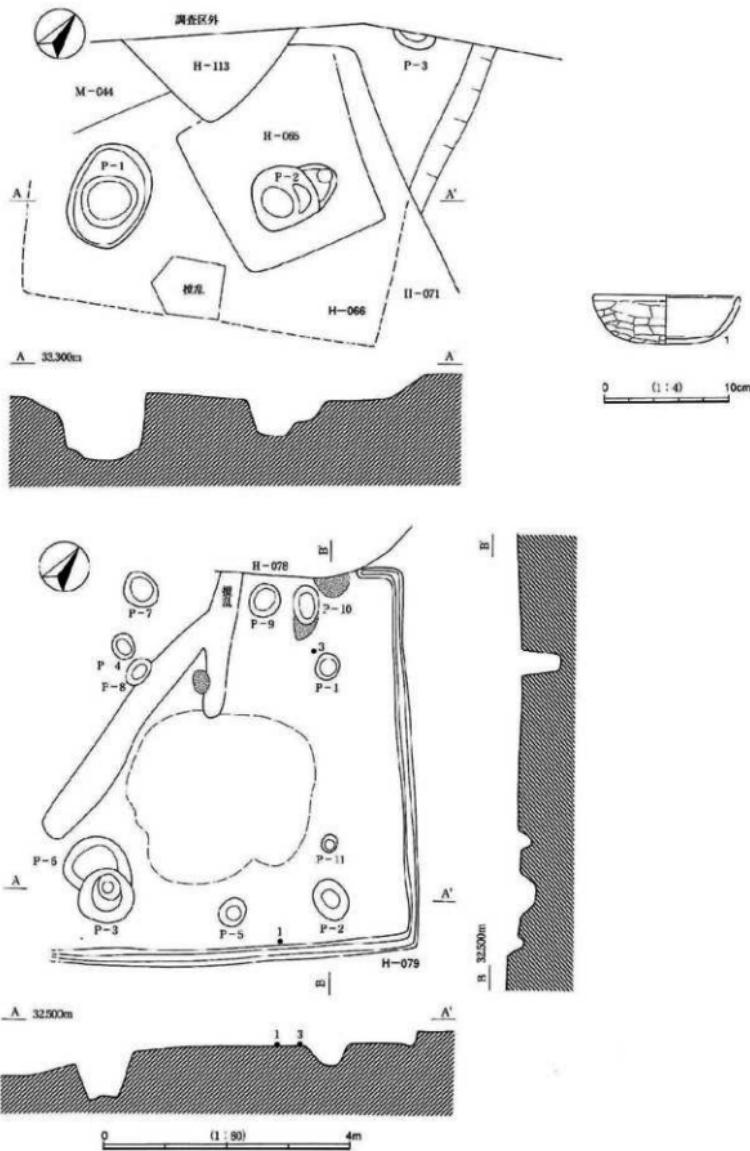


第134図 H-017出土遺物・H-037実測図・出土遺物

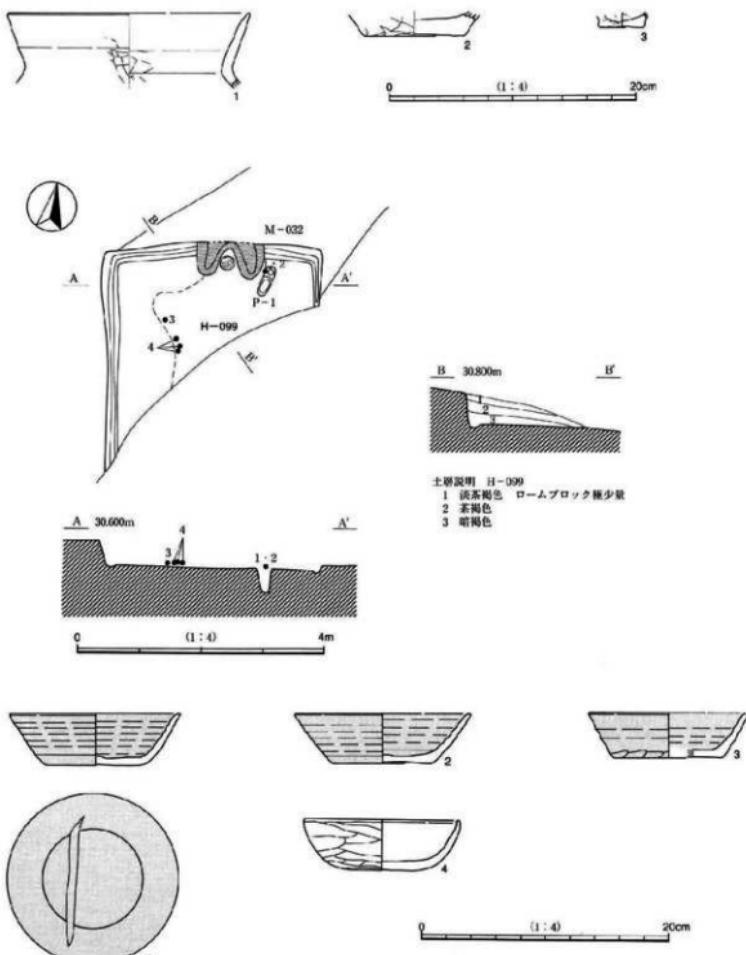


第135図 H-061・H-065実測図・出土遺物

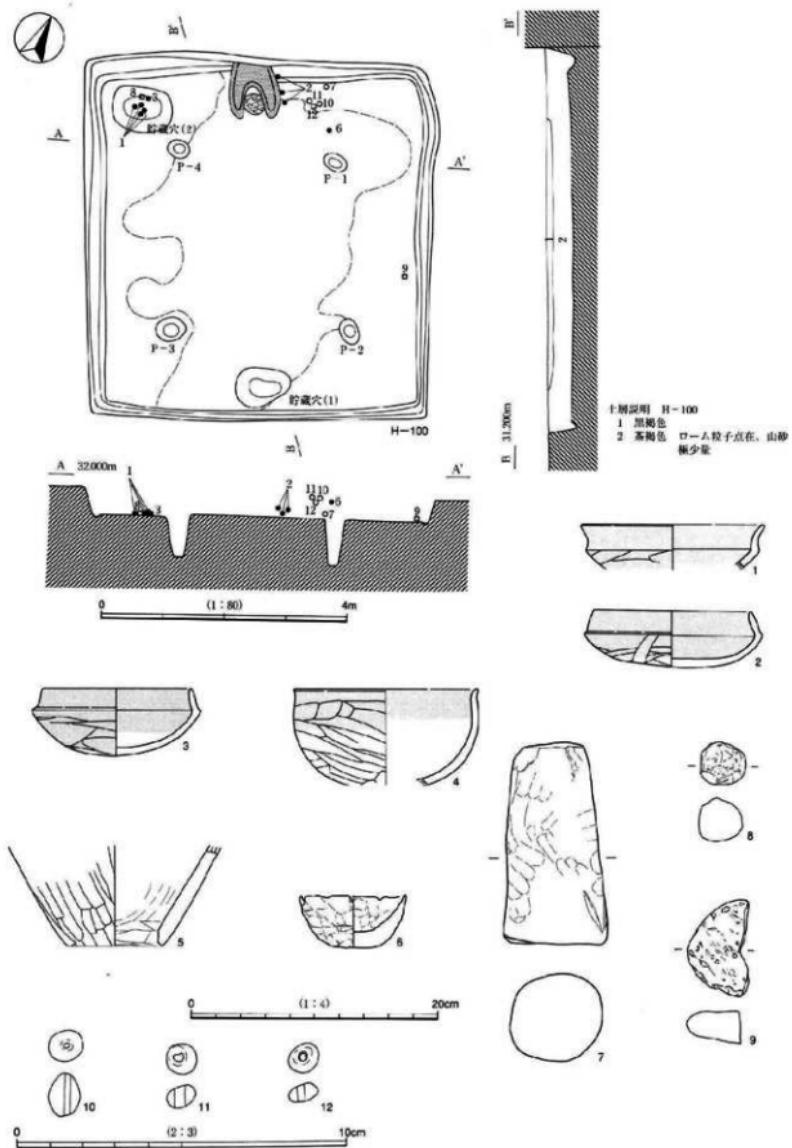
第2節 墓穴住居跡



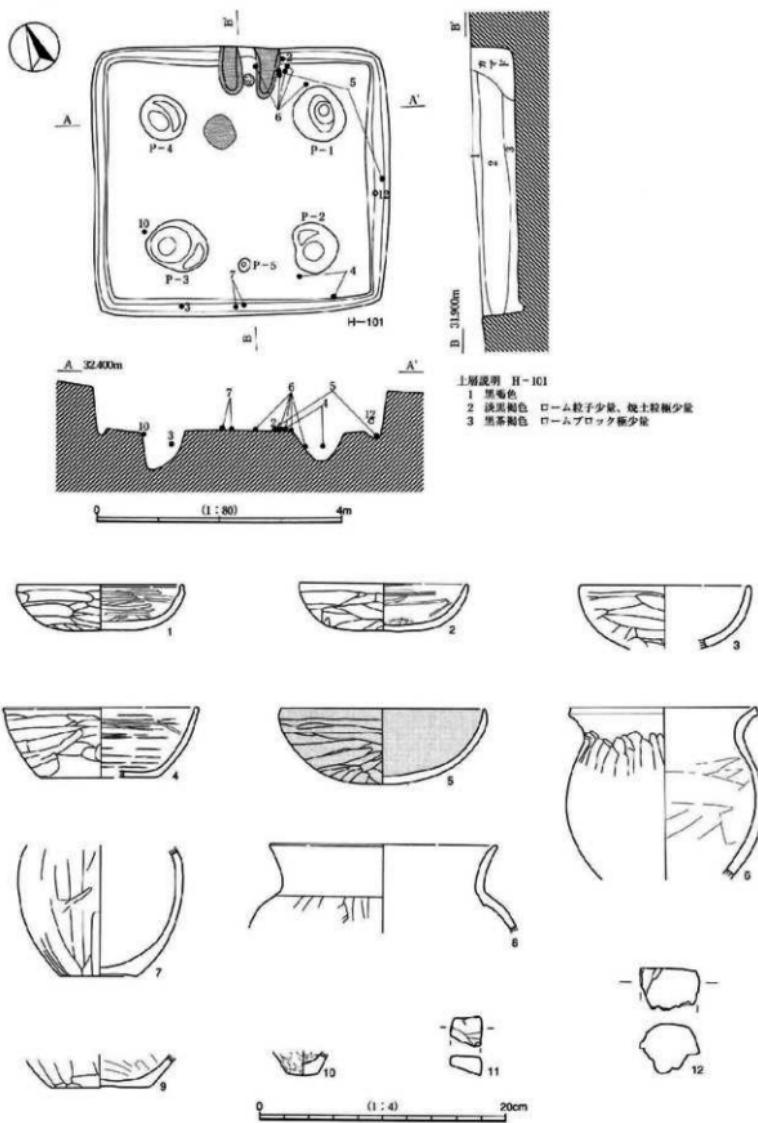
第136図 H-066実測図・出土遺物・H-079実測図



第137図 H-079出土遺物・H-099実測図・出土遺物

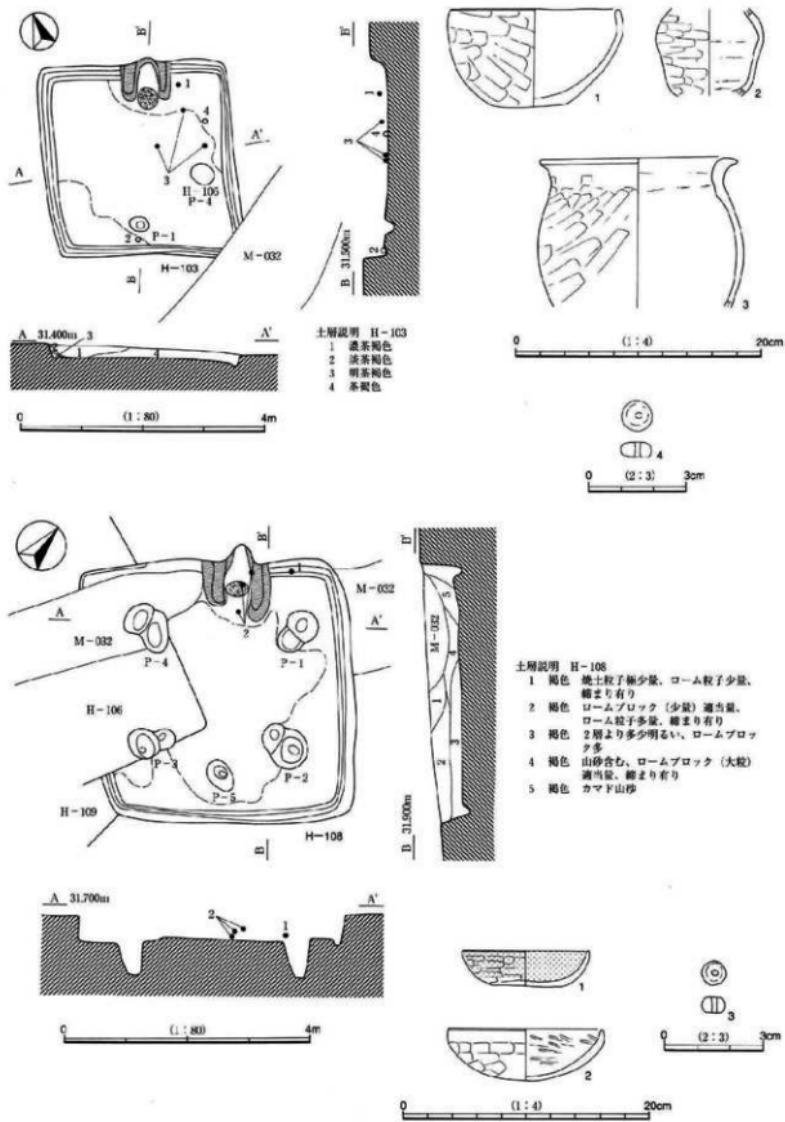


第138図 H-100実測図・出土遺物

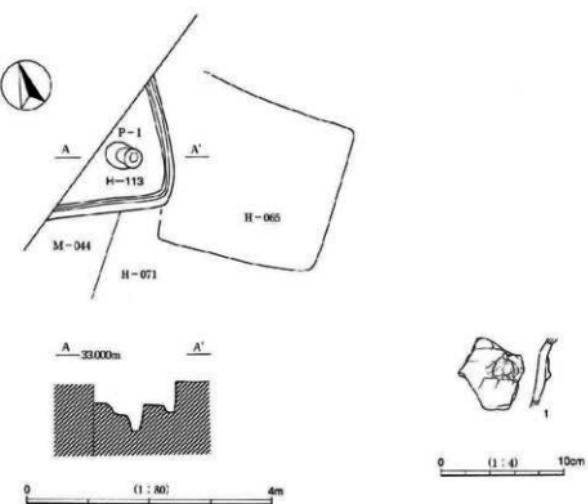


第139図 H-101実測図・出土遺物

第2節 堅穴住居跡



第140図 H-103・H-108実測図・出土遺物



第141図 H-113実測図・出土遺物

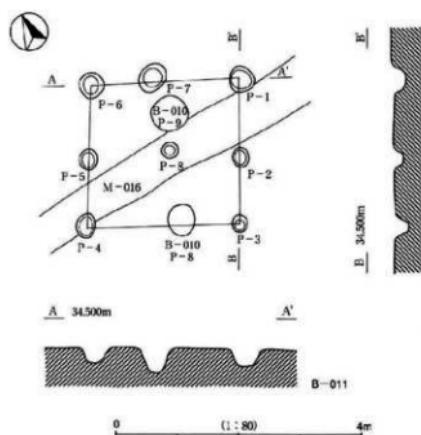
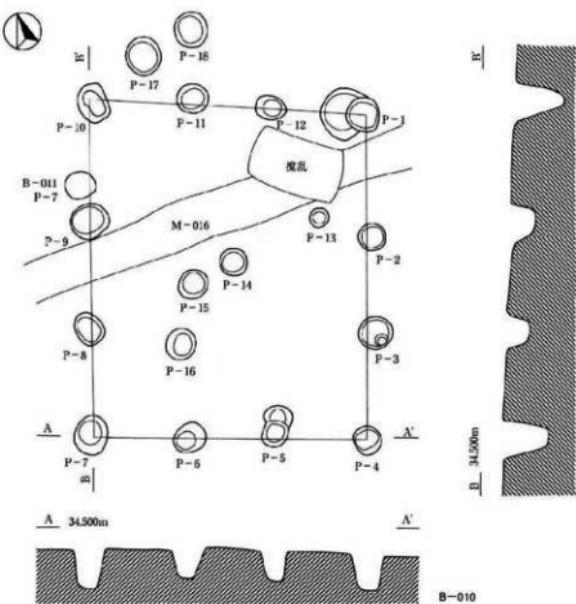
### 第3節 堀立柱建物跡

B-010（第142図）

調査区北部に位置する。M-016と擾乱に切られる。南東棟である。規模は桁行3間×梁間3間、桁行5.5m、梁間4.3m、柱間寸法は桁行1.8m、梁間1.4mである。P13～P16は本遺構に伴うピットであり、縦柱建物になる可能性もある。またP17、P18も本遺構に伴うピットである。

B-011（第142図）

調査区北部に位置する。M-016に切られる。南東棟である。規模は桁行2間×梁間2間、桁行2.5m、梁間2.4m、柱間寸法は桁行1.2m、梁間1.5mである。P8は本遺構に伴うピットであり、縦柱建物になる可能性もある。



第142図 B-010・011実測図

#### 第4節 檻 列

##### 第4節 檻 列

S-005 (第143図)

調査区北部に位置する。4本のピットからなり、総延長2.9m。直線である。

S-006 (第143図)

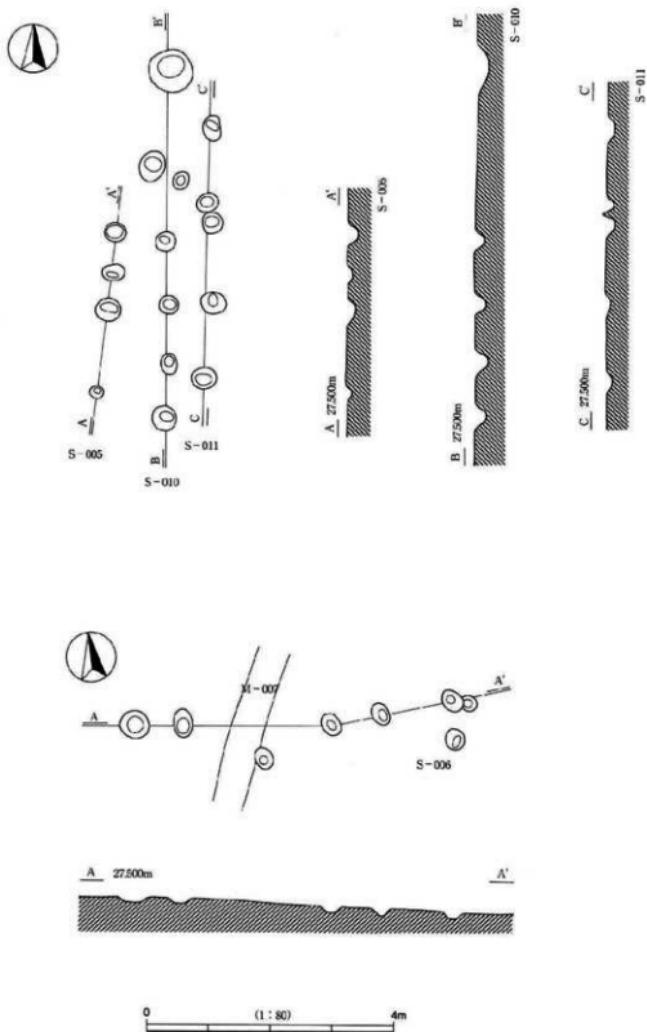
調査区北部に位置する。6本のピットからなり、総延長5.9m。やや直線である。

S-010 (第143図)

調査区北部に位置する。7本のピットからなり、総延長6.2m。直線である。

S-011 (第143図)

調査区北部に位置する。5本のピットからなり、総延長4.5m。直線である。



第143図 棚列実測図

## 第5節 土 坑

D-006 (第144図)

調査区北東に位置する。平面形は、プラン・底部とも円形を呈する。長径1.36m×短径1.26m×深さ0.18mを測る。

本土坑の性格は不明である。

D-007 (第144図)

調査区北東に位置する。平面形は、プラン・底部とも楕円形を呈する。長径1.0m×短径0.64m×深さ0.47mを測る。

本土坑の性格は不明である。

D-012 (第144図)

調査区北東に位置する。平面形は、プラン・底部とも楕円形を呈する。長径0.98m×短径0.75m×深さ0.16mを測る。

本土坑の性格は不明である。

D-013 (第144図)

調査区北東に位置する。平面形は、プラン・底部とも円形を呈する。長径0.77m×短径0.77m×深さ0.21mを測る。

本土坑の性格は不明である。

D-014 (第144図)

調査区北東に位置する。平面形は、プラン・底部とも円形を呈する。長径0.87m×短径0.8m×深さ0.16mを測る。

本土坑の性格は不明である。

D-015 (第144図)

調査区北東に位置する。平面形は、プラン・底部とも楕円形を呈する。長径0.97m×短径0.72m×深さ0.15mを測る。

本土坑の性格は不明である。

D-016 (第145図)

調査区北東に位置する。H-010と重複する。平面形は、プラン・底部とも楕円形を呈する。長径1.73m×短径1.05m×深さ0.47mを測る。

本土坑の性格は不明である。

D-017 (第145図)

調査区北東に位置する。平面形は、プラン・底部とも円形を呈する。長径0.91m×短径0.88m×深さ0.48mを測る。

本土坑の性格は不明である。1は土師器壺の底部である。

D-021 (第145図)

調査区北東に位置する。平面形は、プラン・底部とも楕円形を呈する。長径1.03m×短径0.91m×深さ0.28mを測る。

本土坑の性格は不明である。

D-022 (第145図)

調査区北東に位置する。平面形は、プラン・底部とも円形を呈する。長径1.12m×短径1.12m×深さ0.20mを測る。

本土坑の性格は不明である。

D-023 (第145図)

調査区南に位置する。平面形は、プラン・底部とも楕円形を呈する。長径1.88m×短径1.37m×深さ0.33mを測る。

本土坑の性格は不明である。

D-027 (第145図)

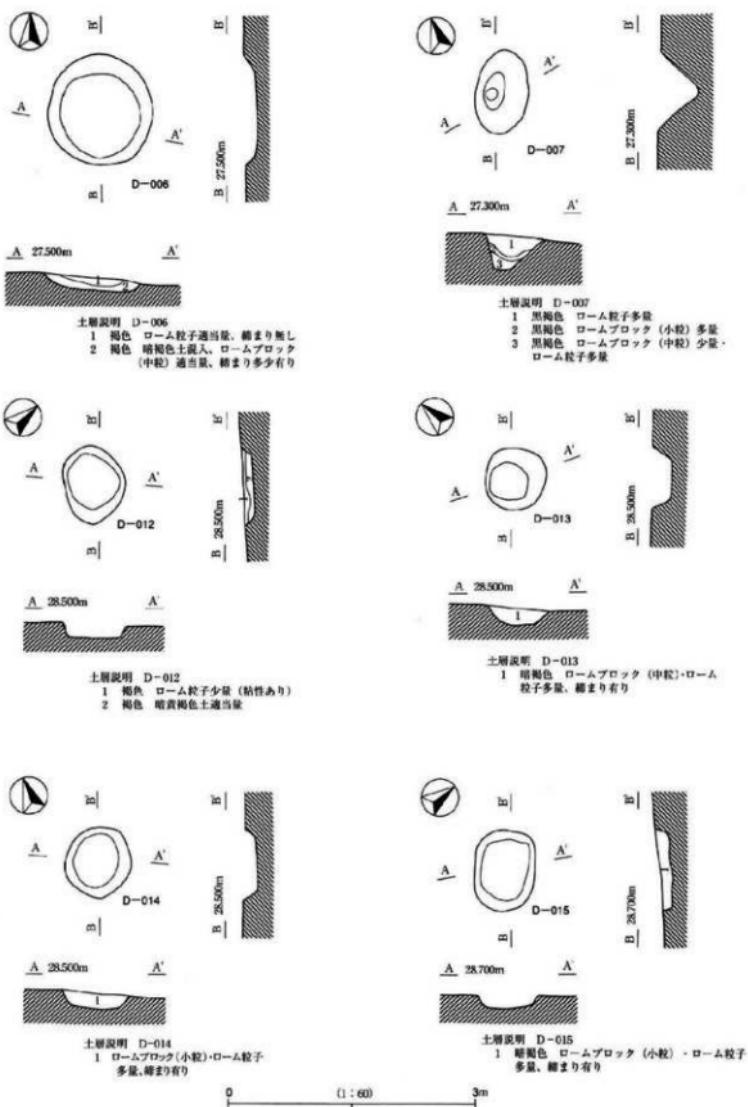
調査区中央部に位置する。平面形は、プラン・底部とも円形を呈する。長径1.5m×短径1.5m×深さ0.34mを測る。

本土坑の性格は不明である。

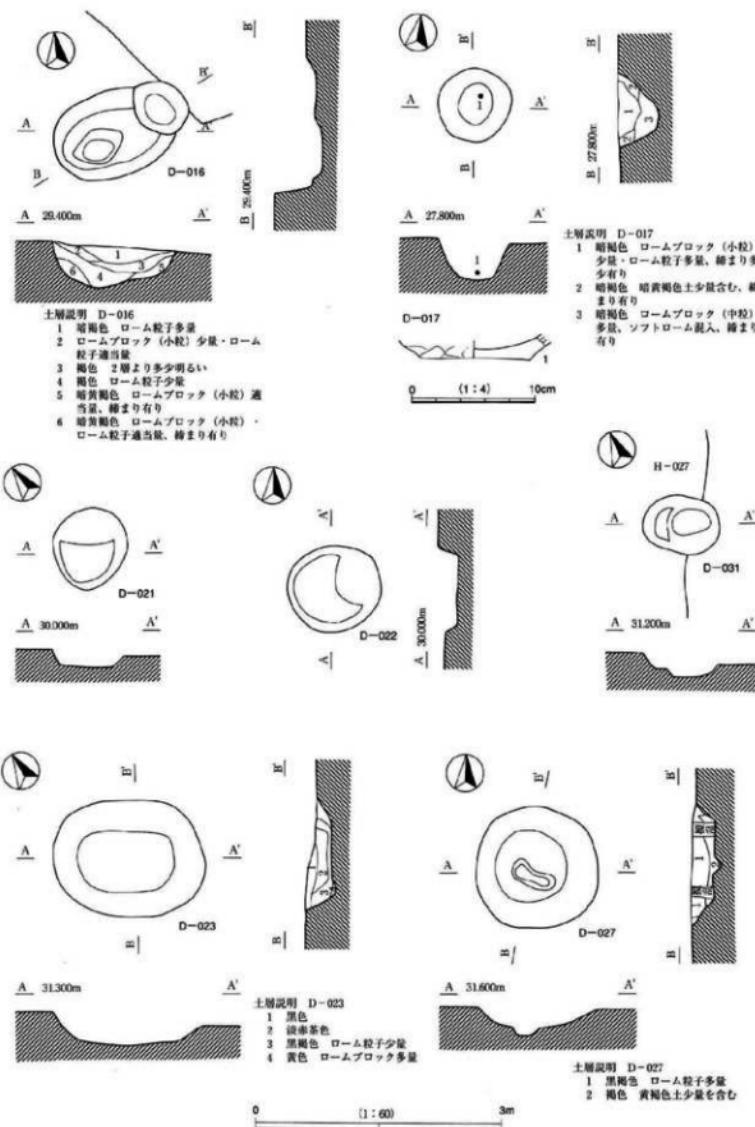
D-031 (第145図)

調査区中央部に位置する。平面形は、プラン・底部とも楕円形を呈する。長径0.93m×短径0.67m×深さ0.21mを測る。

本土坑の性格は不明である。



第144図 D-006・007・012・013・014・015実測図



第145図 D-016・017・021・022・023・027・031実測図・出土遺物

## 第6節 溝

### M-001 (第146図)

調査区中央部に位置する。台地上の北西から南東に向かって、屈曲しながら延びる。本造構南端でM-037を切る。延長72.0m, 幅1.3~2.0m, 深さ0.4~0.58mを測る。

### M-037 (第146図)

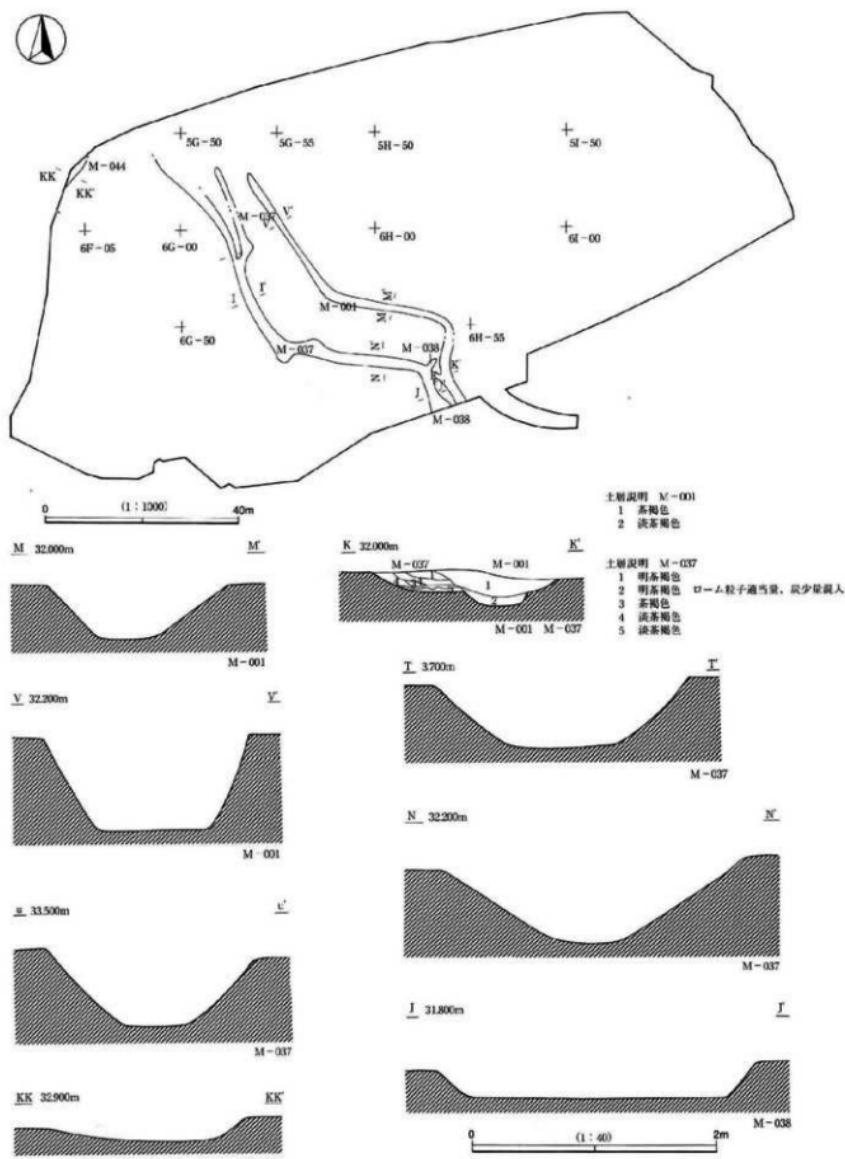
調査区西部に位置する。台地上の南東から北西に向かってくの字に延び、途中で二股に分かれ、北東と北西にそれぞれ延びる。本造構南端でM-001に、北端でM-043に切られ、南東でM-038を切る。延長は南東から北西に延びる溝は113m、そこから北東に延びる溝は20mである。幅1.3~2.8m, 深さ0.6~0.8mを測る。

### M-038 (第146図)

調査区南東部に位置する。台地上の北東から南に向かって延びる。本造構北東端でM-037に切られる。延長13.8m, 幅0.8~2.63m, 深さ0.25~0.33mを測る。

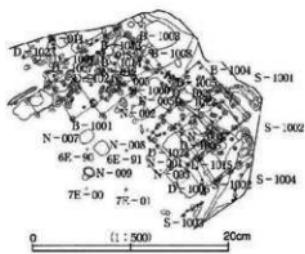
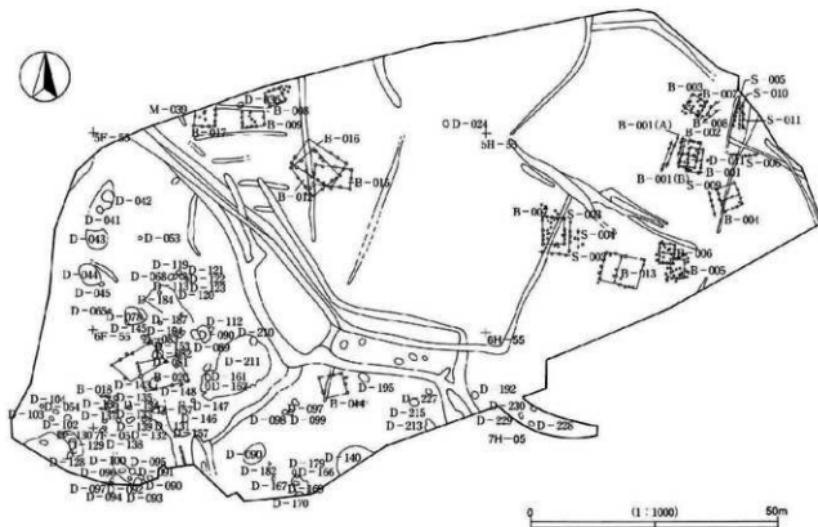
### M-044 (第146図)

調査区北西部に位置する。台地上の北東から北西に向かって延びる。延長5.6m, 幅1.5~1.95m, 深さ0.2~0.4mを測る。



第146図 滅害測区

第6章 中世



第147図 中世時代遺構配置図

## 第6章 中世

### 第1節 概要

掘立柱建物26軒、階段状造構1基、土坑墓45基、粘土貼土坑墓13基、土坑107基、溝26条を検出した。調査区西側にて前代の住居跡の破壊が激しく規模が大きいことや、やや直角に削られていことなどから、台地整形が行われたと考えられる。

### 第2節 掘立柱建物跡および柵列

#### B-001・S-001 (A) (第148図)

調査区北東部に位置する。B-002と重複しており、S-001 (A) を伴う。規模は桁行4間×梁間3間で、桁行4.93m、梁間2.85mで、柱間寸法は桁行平均1.23m、梁間平均0.95mで、柱間寸法・柱筋とも比較的揃っている。P13～17は東柱となる可能性が高い。B-002の建て替えの可能性がある。

出土遺物は前代遺物の流入のため、図化しなかった。

#### B-002・S-001 (B) (第148図)

調査区北東部に位置する。B-001と重複しており、柵であるS-001 (B) を伴う。規模は桁行4間×梁間4間で、桁行5.7m、梁間3.3m、柱間寸法は桁行平均1.4m、梁間平均0.8mである。西側には桁に2間×1間の庇を有する。東柱を持ち(P17～P21等) 2部屋か3部屋になる可能性がある。

出土遺物は前代遺物の流入のため、図化しなかった。

#### B-003・S-007・S-008 (第149図)

調査区北東部に位置する。H-006と重複しており、トレンチに切られる。S-007とS-008を伴う。規模は桁行4間×梁間3間で、桁行3.1m、梁間3.1m、比較的形の整った方形である。柱間寸法は桁行平均1.03m、梁間平均1.03mである。P13～P19は東柱と考えられる。P21～P25やP26～P28は庇の柱穴の可能性がある。

本遺構から出土した遺物のうち、甕1点、蓋1点、計2点を図示した。

1は、土師器甕の口縁片である。2は、須恵器蓋片である。

#### B-004・S-009 (第149図)

調査区東部に位置する。H-002、003、M-004と重複し、S-009を伴う。規模は桁行3間×梁間3間で、桁行4.8m、梁間3.4mである。柱間寸法は桁行平均1.5m、梁間平均1.2mである。P14～P19、P21～P29は東柱と考えられる。P31～P44は柵の可能性がある。

S-009のP7～P10は柵となるか、P1～11とし鉤状の柵となる可能性がある。

出土遺物は前代遺物の流入のため、図化しなかった。

#### B-005 (第150図)

調査区東部に位置する。B-006と重複する。規模は桁行3間×梁間4間で、桁行3.4m、梁間2.7mで比較的形の整った長方形である。柱間寸法は桁行1.3m、梁間0.7mで、柱間寸法・柱筋とも比較的揃っている。P13～P20は東柱と考えられる。P28・29・39は東側の桁に庇を設けた可能性がある。

## 第2節 捜査区東部の遺物

出土遺物は前代遺物の流入のため、図化しなかった。

### B-006 (第150図)

調査区東部に位置する。B-005に切られる。規模は桁行5間×梁間3間で、桁行4.0m、梁間3.0mである。柱間寸法は桁行0.8m、梁間1.0mである。P15～P32は東柱と考えられる。P39～42は西側の桁に庇を設けた可能性がある。P45～P53は櫛の可能性がある。

出土遺物は前代遺物の流入のため、図化しなかった。

### B-007 (第151図)

調査区南東部に位置する。M-008と重複しS-002、003、004を伴う。規模は桁行5軒×梁間4間で、桁行5.8m、梁間4.4mである。柱間寸法は桁行1.16m、梁間1.1mである。

出土遺物は前代遺物の流入のため、図化しなかった。

### B-008 (第151図)

調査区北部に位置する。H-052、058を切りM-015に切られる。規模は桁行3間×梁間2間で、桁行3.1m、梁間2.2mで台形である。柱間寸法は桁行0.9m、梁間1.45mで、P11～P12は東柱と考えられる。1は土師器鉢の口縁片である。

### B-009 (第152図)

調査区北部に位置する。H-052を切りM-015に切られる。規模は桁行3間×梁間3間で、桁行4.3m、梁間3.3mである。比較的形の整った方形である。柱間寸法は桁行1.4m、梁間1.1mである。

出土遺物は前代遺物の流入のため、図化しなかった。

### B-012 (第152図)

調査区北部に位置する。H-049を切り、B-015、016と重複する。規模は桁行3間×梁間3間で、桁行6.0m、梁間5.6mである。柱間寸法は桁行2.0m、梁間1.8mで、P1～P11は主柱穴でP12、13は補助柱である。P22～25は東柱と考えられる。P15～21は塀になる可能性がある。

出土遺物は前代遺物の流入のため、図化しなかった。

### B-013 (第153図)

調査区東南部に位置する。H-019を切る。規模は桁行6間×梁間3間で、桁行9.8m、梁間5.4mで台形である。柱間寸法は桁行0.8m、梁間0.9mで、東柱を持つ。P22～P26は櫛櫛になる可能性がある。

出土遺物は前代遺物の流入のため、図化しなかった。

### B-014 (第153図)

調査区南西部に位置する。M-035に切られている。規模は桁行3間×梁間3間で、桁行4.3m、梁間3.2mである。柱間寸法は桁行0.7m、梁間0.8mで、東柱を持つ。

出土遺物は前代遺物の流入のため、図化しなかった。

## B-015（第154図）

調査区北西部に位置する。規模は桁行2間×梁間3間で、桁行7.5m、梁間4.0mである。柱間寸法は桁行2.0m、梁間2.5mで、P1～P7は主柱穴である。

出土遺物は前代遺物の流入のため、図化しなかった。

## B-016（第154図）

調査区北東部に位置する。規模は桁行3間×梁間6間で、桁行9.3m、梁間6.0mである。柱間寸法は桁行2.0m、梁間1.55mで、P1～P12は主柱穴である。P14はB-006に伴う。

出土遺物は前代遺物の流入のため、図化しなかった。

## B-017（第155図）

調査区北部に位置する。調査区域外に切られている。調査区外に切られるため全体は把握できない。規模は現存で桁行3間×梁間3間、桁行4.3m、梁間3.8mである。柱間寸法は桁行1.4m、梁間1.3mで、P9～P11は東柱の可能性がある。

出土遺物は前代遺物の流入のため、図化しなかった。

## B-018（第155図）

調査区南西部に位置する。H-079に切られているため、全体を把握できない。規模は現存で桁行2間×梁間2間で、桁行2.4m、梁間1.8mである。柱間寸法は桁行0.6m、梁間0.45mである。

出土遺物は前代遺物の流入のため、図化しなかった。

## B-019（第156図）

調査区西部に位置する。B-020、D-141と重複する。規模は桁行3間×梁間2間で、桁行9.4m、梁間5.0mである。柱間寸法は桁行1.5m、梁間1.25mで、P12～P16、P31は東柱と考えられる。南側の桁に平行する溝は、本遺構の横堀の可能性がある。

出土遺物は前代遺物の流入のため、図化しなかった。

## B-020（第157図）

調査区西部に位置する。B-019、D-141、M-028に切られている。規模は桁行5間×梁間3間で、桁行8.2m、梁間5.4mである。柱間寸法は桁行0.8m、梁間1.35mで、東柱をもち（P10、P14、P15等）、2部屋になる可能性がある。また、南側に平行する溝は、本遺構の横堀の可能性がある。

出土遺物は前代遺物の流入のため、図化しなかった。

## B-1001（第158図）

調査区微高地上部分の南西に位置する。規模は桁行3間×梁間3間で、桁行6.45m、梁間5.25m、柱間寸法は桁行平均2.4m、梁間平均1.75mである。東柱をもち（P24、P25等）、2部屋になる可能性がある。南西側に桁行3間×梁間1間で、桁行5.00m、梁間1.85mの庇がある。また、庇に隣接する溝状遺構はB-1001に伴う横堀と思われる。

出土遺物は前代遺物の流入のため、図化しなかった。

## 第2節 倒立柱建物跡および複列

### B-1002（第159図）

調査区微高地上部分の南西に位置する。規模は桁行3間×梁間3間で、桁行6.45m、梁間5.25mである。柱間寸法は桁行平均2.15m、梁間平均1.75mである。南南東側が調査区外で区切られているが、全体は把握できる。P10、P12～P30、P32は東柱であり、板の間であったと思われる。

出土遺物は前代遺物の流入のため、図化しなかった。

### B-1003（第159図）

調査区微高地上部分の南西に位置する。B-1002、B-1004、B-1005、B-1006、B-1007、重複する。規模は桁行4間×梁間2間で、桁行6.25m、梁間4.38mである。柱間寸法は桁行平均1.56m、梁間平均2.19mである。東柱をもち（P10、P11）、2部屋になる可能性がある。

出土遺物は前代遺物の流入のため、図化しなかった。

### B-1004（第160図）

調査区微高地上部分の南西に位置する。B-1002、B-1003、B-1004、B-1005、B-1006、B-1007、B-1008と重複する。規模は桁行4間×梁間3間で、桁行7.5m、梁間4.1mである。柱間寸法は桁行平均1.8m、梁間平均1.36mである。P15～P21、P23は東柱であり、北側の2部屋は板の間であると思われる。

出土遺物は前代遺物の流入のため、図化しなかった。

### B-1005（第160図）

調査区微高地上部分の南西に位置する。B-1002、B-1003、B-1004、B-1005、B-1006と重複している。測柱建物である。規模は桁行4間×梁間4間で、桁行4.70m、梁間4.38m、比較的形の整った長方形である。柱間寸法は桁行平均1.17m、梁間平均1.09mである。

出土遺物は前代遺物の流入のため、図化しなかった。

### B-1006（第161図）

調査区微高地上部分の南西に位置する。規模は桁行4間×梁間4間で、桁行4.95m、梁間4.63m、柱間寸法は桁行平均1.23m、梁間平均1.17mである。P1～P13は主柱穴、P14～P19は東柱である。P20は補助柱か。P21とP22は櫛の可能性がある。

出土遺物は前代遺物の流入のため、図化しなかった。

### B-1007（第161図）

調査区微高地上部分の南西部位置する。規模は桁行7間×梁間4間で、桁行9.12m、梁間2.15m、柱間寸法は桁行平均1.30m、梁間平均0.53mである。2部屋構造で、P1～P21は主柱穴（P14は補助柱か）、東柱（P22～33等）を持ち、西側の部屋は板間になる可能性もある。

出土遺物は前代遺物の流入のため、図化しなかった。

### B-1008（第162図）

調査区微高地上部分の南西に位置する。規模は桁行4間×梁間2間で、桁行4.05m、梁間3.10m、柱間寸法は桁行平均1.01m、梁間平均1.55mで、P1～7・9・10・11は主柱穴、P8・12～18は東柱、P19、P20

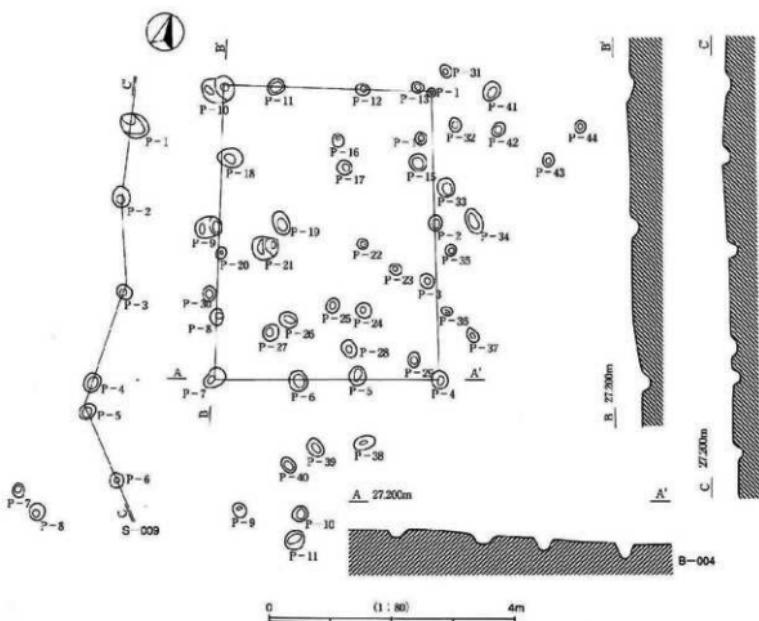
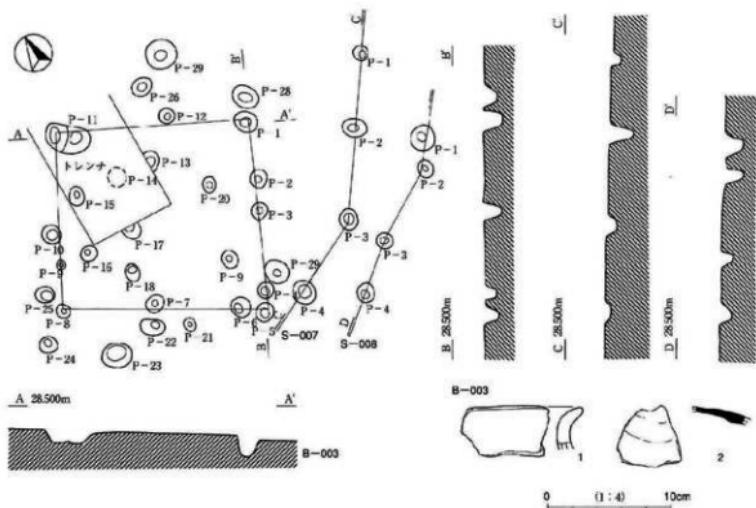
は補助柱か。P21は本遺構に伴う柱穴と思われる。

出土遺物は前代遺物の流入のため、固化しなかった。

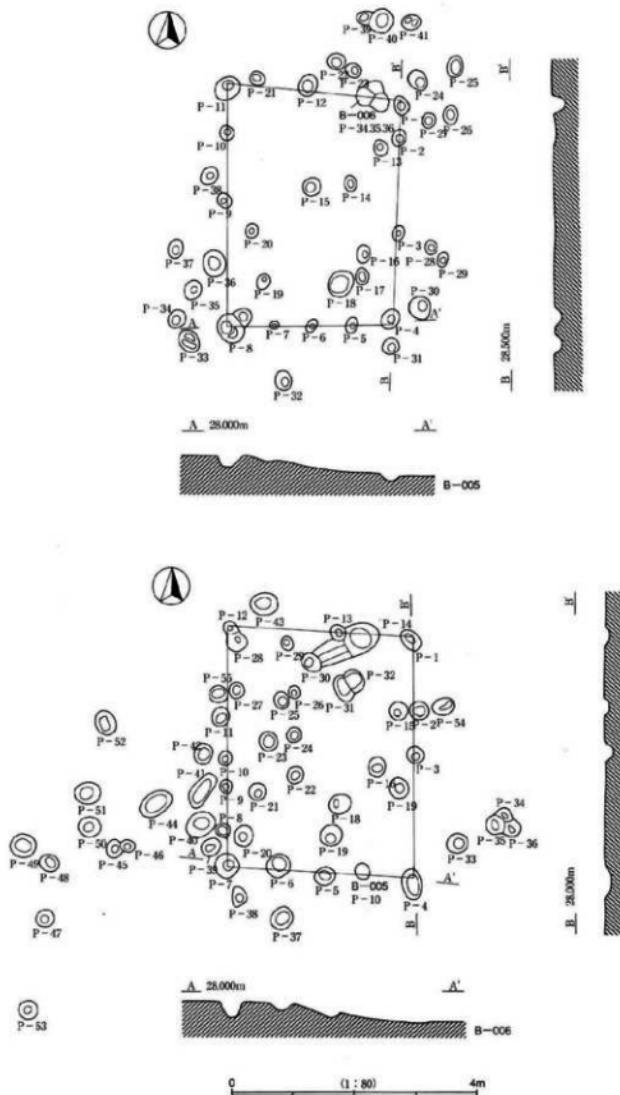
第2節 捕食柱建物跡および柵列



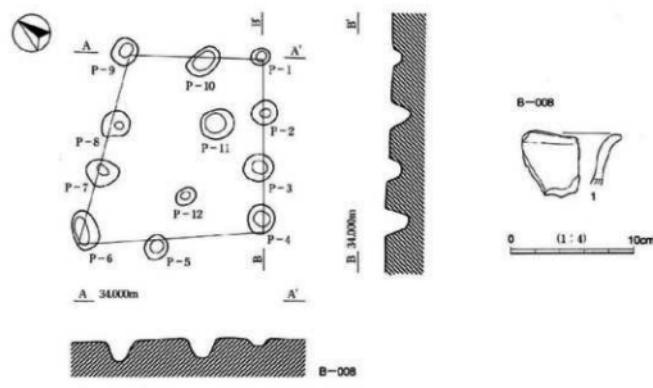
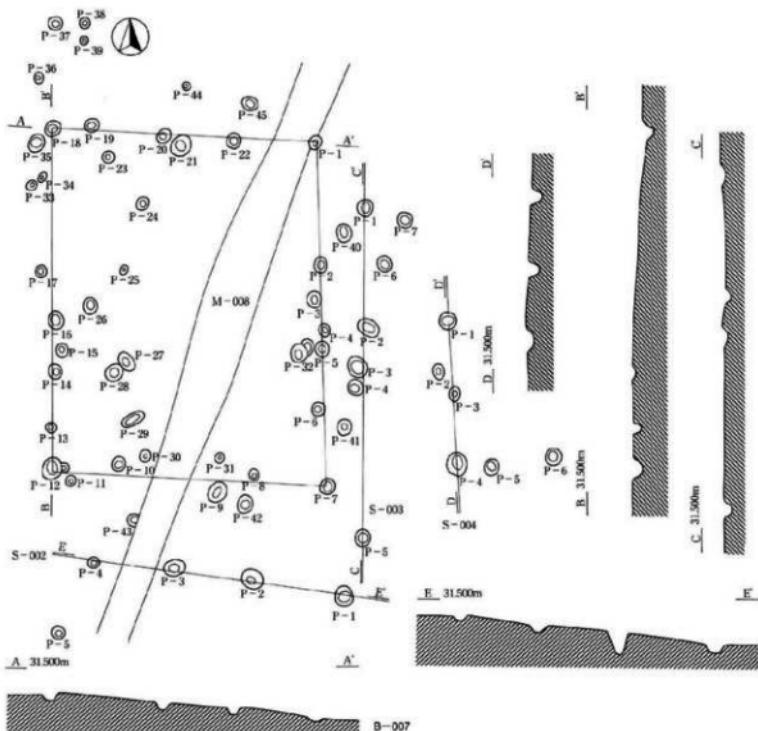
第148図 B-001・002・S-001 (A)・(B) 実測図



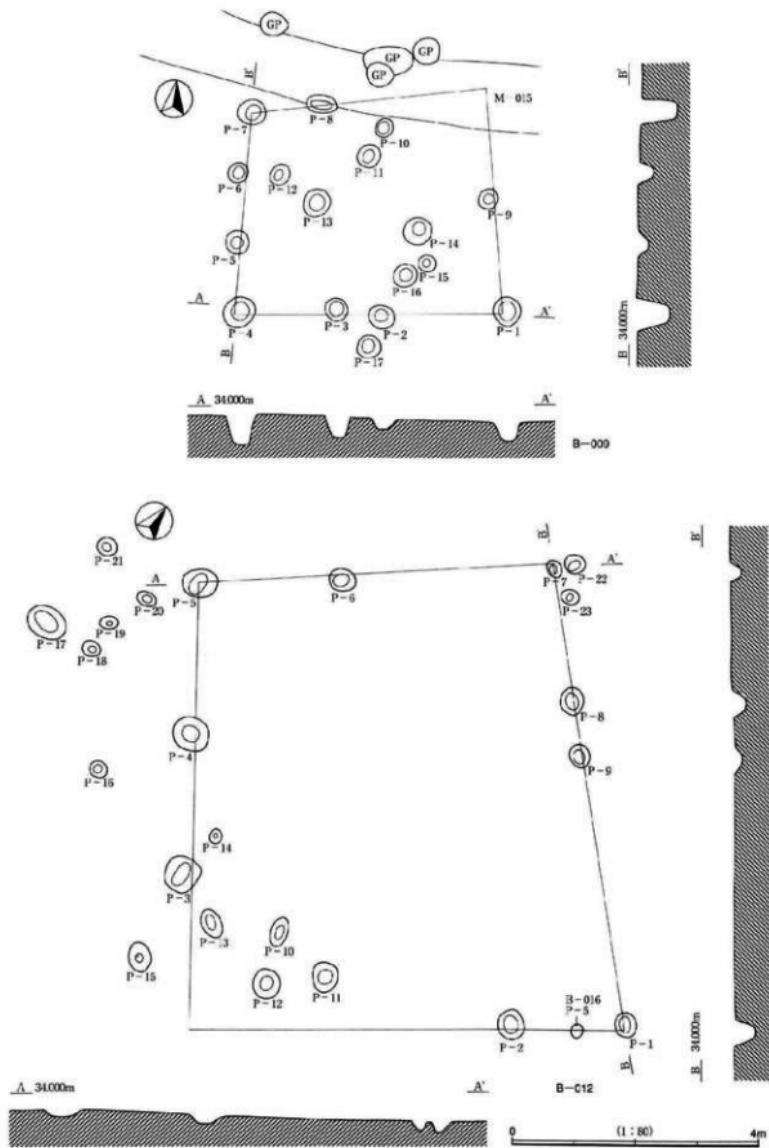
第149図 B-003・004・S-007・008・009実測図・出土遺物



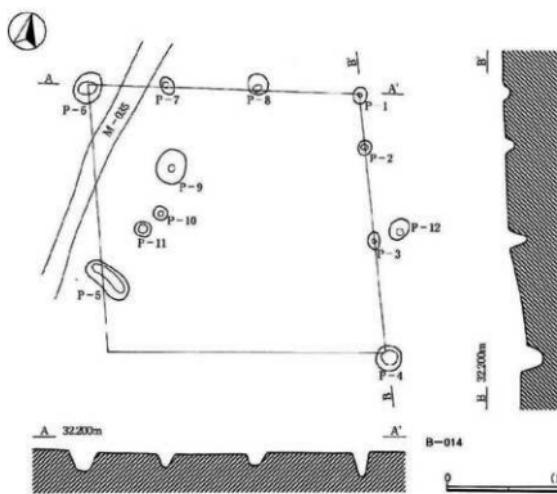
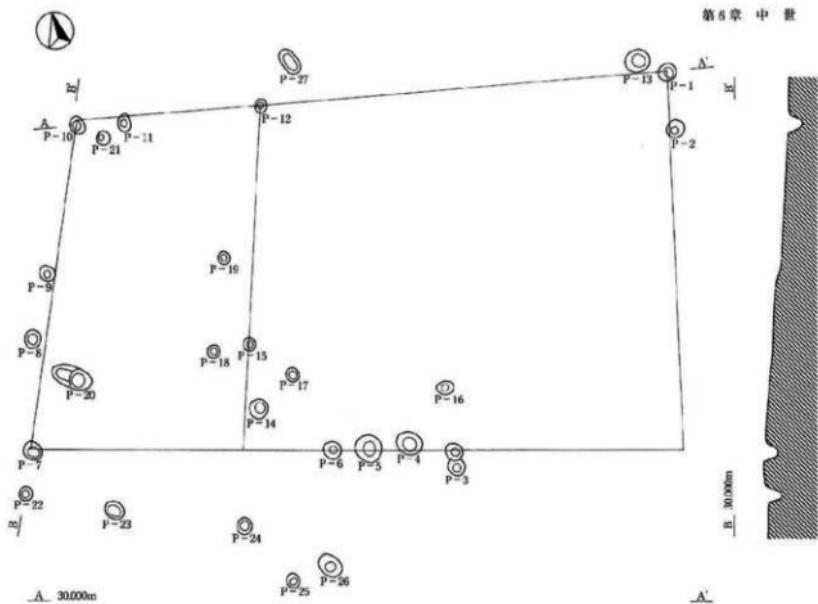
第150図 B-005・006実測図



第151圖 B-007·008·S-002·003·004寒廬圖·出土建物

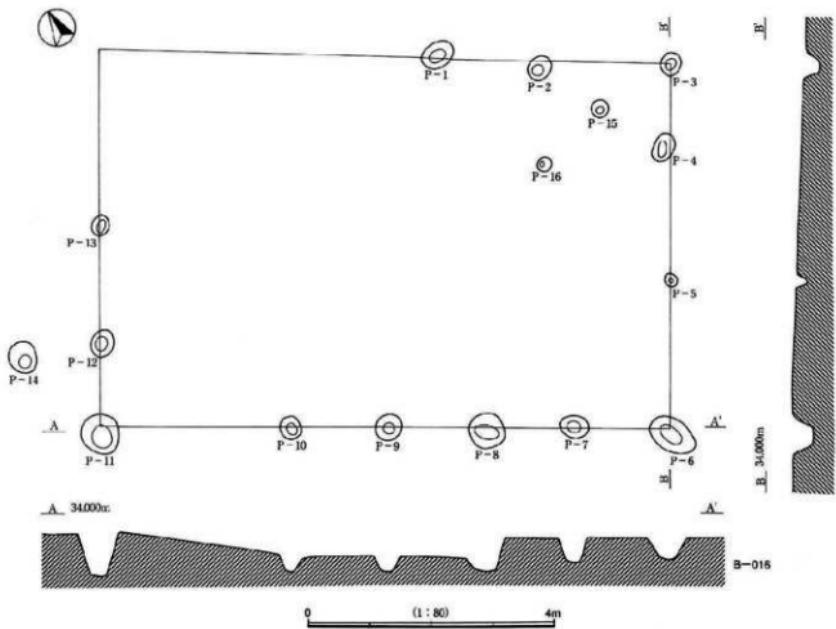
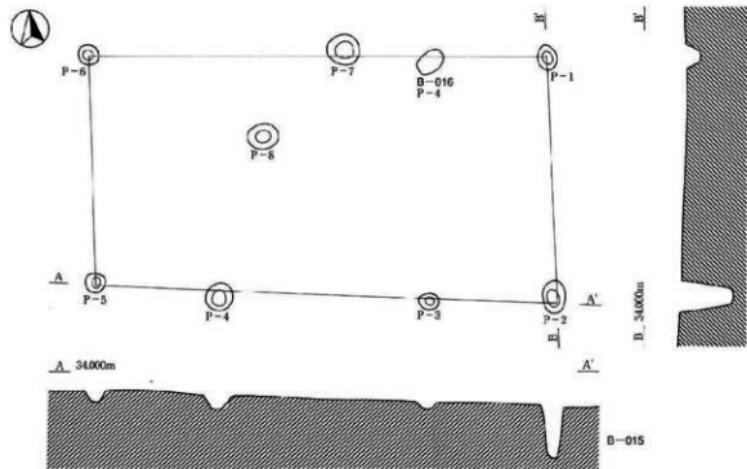


第152図 B-009・012実測図

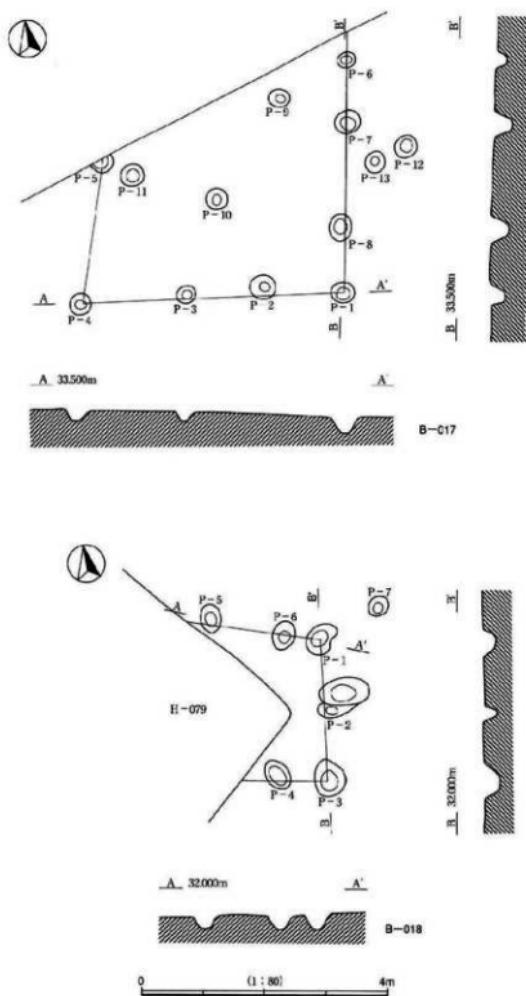


第153図 B-013・014実測図

第2章 掘立柱建物跡および柵列

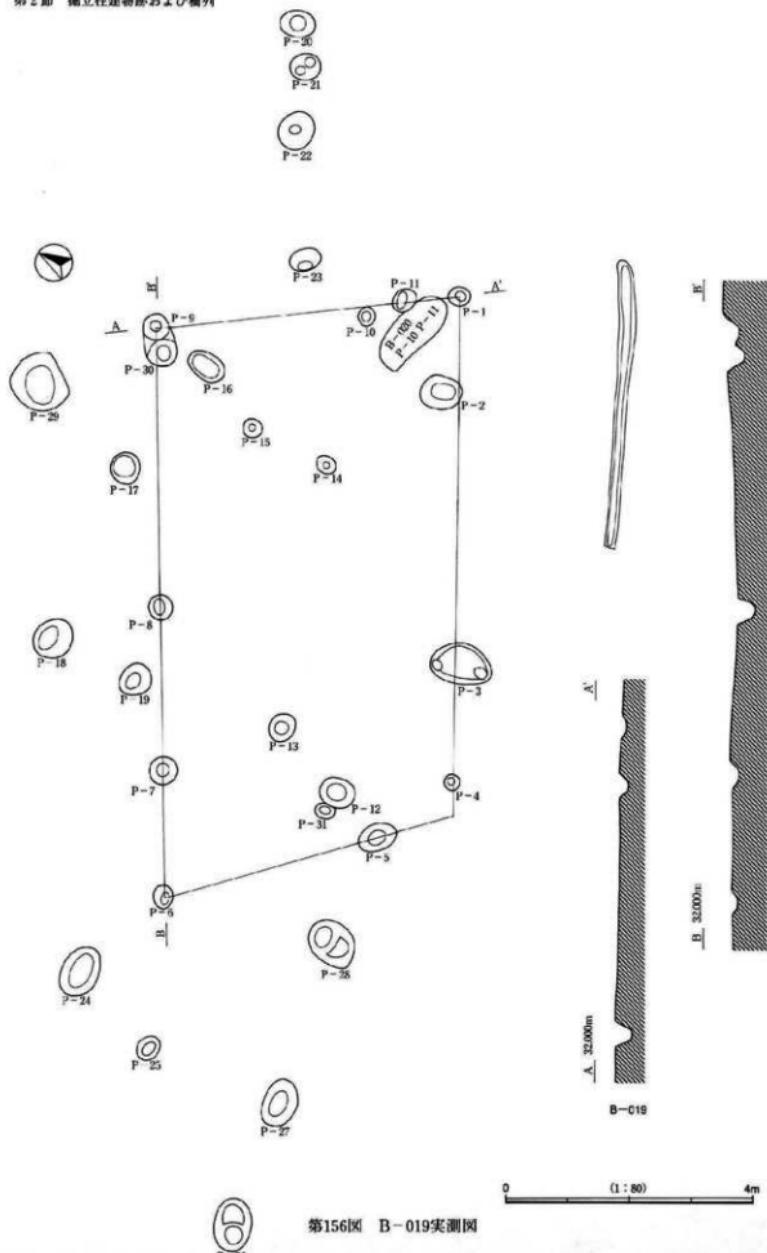


第154図 B-015・016実測図

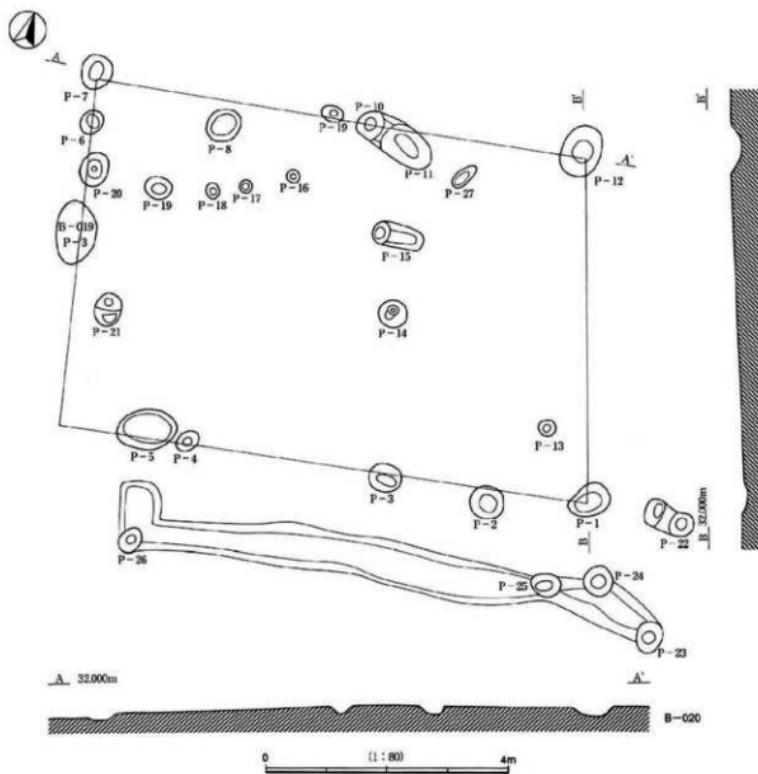


第155図 B-017・018実測図

第2節 捕立柱建物跡および柵列

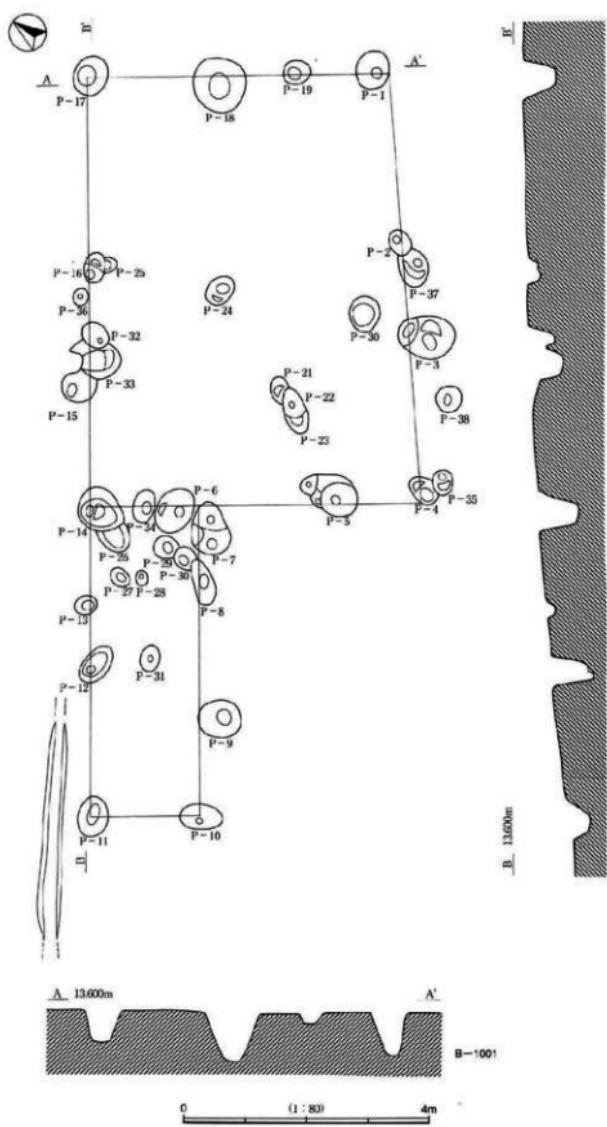


第156図 B-019実測図

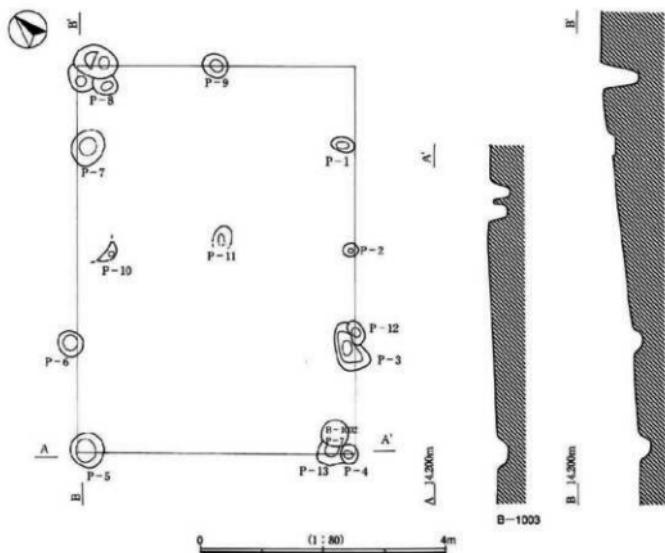
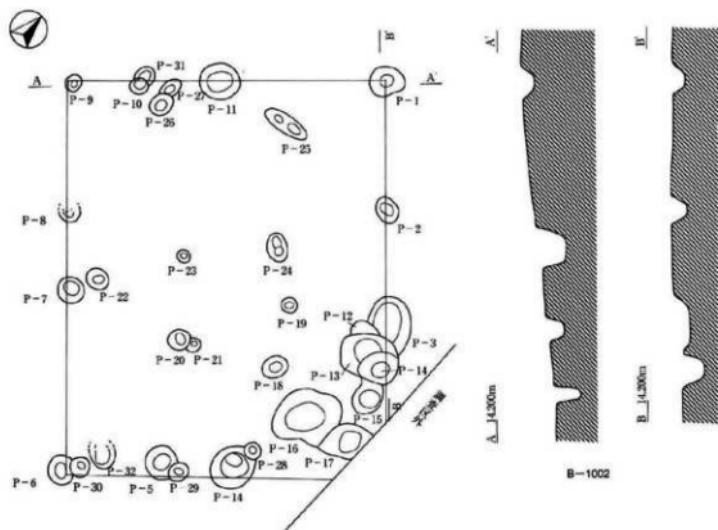


第157図 B-020実測図

第2節 据立柱建物跡および構列

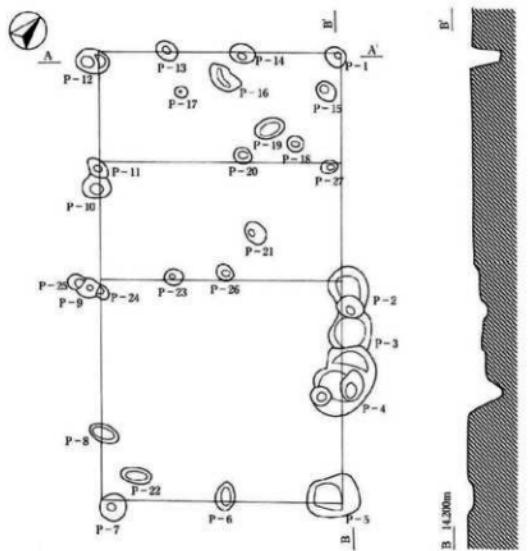


第158図 B-1001実測図



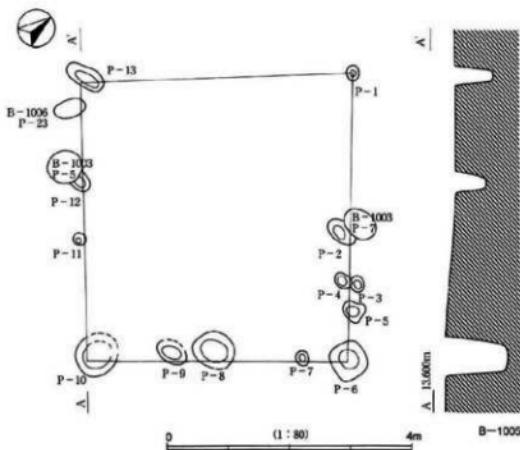
第159图 B-1002·1003实测图

第2節 樹立柱建物跡および柵列



B 14.200m

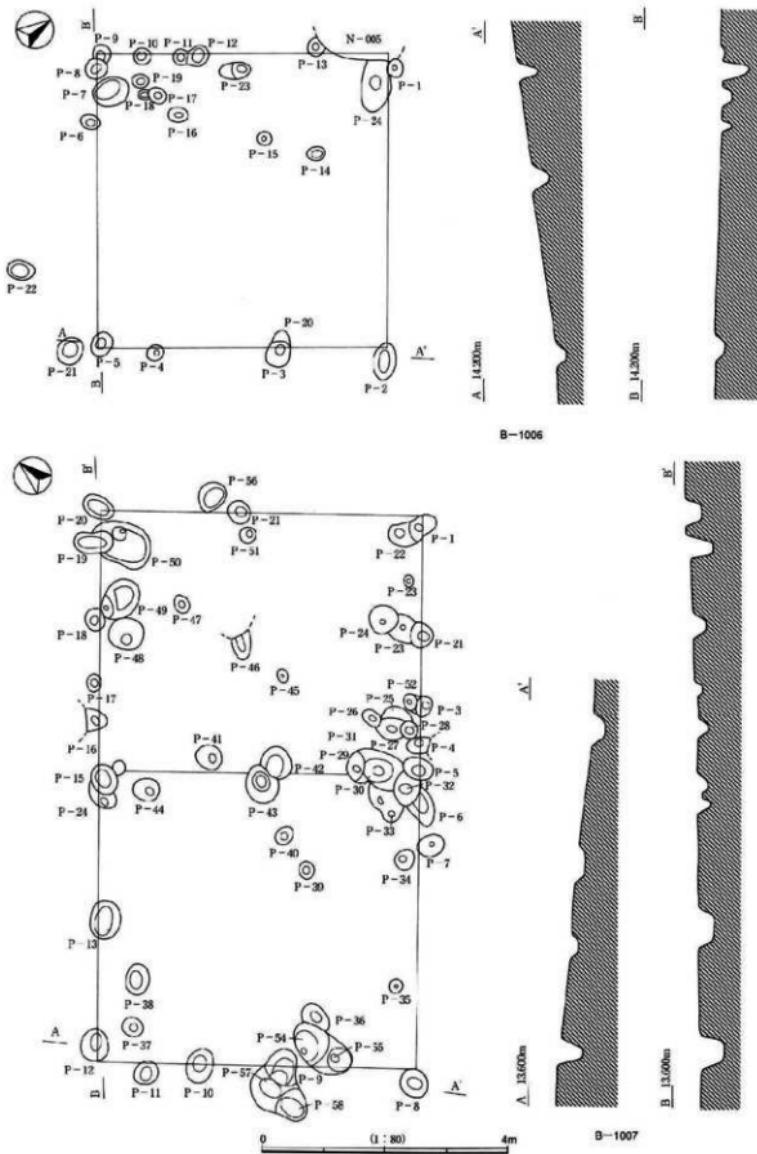
B-1004



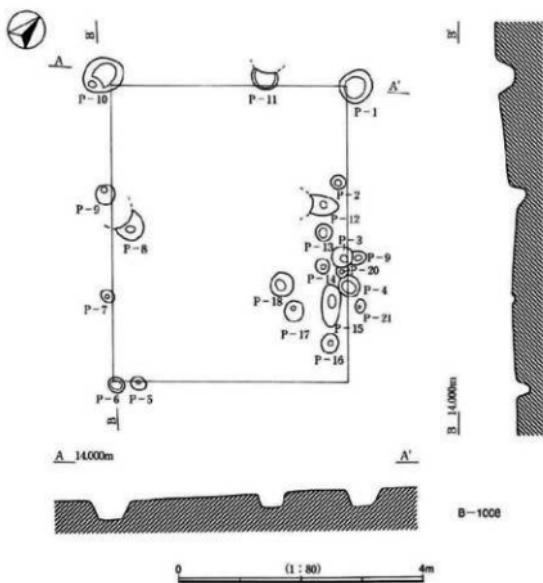
A 13.000m

B-1005

第160図 B-1004・1005実測図



第161図 B-1006・1007実測図



第162図 B-1008実測図

### 第3節 構列

#### S-1001 (第163図)

調査区微高地上部分の西南に位置する。3本のピットからなり、総延長1.20mである。

出土遺物は前代遺物の流入のため、固化しなかった。

#### S-1002 (第163図)

調査区微高地上部分の西南に位置する。7本のピットからなり、総延長4.30mである。

出土遺物は前代遺物の流入のため、固化しなかった。

#### S-1003 (第163図)

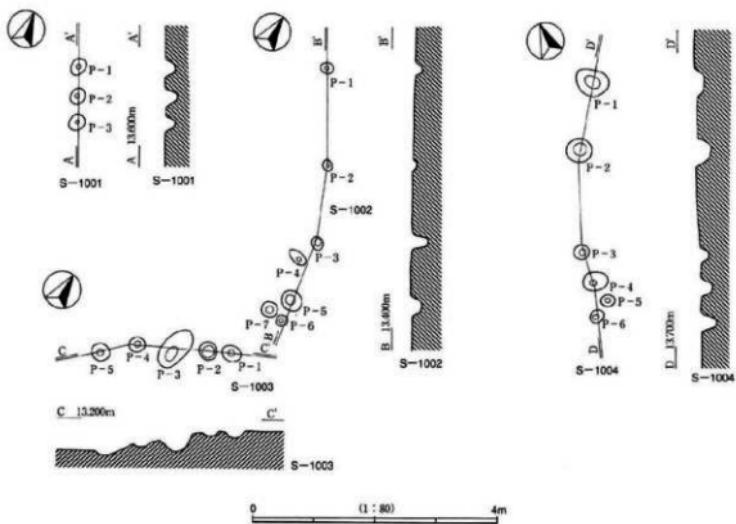
調査区微高地上部分の西南に位置する。5本のピットからなり、総延長2.50mである。

出土遺物は前代遺物の流入のため、固化しなかった。

#### S-1004 (第163図)

調査区微高地上部分の西南に位置する。6本のピットからなり、総延長4.20mである。

出土遺物は前代遺物の流入のため、固化しなかった。



第163図 S-1001・1002・1003・1004実測図

#### 第4節 土坑(中世)

##### D-001 (第164図)

調査区北東部に位置する。調査外区域で切られる。平面形は、プラン・底部とも梢円形を呈する。長径0.95 (現存) m × 短径0.65m × 深さ0.20m を測る。

本土坑の性格は不明である。

##### D-002 (第164図)

調査区北東部に位置する。M-002に切られ、D-003が重複している。平面形は、プラン・底部とも梢円形を呈する。長径0.95 (現存) m × 短径0.80m × 深さ0.35m を測る。

本土坑の性格は不明である。

##### D-003 (第164図)

調査区北東部に位置する。調査外区域で切られ、D-002が重複している。平面形は、プラン・底部とも不明である。長径0.37 (現存) m × 短径0.47m × 深さ0.25m を測る。

本土坑の性格は不明である。

##### D-008 (第164図)

調査区北東部に位置する。平面形は、プラン・底部とも梢円形である。長径1.20m × 短径0.80m × 深さ0.26 m を測る。

本土坑の性格は不明である。

##### D-011 (第164図)

調査区北東部に位置する。平面形は、プラン・底部とも円形である。長径0.58m × 短径0.55m × 深さ0.24 m を測る。

本土坑の性格は不明である。

##### D-024 (第164図)

調査区北東部に位置する。トレンチで切られ、H-024が重複している。平面形は、プラン・底部とも梢円形である。長径1.3m × 短径0.96m × 深さ0.25m を測る。

本土坑の性格は不明である。

本遺構から出土した遺物のうち、甕2点、瓶1点、計3点を図示した。

1と2は甕である。1は口縁部から胴部の1/5遺存する。復元口径16.5cm、残存器高6.6cmを測る。2は口縁部から胴部1/3と底部1/2遺存する。復元口径15.0cm、残存器高17.5cm、底径8.2cmを測る。

3は瓶である。口縁部から底部1/3遺存する。復元口径22.6cm、器高17.6cm、推定底径8.2cmを測る。

##### D-036 (第164図)

調査区北西部に位置する。M-015が重複している。平面形は、プラン・底部とも梢円形である。長径1.53 m × 短径1.40m × 深さ1.64m を測る。

本土坑の性格は不明である。

#### 第4節 土 坑

##### D-041 (第165図)

調査区北西部に位置する。平面形は、プラン・底部とも円形である。長径1.3m×短径1.28m×深さ0.77mを測る。

本土坑の性格は不明である。

##### D-042 (第165図)

調査区北西部に位置する。D-037が重複している。平面形は、プラン・底部とも不円形ある。長径2.6m×短径2.55m×深さ0.31mを測る。

本土坑の性格は不明である。

##### D-043 (第165図)

調査区北西部に位置する。M-023が重複している。平面形は、プラン・底部とも梢円形である。長径5.41m×短径4.32m×深さ0.52mを測る。

本土坑の性格は不明である。

本遺構より出土した遺物のうち壺2点、手捏土器1点、計3点を図示した。

1と2は土器部壺である。1は口縁部から底部の1/6遺存する。外面ヘラケズリ、内面ナデ。内外面赤彩が施されている。法量は復元口径14.8cm、器高3.4cmを測る。2は口縁部から底部1/2遺存する。外面ヘラケズリ、内面ナデ。全体に摩耗している。法量は復元口径16.2cm、器高5.8cmを測る。

3は手捏土器である。口縁部から底部1/2遺存する。

##### D-044 (第166図)

調査区北西部に位置する。平面形は、プラン・底部とも梢円形である。長径5.07m×短径3.56m×深さ0.84mを測る。

本土坑の性格は不明である。

##### D-045 (第165図)

調査区北西部に位置する。H-075が重複している。平面形は、プラン・底部とも梢円形である。長径1.2m×短径0.70m×深さ0.36mを測る。

本土坑の性格は不明である。

##### D-053 (第165図)

調査区北西部に位置する。H-077とD-047が重複している。平面形は、プラン・底部とも梢円形である。長径0.96m×短径0.78m×深さ0.22mを測る。

本土坑の性格は不明である。

##### D-054 (第166図)

調査区南西部に位置する。平面形は、プラン・底部とも円形である。長径0.74m×短径0.69m×深さ0.55mを測る。

本土坑の性格は不明である。

## D-065 (第166図)

調査区南西部に位置する。平面形は、プラン・底部とも円形である。長径0.63m×短径0.53m×深さ0.25mを測る。

本土坑の性格は不明である。

## D-068 (第166図)

調査区南西部に位置する。H-092が重複している。平面形は、プラン・底部とも梢円形である。長径1.31m×短径1.13m×深さ0.99mを測る。

本土坑の性格は不明である。

## D-074 (第166図)

調査区南西部に位置する。平面形は、プラン・底部とも梢円形である。長径1.72m×短径0.95m×深さ0.45mを測る。

本土坑の性格は不明である。

## D-078 (第166図)

調査区南西部に位置する。平面形は、プラン・底部とも梢円形である。長径4.82m×短径3.86m×深さ0.16mを測る。

本遺構の性格は台地整形の可能性がある。

## D-081 (第167図)

調査区南西部に位置する。平面形は、プラン・底部とも梢円形である。長径1.65m×短径1.1m×深さ0.75mを測る。

本土坑の性格は不明である。

## D-082 (第167図)

調査区南西部に位置する。平面形は、プラン・底部とも円形である。長径0.94m×短径0.84m×深さ0.3mを測る。

本土坑の性格は不明である。

## D-083 (第167図)

調査区南西部に位置する。平面形は、プラン・底部とも梢円形である。長径1.18m×短径0.61m×深さ0.34mを測る。

本土坑の性格は不明である。

## D-090 (第167図)

調査区南西部に位置する。擾乱や調査区外により全体の把握が困難である。平面形は、プラン・底部とも梢円形である。長径1.2m×短径0.86m×深さ0.25mを測る。

本土坑の性格は不明である。

#### 第4節 土 坑

##### D-091 (第167図)

調査区南西部に位置する。M-07とD-092が重複している。平面形は、プラン・底部とも隅丸長方形である。長径1.16m×短径0.94m×深さ0.43mを測る。

本土坑の性格は不明である。

##### D-092 (第167図)

調査区南西部に位置する。D-091に切られている。平面形は、プラン・底部とも梢円形である。長径1.51m×短径1.16m×深さ0.99mを測る。

本土坑の性格は不明である。

##### D-093 (第167図)

調査区南西部に位置する。調査区外で切られている。平面形は、プラン・底部とも不明である。長径0.86m×短径0.5m×深さ0.73mを測る。

本土坑の性格は不明である。

##### D-094 (第167図)

調査区南西部に位置する。M-027が重複しサブトレで切られている。平面形は、プラン・底部とも梢円形である。長径1.24m×短径0.7m×深さ0.3mを測る。

本土坑の性格は不明である。

##### D-095 (第167図)

調査区南西部に位置する。M-027が重複しサブトレで切られてる。平面形は、プラン・底部とも円形である。長径1.3m×短径1.3m×深さ0.51mを測る。

本土坑の性格は不明である。

##### D-096 (第167図)

調査区南西部に位置する。平面形は、プラン・底部とも梢円形である。長径0.92m×短径0.5m×深さ0.53mを測る。

本土坑の性格は不明である。

##### D-097 (第168図)

調査区南西部に位置する。調査区外で切られている。平面形は、プラン・底部とも梢円形である。長径1.9m×短径0.3(現存)m×深さ0.7mを測る。

本土坑の性格は不明である。

##### D-100 (第168図)

調査区南西部に位置する。M-027が重複しサブトレで切られている。平面形は、プラン・底部とも梢円形である。

本土坑の性格は不明である。

## D-102 (第168図)

調査区南西部に位置する。平面形は、プラン・底部とも梢円形である。長径1.3m×短径0.66m×深さ0.27mを測る。

本土坑の性格は不明である。

## D-103 (第168図)

調査区南西部に位置する。北西側に木の根による搅乱の可能性がある。平面形は、プラン・底部とも梢円形である。長径1.12m×短径0.5m×深さ0.3mを測る。

本土坑の性格は不明である。

## D-104 (第168図)

調査区南西部に位置する。平面形は、プラン・底部とも円形である。長径0.9m×短径0.84m×深さ0.4mを測る。

本土坑の性格は不明である。

## D-112 (第168図)

調査区南西部に位置する。H-091が重複している。平面形は、プラン・底部とも梢円形である。長径1.55m×短径1.2m×深さ1.12mを測る。

本土坑の性格は不明である。

## D-113 (第168図)

調査区南西部に位置する。D-068で切られている。平面形は、プラン・底部とも梢円形である。長径0.95m×短径1.1m×深さ0.46mを測る。

本土坑の性格は不明である。

本遺構から出土した遺物のうち、壺1点を図示した。

1は土器壺である。口縁から底部の5/8遺存する。外面ヘラケズリ、内面ヘラナデ。法量は復元口径14.0cm、残存器高5.2cmを測る。

## D-119 (第168図)

調査区南西部に位置する。H-092が重複している。平面形は、プラン・底部とも梢円形である。長径1.22m×短径1.07m×深さ0.28mを測る。

本土坑の性格は不明である。

## D-120 (第168図)

調査区南西部に位置する。H-092が重複しD-121に切られている。平面形は、プラン・底部とも梢円形である。長径(1.15)m×短径0.95m×深さ0.37mを測る。

本土坑の性格は不明である。

#### 第4節 土 坑

##### D-121 (第168図)

調査区南西部に位置する。H-092とD-120が重複している。平面形は、プラン・底部とも隅丸長方形である。長径0.85m×短径0.67m×深さ0.49mを測る。

本土坑の性格は不明である。

##### D-122 (第168図)

調査区南西部に位置する。D-121, 123が重複している。平面形は、プラン・底部とも梢円形である。長径0.72m×短径0.5m×深さ0.34mを測る。

本土坑の性格は不明である。

##### D-123 (第168図)

調査区南西部に位置する。D-122が重複している。平面形は、プラン・底部とも梢円形である。長径0.57m×短径0.34m×深さ0.21mを測る。

本土坑の性格は不明である。

##### D-124 (第169図)

調査区南西部に位置する。D-128, 129, 130が重複している。長径9.10(現存)m×短径3.50(現存)m×深さ0.62mを測る。

本遺構は台地成形の可能性がある。

本遺構から出土した遺物のうち、壺1点、甕3点、計4点を図示した。

1は土師器壺である。口縁から底部の2/3遺存する。口縁部ヨコナデ後外面ヘラケズリ、内面ヘラナデ。口径は13.6cm、器高4.5cm、底径6.4cmを測る。

2~4は土師器甕である。2は小型甕で、ほぼ完形である。口縁部ヨコナデ、外面ヘラケズリ、内面ヘラナデ。口径11.0cm、器高10.1cm、底径5.7cmを測る。3は口縁部から胴部の1/3遺存する。口縁部ヨコナデ、外面ヘラケズリ、内面ヘラナデ。復元口径18.0cm、残存器高7.2cmを測る。4は底部1/4遺存する。外面ヘラケズリ、内面ヘラナデ。残存器高2.6cm、復元底径16.0cmを測る。

##### D-128 (第170図)

調査区南西部に位置する。D-124, 129, 130が重複している。平面形は、プラン・底部は隅丸長方形かと思われる。長径1.65(現存)m×短径0.95(現存)m×深さ0.32mを測る。

本土坑の性格は台地成形の可能性がある。

##### D-129 (第170図)

調査区南西部に位置する。D-124, 128, 130が重複している。平面形は、プラン・底部とも隅丸長方形かと思われる。長径1.74m×短径1.37(現存)m×深さ0.58mを測る。

本土坑の性格は台地成形の可能性がある。

##### D-130 (第170図)

調査区南西部に位置する。平面形は、プラン・底部とも不整形である。長径(4.45)m×短径2.45(現存)

m×深さ0.67mを測る。

台地成形の可能性がある。

#### D-131 (第170図)

調査区南西部に位置する。平面形は、プラン・底部とも円形である。長径0.5m×短径0.5m×深さ0.43mを測る。

本土坑の性格は不明である。

#### D-132 (第170図)

調査区南西部に位置する。平面形は、プラン・底部とも楕円形である。長径0.84m×短径0.58m×深さ0.40mを測る。

本土坑の性格は不明である。

#### D-133 (第170図)

調査区南西部に位置する。平面形は、プラン・底部とも楕円形である。長径0.7m×短径0.41m×深さ0.33mを測る。

本土坑の性格は不明である。

#### D-134 (第170図)

調査区南西部に位置する。平面形は、プラン・底部とも楕円形である。長径0.86m×短径0.64m×深さ0.38mを測る。

本土坑の性格は不明である。

#### D-135 (第170図)

調査区南西部に位置する。平面形は、プラン・底部とも円形である。長径0.58m×短径0.5m×深さ0.20mを測る。

本土坑の性格は不明である。

#### D-136 (第170図)

調査区南西部に位置する。平面形は、プラン・底部とも楕円形である。長径0.94m×短径0.65m×深さ0.16mを測る。

本土坑の性格は不明である。

#### D-137 (第171図)

調査区南西部に位置する。平面形は、プラン・底部とも楕円形である。長径0.79m×短径0.67m×深さ0.25mを測る。

本土坑の性格は不明である。

#### 第4節 土 坑

##### D-138 (第171図)

調査区南西部に位置する。平面形は、プラン・底部とも梢円形である。長径0.90m×短径0.76(現存)m×深さ0.25mを測る。

本土坑の性格は不明である。

##### D-139 (第171図)

調査区南西部に位置する。平面形は、プラン・底部とも梢円形である。長径0.65m×短径0.43(現存)m×深さ0.52mを測る。

本土坑の性格は不明である。

##### D-140 (第171図)

調査区南西部に位置する。地域外で切られている。平面形は、プラン・底部とも不明である。長径7.70(現存)m×短径3.42(現存)m×深さ1.73mを測る。

台地成形の可能性がある。

##### D-142 (第171図)

調査区南西部に位置する。平面形は、プラン・底部とも円形である。長径0.24m×短径0.24m×深さ0.24mを測る。

本土坑の性格は不明である。

##### D-143 (第171図)

調査区南西部に位置する。平面形は、プラン・底部とも梢円形である。長径2.16m×短径1.16m×深さ0.32mを測る。

本土坑の性格は不明である。

##### D-145 (第171図)

調査区南西部に位置する。平面形は、プラン・底部とも円形である。長径0.98m×短径0.92m×深さ0.39mを測る。

本土坑の性格は不明である。

##### D-146 (第171図)

調査区南西部に位置する。平面形は、プラン・底部とも円形である。長径0.92m×短径0.92m×深さ0.21mを測る。

本土坑の性格は不明である。

##### D-147 (第172図)

調査区南西部に位置する。平面形は、プラン・底部とも梢円形である。長径0.93m×短径0.75m×深さ0.30mを測る。

本土坑の性格は不明である。

## D-148 (第172図)

調査区南西部に位置する。平面形は、プラン・底部とも円形である。長径0.52m×短径0.52m×深さ0.28mを測る。

本土坑の性格は不明である。

## D-151 (第172図)

調査区南西部に位置する。平面形は、プラン・底部とも隅丸長方形である。長径0.75m×短径0.65m×深さ0.25mを測る。

本土坑の性格は不明である。

## D-153 (第172図)

調査区南西部に位置する。平面形は、プラン・底部とも梢円形である。長径1.32m×短径1.09m×深さ0.17mを測る。

本土坑の性格は不明である。

## D-154 (第172図)

調査区南西部に位置する。平面形は、プラン・底部とも円形である。長径1.0m×短径0.94m×深さ0.36mを測る。

本土坑の性格は不明である。

## D-155 (第172図)

調査区南西部に位置する。M-030が重複している。平面形は、プラン・底部とも梢円形である。長径1.49m×短径1.1m×深さ0.64mを測る。

本土坑の性格は不明である。

## D-156 (第172図)

調査区南西部に位置する。M-030が重複している。平面形は、プラン・底部とも梢円形である。長径0.70m×短径0.52m×深さ0.26mを測る。

本土坑の性格は不明である。

## D-157 (第172図)

調査区南西部に位置する。M-030が重複している。平面形は、プラン・底部とも梢円形である。長径0.70m×短径0.57m×深さ0.41mを測る。

本土坑の性格は不明である。

## D-158 (第172図)

調査区南西部に位置する。平面形は、プラン・底部とも梢円形である。長径1.18m×短径1.02m×深さ0.53mを測る。

本土坑の性格は不明である。

#### 第4節 土 坑

##### D-159 (第172図)

調査区南西部に位置する。平面形は、プラン・底部とも梢円形である。長径1.55m×短径0.66m×深さ0.71mを測る。

本土坑の性格は不明である。

##### D-161 (第173図)

調査区南西部に位置する。H-097が重複している。平面形は、プラン・底部とも梢円形である。長径1.24m×短径0.65m×深さ0.37mを測る。

本土坑の性格は不明である。

##### D-162 (第173図)

調査区南西部に位置する。平面形は、プラン・底部とも梢円形である。長径1.53m×短径0.65m×深さ0.39mを測る。

本土坑の性格は不明である。

##### D-165 (第173図)

調査区南西部に位置する。平面形は、プラン・底部とも梢円形である。長径4.84m×短径3.50m×深さ0.46mを測る。

本土坑の性格は台地整形の可能性がある。

##### D-166 (第173図)

調査区南西部に位置する。D-169が重複している。平面形は、プラン・底部とも隅丸長方形である。長径0.86m×短径0.35m×深さ0.38mを測る。

本土坑の性格は台地整形の可能性がある。

##### D-167 (第173図)

調査区南西部に位置する。D-169が重複している。平面形は、プラン・底部とも梢円形である。長径1.30m×短径0.55m×深さ0.42mを測る。

本土坑の性格は台地整形の可能性がある。

##### D-169 (第173図)

調査区南西部に位置する。D-166, 167, 170が重複している。平面形は、プラン・底部とも長方形である。長径3.84(現存)m×短径2.0m×深さ0.31mを測る。

本土坑の性格は台地整形の可能性がある。

##### D-170 (第173図)

調査区南西部に位置する。D-169が重複し、調査区域外で切られる。平面形は、プラン・底部とも梢円形である。長径0.90(現存)m×短径0.75m×深さ0.30mを測る。

本土坑の性格は不明である。

## D-174 (第173図)

調査区南西部に位置する。D-171に切られている。平面形は、プラン・底部とも不整形である。長径0.74m×短径0.34m×深さ0.2mを測る。

本土坑の性格は不明である。

## D-179 (第173図)

調査区南西部に位置する。D-177に切られている。平面形は、プラン・底部とも梢円形である。長径0.76m×短径0.69m×深さ0.68mを測る。

本土坑の性格は不明である。

## D-182 (第173図)

調査区南西部に位置する。平面形は、プラン・底部とも方形である。長径0.54m×短径0.45m×深さ0.52mを測る。

本土坑の性格は不明である。

## D-184 (第174図)

調査区南西部に位置する。平面形は、プラン・底部とも長方形である。長径8.86m×短径0.25m×深さ0.13mを測る。本土坑の性格は台地整形の可能性がある。

## D-187 (第174図)

調査区南西部に位置する。平面形は、プラン・底部とも梢円形である。長径1.10m×短径0.96m×深さ0.19mを測る。

本土坑の性格は不明である。

## D-189 (第174図)

調査区南西部に位置する。台地整形を切っている。平面形は、プラン・底部とも梢円形である。長径1.68m×短径1.44m×深さ0.58mを測る。

本土坑の性格は不明である。

## D-190 (第174図)

調査区南西部に位置する。D-189により一部切れている。平面形は、プラン・底部とも変形方形である。長径3.66m×短径2.61m×深さ0.70mを測る。

本土坑の性格は台地整形の可能性がある。

## D-192 (第174図)

調査区北東部に位置する。平面形は、プラン・底部とも円形である。長径1.5m×短径1.43m×深さ1.27mを測る。

本土坑の性格は不明である。

#### 第4節 土 坑

##### D-195 (第175図)

調査区南西部に位置する。H-101と重複している。平面形は、プラン・底部とも梢円形である。長径2.38m×短径1.1m×深さ0.76mを測る。

本土坑の性格は不明である。

##### D-196 (第175図)

調査区南西部に位置する。平面形は、プラン・底部とも梢円形である。長径0.94m×短径0.65m×深さ0.31mを測る。

本土坑の性格は不明である。

##### D-197 (第175図)

調査区南西部に位置する。平面形は、プラン・底部とも不整円形である。長径1.21m×短径0.95m×深さ0.27mを測る。

本土坑の性格は不明である。

##### D-198 (第175図)

調査区南西部に位置する。平面形は、プラン・底部ともやや円形である。長径0.75(現存)m×短径0.75m×深さ0.35mを測る。

本土坑の性格は不明である。

##### D-199 (第175図)

調査区南西部に位置する。平面形は、プラン・底部とも不整円形である。長径1.59m×短径1.17m×深さ0.38mを測る。

本土坑の性格は不明である。

##### D-201 (第175図)

調査区南西部に位置する。平面形は、プラン・底部とも梢円形である。長径1.7m×短径1.1m×深さ0.56mを測る。

本土坑の性格は不明である。

##### D-202 (第175図)

調査区南西部に位置する。平面形は、プラン・底部とも梢円形である。長径1.4m×短径1.15m×深さ0.58mを測る。

本土坑の性格は不明である。

##### D-203 (第175図)

調査区南西部に位置する。平面形は、プラン・底部とも不整長方形である。長径1.74m×短径0.93m×深さ0.95mを測る。

本土坑の性格は不明である。

## D-204 (第175図)

調査区南西部に位置する。平面形は、プラン・底部とも隅丸方形である。長径1.45m×短径0.54m×深さ0.59mを測る。

本土坑の性格は不明である。

## D-207 (第176図)

調査区南西部に位置する。平面形は、プラン・底部とも梢円形である。長径1.43(現存)m×短径1.36m×深さ0.74mを測る。

本土坑の性格は不明である。

## D-208 (第176図)

調査区南西部に位置する。平面形は、プラン・底部とも円形である。長径0.73m×短径0.72m×深さ0.47mを測る。

本土坑の性格は不明である。

## D-210 (第176図)

調査区南西部に位置する。平面形は、プラン・底部とも変形長方形である。長径1.46m×短径1.13m×深さ0.93mを測る。

本土坑の性格は不明である。

## D-211 (第177・178図)

調査区南西部に位置する。平面形は、プラン・底部とも梢円形である。長径8.00m×短径4.90m×深さ2.00(現存)mを測る。本土坑は階段が巡らされており、階段状造構とするが、井戸であった可能性もある。

本遺構から出土した遺物のうち、鉢1点、甕2点、壺2点、瓶2点、陶器1点、石製品5点、鐵製品3点、玉4点、計20点を図示した。

1は土師器櫃で口縁部1/6遺存する。外面ヘラケズリ、内面ヘラナデ。復元口径24.0cm、残存器高5.5cmを測る。

2は土師器甕の底部で残存器高2.0cm、底径7.0cmを測る。

3は須恵器長頸壺の口縁部1/4遺存する。ロクロ成形。復元口径8.0cm、残存器高3.5cmを測る。4は須恵器壺の底部1/4遺存する。残存器高0.9cm、復元底径6.4cmを測る。

5は土師器鉢の口縁片である。

6と7は土師器櫃である。6は口縁片である。7は弥生土器の甕片である。

8は陶磁器である。

9から12は砾石である。9は残存長3.0cm、幅2.6cm、厚さ2.0cm、重量16.1gを測る。10は長さ8.4cm、幅4.1cm、2.0cm、重量77.2gを測る。11は残存長7.3cm、幅2.8cm、厚さ1.6cm、重量35.7gを測る。12は残存長8.8cm、幅2.2cm、重量47.8gを測る。

13は軽石である。長さ4.8cm、幅1.8cm、厚さ1.3cm、重量1.8gを測る。

14は鐵錐の茎部分である。残存長4.3cm、幅0.45cm、厚さ0.3cm、重量2.2gを測る。

15は刀子である。残存長9.9cm、幅0.4cm、0.8cm、厚さ0.2cm、重量6.0gを測る。

#### 第4節 土 坑

16は火打ち金か。残存長7.3cm、幅2.3cm、重量39.3gを測る。

17は石製の管玉である。長さ2.3cm、径0.5cm、孔径0.3cm、重量0.9gを測る。

18は土玉である。長さ0.9cm、幅0.6cm、孔径0.2cm、重量0.5gを測る。

19は土玉である。長さ1.4cm、幅1.2cm、孔径0.2cm、重量2.1gを測る。

20は土製勾玉である。長さ3.1cm、幅1.2cm、孔径0.2cm、重量4.7gを測る。

#### D-213 (第176図)

調査区南西部に位置する。平面形は、プラン・底部とも楕円形である。長径1.80(現存)m×短径0.80m×深さ0.70mを測る。

本土坑の性格は不明である。

#### D-215 (第176図)

調査区南西部に位置する。平面形は、プラン・底部とも楕円形である。長径1.45m×短径1.25m×深さ1.64mを測る。

本土坑の性格は不明である。

#### D-216 (第176図)

調査区南西部に位置する。平面形は、プラン・底部とも円形である。長径0.68m×短径0.64m×深さ0.90mを測る。

本土坑の性格は不明である。

#### D-217 (第176図)

調査区南西部に位置する。平面形は、プラン・底部とも楕円形である。長径0.6m×短径0.3m×深さ0.13mを測る。

本土坑の性格は不明である。

#### D-227 (第176図)

調査区南西部に位置する。平面形は、プラン・底部とも円形である。長径1.15m×短径0.9m×深さ0.40mを測る。

本土坑の性格は不明である。

#### D-228 (第179図)

調査区南部に位置する。平面形は、プラン・底部とも円形である。長径0.88m×短径0.78m×深さ0.21mを測る。

本土坑の性格は不明である。

#### D-229 (第179図)

調査区南部に位置する。平面形は、プラン・底部とも円形である。長径1.26m×短径106m×深さ0.22mを測る。

本土坑の性格は不明である。

#### D-230 (第179図)

調査区南部に位置する。平面形は、プラン・底部とも円形である。長径0.98m×短径0.9m×深さ0.3mを測る。

本土坑の性格は不明である。

#### D-1001 (第179図)

調査区微高地上部分の西に位置する。B-1004の柱穴群に切られている。平面形は、プラン・底部とも半円形である。長径3.48m×短径2.45m×深さ2.3mを測る。

本土坑の性格は不明である。

本遺構より出土した遺物のうち2点を図示した。

1は羽口である。現存長5.3cm、重量33.63gを測る。

2は楕円形津である。現存長6.15cm、幅4.6cm、厚さ2.2cm、重量59.4gを測る。

#### D-1003 (第180図)

調査区微高地上部分の西に位置する。平面形は、プラン・底部とも隅丸長方形である。長径2.96m×短径2.46m×深さ0.4mを測る。

本土坑の性格は不明である。

本遺構より出土した遺物のうち羽口1点、石製品2点、鉄製品等4点、計7点を図示した。

1は羽口である。現存長6.6cm、重量57.7gを測る。

2と3は砥石である。現存長2.6cm、幅2.1cm、厚さ1.8cm、重量13.4gを測る。3は現存長21.6cm、幅10.3cm、厚さ9.0cm、重量2801.0gを測る。転用の可能性がある。

4は楕円形津である。現存長7.2cm、幅6.2cm、厚さ2.3cm、重量94.3gを測る。

5はスラグである。現存長7.1cm、幅5.4cm、厚さ2.4cm、重量111.8gを測る。

6と7は不明鉄器である。現存長1.9cm、幅0.5cm、厚さ0.1~0.2cm、重量0.75gを測る。7は現存長3.6cm、幅3.0cm、厚さ0.3cm、重量12.4gを測る。

#### D-1014 (第179図)

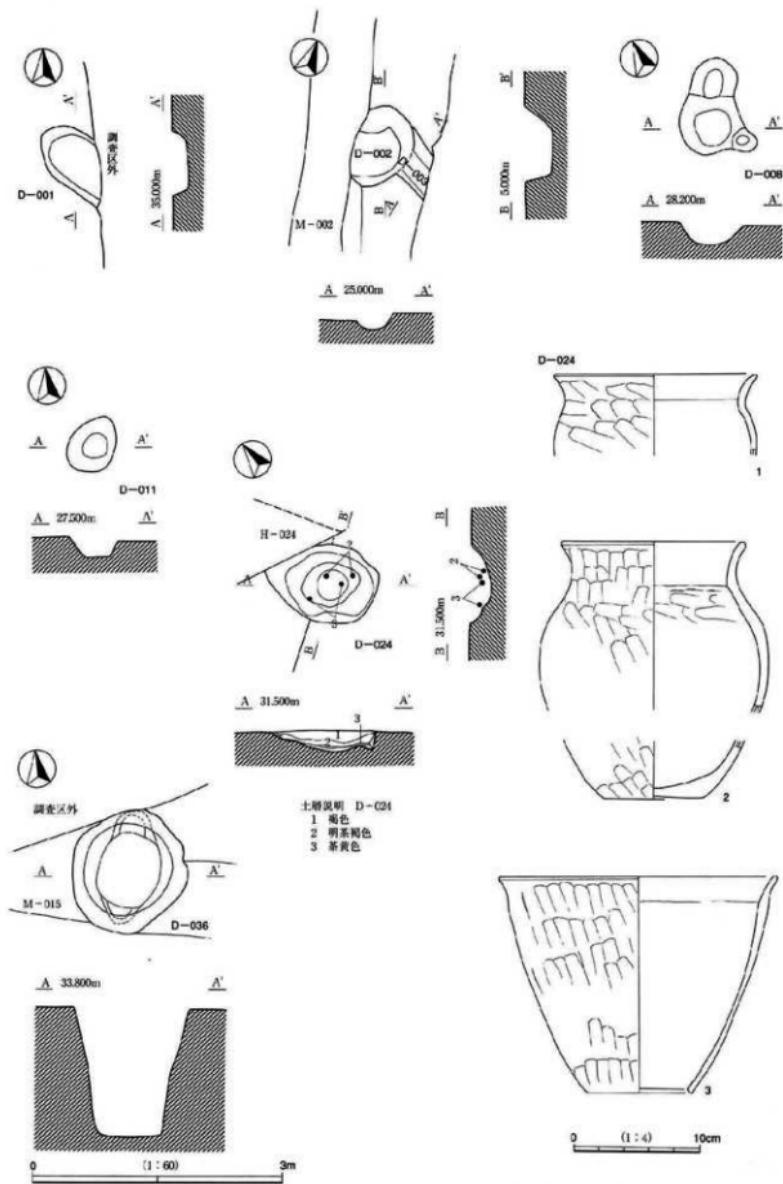
調査区微高地上部分の西に位置する。平面形は、プラン・底部とも不整円形である。長径1.05m×短径0.8m×深さ0.34mを測る。

本土坑の性格は不明である。

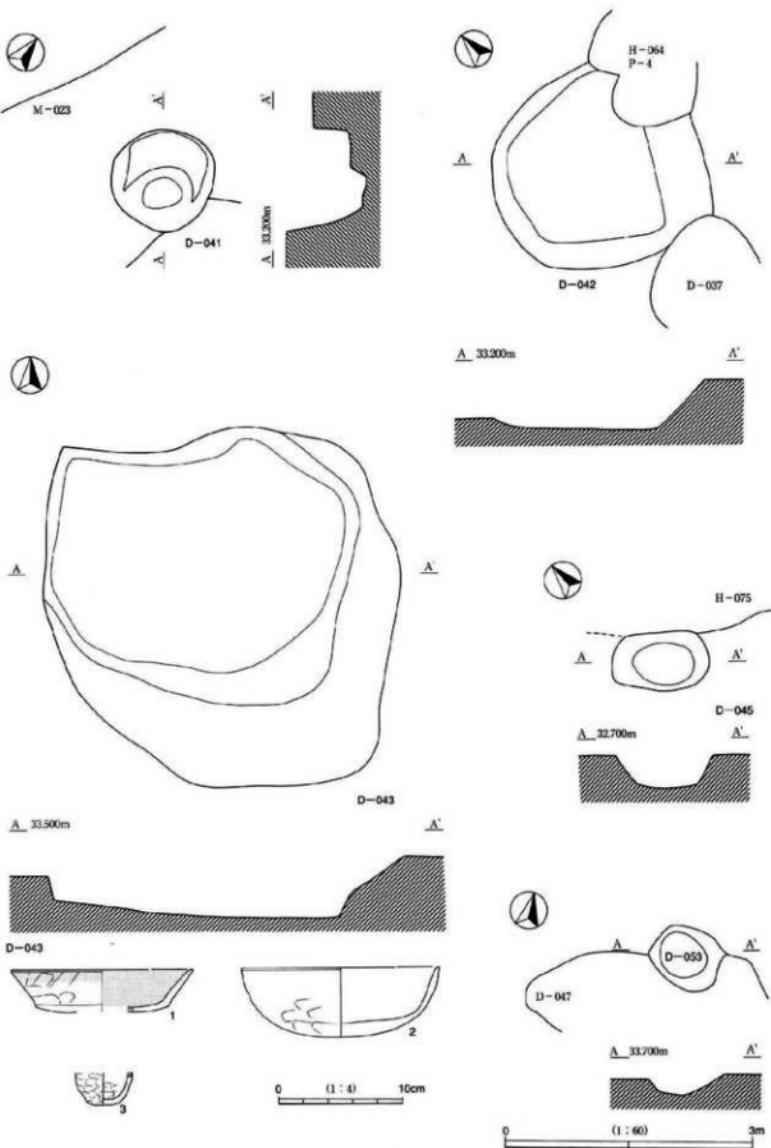
#### D-1023 (第179図)

調査区微高地上部分の西に位置する。調査区外に切られる。平面形は、プラン・底部とも不整形である。長径2.53m×短径2.77m×深さ0.19mを測る。

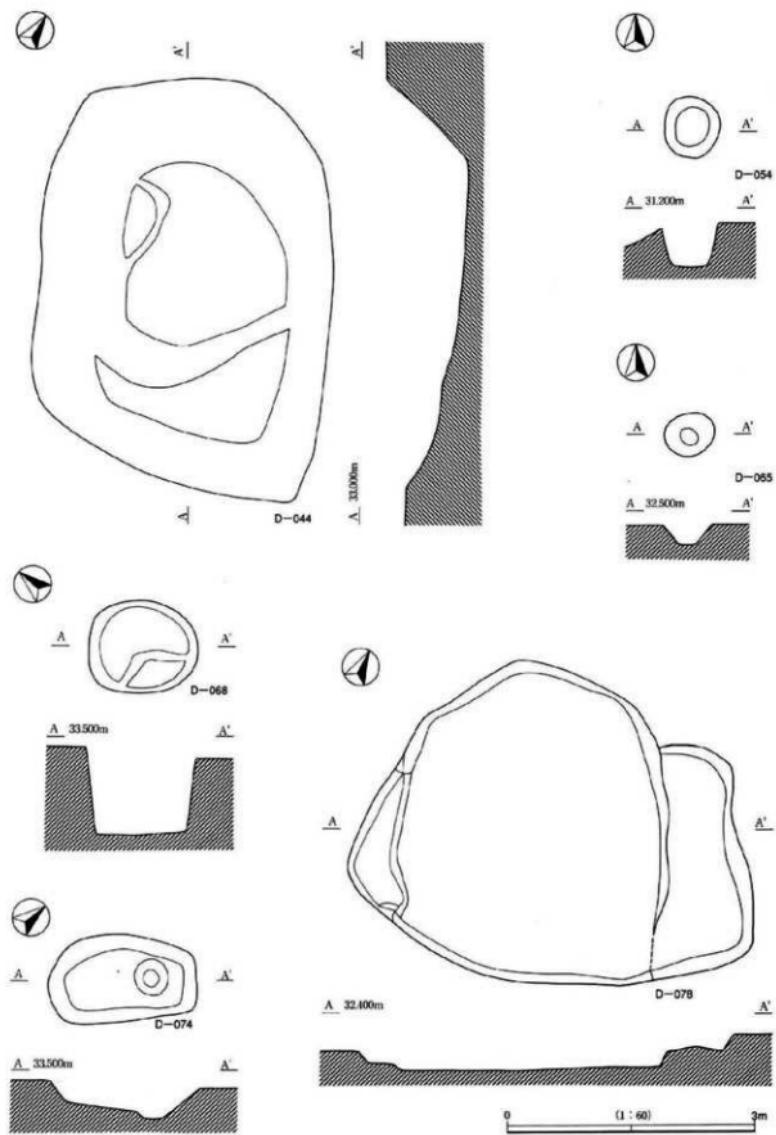
本土坑の性格は不明である。



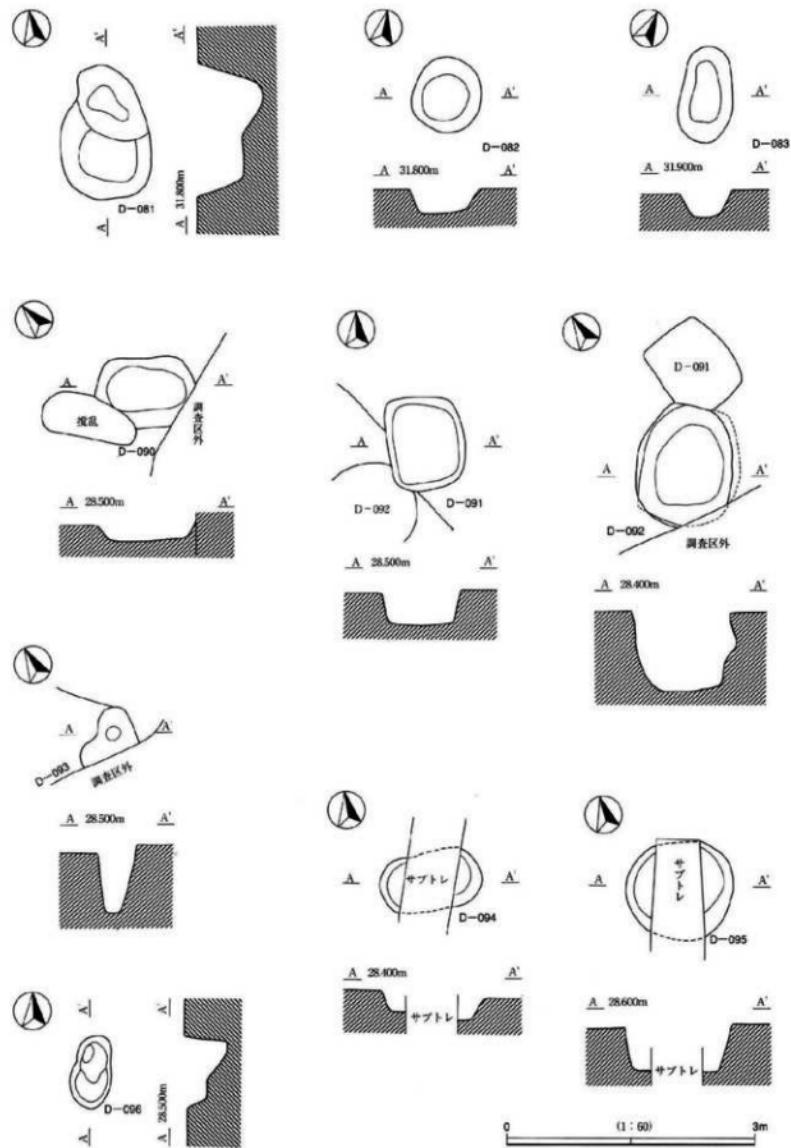
第164図 D-001・002・003・008・011・024・036実測図・出土遺物



第165図 D-041・042・043・045・053実測図・出土遺物

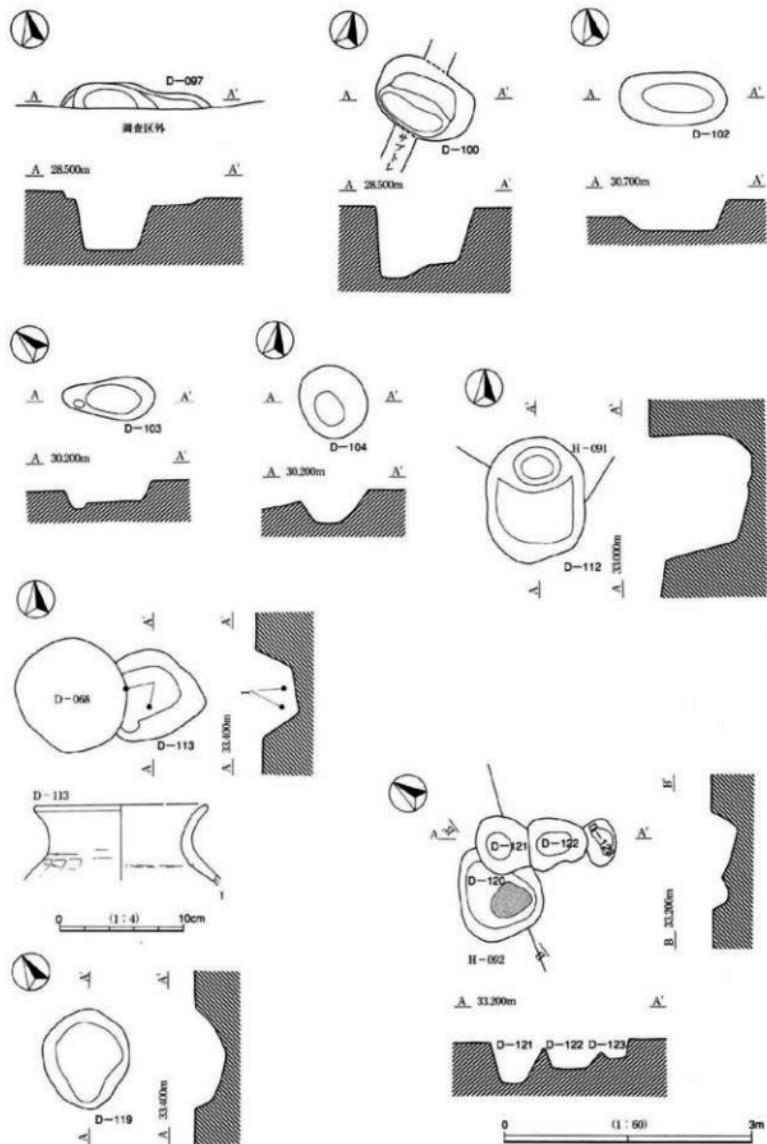


第166図 D-044・054・065・068・074・078実測図

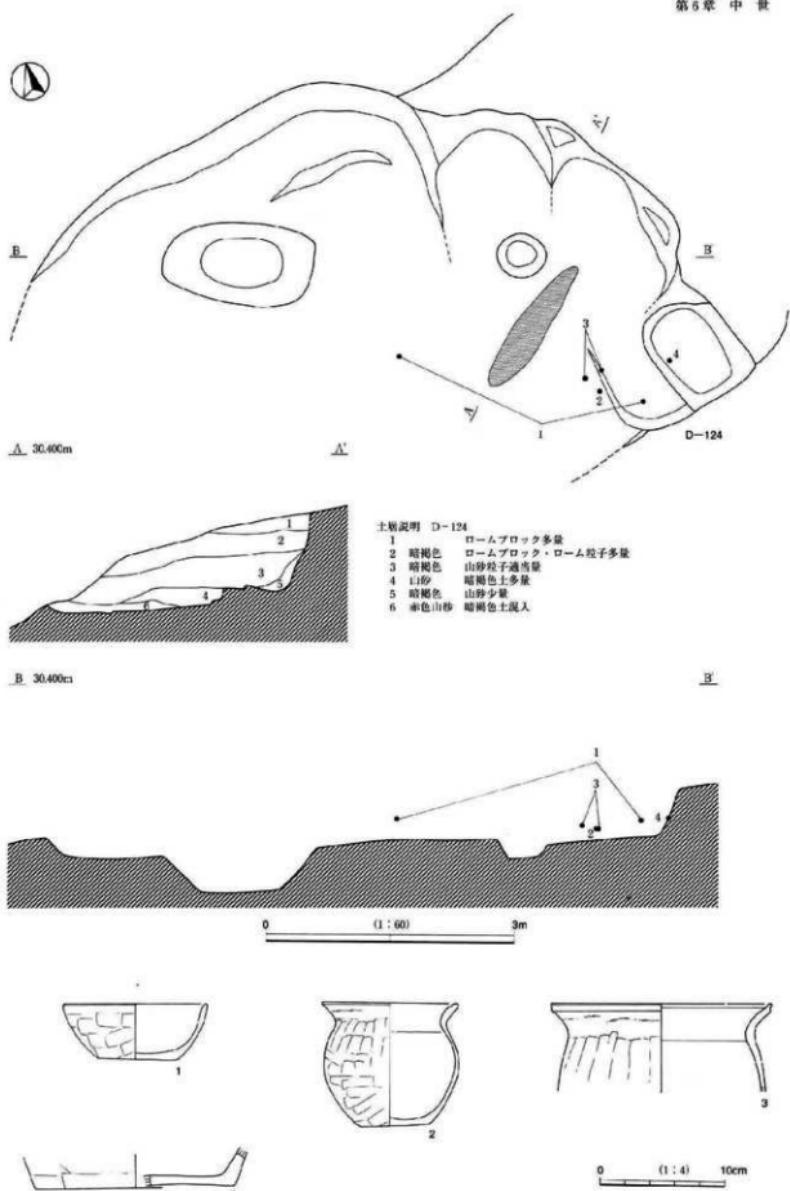


第167図 D-081~083・090~096実測図

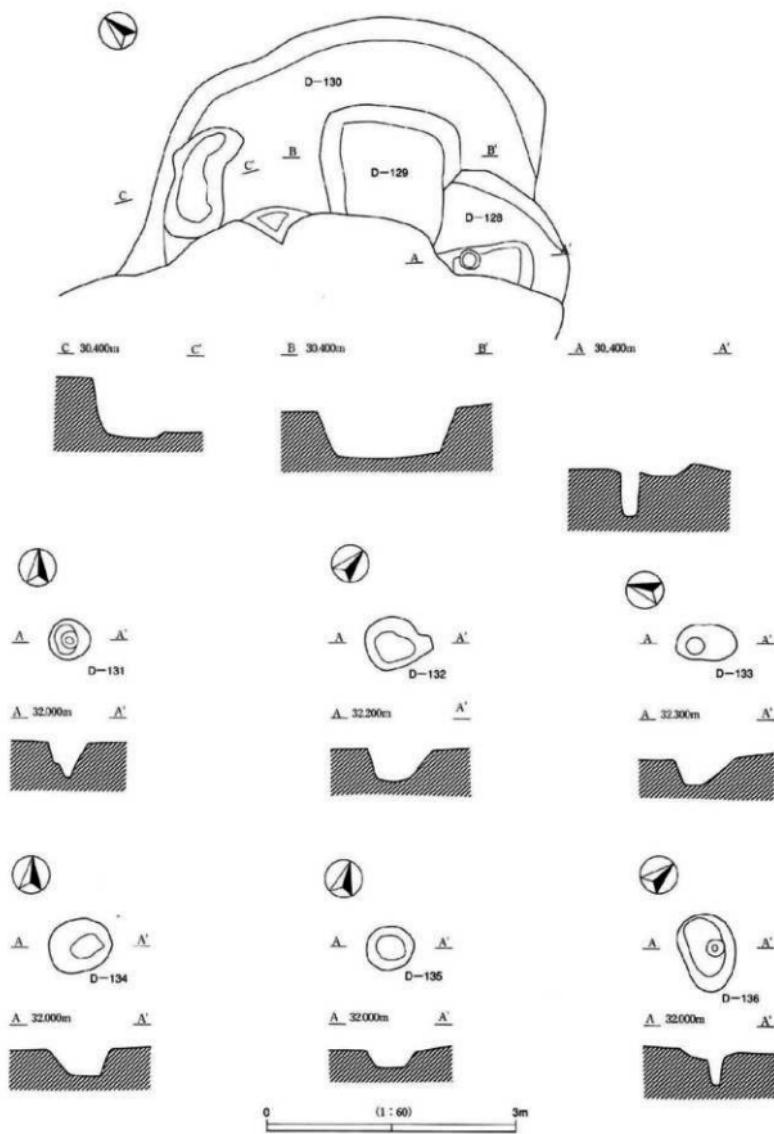
第4節 土 坑



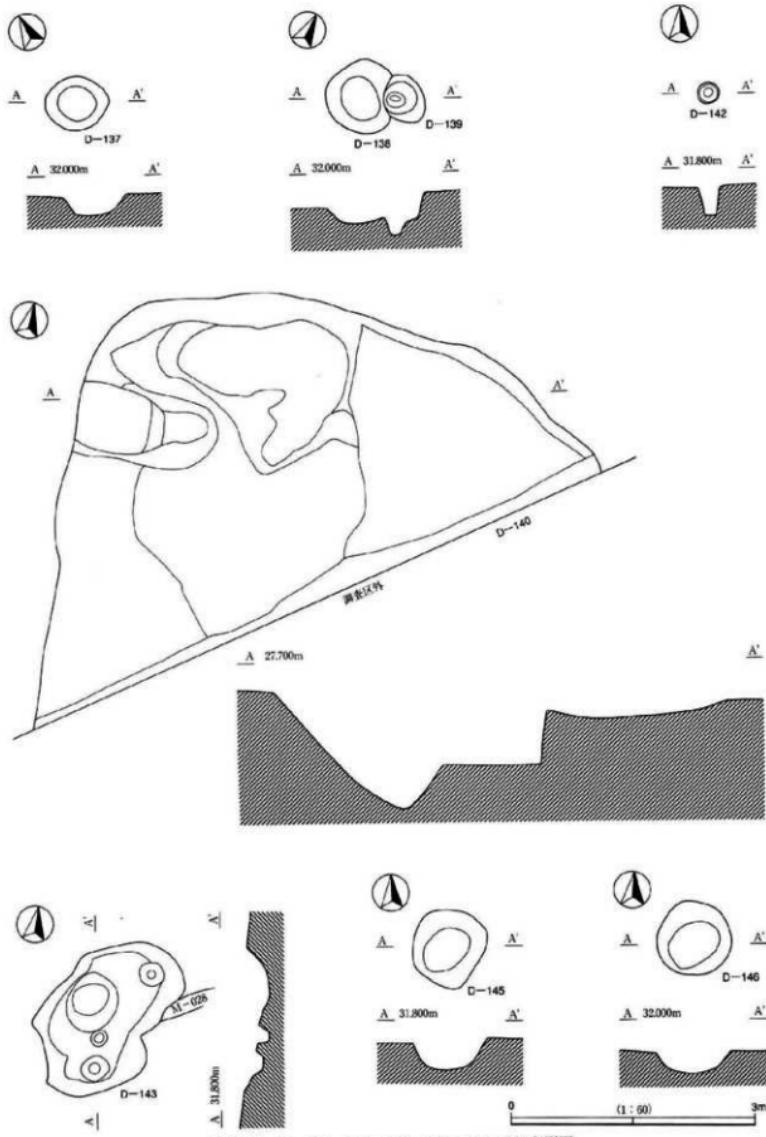
第168図 D-097・100・102・103・104・112・113・119~123実測図・出土遺物



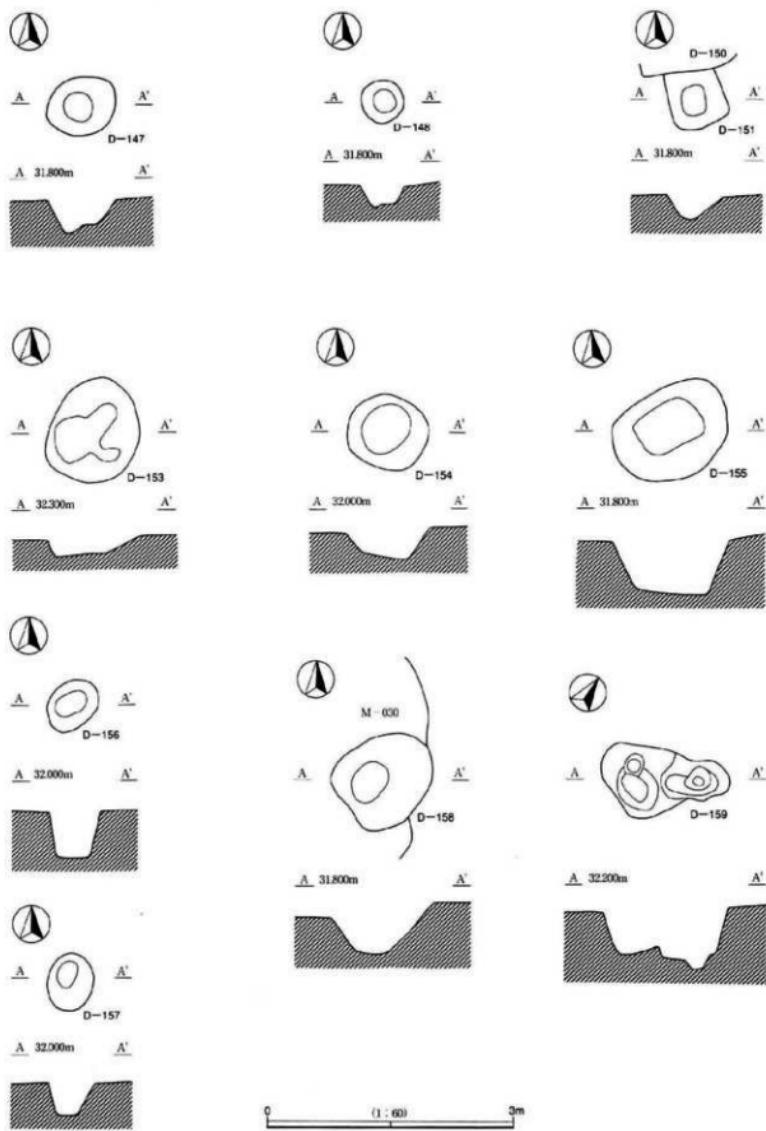
第169図 D-124実測図・出土遺物



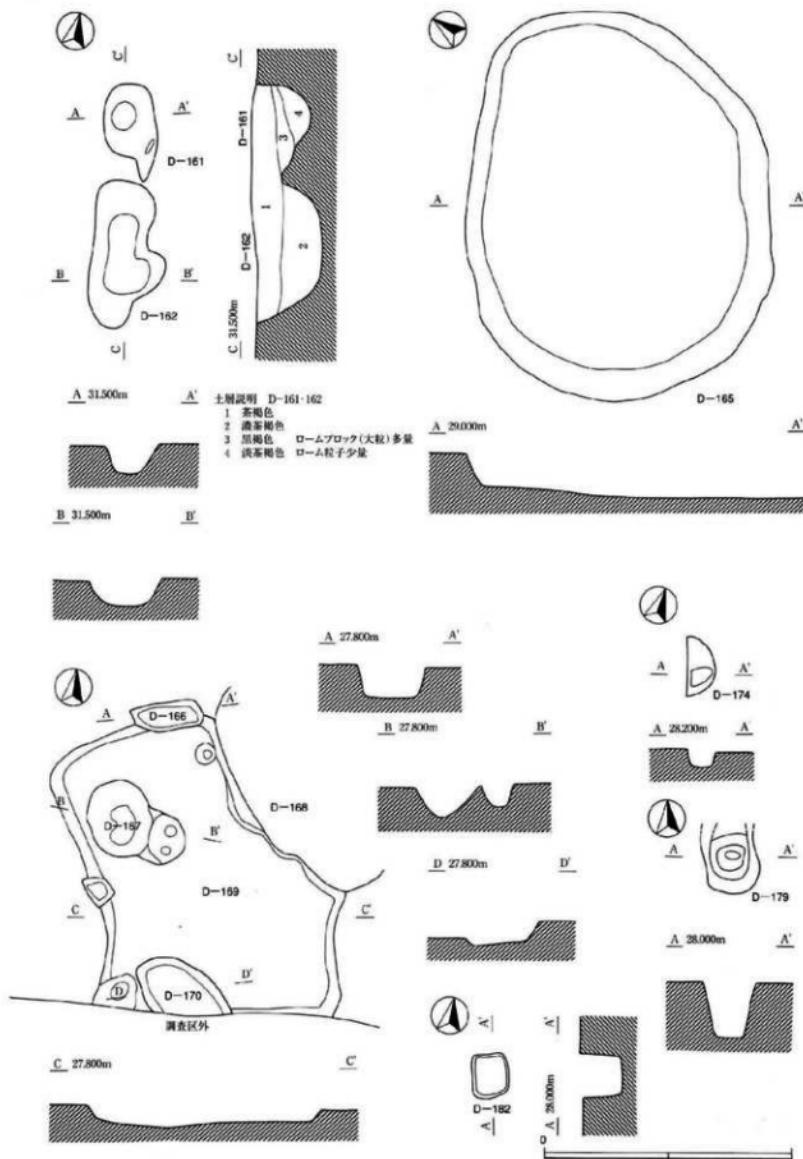
第170図 D-128~136実測図



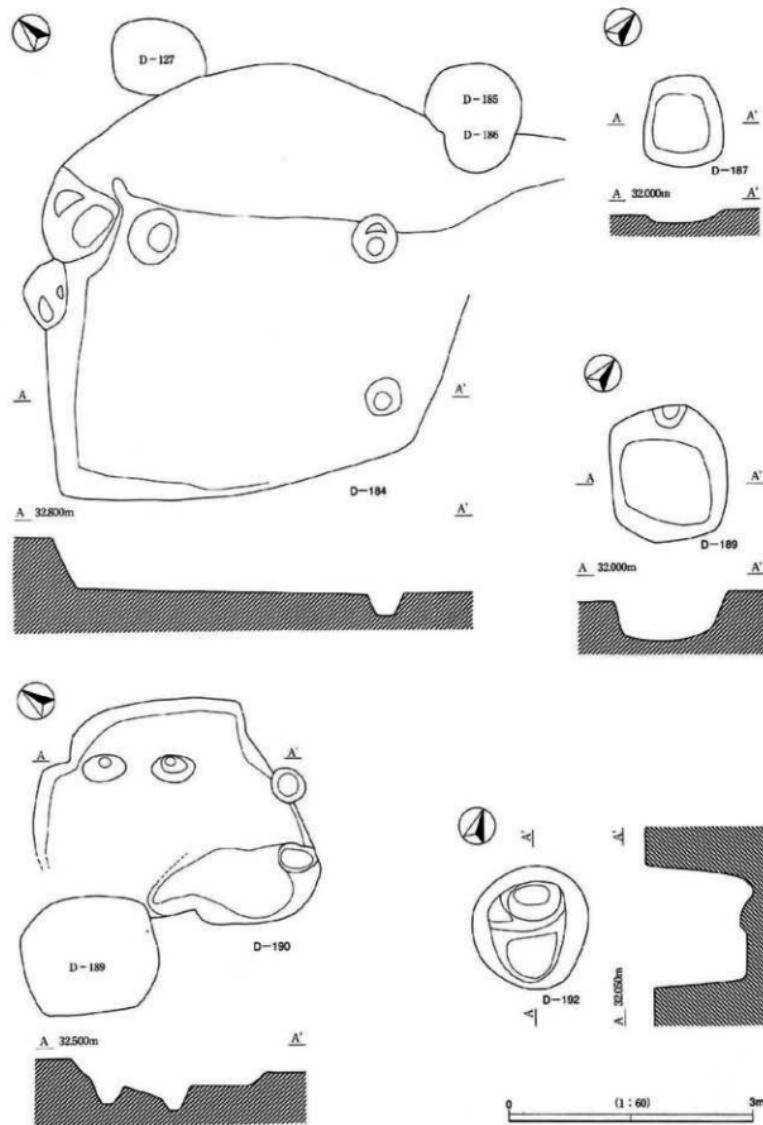
第171図 D-137~140・142・143・145・146実測図



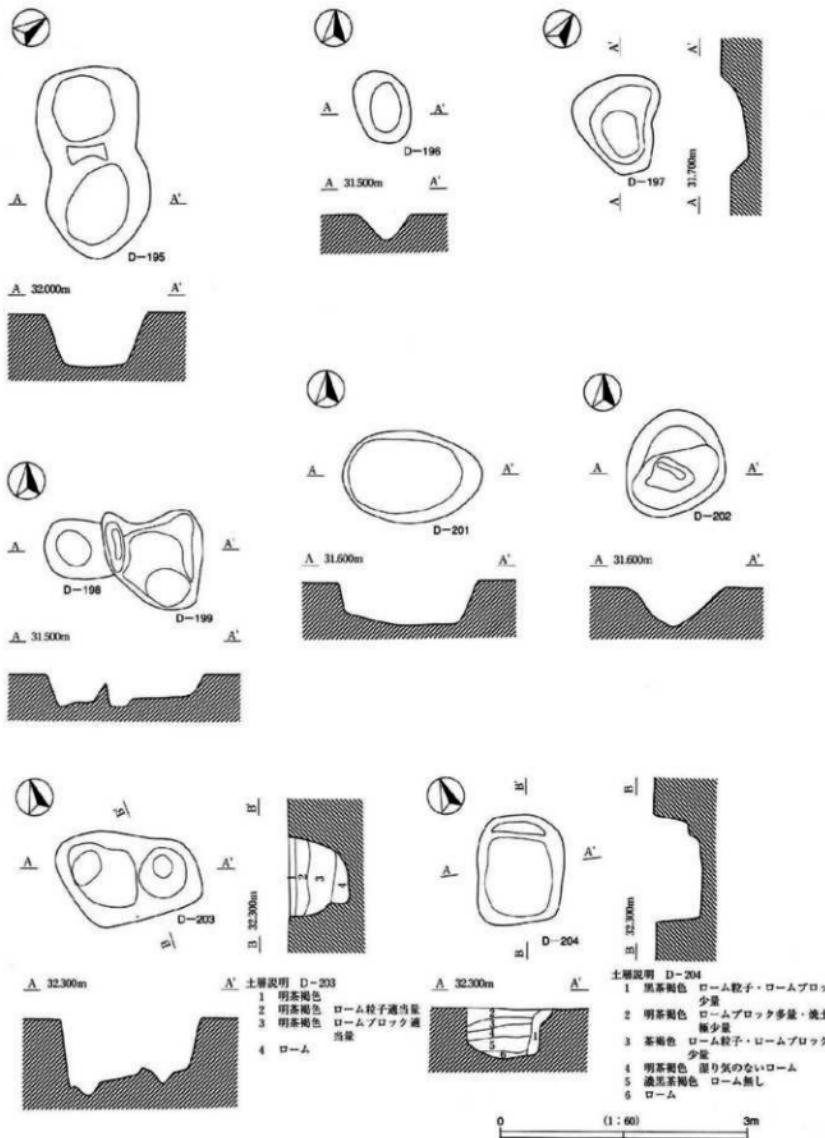
第172図 D-147・148・151・153～159実測図



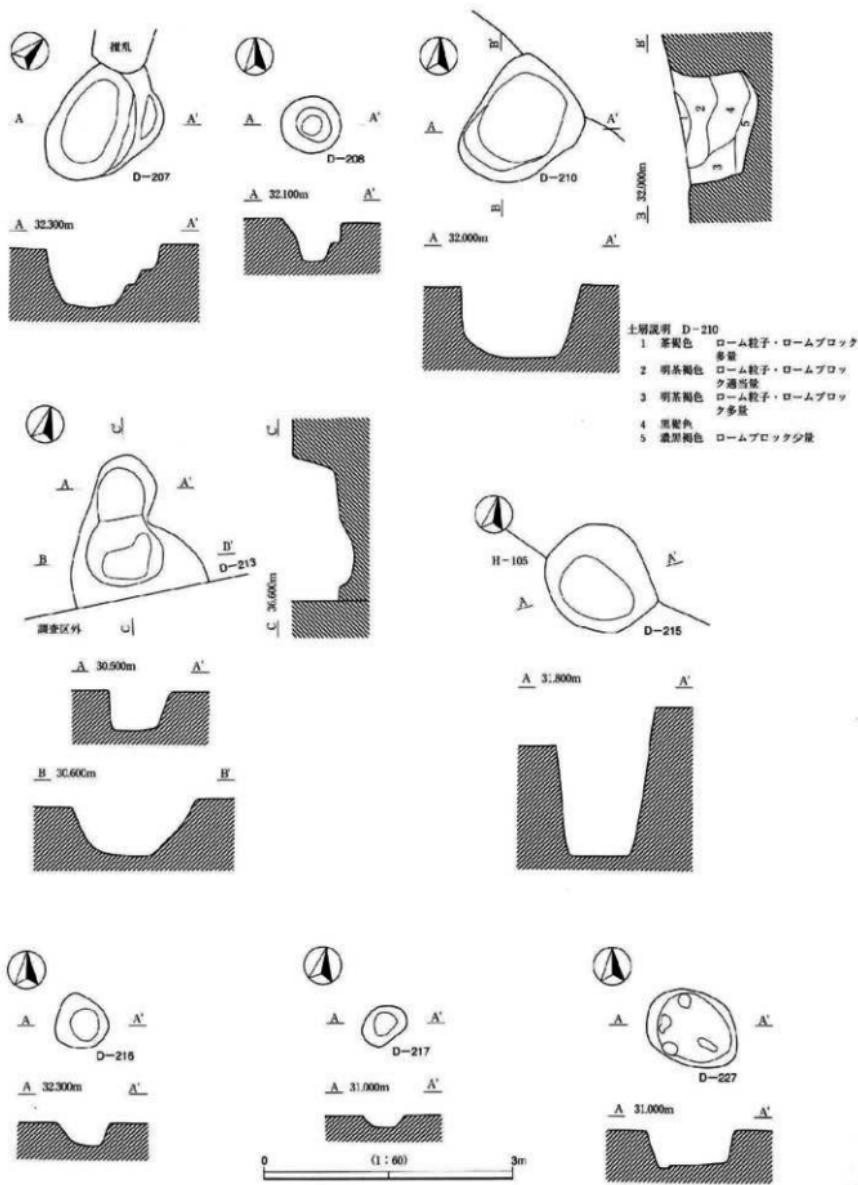
第173図 D-161・162・165～167・169・170・174・179・182実測図



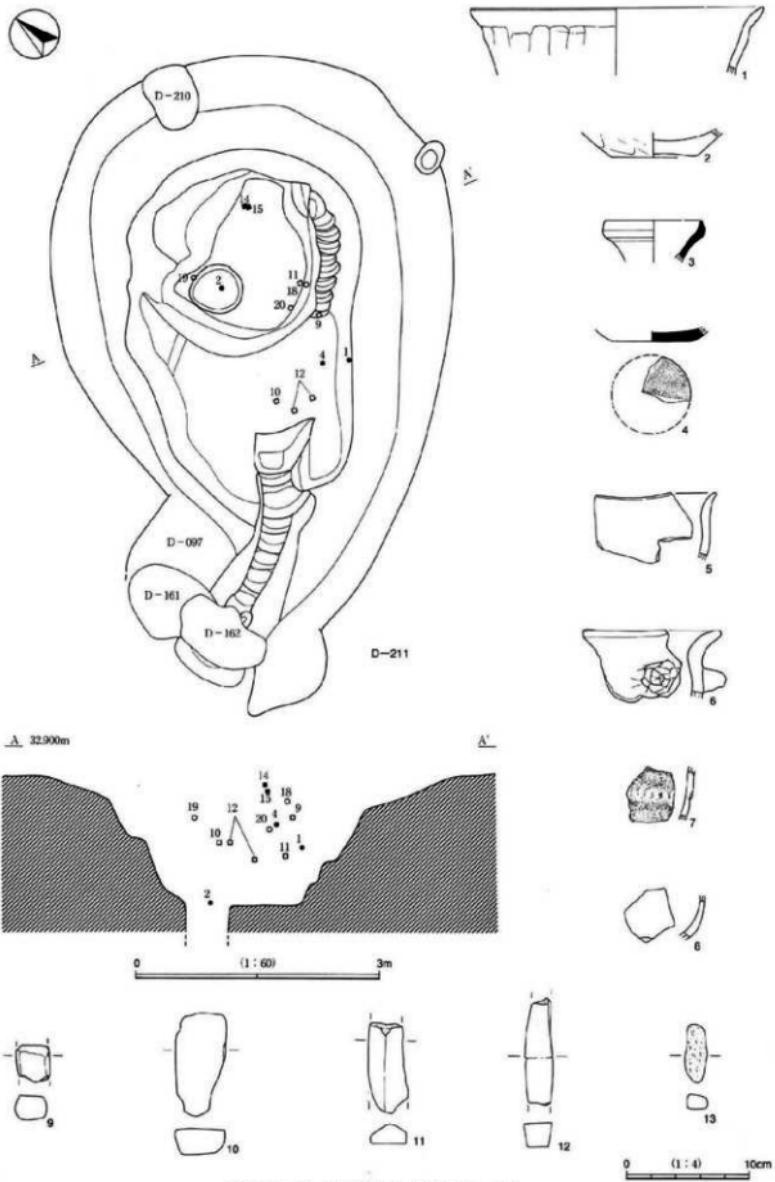
第174図 D-184・187・189・190・192実測図



第175図 D-195~199・201~204実測図

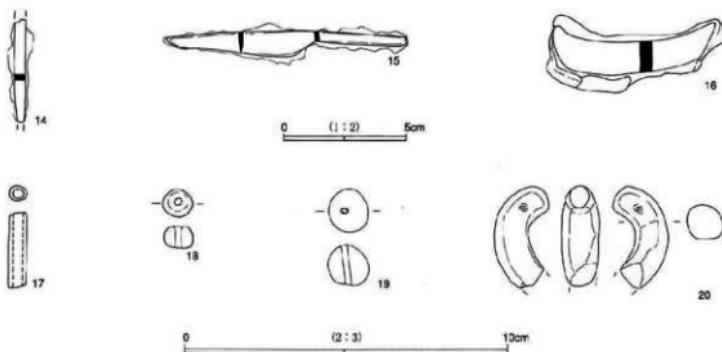


第176図 D-207・208・210・213・215~217・227実測図

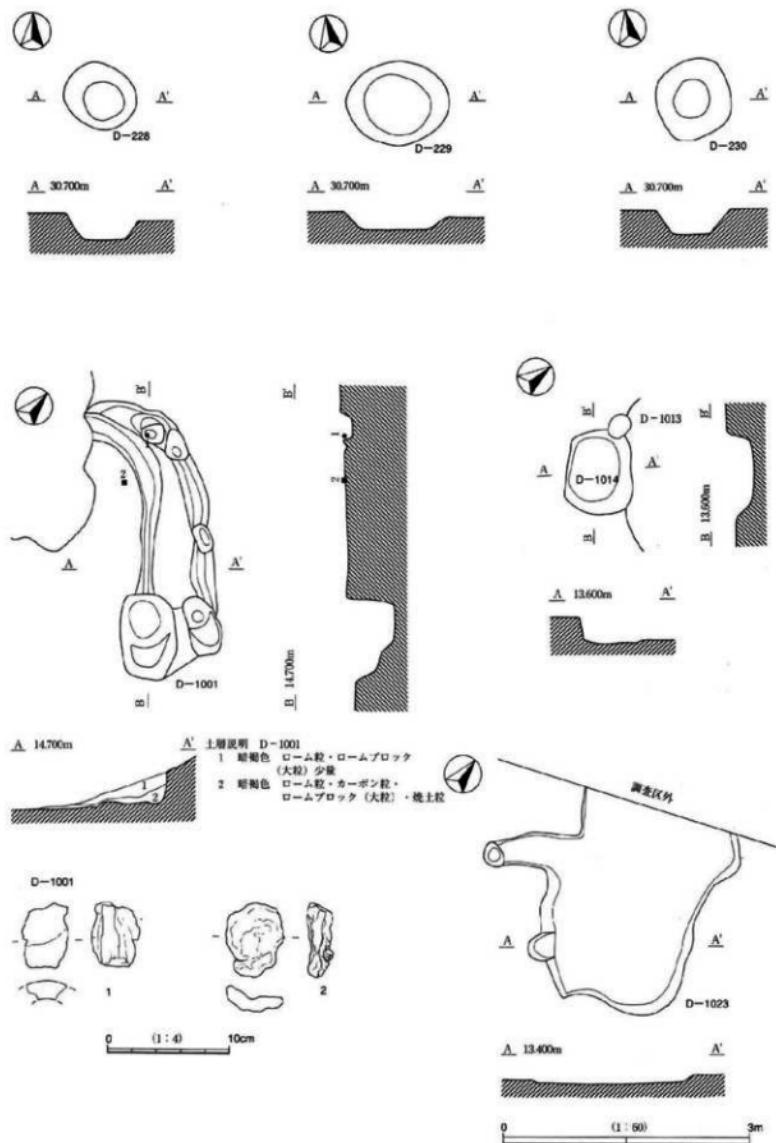


第177図 D-211実測図・出土遺物（1）

第4節 土 坑

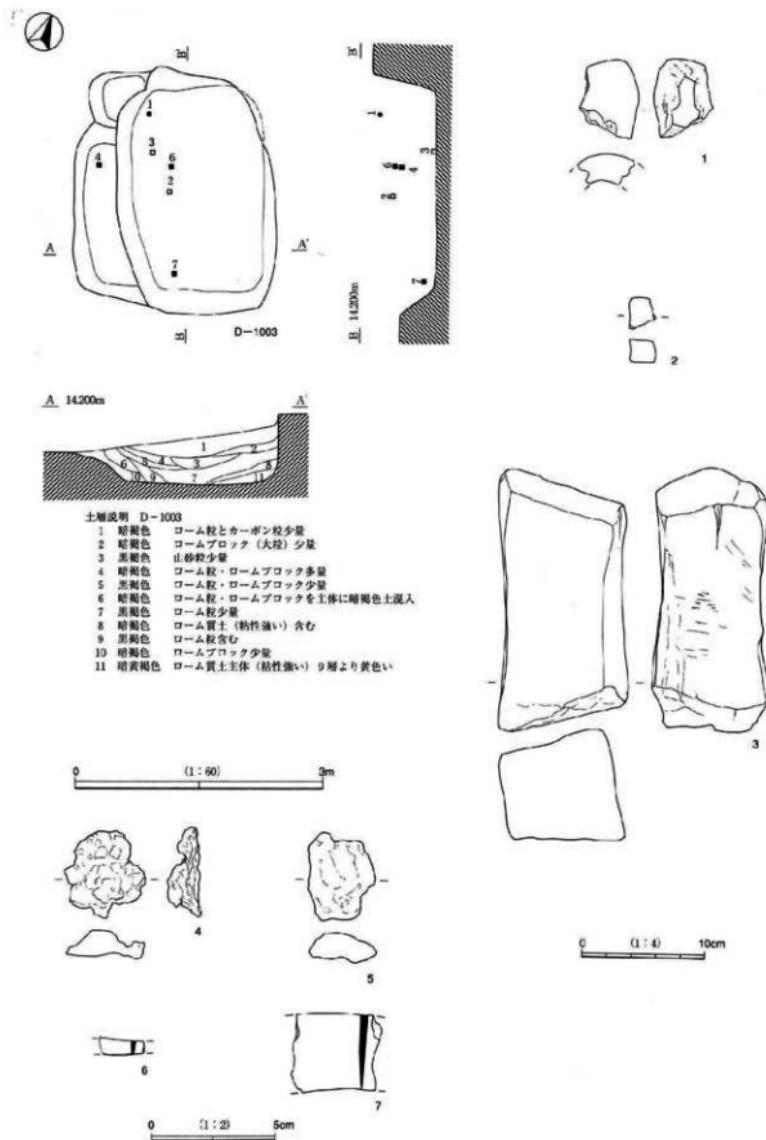


第178図 D-211出土遺物 (2)



第179図 D-228~230・1001・1014・1023実測図・出土遺物

第4節 土 坑



第180図 D-1003実測図・出土遺物

## 第5節 土坑墓および粘土貼り土坑墓

### D-055 (第181図)

調査区南西部に位置する。D-057を切る。平面形は隅丸長方形を呈する。規模は長径2.80m×短径1.40m×深さ0.35mを測る。壁は逆ハの字に立ち上がり、底面は平坦でよく踏み固められており、周溝が巡らされている。掘り込みが浅く、南西から南東にかけて上場が傾斜しているのは、後世の台地整形によるものと考えられる。

本遺構から出土した遺物のうち陶磁器片1点を図示した。

1は瀬戸・美濃の灰釉平楕片である。外面回転ヘラケズリを施してある。外面1/2と内面には軸がかかっている。

### D-055 (第181図)

調査区南西部に位置する。D-057・058を切る。平面形は隅丸長方形を呈する。規模は長径2.25m×短径1.60m×深さ0.37mを測る。壁はU字型に立ち上がり、底面は平坦でよく踏み固められている。

本遺構から出土した遺物のうち石製品1点を図示した。

1は砥石である。長さ12.8cm、幅2.2cm、重量68.3gを測る。

### D-057 (第181図)

調査区南西部に位置する。D-055に切られる。平面形は南側が消失しているが隅丸方形を呈していると思われる。規模は長径3.85m×短径3.23(現存)m×深さ0.19mを測る。壁はU字型に立ち上がり、掘り込みが浅く、南西から南東にかけて上場が傾斜しているのは、後世の台地整形によるものと考えられる。

### D-058 (第181図)

調査区南西部に位置する。D-056に切られる。平面形は南側が他の遺構に切られているが、隅丸長方形を呈すると考えられる。規模は長径3.25m×短径2.15(現存)m×深さ0.20mを測る。壁は逆ハの字に立ち上がり、底面は平坦でよく踏み固められており、周溝が巡らされている。掘り込みが浅く、南西から南東にかけて上場が傾斜しているのは、後世の台地整形によるものと考えられる。

### D-105 (第182図)

調査区南西部に位置する。D-107を切る。平面形は長方形の一部が残存する。規模は長径2.80m×短径1.14(現存)m×深さ0.96mを測る。壁はU字型に立ち上がり、底面は平坦でよく踏み固められている。

### D-106 (第182図)

調査区南西部に位置する。平面形は隅丸長方形を呈する。規模は長径2.72m×短径1.71m×深さ0.52mを測る。壁は逆ハの字型に立ち上がり、底面は平坦でよく踏み固められている。

### D-107 (第182図)

調査区南西部に位置する。D-105に切られる。平面形は梢円形を呈する。規模は長径3.30m×短径2.00(現存)m×深さ0.46mを測る。壁はU字型に立ち上がり、底面はやや平坦である。

## 第5節 土坑墓および粘土貼り土坑墓

### D-110 (第181図)

調査区南西部に位置する。平面形は梢円形を呈する。規模は長径0.60m×短径0.50m×深さ0.21mを測る。壁は逆ハの字に立ち上がり、掘り込みは浅い。

### D-111 (第181図)

調査区南西部に位置する。D-057を切る。平面形は隅丸長方形を呈する。規模は長径1.70m×短径0.7m×深さ0.21mを測る。壁は逆ハの字に立ち上がり、底面は平坦でよく踏み固められており、周溝が巡らされている。掘り込みが浅く、南西から南東にかけて上場が傾斜しているのは、後世の台地整形によるものと考えられる。

### D-114 (第181図)

調査区南西部に位置する。平面形は隅丸方形を呈する。規模は長径1.10m×短径0.90m×深さ0.35mを測る。検出面からの掘り込みは比較的浅い。肏と骨粉が検出した。

本造構から出土した遺物のうち、古銭4点を図示した。

### D-115 (第182図)

調査区南西部に位置する。平面形は長梢円形を呈する。規模は長径2.56m×短径1.62m×深さ0.46mを測る。壁は逆ハの字に立ち上がり、底面は平坦でよく踏み固められている。掘り込みは浅い。

### D-116 (第182図)

調査区南西部に位置する。平面形は隅丸長方形を呈する。規模は長径2.28m×短径1.70m×深さ0.52mを測る。壁はやや垂直に立ち上がり、底面は木根による擾乱で破壊されているが、平坦でよく踏み固められている。

### D-117 (第182図)

調査区南西部に位置する。平面形は隅丸長方形を呈する。規模は長径2.84m×短径1.57m×深さ0.89mを測る。底面は平坦でよく踏み固められ、段がある。墓が2基重複している可能性もある。

### D-118 (第183図)

調査区南西部に位置する。平面形は梢円形を呈する。規模は長径1.60m×短径1.32m×深さ0.21mを測る。造構の東部分は消失している。西壁は垂直に立ち上がり、底面は平坦でよく踏み固められている。

### D-141 (第183図)

調査区南西部に位置する。平面形は隅丸長方形を呈する。規模は長径3.22m×短径1.47m×深さ0.58mを測る。壁は逆ハの字に立ち上がり、底面は平坦でよく踏み固められていた。上場から底面まで焼土が検出された。石臼は下臼を逆さにした状態で焼土とともに出土した。

本造構から出土した遺物のうち、石製品1点を図示した。

1は石臼の下臼である。直径44.0cm、高さ13.8cm、重量23.0gを測る。

## D-144 (第183図)

調査区南西部に位置する。平面形は楕円形を呈する。規模は長径1.33m×短径1.20m×深さ0.70mを測る。壁は逆ハの字に立ち上がり、底面は平坦でよく踏み固められている。

## D-149 (第183図)

調査区南西部に位置する。平面形は長椭円形を呈する。規模は長径1.52m×短径1.04m×深さ0.15mを測る。壁は逆ハの字に立ち上がり、底面は平坦でよく踏み固められている。

## D-150 (第183図)

調査区南西部に位置する。平面形は長椭円形を呈する。規模は長径1.60m×短径1.00m×深さ0.40mを測る。壁は逆ハの字に立ち上がり、底面は平坦でよく踏み固められている。

## D-152 (第183図)

調査区南西部に位置する。平面形は長椭円形を呈する。規模は長径1.22m×短径0.53m×深さ0.60mを測る。壁は逆ハの字に立ち上がり、底面は柱穴らしきピットがみられる。D-141に伴う遺構の可能性がある。

## D-163 (第184図)

調査区南西部に位置する。平面形は楕円形を呈する。規模は長径1.08m×短径0.75m×深さ0.52mを測る。壁は逆ハの字に立ち上がる。墓域の中心部にあるので土坑墓の可能性がある。

## D-164 (第185図)

調査区南西部に位置する。D-178に切られる。平面形は楕円形を呈する。規模は長径1.31m×短径1.03m×深さ0.57mを測る。壁は逆ハの字に立ち上がる。墓域の中心部にあるので土坑墓の可能性がある。

## D-168 (第184図)

調査区南西部に位置する。平面形は長椭円形を呈する。規模は長径2.90m×短径1.60m×深さ0.27mを測る。壁は逆ハの字に立ち上がる。ピットを伴う。墓域の中心部にあるので土坑墓の可能性がある。

## D-172 (第184図)

調査区南西部に位置する。平面形は楕円形を呈する。規模は長径0.82m×短径0.57m×深さ0.42mを測る。墓域に存在するため、土坑墓に関連する遺構の可能性がある。

## D-173 (第184図)

調査区南西部に位置する。平面形は楕円形を呈する。規模は長径1.05m×短径0.71m×深さ0.52mを測る。墓域に存在するため、土坑墓に関連する遺構の可能性がある。

## D-175 (第184図)

調査区南西部に位置する。平面形は楕円形を呈する。規模は長径2.02m×短径1.48m×深さ0.34mを測る。壁は逆ハの字に立ち上がり、底面はよく踏み固められており、ピットを伴う。極めて微量な骨粉が検出

## 第5節 土坑墓および粘土貼り土坑墓

された。

### D-176 (第184図)

調査区南西部に位置する。平面形は隅丸長方形を呈する。規模は長径1.93m×短径1.30m×深さ0.44mを測る。壁は逆ハの字に立ち上がり、底面は平坦でよく踏み固められている。

### D-177 (第185図)

調査区南西部に位置する。D-178・179を切る。平面形は梢円形を呈する。規模は長径1.17m×短径0.85m×深さ0.50mを測る。墓域に存在するため、土坑墓の可能性がある。

### D-178 (第185図)

調査区南西部に位置する。D-177に切られる。平面形は梢円形を呈する。規模は長径0.95m×短径0.80m×深さ0.33mを測る。墓域に存在するため、土坑墓の可能性がある。

### D-180 (第185図)

調査区南西部に位置する。平面形は不整隅丸長方形を呈する。規模は長径2.42m×短径1.40m×深さ0.51mを測る。壁は逆ハの字に立ち上がり、底面は平坦でよく踏み固められており、ピットを伴う。

### D-181 (第185図)

調査区南西部に位置する。平面形は梢円形を呈する。規模は長径1.02m×短径0.75m×深さ0.22mを測る。墓域に存在するため、土坑墓の可能性がある。

### D-183 (第185図)

調査区南西部に位置する。平面形は梢円形を呈する。規模は長径1.09m×短径1.03m×深さ0.41mを測る。墓域に存在するため、土坑墓の可能性がある。

### D-218 (第185図)

調査区南西部に位置する。平面形は梢円形を呈する。規模は長径1.28m×短径1.04m×深さ1.45mを測る。墓域に存在するため、土坑墓の可能性がある。

### D-220 (第185図)

調査区南西部に位置する。平面形は隅丸長方形を呈する。規模は長径1.45m×短径0.93m×深さ0.50mを測る。壁は逆ハの字に立ち上がり、底面は平坦でよく踏み固められている。

### D-1000 (第186図)

調査区西部に位置する。平面形は隅丸長方形を呈する。規模は長径2.28m×短径1.53m×深さ0.52mを測る。壁はほぼ垂直に立ち上がり、底面は平坦でよく踏み固められている。木棺直葬墓であり、木棺の腐食部分が、セクションよりうかがえる。

本遺構から出土した遺物のうち鉄製品4点と銅製品1点と古銭4点、計9点を図示した。

1は釘である。現存長2.4cm、幅0.3cm、厚さ0.3cm、重量1.27gである。

2から4は用途不明鉄製品である。2は現存長2.3cm、幅1.2cm、厚さ0.2cm、重量2.96gである。3は現存長4.0cm、幅0.9cm、厚さ0.7cm、重量5.15gである。4は現存長3.0cm、幅2.7cm、厚さ0.2cm、重量3.45gである。

5は青銅製品である。現存長4.2cm、幅1.6cm、厚さ0.2cm、重量5.85gである。

6～9は古銭である。

#### D-1004（第186図）

調査区微高地上部分の西に位置する。平面形は長楕円形を呈する。規模は長径1.96m×短径1.51m×深さ0.30mを測る。壁はほぼ垂直に立ち上がり、底面は平坦でよく踏み固められている。

本遺構から出土した遺物のうち土製品1点を図示した。

1は羽口片である。現存長7.6cm、重さ61.4gである。

#### D-1006（第187図）

調査区微高地上部分の西に位置する。N-003に切られる。平面形は隅丸長方形を呈する。規模は長径2.45m×短径1.88m×深さ0.63mを測る。土坑の中にさらに土坑があるが、これは木棺墓を直葬した部分である。壁はどちらも逆ハの字に立ち上がり、底面はどちらも平坦である。外側の土坑には薄い周溝が一部巡らされている。土層2・3・4・5は木棺を裏込めした土である。

本遺構から出土した遺物のうち鉄製品1点を図示した。

1は鉄鎌の茎部である。現存長2.5cm、幅0.35cm、厚さ0.3cm、重さ0.9gである。

#### D-1012（第186図）

調査区微高地上部分の西に位置する。平面形は隅丸長方形を呈する。規模は長径1.20m×短径0.90m×深さ0.13mを測る。壁は逆ハの字に立ち上がり、底面は平坦でよく踏み固められている。

#### D-1013（第187図）

調査区微高地上部分の西に位置する。D-014とN-013に切られる。平面形は隅丸長方形を呈する。規模は長径2.12m×短径1.40m×深さ0.32mを測る。土坑の中にさらに土坑があるが、これは木棺墓を直葬した部分である。壁はどちらも逆ハの字に立ち上がり、底面はどちらも平坦である。土層2・3・4・5は木棺を裏込めした土層である。

本遺構から出土した遺物のうち鉄製品1点を図示した。

#### D-1015（第187・188図）

調査区微高地上部分の西に位置する。平面形は隅丸長方形を呈する。規模は長径2.80m×短径1.94m×深さ0.79mを測る。底面は平坦である。土坑の中にさらに土坑があるが、これは木棺墓を直葬した部分である。壁はどちらもほぼ垂直に立ち上がる。土層の7・8・9・10・11は木棺堆積土で、2・3・4・5・6は木棺を裏込めした土である。掘りからはピットが検出された。

本遺構から出土した遺物のうち鉄製品4点、石製品1点、計5点を図示した。

1は砥石で、現存長7.3cm、幅3.2cm、重さ67.3gである。

## 第5節 土坑墓および粘土貼り土坑墓

2から4は刀子である。2は現存長3.0cm、幅0.7cm、厚さ0.2cm、重さ1.7gである。3は現存長4.6cm、幅1.1cm、厚さ0.1～0.2cm、重さ3.5cmである。4は現存長5.6cm、幅0.7～0.9cm、厚さ0.2cm、重さ4.0gである。

5は鍵である。現存長7.2cm、幅0.5cm、厚さ0.3cm、重さ7.0gである。

### D-1016（第188図）

調査区微高地上部分の西に位置する。平面形は隅丸長方形を呈する。規模は長径2.10m×短径1.70m×深さ0.69mを測る。底面は平坦である。土坑の中にさらに土坑があるが、これは木棺墓を直葬した部分である。壁はどちらもほぼ垂直に立ち上がる。土層の1・2・3・4は木棺堆積土、7・8・9・10は木棺を裏込めした土である。掘りからはピットが検出された。

### D-1022（第189図）

調査区微高地上部分の西に位置する。D-1026に切られる。平面形は隅丸長方形と思われる。規模は長径1.60（現存）m×短径1.12m×深さ0.65mを測る。壁は逆ハの字に立ち上がり、底面は平坦でよく踏み固められている。

### D-1024（第189図）

調査区微高地上部分の西に位置する。平面形は隅丸長方形を呈する。規模は長径2.44m×短径1.56m×深さ0.29mを測る。底面は平坦である。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面から粘土が検出された。

本遺構から出土した遺物のうち鉄製品2点、古銭1点、計3点を図示した。

1と2は釘か。1は現存長8.3cm、幅0.7cm、厚さ0.7cm、重さ0.9gである。2は現存長4.4cm、幅0.4cm、厚さ0.4cm、重さ5.5gである。

3は古銭である。

### D-1026（第189図）

調査区微高地上部分の西に位置する。D-1022とD-1027に切られる。平面形は隅丸長方形と思われる。規模は長径1.10m×短径0.76m×深さ0.54mを測る。壁は逆ハの字に立ち上がり、底面は平坦でよく踏み固められている。

本遺構から出土した遺物のうち鉄製品1点を図示した。

1は現存長5.1cm、幅0.4cm、厚さ0.4cm、重さ2.18gである。

### D-1027（第189図）

調査区微高地上部分の西に位置する。D-1026に切られる。平面形は隅丸長方形と思われる。規模は長径1.00（現存）m×短径0.44（現存）m×深さ0.27mを測る。壁は逆ハの字に立ち上がり、底面はよく踏み固められている。

### D-1028（第188図）

調査区微高地上部分の西に位置する。平面形は隅丸長方形を呈する。規模は長径2.16m×短径1.90m×深さ0.69mを測る。底面は平坦である。壁はほぼ垂直に立ち上がる。木棺墓直葬で、土層に木棺跡が顕著に

認められる。土層には土層の5・6・7は木棺を埋め込んだ土層である。

本遺構から出土した遺物のうち鉄製品2点を図示した。

1と2は釘である。1は現存長2.8cm、幅0.5cm、重量1.95gを測る。2は現存長2.5cm、幅0.9cm、重量1.57gを測る。

## 第5節 土坑墓および粘土貼り土坑墓

### 粘土貼り土坑墓

N-001 (第189図)

調査区微高地上部分の南西に位置する。平面形は隅丸長方形を呈する。規模は長径2.39m×短径1.93m×深さ0.5mを測る。厚さ約20cmの粘土が蓋状に貼られている。壁は逆台形に立ち上がり、底面は平坦である。

N-002 (第190図)

調査区微高地上部分の中央に位置する。平面形はほぼ円形を呈する。規模は長径1.55m×短径約1.20m×深さ0.25mを測る。山砂除去後の規模は1.69m×短径約1.40m×深さ0.37m。長径0.7mを測る。厚さ約10cmの粘土が蓋状に覆われていた。壁は逆台形に立ち上がる。壁面および底面に、厚さ約10cmの粘土が貼られている。

N-003 (第190図)

調査区微高地上部分の東南に位置する。D-1006を切る。平面形は隅丸長方形を呈する。規模は長径1.68m×短径1.55m×深さ0.41mを測る。粘土除去後の規模は、長径2.18m×短径2.09m×深さ0.46mを測る。厚さ約20cmの山砂が蓋状に覆われていた。壁は逆ハの字に立ち上がる。壁面および底面は厚さ約10cmの粘土が貼られている。本遺構から出土した遺物のうち1点を図示した。

1はスラグである。現存長7.2cm、幅5.8cm、厚さ2.0cm、重さ112.3gである。

N-004 (第190図)

調査区微高地上部分の東に位置する。平面形は隅丸長方形を呈する。規模は長径2.30m×短径1.59m×深さ0.43mを測る。粘土除去後の規模は、長径2.35m×短径1.63m×深さ0.44mを測る。壁は逆ハの字に立ち上がる。壁面および底面は厚さ約10cmの粘土が貼られている。

N-005 (第191図)

調査区微高地上部分の北東に位置する。サブトレに切られる。平面形は梢円形を呈する。規模は長径1.68m×短径1.55m×深さ0.41mを測る。粘土除去後の規模は、長径2.18m×短径2.09m×深さ0.46mを測る。厚さ約20cmの山砂が蓋状に覆われていた。壁は逆ハの字に立ち上がる。壁面および底面は厚さ約10cmの粘土が貼られている。

本遺構から出土した遺物のうち2点を図示した。

1と2は羽口である。1は現存長4.9cm、重さ33.9gである。2は現存長4.2cm、重さ26.0gである。

N-006 (第191図)

調査区微高地上部分の北東に位置する。平面形は円形を呈する。規模は長径1.10m×短径0.89m×深さ0.05mを測る。粘土除去後の規模は、長径1.20m×短径0.92m×深さ0.10mを測る。壁はゆるやかに立ち上がる。壁面および底面は厚さ約50cm～80cmの粘土が貼られている。

N-007 (第191図)

調査区微高地上部分の西南に位置する。平面形は隅丸長方形を呈する。規模は長径1.65m×短径1.28m×深さ0.27mを測る。粘土除去後の規模は、長径1.56m×短径1.14m×深さ0.42mを測る。厚さ約10cm～22cm

の粘土が蓋状に覆われていた。壁はU字型に立ち上がる。

#### N-008 (第192図)

調査区微高地上部分の西南に位置する。平面形は隅丸長方形を呈する。規模は長径1.29m×推定短径1.15m×深さ0.13mを測る。粘土除去後の規模は、長径1.45m×推定短径1.25m×深さ0.18mを測る。壁はU字型に立ち上がる。壁面および底面は厚さ約5cm~10cmの粘土が貼られている。

#### N-009 (第192図)

調査区微高地上部分の東南に位置する。平面形はだるま型を呈する。規模は長径1.37m×短径1.27m×深さ0.30mを測る。厚さ約5cmの粘土と山砂が蓋状に覆われていた。壁はU字型に立ち上がる。

#### N-011 (第192図)

調査区微高地上部分の東南に位置する。平面形は梢円形を呈する。規模は長径1.30m×短径1.25m×深さ0.15mを測る。厚さ約20cmの山砂が蓋状に覆われていた。壁は緩やかに立ち上がる。壁面および底面は厚さ約10cmの粘土が貼られている。

#### N-012 (第192図)

調査区微高地上部分の西南に位置する。N-013を切る。平面形は隅丸円形を呈する。規模は長径0.91m×短径0.87m×深さ0.19mを測る。粘土除去後の規模は、長径0.93m×短径0.89m×深さ0.28mを測る。壁はU字型に立ち上がる。壁面および底面は厚さ約10cmの粘土が貼られている。

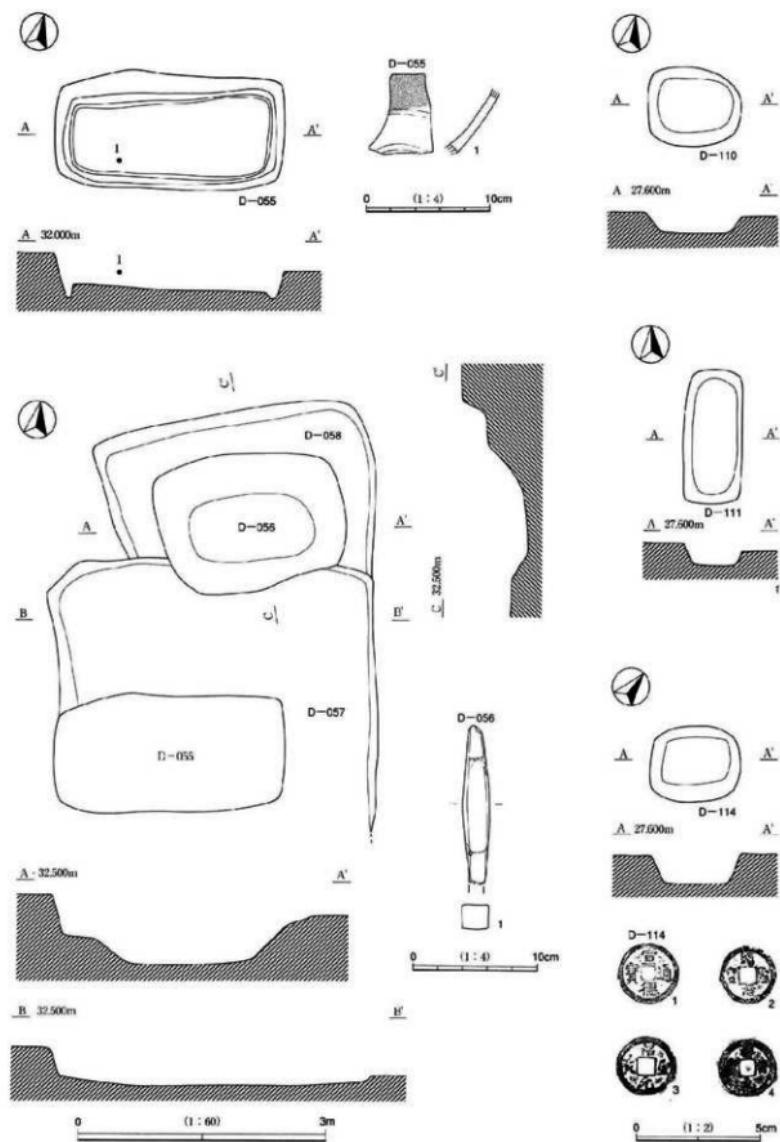
#### N-013 (第192図)

調査区微高地上部分の西南に位置する。N-012, D-1014に切られる。平面形は隅丸円形を呈する。規模は長径1.15m×短径1.00m×深さ0.14mを測る。粘土除去後の規模は、長径2.18m×短径2.09m×深さ0.46mを測る。厚さ約20cmの山砂が蓋状に覆われていた。壁は逆ハの字に立ち上がる。壁面および底面は厚さ約10cmの粘土が貼られている。

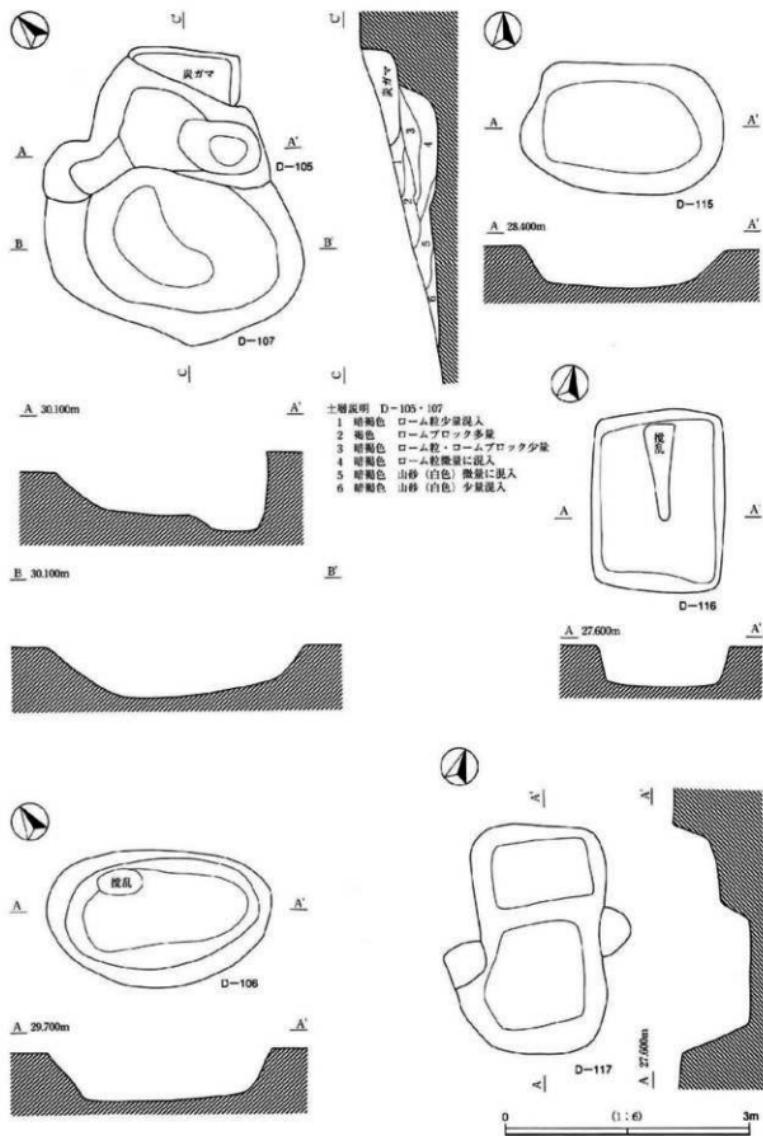
#### N-014 (第192図)

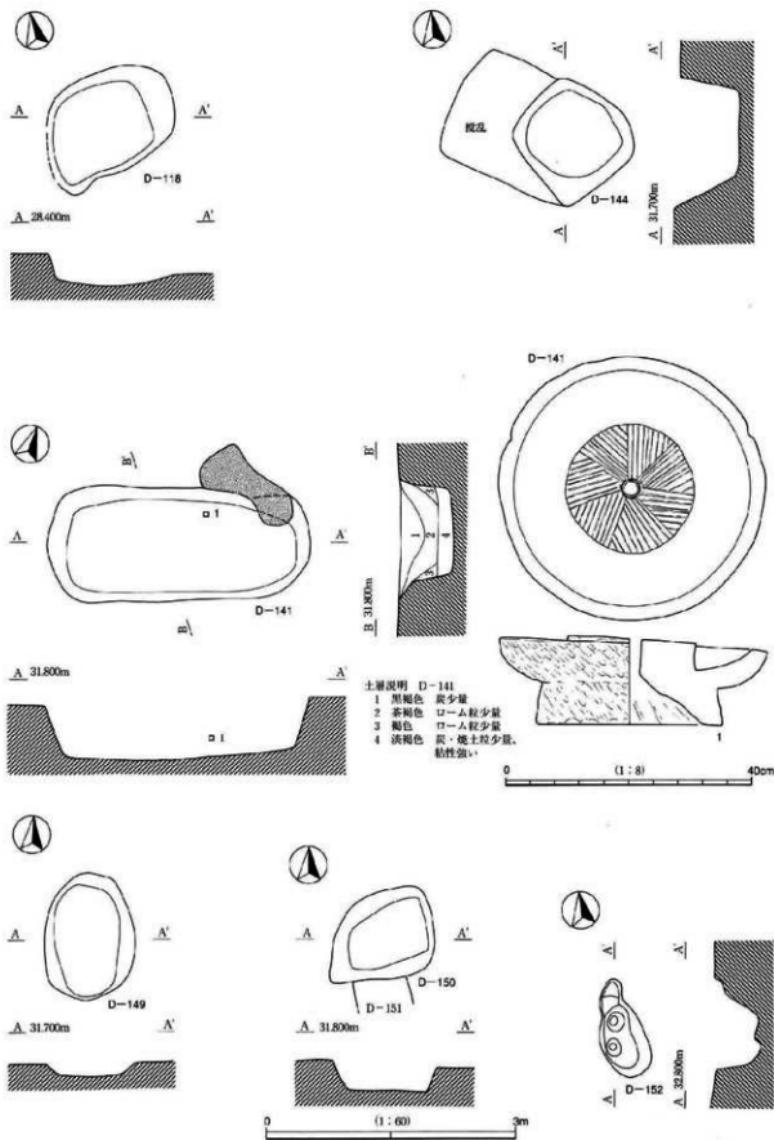
調査区南部に位置する。平面形は隅丸長方形を呈する。カクランに切られる。規模は長径2.18m×短径1.57m×深さ0.35mを測る。床面から壁まで全体に粘土貼りである。

第5節 土坑墓および粘土貼り土坑墓

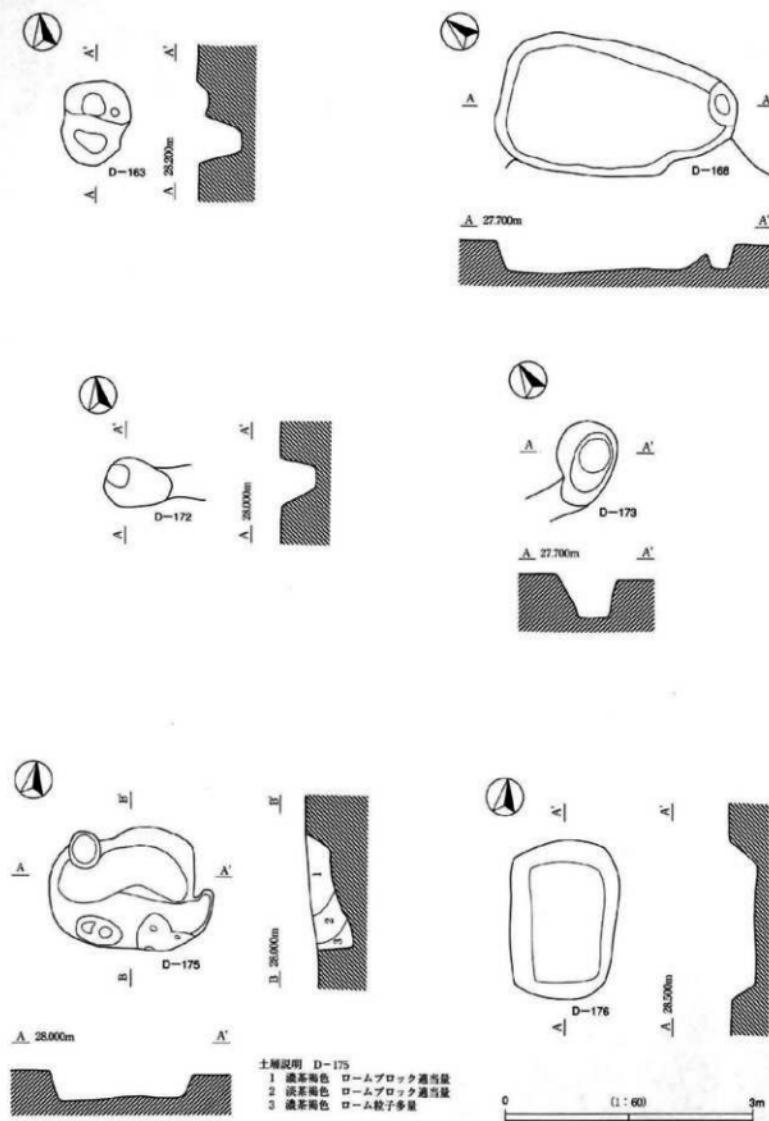


第181図 D-055~058・110・111・114実測図、出土遺物

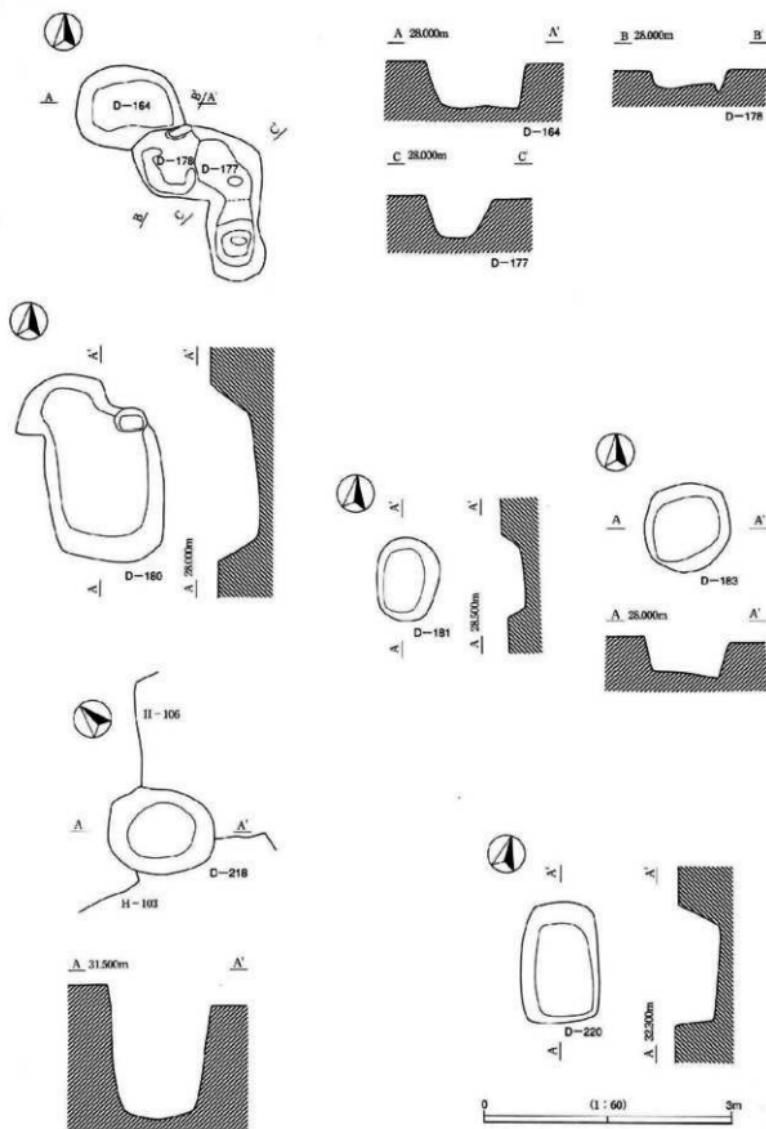




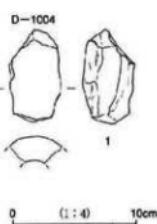
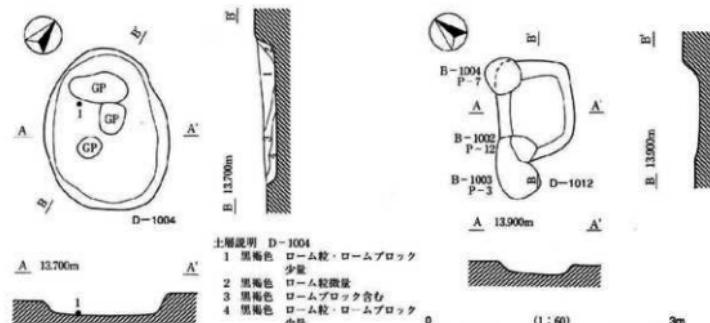
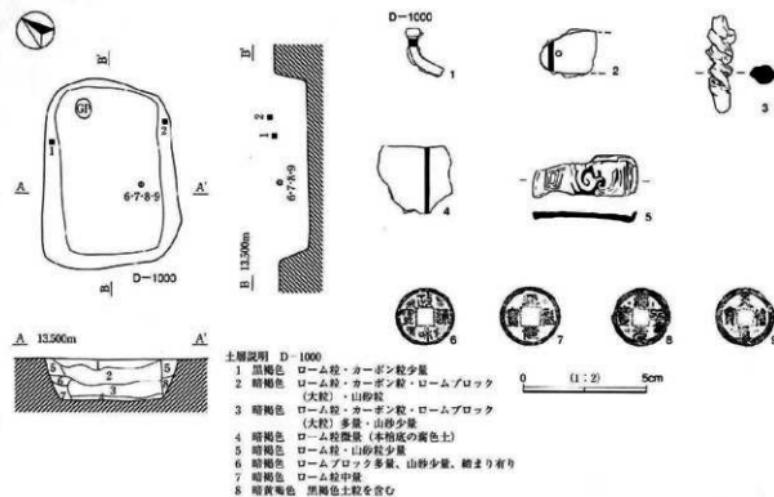
第183図 D-118・141・144・149・152実測図・出土遺物



第184図 D-163・168・172・173・175・176実測図

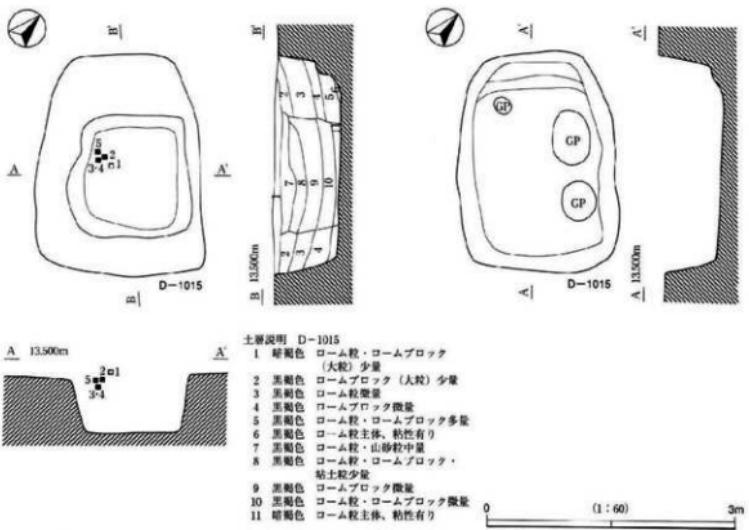
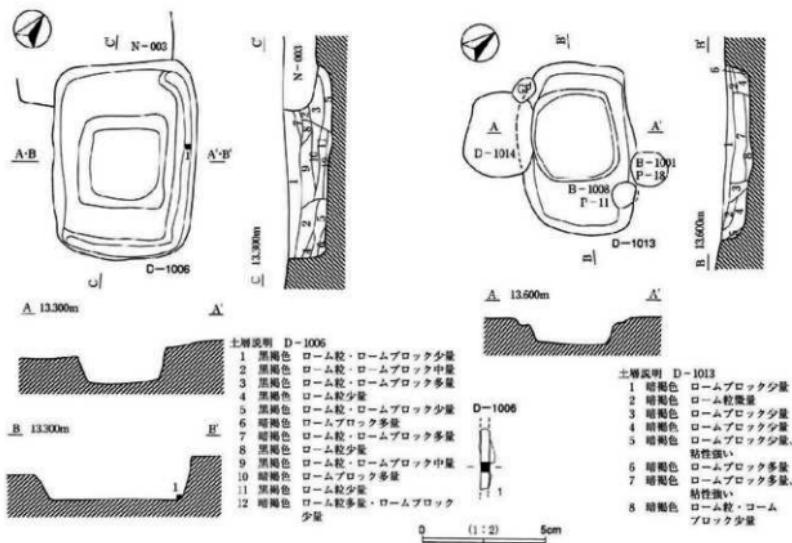


第185図 D-164・177・178・180・181・183・218・220実測図

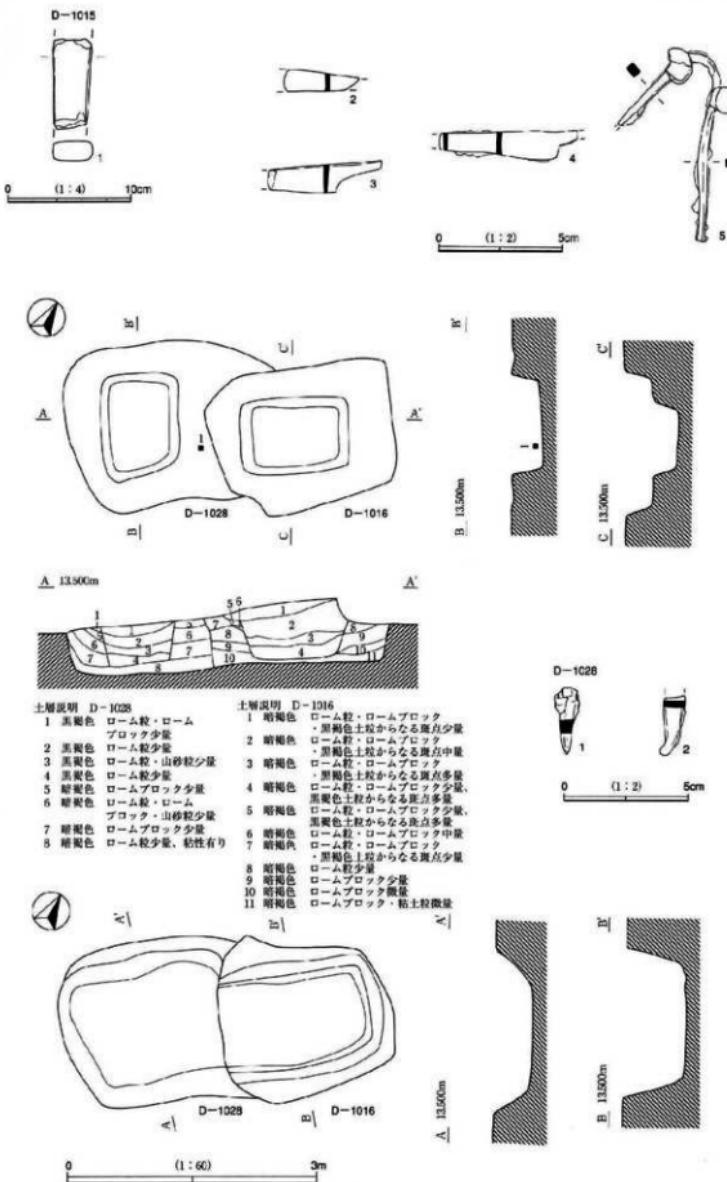


第186図 D-1000・1004・1012実測図・出土遺物

第5節 土坑墓および粘土貼り土坑墓

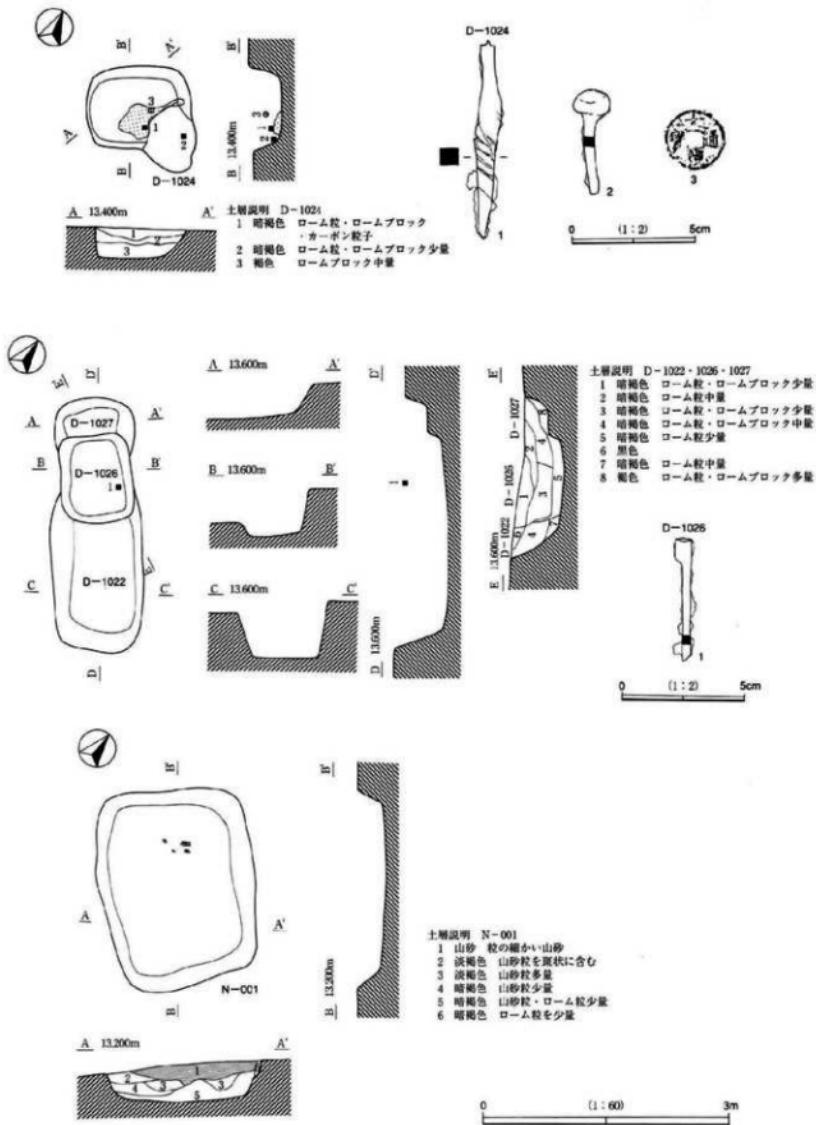


第187図 D-1006実測図・出土遺物・1013・1015実測図

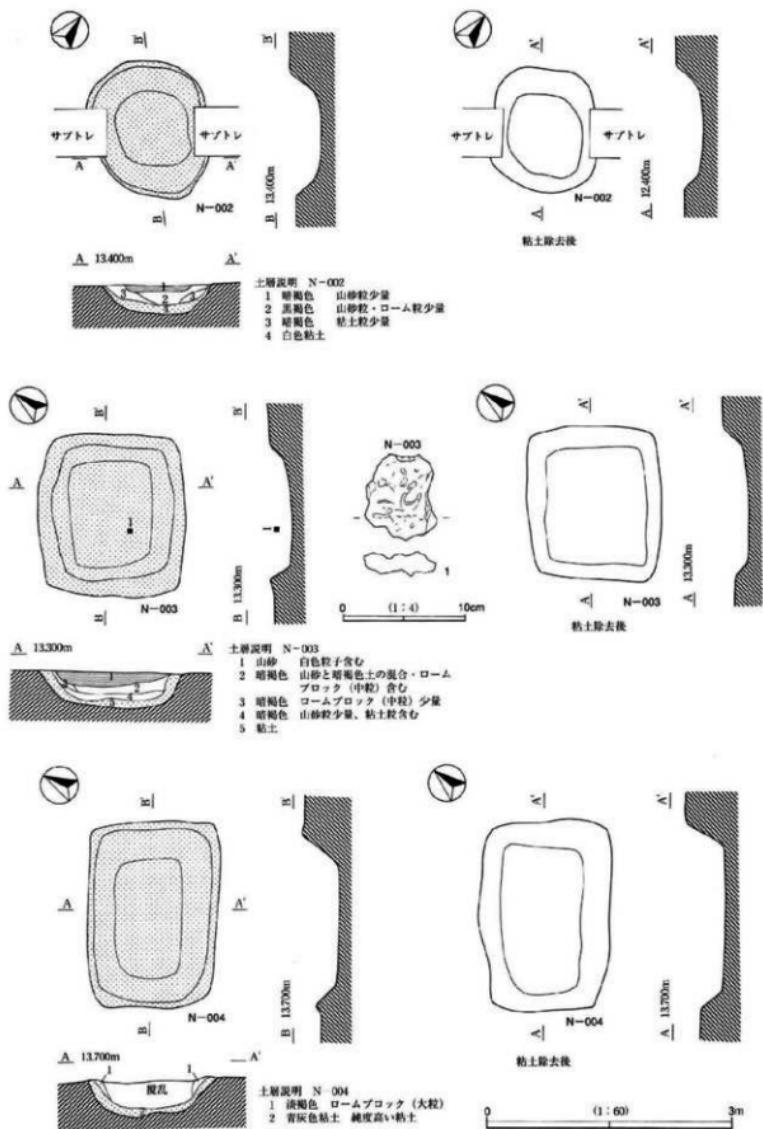


第188図 D-1015出土遺物・D-1016・1028実測図・出土遺物

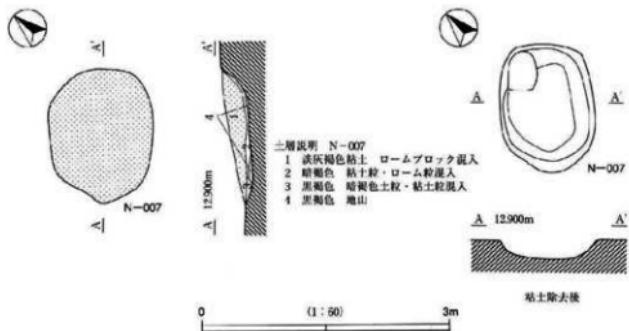
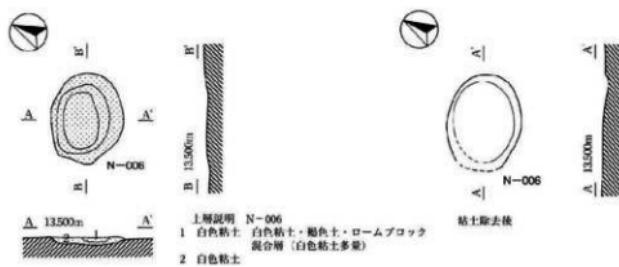
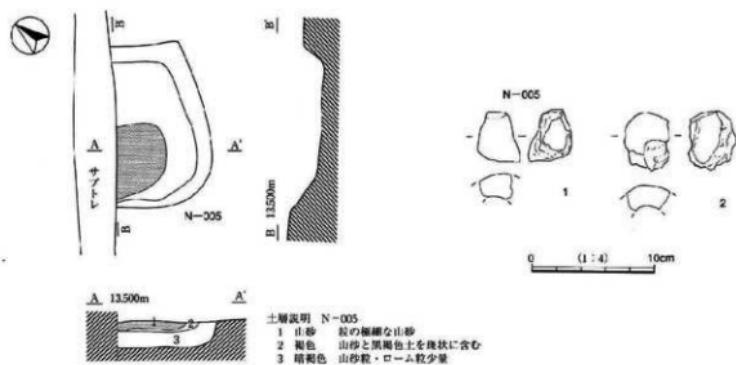
第5節 土坑墓および粘土貼り土坑墓



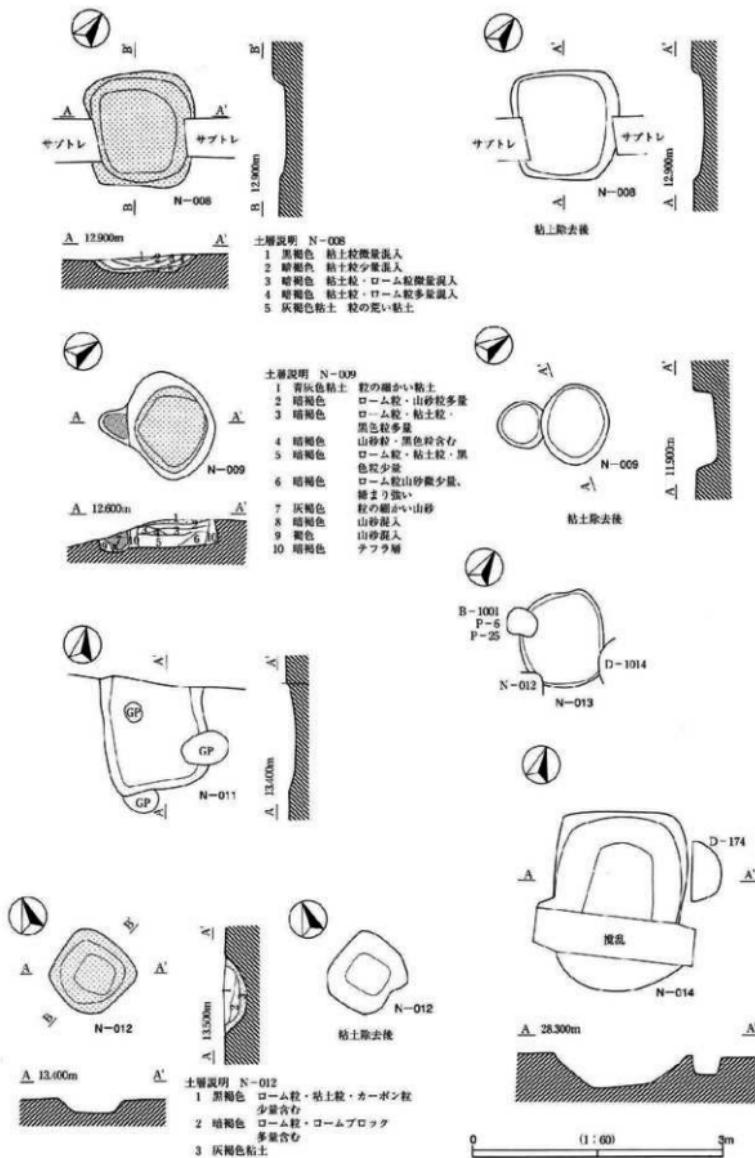
第189図 D-1024・1022・1026・1027実測図・出土遺物・N-001実測図



第190図 N-002・004実測図・N-003実測図・出土遺物



第191図 N-005実測図・出土遺物・N-006・007実測図



第192図 N-008・009・011～014実測図

## 第6節 溝（中世）

### M-002（第193図）

調査区南東に位置する。北から南に向かってやや直線に延びる。本遺構北端でM-003を切る。延長21m, 幅0.5~0.7m, 深さ0.4~0.5mを測る。

### M-003（第193図）

調査区南東に位置する。北東から東に向かって直線に延びる。本遺構東端でM-002に、北端でM-005に切られる。延長15m, 幅0.5~0.7m, 深さ0.4~0.5mを測る。

### M-004（第193図）

調査区南東に位置する。途中立ち消えるものの北東から南西へ延びる。本遺構北端でM-003と直行し切られる。北東部側の延長25m, 南西部側の延長2.0m, 幅1.2~1.5m, 深さ0.28~0.6mを測る。

### M-005（第193図）

調査区南東に位置する。北東から南西に向かって直線に延び、立ち消える。本遺構南端でM-003と直行し切る。延長12m, 幅0.4~0.45m, 深さ0.3~0.35mを測る。

### M-006（第193図）

調査区北に位置する。北西から南東に向かってくの字に延びる。本遺構北西端ではM-045に、南東端ではH-005に切られる。延長33m, 幅1.1~1.2m, 深さ0.3~0.6mを測る。

### M-014（第193図）

調査区中央に位置する。北から南に向かって直線に延びる。本遺構中央ではH-048, 049に占地する。延長34m, 幅0.3~0.5m, 深さ0.15~0.25mを測る。

### M-015（第193図）

調査区中央北に位置する。西から東に向かって直線に延びる。M-016とM-018とM-019とはほぼ平行している。本遺構東端でH-055と占地する。延長11m, 幅0.9~1.0m, 深さ0.22~0.28mを測る。

### M-016（第193図）

調査区中央北に位置する。東から西に向かって直線に延びる。M-015とM-018とM-019とはほぼ平行している。延長19m, 幅0.63m~0.70m, 深さ0.08m~0.12mを測る。

### M-017（第193図）

調査区中央北に位置する。北西から東にくの字に延びるが、中央が立ち消えている。本遺構北西端ではH-061と、北東端ではH-056と占地する。延長は本遺構北西端では2m、北東端では6m、幅は0.57~0.65m、深さ0.08~0.14mを測る。

## M-018 (第193図)

調査区中央北に位置する。東から西に直線に延びる。本遺構中央ではM-001と占地する。延長10m、幅0.9m~1.0m、深さ0.12m~0.18mを測る。

## M-019 (第193図)

調査区中央北に位置する。東から西に直線に延びる。本遺構東端ではM-001と占地する。延長5m、幅0.5m~0.6m、深さ0.10m~0.15mを測る。

## M-023 (第193図)

調査区北西に位置する。北から南にはば直線に延びる。D-043に切られる。延長13m、幅2.5m~4.5m、深さ1.0m~1.3mを測る。

## M-024 (第193図)

調査区北西に位置する。東から北西に直線に延びる。本遺構北西端から南にかけては中世台地整形により掘削されていた。延長6m、幅1.2m~1.6mを測る。

## M-026 (第193図)

調査区中央南西に位置する。北から南に延びる。本遺構北端ではM-037に占地する。延長12m、幅0.5m~0.7m、深さ0.15m~0.20mを測る。

## M-027 (第194図)

調査区南西に位置する。南から北に緩やかに屈曲している。本遺構北端は中世台地整形に切られている。延長6m、幅2.0m~2.5m、深さ0.58m~0.6mを測る。

## M-030 (第194図)

調査区南東に位置する。南から延び、北西と北東に分岐する。北東へ延びる溝はH-095に占地し、北西へ延びる溝はさらに分岐の様相をみせるが、緩やかに立ち消える。本遺構中央部では中心を畝状で仕切られている。また底は踏み固められた跡がみとめられることから、路跡の可能性がある。延長15m、幅1.5m~4.0m、深さ0.05m~0.3mを測る。

## M-031 (第193図)

調査区南西に位置する。北から南に延びる。本遺構南端でH-096に占地する。延長7m、幅0.7m~1.5m、深さ0.25m~0.35mを測る。

## M-032 (第194図)

調査区南西に位置する。北東から南西に緩く曲解しながら延びる。本遺構北東端ではM-037に、南西端ではM-031に占地する。床に踏み固められた跡がみられることから、路跡であった可能性が高い。延長26m、幅1.2m~1.9m、深さ0.50m~0.60mを測る。

本遺構から出土した遺物のうち1点を図示した。

## 第6節 溝

1は瀬戸・美濃の四（三）耳壺の瓶子（古瀬戸後期様式Ⅲ期）の口縁部である。口径5.0cm、残存器高3.0cmを測る。

### M-033（第193図）

調査区南西に位置する。北から南に延びる。本遺構南端でH-096に占地する。延長3m、幅0.6m～0.7m、深さ0.08m～0.13mを測る。

### M-035（第194図）

調査区中央南に位置する。北から南に延びる。本遺構北端でM-037に占地する。延長7m、幅0.25m～0.3m、深さ0.08m～0.12mを測る。

### M-039（第194図）

調査区北東部に位置する。南から北に延びる。調査区域外により切られる。延長2.3m、幅0.63m～0.67m、深さ0.15mを測る。

### M-040（第194図）

調査区中央部に位置する。西から東に延びる。延長3.4m、幅0.3m～0.40m、深さ0.13m～0.15mを測る。

### M-1000（第193図）

調査区微高地部分の東に位置する。北東から西南に延びる。本遺構北東端でB-1002のピットに、西南端でM-1001に切られる。延長9.5m、幅0.30m～1.2m、深さ0.08m～0.60mを測る。

### M-1001（第193図）

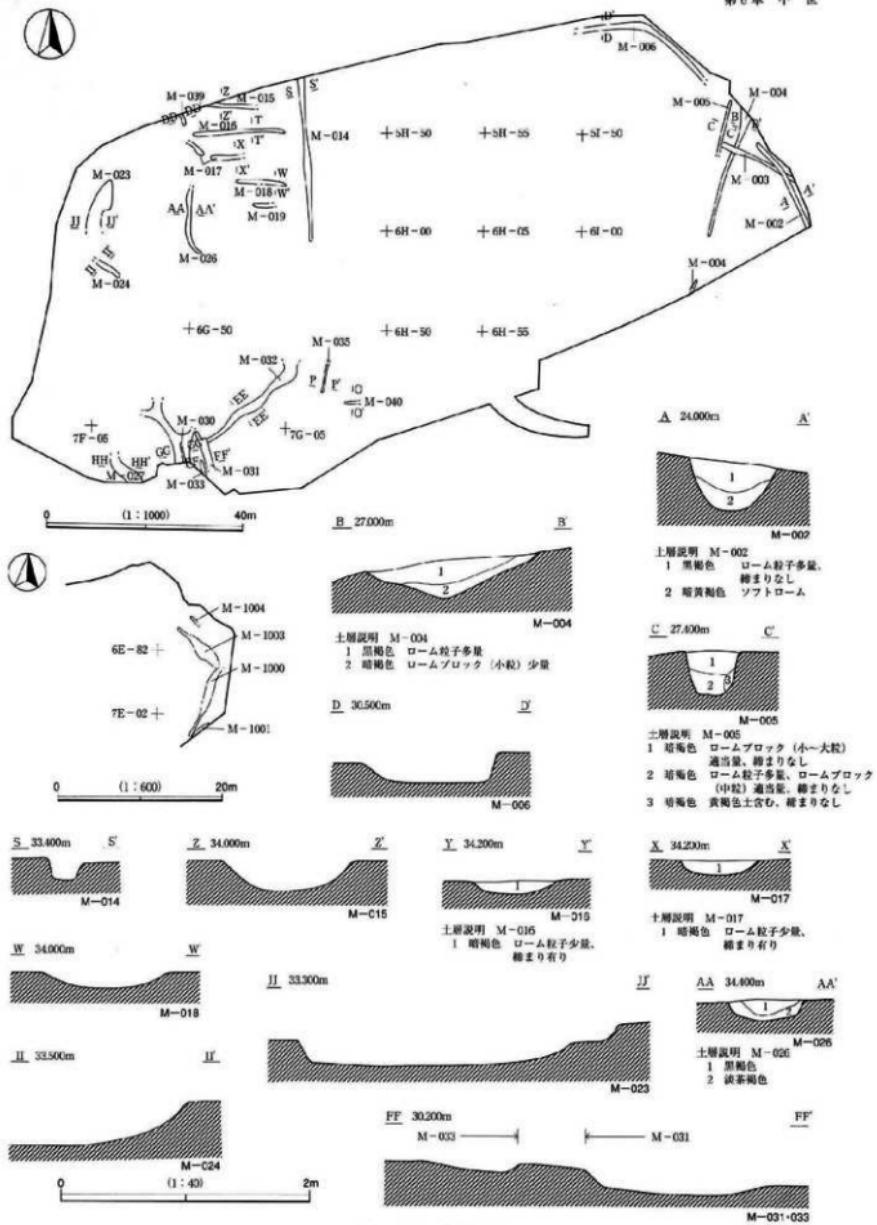
調査区微高地部分の西に位置する。北東から南西に延びる。本遺構南西端でM-1001を切る。延長2.5m、幅0.20m～0.40m、深さ0.19m～0.22mを測る。

### M-1002（第193図）

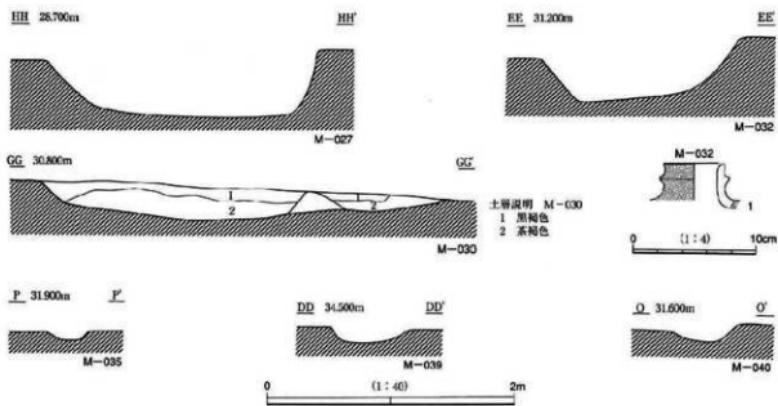
調査区微高地部分の西に位置する。北西から南東に延びる。延長7m、幅0.20m～1.50m、深さ0.08m～0.16mを測る。

### M-1003（第193図）

調査区微高地部分の西に位置する。北西から南東に延びる。本遺構南東端でB-1004のピットに切られる。延長1.8m、幅0.15m～0.25m、深さ0.06m～0.08mを測る。

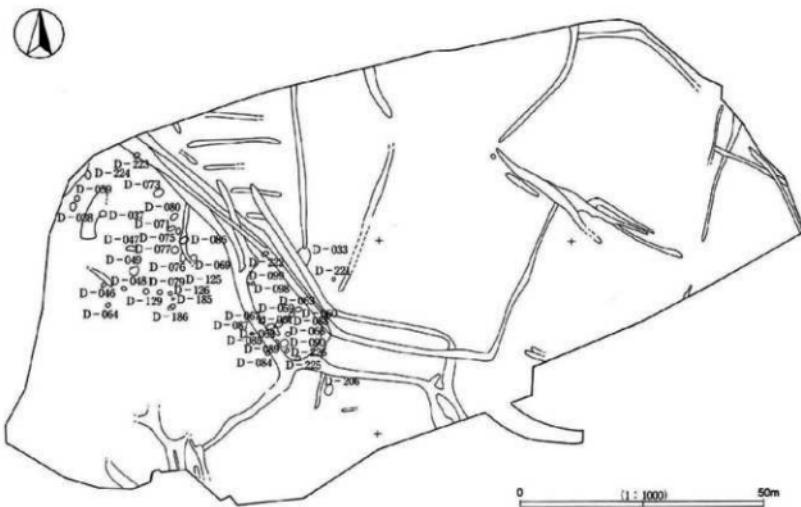


### 第193図 溝実測図



第194図 濟実測図・出土遺物

## 第7章 近世



第195図 近世遺構配置図

### 第1節 概要

土坑44基、地下式坑2基、溝8条を検出した。

### 第2節 土坑・地下式坑

#### D-026 (第196図)

調査区東部に位置する。M-007とH-015が重複する。平面形は、プラン・底部とも梢円形を呈する。長径0.9m×短径0.72m×深さ0.21mを測る。

本土坑の性格は不明である。

#### D-033 (第201図)

調査区中央部に位置する。平面形は、プラン・底部とも梢円形を呈する。長径3.12m×短径2.40m×深さ2.00mを測る。

本土坑は地下式坑である。

#### D-037 (第196図)

調査区西側に位置する。平面形は、プラン・底部とも梢円形を呈する。長径1.5m×短径1.3m×深さ1.29mを測る。

## 第2節 土坑・地下式坑

本土坑は陥穴の可能性がある。

本遺構から出土した遺物のうち砥石1点を図示した。長さ5.4cm、幅2.3cm、重量47.6gを測る。

### D-038（第196図）

調査区西側に位置する。平面形は、プラン・底部とも円形を呈する。長径1.36m×短径1.29m×深さ0.68mを測る。

本土坑の性格は不明である。

### D-039（第196図）

調査区西側に位置する。平面形は、プラン・底部とも円形を呈する。長径1.04m×短径0.99m×深さ0.58mを測る。

本土坑の性格は不明である。

### D-046（第196図）

調査区西側に位置する。H-024が重複する。平面形は、プラン・底部とも梢円形を呈する。長径0.91m×短径0.77m×深さ0.12mを測る。

本土坑の性格は不明である。

### D-047（第196図）

調査区西側に位置する。H-077とD-053が重複する。平面形は、プラン・底部とも梢円形を呈する。長径2.3m×短径1.11m×深さ1.19mを測る。

本土坑の性格は不明である。

### D-048（第196図）

調査区西側に位置する。H-076が重複する。平面形は、プラン・底部とも梢円形を呈する。長径1.2m×短径1.02m×深さ0.73mを測る。

本土坑の性格は不明である。

### D-049（第197図）

調査区西側に位置する。H-077とD-050が重複する。平面形は、プラン・底部とも梢円形を呈する。長径1.6m×短径1.32m×深さ1.12mを測る。

本土坑の性格は不明である。

### D-059（第197図）

調査区南西部に位置する。平面形は、プラン・底部とも梢円形を呈する。長径1.44m×短径1.09m×深さ0.21mを測る。

本土坑の性格は不明である。

## D-060 (第197図)

調査区南西部に位置する。平面形は、プラン・底部とも円形を呈する。長径1.15m×短径1.15m×深さ0.2mを測る。

本土坑の性格は不明である。

## D-061 (第197図)

調査区南西部に位置する。平面形は、プラン・底部とも梢円形を呈する。長径1.65m×短径1.5m×深さ0.28mを測る。

本土坑の性格は不明である。

## D-062 (第197図)

調査区南西部に位置する。H-090が重複する。平面形は、プラン・底部とも梢円形を呈する。長径2.0m×短径1.03m×深さ0.24mを測る。

本土坑の性格は不明である。

## D-063 (第197図)

調査区南西部に位置する。平面形は、プラン・底部とも梢円形を呈する。長径1.47m×短径0.5m×深さ0.2mを測る。

本土坑の性格は不明である。

## D-064 (第197図)

調査区西部に位置する。H-075が重複する。平面形は、プラン・底部とも不整方形を呈する。長径1.26m×短径1.2m×深さ0.21mを測る。

本土坑の性格は不明である。

## D-066 (第197図)

調査区南西部に位置する。平面形は、プラン・底部とも梢円形を呈する。長径1.24m×短径0.94m×深さ0.27mを測る。

本土坑の性格は不明である。

## D-067 (第197図)

調査区南西部に位置する。M-021が重複する。平面形は、プラン・底部とも梢円形を呈する。長径1.49m×短径1.17m×深さ1.4mを測る。

本土坑の性格は不明である。

## D-069 (第198図)

調査区西部に位置する。平面形は、プラン・底部とも梢円形を呈する。長径1.15m×短径0.95m×深さ0.74mを測る。

本土坑の性格は不明である。

## 第2節 土坑・地下式坑

### D-070 (第198図)

調査区南西部に位置する。平面形は、プラン・底部とも橢円形を呈する。長径1.79m×短径1.06m×深さ0.86mを測る。

本土坑の性格は不明である。

### D-071 (第198図)

調査区西部に位置する。平面形は、プラン・底部とも橢円形を呈する。長径1.49m×短径0.84m×深さ0.81mを測る。

本土坑の性格は不明である。

### D-073 (第198図)

調査区西部に位置する。平面形は、プラン・底部とも橢円形を呈する。長径2.1m×短径1.5m×深さ0.34mを測る。

本土坑の性格は不明である。

### D-075 (第198図)

調査区北西部に位置する。平面形は、プラン・底部とも橢円形を呈する。長径1.11m×短径0.83m×深さ0.76mを測る。

本土坑の性格は不明である。

### D-076 (第198図)

調査区西部に位置する。平面形は、プラン・底部とも橢円形を呈する。長径1.77m×短径0.9m×深さ0.63mを測る。本土坑は陷穴である。

### D-077 (第198図)

調査区西部に位置する。平面形は、プラン・底部とも橢円形を呈する。長径1.5m×短径1.15m×深さ0.44mを測る。

本土坑の性格は不明である。

### D-079 (第198図)

調査区西部に位置する。平面形は、プラン・底部とも橢円形を呈する。長径1.2m×短径0.95m×深さ0.55mを測る。

本土坑の性格は不明である。

### D-080 (第198図)

調査区西部に位置する。平面形は、プラン・底部とも橢円形を呈する。長径1.65m×短径1.33m×深さ0.81mを測る。

本土坑の性格は不明である。

## D-084 (第199図)

調査区南西部に位置する。H-090が重複する。平面形は、プラン・底部とも梢円形を呈する。長径1.0m × 短径0.71m × 深さ0.32mを測る。

本土坑の性格は不明である。

## D-085 (第199図)

調査区南西部に位置する。H-090が重複する。平面形は、プラン・底部とも梢円形を呈する。長径1.37m × 短径0.98m × 深さ0.31mを測る。

本土坑の性格は不明である。

## D-086 (第199図)

調査区西部に位置する。M-026が重複する。平面形は、プラン・底部とも梢円形を呈する。長径1.44m × 短径1.2m × 深さ1.5mを測る。

本土坑の性格は不明である。

## D-087 (第199図)

調査区南西部に位置する。H-090が重複する。平面形は、プラン・底部とも梢円形を呈する。長径1.3m × 短径1.1m × 深さ0.84mを測る。

本土坑の性格は不明である。

## D-088 (第199図)

調査区南西部に位置する。II-090が重複する。平面形は、プラン・底部とも梢円形を呈する。長径2.0m × 短径0.74m × 深さ0.67mを測る。

本土坑の性格は不明である。

## D-089 (第199図)

調査区南西部に位置する。平面形は、プラン・底部とも梢円形を呈する。長径1.4m × 短径0.92m × 深さ0.39mを測る。

本土坑の性格は不明である。

## D-098 (第199図)

調査区南西部に位置する。平面形は、プラン・底部とも梢円形を呈する。長径1.16m × 短径0.75m × 深さ0.45mを測る。

本土坑の性格は不明である。

## D-099 (第199図)

調査区南西部に位置する。平面形は、プラン・底部とも梢円形を呈する。長径0.57m × 短径0.46m × 深さ0.11mを測る。

本土坑の性格は不明である。

## 第2節 土坑・地下式坑

### D-125 (第199図)

調査区西部に位置する。平面形は、プラン・底部とも橢円形を呈する。長径1.21m×短径0.94m×深さ0.18mを測る。

本土坑の性格は不明である。

### D-126 (第199図)

調査区西部に位置する。平面形は、プラン・底部とも橢円形を呈する。長径0.44m×短径0.36m×深さ0.16mを測る。

本土坑の性格は不明である。

### D-127 (第199図)

調査区西部に位置する。平面形は、プラン・底部とも橢円形を呈する。長径1.14m×短径0.78m×深さ0.02mを測る。

本土坑の性格は不明である。

### D-185 (第200図)

調査区西部に位置する。平面形は、プラン・底部とも橢円形を呈する。長径1.1m×短径0.76m×深さ0.39mを測る。

本土坑の性格は不明である。

### D-186 (第200図)

調査区西部に位置する。平面形は、プラン・底部とも橢円形を呈する。長径0.80m×短径0.62m×深さ0.27mを測る。

本土坑の性格は不明である。

### D-206 (第201図)

調査区南西部に位置する。平面形は、プラン・低地とも不整長方形である。長径2.21m×短径1.39m×深さ1.17mを測る。

本土坑の性格は地下式坑の可能性がある。

### D-221 (第200図)

調査区中央部に位置する。M-006に伴う可能性がある。平面形は、プラン・底部とも円形を呈する。長径0.73m×短径0.73m×深さ0.17mを測る。

本土坑の性格は不明である。

### D-222 (第200図)

調査区南西部に位置する。M-042が重複する。平面形は、プラン・底部とも隅丸方形を呈する。長径1.77m×短径1.35m×深さ0.43mを測る。

本土坑の性格は不明である。

## D-223 (第200図)

調査区西部に位置する。H-060とM-021が重複する。平面形は、プラン・底部とも梢円形を呈する。長径1.13m×短径0.98m×深さ0.16mを測る。

本土坑の性格は不明である。

## D-224 (第200図)

調査区西部に位置する。平面形は、プラン・底部とも梢円形を呈する。長径1.6m×短径1.2m×深さ0.76mを測る。

本土坑の性格は不明である。

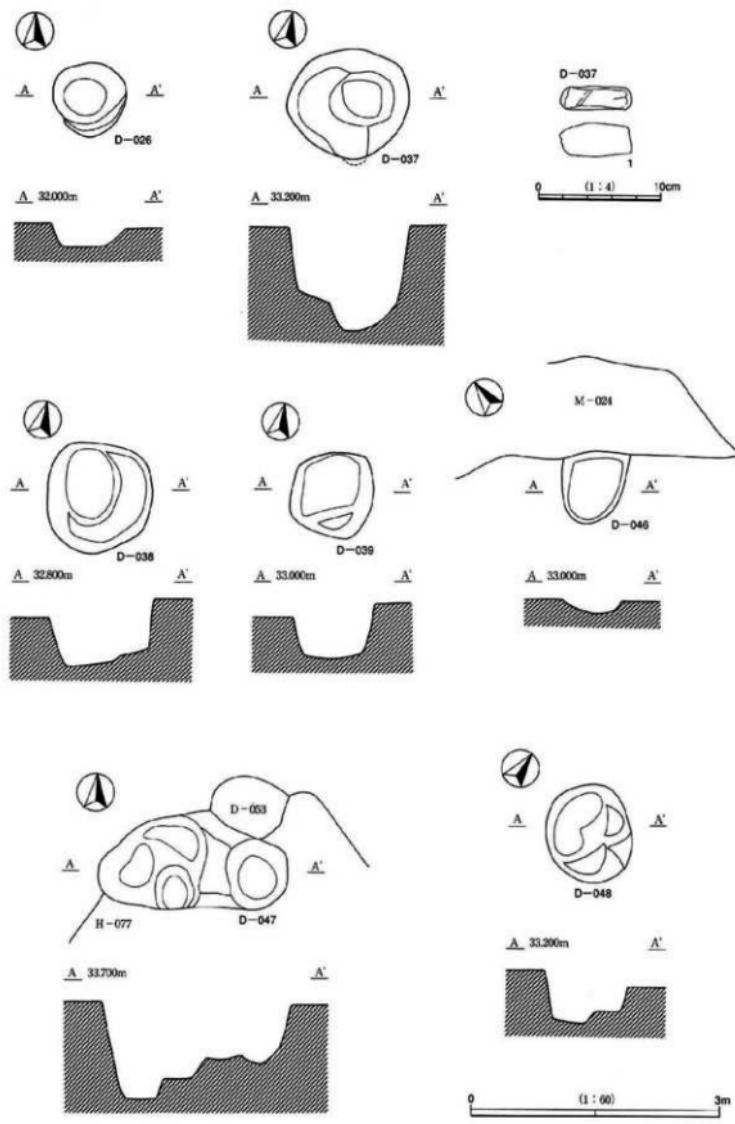
## D-225 (第200図)

調査区南西部に位置する。H-092が重複する。平面形は、プラン・底部とも変形長方形を呈する。長径1.12m×短径0.87m×深さ0.36mを測る。

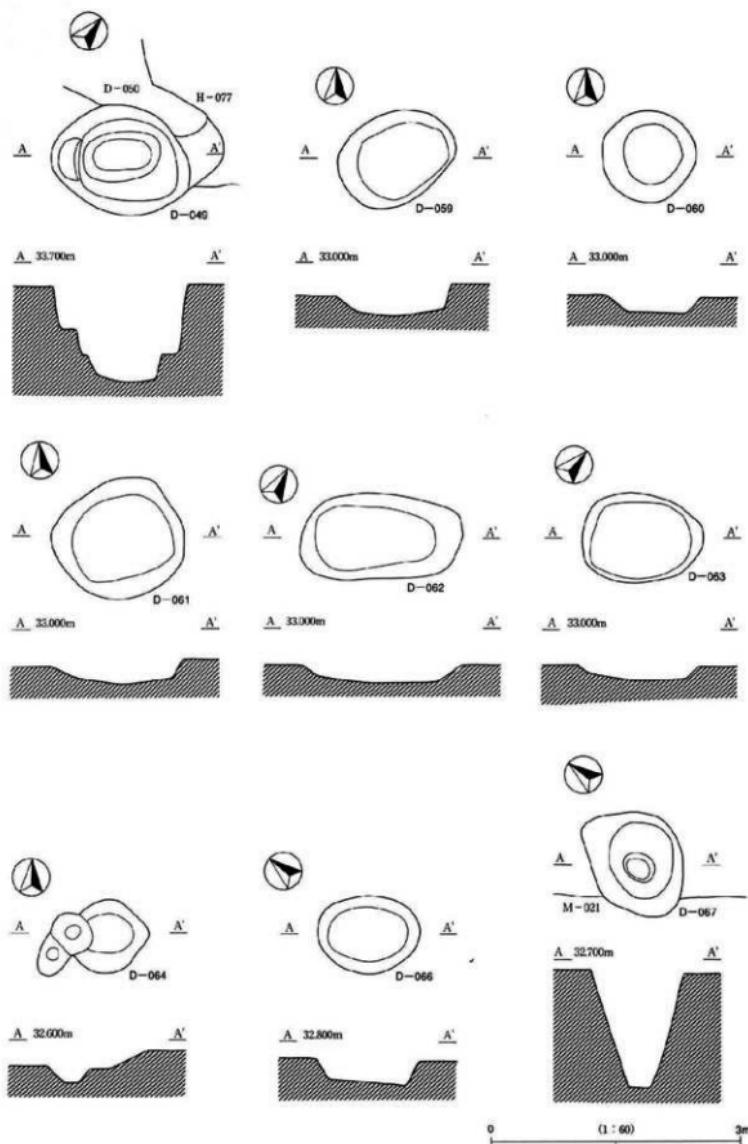
本土坑の性格は不明である。

## D-226 (第200図)

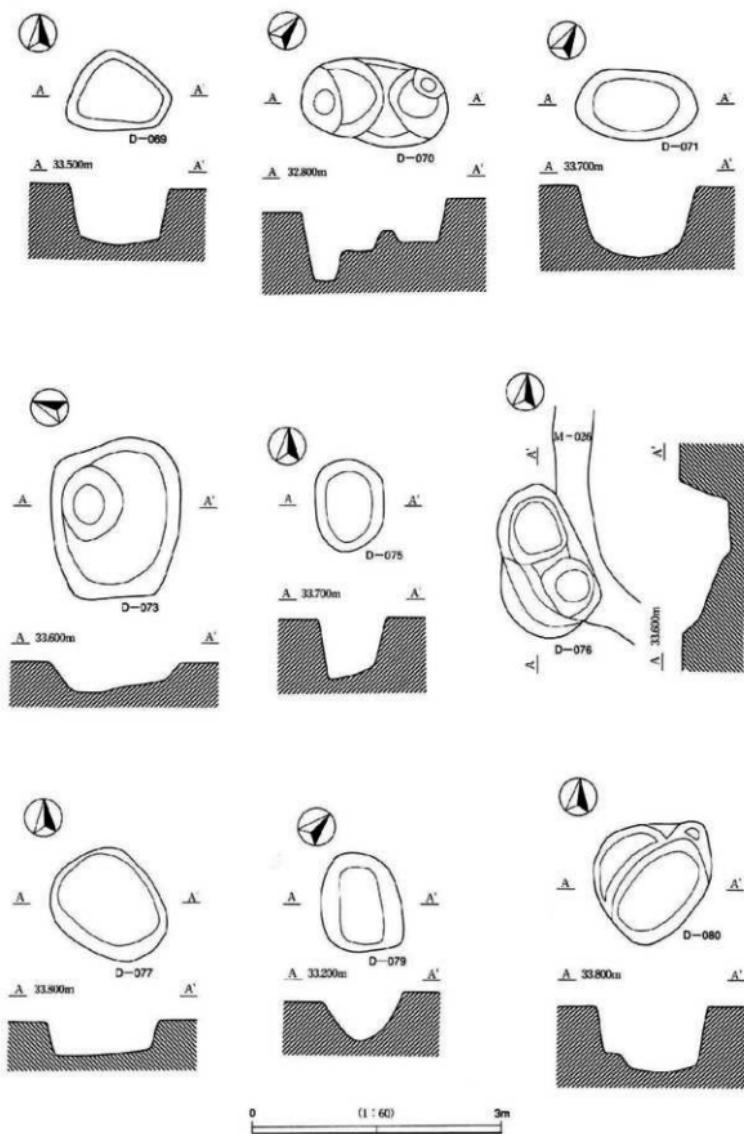
調査区南西部に位置する。H-092とM-037が重複する。平面形は、プラン・底部とも梢円形を呈する。長径1.25m×短径0.9m×深さ0.25mを測る。本土坑の性格は不明である。



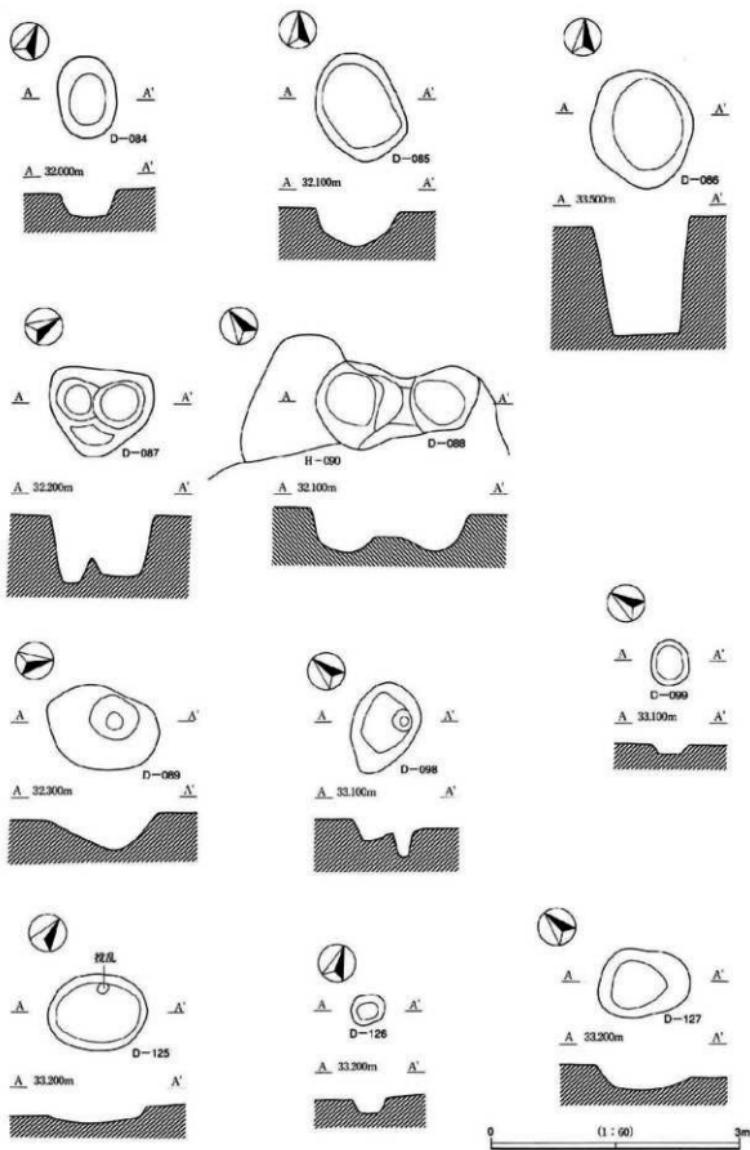
第196図 D-026・037~039・046~048実測図・出土遺物



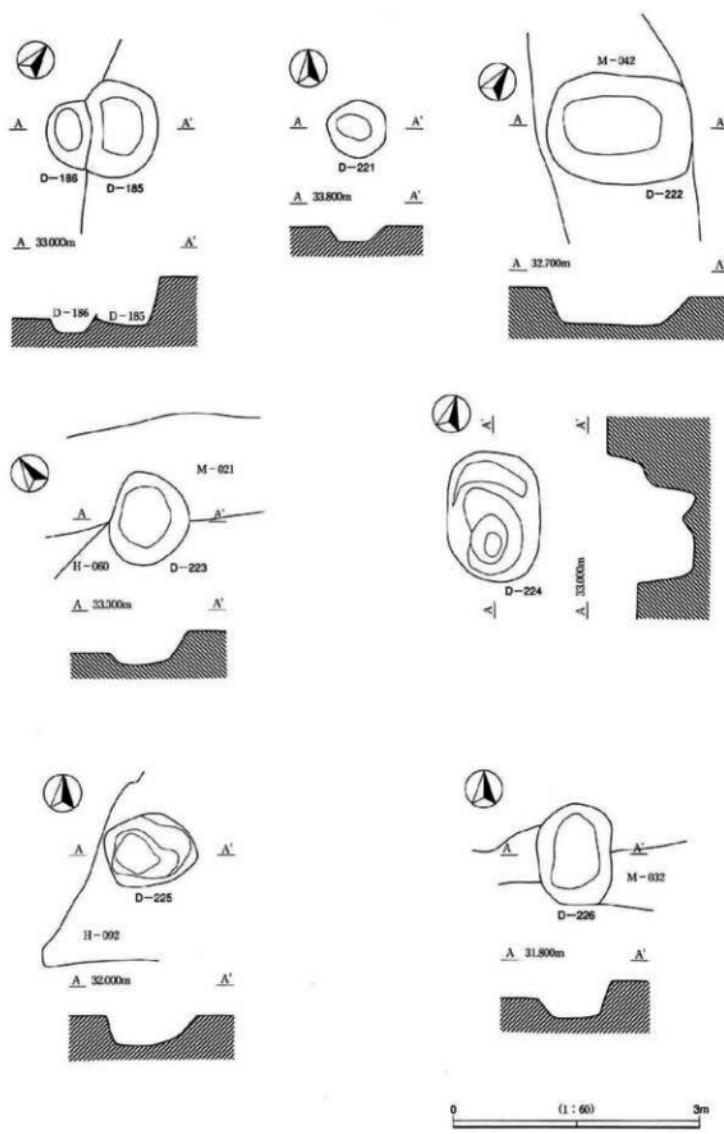
第197図 D-049・059・060～064・066・067実測図



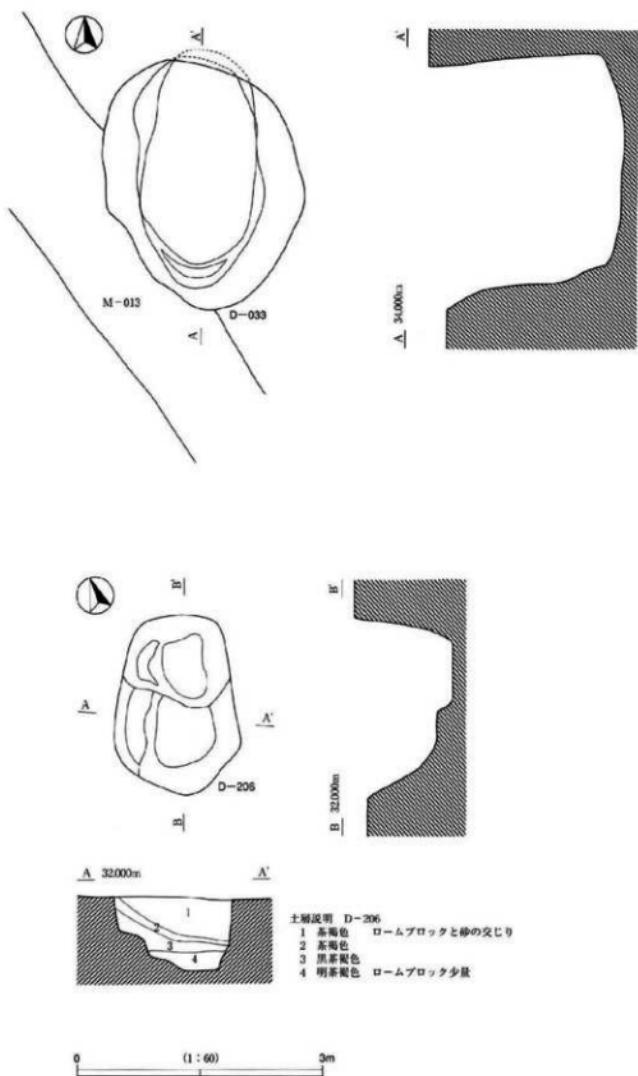
第198図 D-069~071・073・075~077・079・080実測図



第199図 D-084~089・098・099・125~127実測図



第200図 D-185・186・221～226実測図



第201図 D-033・206実測図

### 第3節 溝（近世）

#### M-007（第202図）

調査区南東部に位置する。全体に北西から南東に枝分かれしつつ延びる。M-007（A）～（D）はほぼ同時期の遺構である。本遺構はM-008に占地する。

M-007（A）はM-007（D）に切られ、M-007（B）、M-007（C）を切る。土層は人為堆積で3層に分層される。延長25m、幅0.30m～2.10m、深さ0.50m～0.55mを測る。

M-007（B）はM-007（A）に切られる。土層は自然堆積で3層に分層される。延長19m、幅0.30m～2.40m、深さ0.50m～0.60mを測る。

M-007（C）はM-007（A）に切られる。延長16m、幅0.30m～0.50m、深さ0.50m～0.55mを測る。

M-007（D）はM-007（A）を切る。延長16m、幅0.40m～2.20m、深さ0.50m～0.55mを測る。

陶器片2点は写真のみの掲載である。

#### M-008（第202図）

調査区南東部に位置する。北東から北西にくの字に延びる。本遺構北東端ではM-007に、北西端ではM-042と占地し、切られる。土層は人為堆積で4層に分層される。延長48m、幅0.30m～1.10m、深さ0.50m～0.70mを測る。

#### M-009（第202図）

調査区南東部に位置する。北西から南東に延びる。本遺構は南側の溝をA、北側の溝をBとする。AはBを切るが同時期の遺構である。本遺構北西端ではH-021を切り、南東端ではH-020に占地する。床がよく踏み固められていることから、道路である可能性が高い。Aは延長5m、幅0.5m～1.20m、深さ0.28m～0.35m、Bは延長3m、幅1.10m～1.25m、深さ0.20m～0.25mを測る。

#### M-011（第202図）

調査区東部に位置する。北西から南東に延びる。M-007（B）と平行する。土層は自然堆積で2層に分層される。延長7m、幅1.25m～1.30m、深さ0.05m～0.07mを測る。

#### M-012（第202図）

調査区中央部に位置する。北から途中、立ち消えるものの南西に延びる。本遺構北部ではH-072に、H-028、067に占地する。延長41m、幅0.53m～2.40m、深さ0.05m～0.07mを測る。道路の可能性がある。

本遺構出土遺物のうち、陶器2点を図示した。

1は瀬戸・美濃の瀬戸皿の底部片である。

2はすり鉢の口縁片である。

土製品1点は写真のみの掲載である。

#### M-042（第202図）

調査区北西部に位置する。北西から南東にやや直線に延びる。本遺構は南東でM-008を切る。そして平行するM-043に切られるが、ほぼ同時期の遺構である。延長62m、幅0.50m～2.20m、深さ0.10m～0.24mを測る。道路の可能性がある。

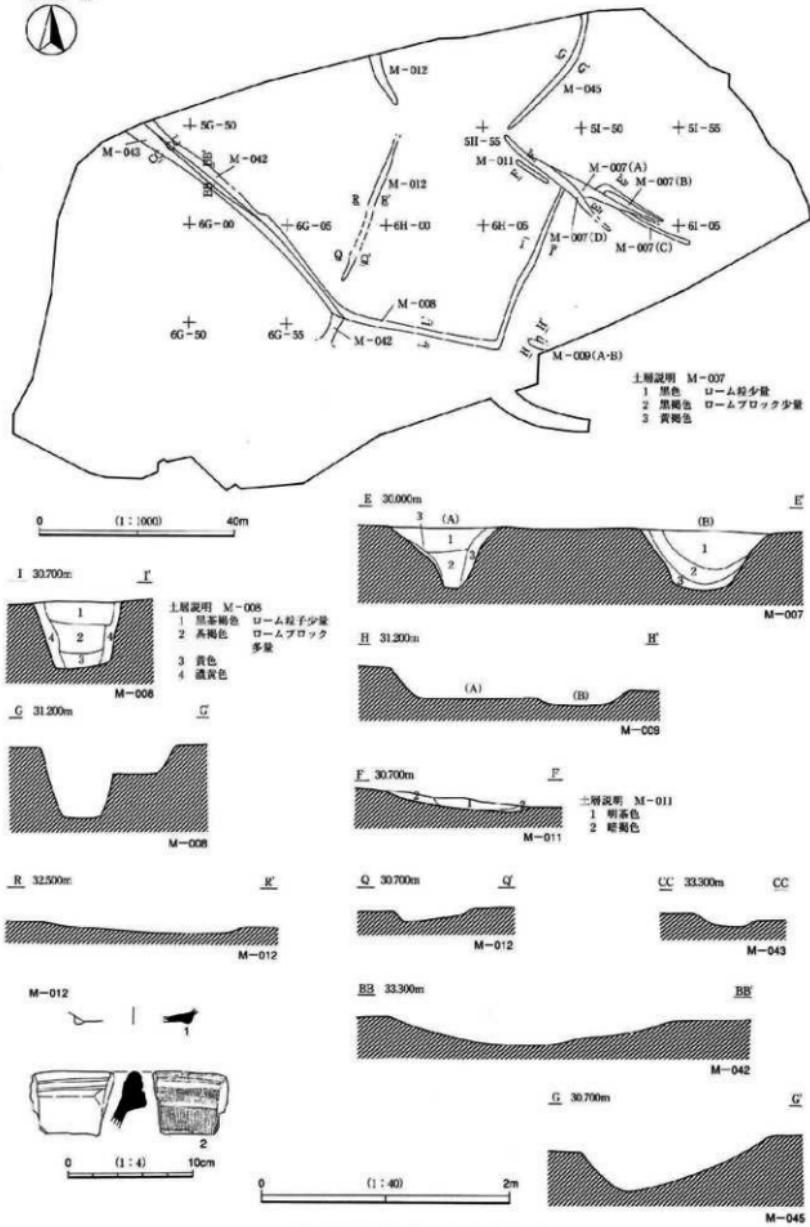
陶器片 1 点は写真のみの掲載である。

M-043 (第202図)

調査区北西部に位置する。北西から南東に直線に延びる。本道構南東部では本道構は平行する M-042を切るが、ほぼ同時期の道構である。延長58m、幅0.50m~2.20m、深さ0.10m~0.14m を測る。道跡の可能性がある。

M-045 (第202図)

調査区北東部に位置する。北から北西に緩やかに曲解して延びる。延長31m、幅0.30m~1.20m、深さ0.40m~0.45m を測る。



第202図 溝実測図・出土遺物

## 第8章 時期不明遺構と遺構外遺物

### 第1節 概要

ほとんどが破壊されていたため、または遺物が小片であったため時期が判明できなかった。

### 第2節 壁穴住居跡

#### H-044（第203図）

調査区中央部に位置する。H-030に切られる。規模は不明である。

壁高は約12cm（北壁）を測る。周溝は検出されなかった。

ピットは検出されなかった。貯藏穴（径57cm×77cm、深さ46cm）を検出した。

本住居跡からは出土した遺物は小片であったため、図示しなかった。

#### H-075（第203図）

調査区西部に位置する。D-044・D-045と重複する。規模は5.18m×不明である。形状は方形か。

壁高は約50cm（西壁）を測る。

ピットは床面に5本検出された。主柱穴はP-1（径42cm×46cm、深さ10cm）・P-2（径38cm×33cm、深さ12cm）・P-3（径30cm×30cm、深さ8cm）・P-4（径33cm×32cm、深さ22cm）の4本が対角線上に配され、P-5は（径30cm×29cm、深さ7cm）を測る。カマドも炉も検出されなかった。

本住居跡から出土した遺物は流れ込みであったため、図示しなかった。

#### H-097（第203図）

調査区西南部に位置する。D-151・D-162・D-211に切られている。規模、形状とも不明である。

壁高は約24cm（北壁）を測る。

床面一部のみ検出した。ピットは検出されなかった。

本住居跡から出土した遺物はなかった。

#### H-098（第203図）

調査区西南部に位置する。D-189・D-190と、中世台地整形によりに切られる。規模・形状とも不明である。

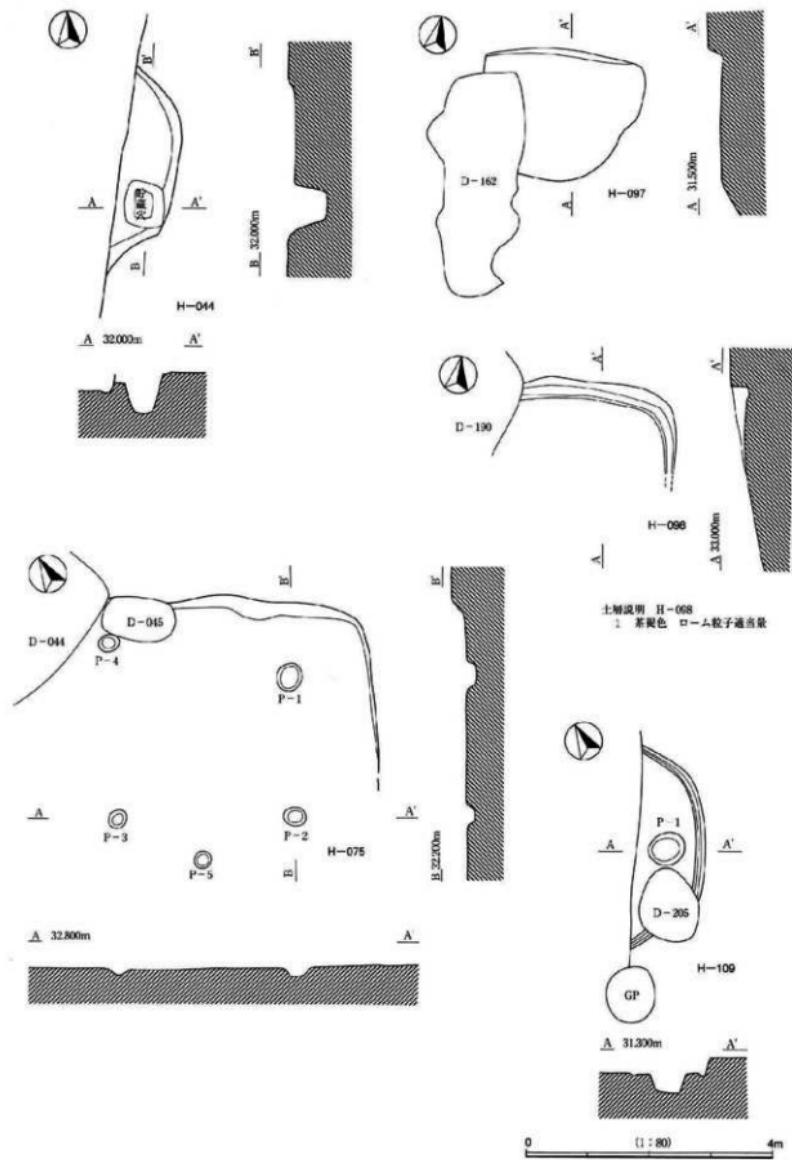
覆土は1層で、人為的に埋め戻されていると考えられる。壁高は30cm（北壁）を測る。床面と周溝の一部を検出した。床面はしっかりと貼っている。周溝は、幅28cm、深さ4cmを測る。

#### H-109（第203図）

調査区西南部に位置する。H-106・H-108・D-205に切られる。規模・形状とも不明である。床面はやや貼っている。壁高は約23cm（南壁）を測る。周溝は南側検出した。幅16cm、深さ4cmを測る。

ピットは床面に1本検出された。P-1（径56cm×50cm、深さ31cm）を測る。

第2節 堅大住居跡



第203図 H-044・075・097・098・109実測図

### 第3節 遺構外遺物

遺構外遺物のうち72点を図示した。

1から6は陶磁器である。1は瀬戸・美濃の緑釉小皿である。1/6遺存する。復元口径9.2cm、残存器高1.3cmを測る。年代は古瀬戸後期様式IV期（15世紀中～後半）である。2は瀬戸・美濃の灰釉平挽の片である。年代は古瀬戸後期様式（14世紀～15世紀代）である。3は瀬戸・美濃の鉄釉茶入れの胴部である。

4は瀬戸・美濃の天目茶碗の体部片である。年代は古瀬戸後期様式II～III期（14世紀末～15世紀前）か。5は瀬戸・美濃の天目茶碗の口縁片である。年代は古瀬戸後期様式I～II期（14世紀末～15世紀初頭）である。6は瀬戸・美濃の灰釉平挽の口縁片である。年代は古瀬戸後期様式I～II期（14世紀末）である。

7は弥生土器片である。

8は須恵器の壺片である。

9から17は羽口片である。9は現存長4.2cm、重量30.0gを測る。10は現存長4.3cm、重量18.9gを測る。11は現存長5.0cm、重量30.8gを測る。12は現存長3.5cm、重量33.6gを測る。13は現存長5.0cm、重量19.5gを測る。14は現存長3.0cm、重量22.0gを測る。15は現存長6.2cm、重量76.7gを測る。16は現存長4.8cm、重量46.3gを測る。17は現存長4.6cm、重量38.5gを測る。

18から21は楕形漆である。現存長7.6cm、幅6.6cm、厚さ2.5cm、重量84.3gを測る。19は現存長6.8cm、幅5.3cm、厚さ2.2cm、重量101.7gを測る。20は現存長6.0cm、幅5.1cm、厚さ1.8cm、重量52.4gを測る。21は現存長6.6cm、幅5.7cm、厚さ2.6cm、重量108.3gを測る。

22から31までスラグである。22は現存長4.7cm、幅5.3cm、厚さ2.5cm、重量67.7gを測る。23は現存長6.5cm、幅5.3cm、厚さ2.0cm、重量77.6gを測る。24は現存長5.6cm、幅4.8cm、厚さ2.0cm、重量93.8gを測る。25は現存長4.8cm、幅3.8cm、厚さ1.9cm、重量42.7gを測る。26は現存長4.7cm、幅4.2cm、厚さ1.6cm、重量38.0gを測る。27は現存長5.1cm、幅4.4cm、厚さ2.6cm、重量58.4gを測る。28は現存長4.8cm、幅3.0cm、厚さ2.3cm、重量36.0gを測る。29は現存長4.5cm、幅4.1cm、厚さ1.8cm、重量35.1gを測る。30は現存長5.5cm、幅4.2cm、厚さ2.8cm、重量76.3gを測る。31は現存長5.7cm、幅4.5cm、厚さ2.3cm、重量49.9gを測る。

32は矢尻である。完形、長さ1.7cm、幅1.4cm、厚さ0.2cm、重量0.3gを測る。

33から39・44は刀子である。33は現存長4.1cm、幅0.7cm、厚さ0.4cm、重量4.56gを測る。34は現存長9.0cm、幅2.0cm、厚さ0.2～0.3cm、重量12.9gを測る。35は現存長2.8cm、幅0.8cm、厚さ0.2cm、重量1.9gを測る。36は現存長3.8cm、幅0.8cm、厚さ0.2cm、重量2.2gを測る。37は現存長3.9cm、幅1.1cm、厚さ0.2cm、重量4.7gを測る。38は現存長4.0cm、幅0.5cm、厚さ0.4cm、重量3.0gを測る。39は現存長5.4cm、幅0.8cm、厚さ0.2～0.3cm、重量3.8gを測る。40は現存長5.0cm、幅0.7cm、厚さ0.5cm、重量4.6gを測る。41は現存長6.2cm、幅3.1cm、厚さ0.5cm、重量40.7gを測る。42は現存長2.5cm、幅0.8cm、厚さ0.1～0.2cm、重量2.0gを測る。43は現存長cm、幅cm、厚さcm、重量gを測る。44は現存長9.5cm、幅0.7cm、厚さ0.4cm、重量21.6gを測る。

43は鎌の刃の先である。現存長6.0cm、幅2.8cm、厚さ0.1～0.2cm、重量13.4gを測る。

45は馬具の街の一部であると思われる。現存長3.5cm、幅0.8cm、厚さ0.6cm、重量8.9gを測る。

46から48は煙管である。46は現存長4.2cm、幅1.1cm、厚さ1.1cm、重量4.6gを測る。47は現存長2.8cm、幅1.1cm、厚さ1.0cm、重量4.6gを測る。48は現存長4.2cm、幅0.9cm、厚さ0.8cm、重量2.7gを測る。

49から53・55・56は鑿か（やりがんな）の一部である。49は現存長3.0cm、幅0.5cm、厚さ0.4cm、重量2.0

### 第3節 遺構外遺物

gを測る。501は現存長4.4cm、幅0.4cm、厚さ0.4cm、重量2.8gを測る。51は現存長5.0cm、幅0.5cm、厚さ0.4cm、重量3.2gを測る。52は現存長7.2cm、幅0.4cm、厚さ0.4cm、重量3.2gを測る。53は現存長5.8cm、幅0.5cm、厚さ0.5cm、重量5.0gを測る。55は現存長16.2cm、幅0.5cm、厚さ0.2cm～0.4cm、重量14.7gを測る。56は現存長16.2cm、幅0.5cm、厚さ0.5cm、重量11.1gを測る。

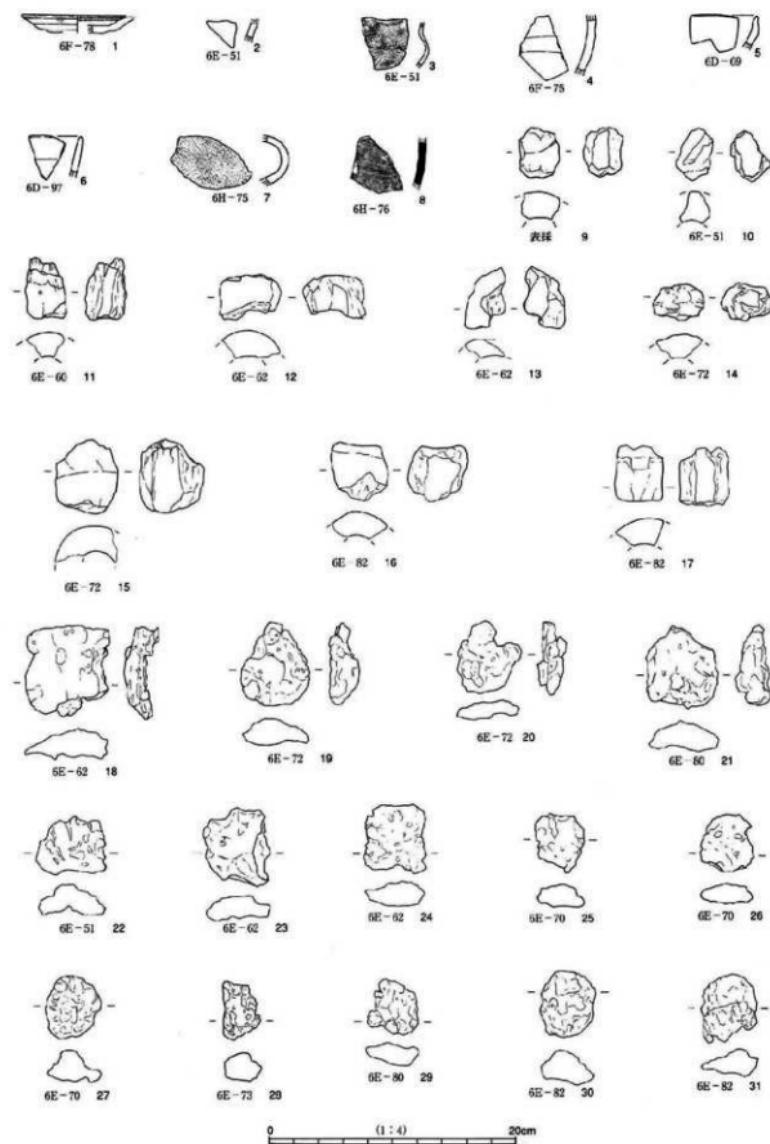
57～64は古鏡である。

65から69と72は土製品である。65は紡錘車である。66は玉で、幅2.0cm、孔径0.1cm、重量5.4gを測る。67は玉で、長さ1.95cm、幅0.9cm、孔径0.2cm、重量2.0gを測る。68は玉で、幅0.7cm、孔径0.2cm、重量0.3gを測る。69は玉で、幅0.8cm、孔径0.2cm、重量1.18gを測る。72は鏡型模造品である。ほぼ完形である。直径4.7cm、幅4.5cm、厚さ1.5cm、重量24.6gを測る。緑の表現もきちんと施されている。鈴を模している部分は8つ存在した可能性がある。

70と71は石製品である。70はほぼ完形である。勾玉を模しているものと考える。長さ3.2cm、幅1.2cm、厚さ0.4cm、孔径0.2cm、重量3.8cmを測る。71は子持ち勾玉である。現存長7.3cm、幅3.8cm、厚さ1.5cm、重量34.1gを測る。

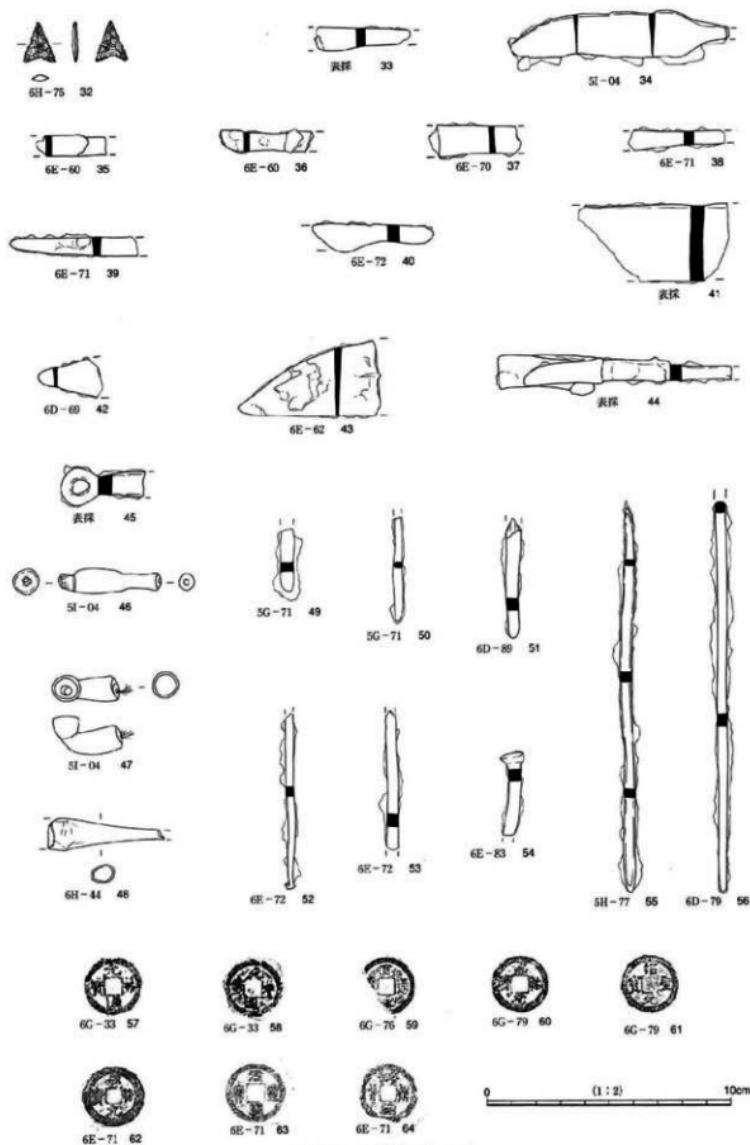
### 第4節 ピット群

ピット群である。

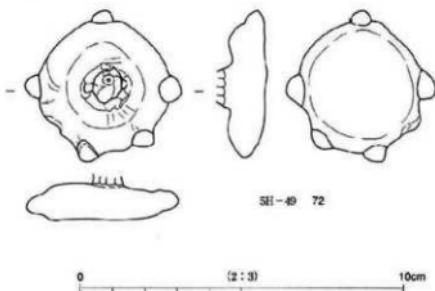
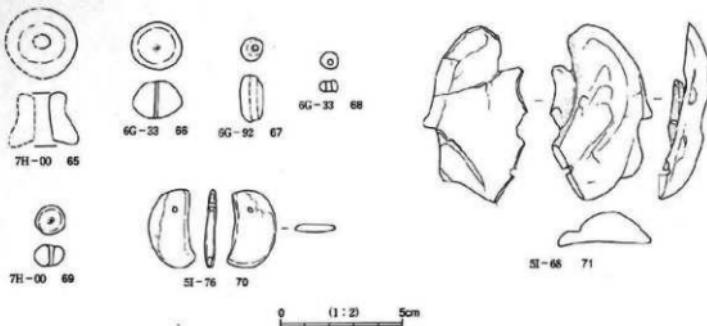


第204図 遺構外遺物（1）

第3節 造構外遺物

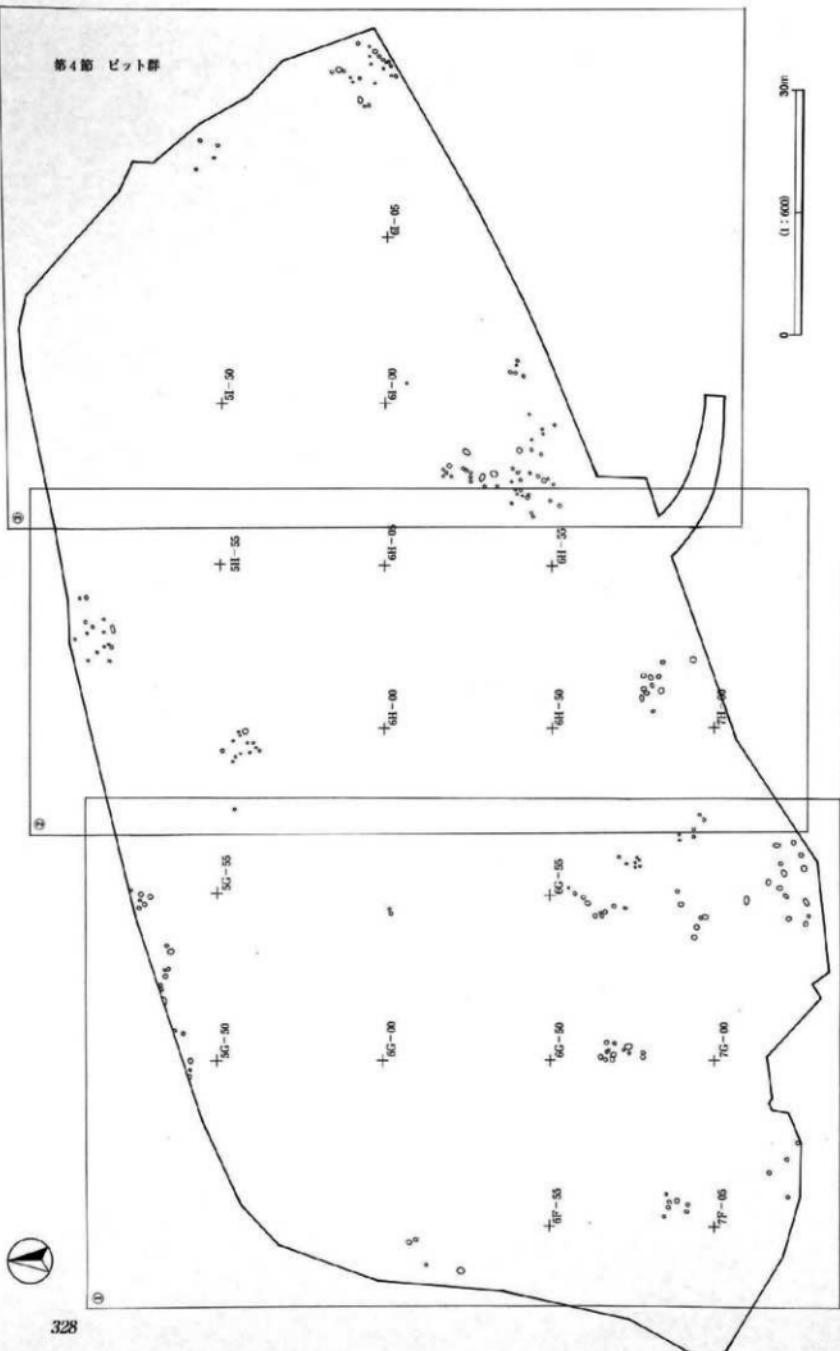


第205図 造構外遺物 (2)



第206図 遺構外遺物（3）

第4節 ピット群



第207図 ピット群エリア分割図



+ 5F-55

+ 5G-50

+ 5G-55

+ 5F-05

+ 5G-00

+ 6G-00

+ 6F-55

+ 6G-50

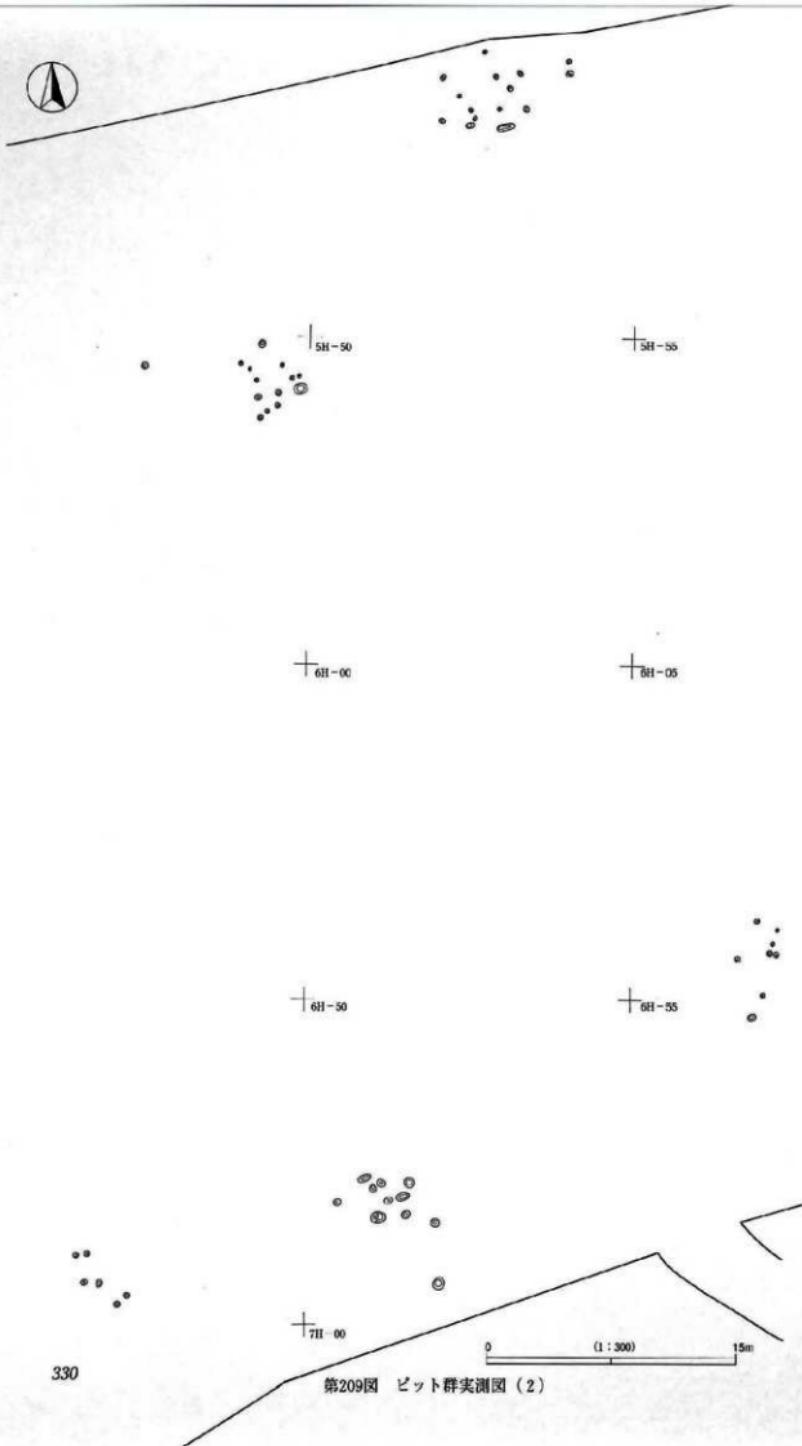
+ 6G-55

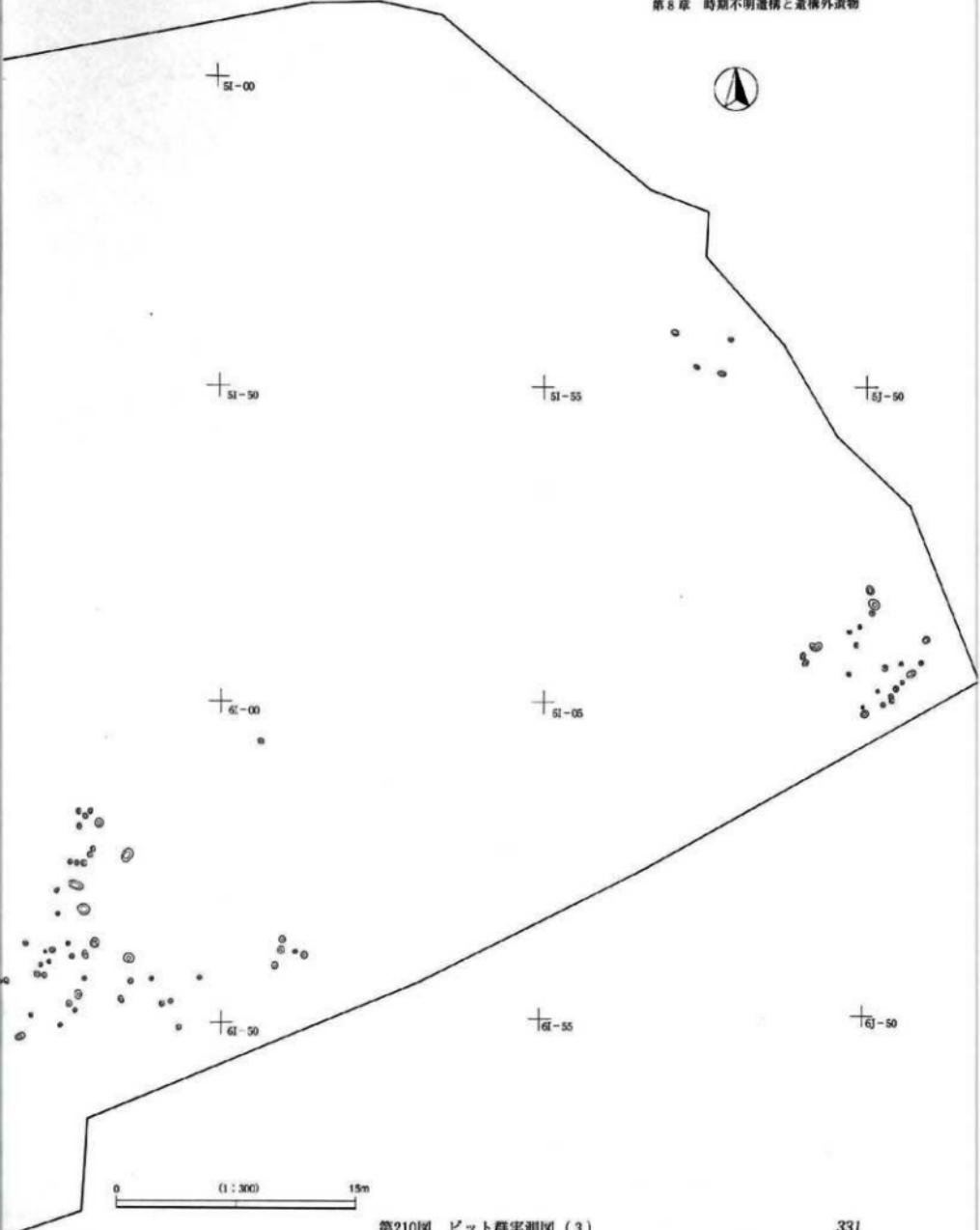
+ 7F-05

+ 7G-00

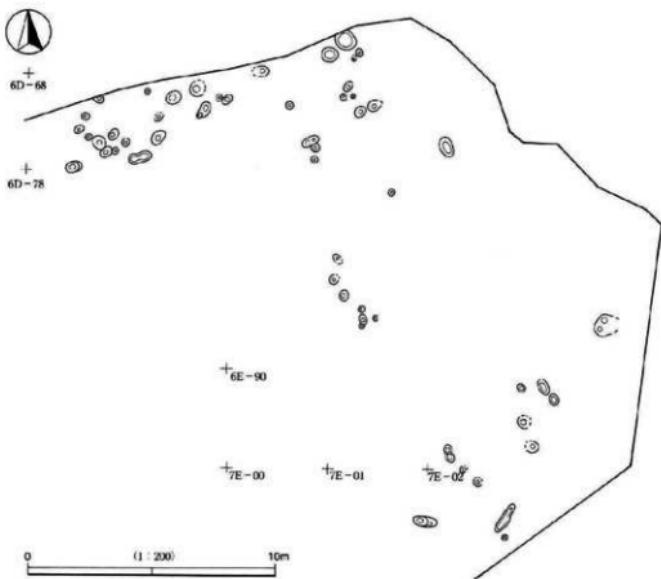
0 (1:300) 15m

第208図 ピット群実測図(1)

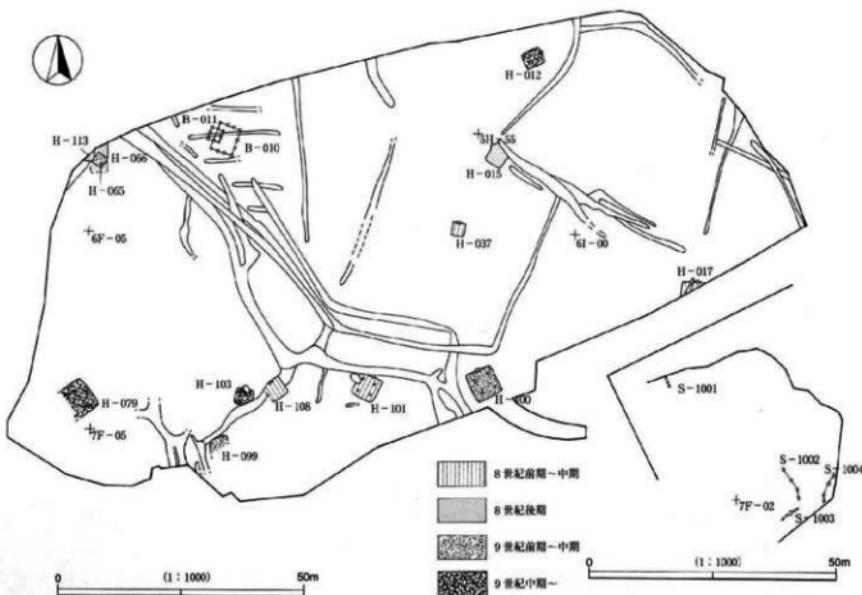
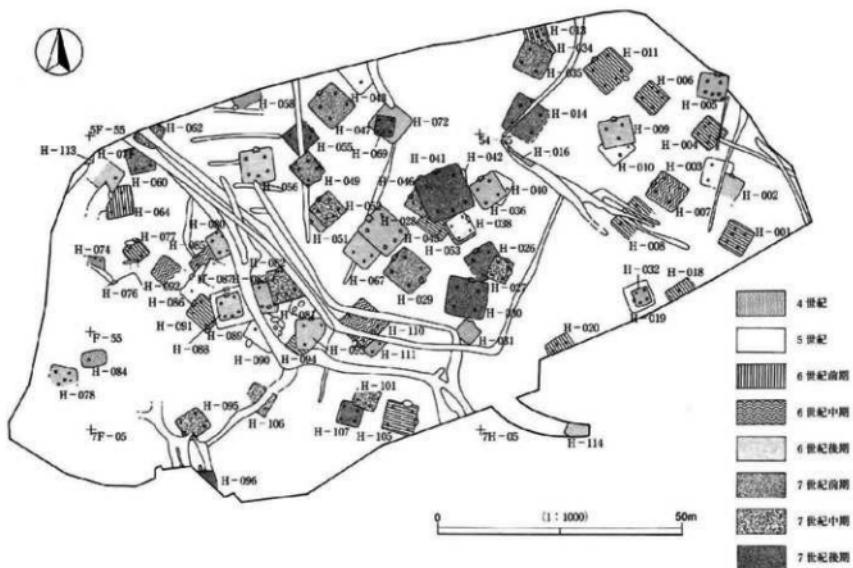




第210図 ピット群実測図（3）



第211図 ピット群実測図（4）



# 終 章 まとめ

## 第1節 繩文時代の様相

調査区内からは、縄穴は検出できたものの、住居跡や野外炉等の生活遺構の痕跡は検出されなかった。縩文土器も小片は出土したが、図示できるものでもなかった。

のことから本遺跡は縩文時代の各時代において、生活の拠点となることはなく、狩猟場として存在していたのであろうと推測できる。

## 第2節 弥生時代の様相

弥生時代初期住居跡 2軒 (H-022と H-023) が該当する。

住居跡12軒で構成される集落である。北西方向から南東方向に向けて緩やかに傾斜する台地上に点在する。台地全面が調査されたわけではないため、集落は調査区北側に展開する可能性がある。

遺存状態の良い住居跡や遺物から判断すると、H-022と H-023は弥生時代初期、H-025と H-052は主軸方位から同時期の住居跡で弥生時代後期前葉である。

遺物は北関東系土器が大半を占めるが、南関東系の土器も混在している。全体に弥生時代最終末の時期であり、古い要素がありつつも新しい要素が台頭している。

## 第3節 古墳時代の様相

古墳時代の住居跡は74軒が該当する。住居跡の該当軒数及び主軸方位から同時期と明確に判断できるものを以下の表にまとめた。

時代	世紀	軒数	同時期の有無
古墳時代初期	4世紀代	2軒	H-016と H-084は同時期かどうかは不明
古墳時代中期	5世紀代	10軒	H-003・010・040・043・087・081は同時期 H-076・086・090は同時期
古墳時代後期	6世紀前	15軒	H-001・004・006・013は同時期 H-011・091はそれぞれ同時期
	6世紀中	4軒	4軒全て同時期と思われる
	6世紀後	21軒	H-002・005・031・114は同時期 H-009・011・028・036・056・080・083・088・093は同時期
古墳時代終末期	7世紀前	7軒	H-029・H-046・H-047・H-050は同時期
	7世紀中	7軒	H-050・H-082は同時期
	7世紀後	8軒	H-014・H-030は同時期 H-026・H-041は同時期

表からもみてとれるように、本遺跡は弥生時代終末期より連続と生活が営まれているが、古墳時代中期から集落は拡大はじめ、古墳時代後期には最盛期を迎える。また、本遺跡の東側の台地には寺方古墳群が存在する。寺方古墳群では古墳の周囲に同時期の竪穴住居がみられないことから、古墳群の築造は古墳時代中期の集落が廃絶された後、少なくとも集落の記憶がまだ強く残る時期に開始されたといえる。

その一方、長倉鍛冶屋台遺跡は、古墳時代中期～後期の竪穴住居が多く、子持勾玉や土製鏡形模造品など

も出土している。

両遺跡とも至近距離にあり、今後は、集落としての長倉銀治屋台遺跡を考える際、墓域としての寺方古墳群をも含めて考えていかなければならないだろう。

#### 第4節 奈良・平安時代の様相

奈良・平安時代の住居跡は11軒、掘立柱建物は2軒が該当する。住居跡の該当軒数及び主軸方位等から同時期と明確に判断できるものを以下の表にまとめた。

時代	世紀	軒数（掘立柱建物含む）	同時期の有無
奈良時代	8世紀前～中	3軒	H-017・H-101は同時期
平安時代	8世紀後	5軒（内2軒掘立柱建物）	B-010・B-011は同時期
	9世紀前	2軒	H-097・H-100は同時期
	9世紀中	3軒	

古墳時代と比較すると格段に住居跡等が減少し、縮小化がみられる。遺物は、ロクロ成形の土器が出土している。少數だが墨書き土器と黒色処理を施した土器もみられる。また、H-012からは鉗が出土した。

#### 第5節 中世の様相

台地上には掘立柱建物が多く検出され、台地整形も調査区西側と南西側において顕著にみられる。調査区南西側の7G-05付近の切り立った部分と西側の微高地状の調査区には土坑墓や粘土貼土坑墓が多数検出された。特に西側の微高地状の調査区では、掘立柱建物廃墟の後、墓域となったと考えられる。土坑墓も切り合いでみられるため、同じ集落が何世代も持続したのではなく、ある集落が終息した後、別の集落が移り住むということが幾度か行われていたと考えられる。また、D-211のような巨大な階段状遺構も検出され、井戸であった可能性も高い。

本遺跡は中世では居住区のみだけではなく、近隣に墓域も存在していた。

#### 第6節 近世の様相

本遺跡は居住区としての色合いは薄くなる。

D-114からは煙管や古銭が副葬され、土坑墓であったことが如実にわかる。D-060～D-064・D-066・D-067やD-071・D-73・D-074・D-077・D-080は決め手に欠くものの、形状や大きさ、深さなどから土坑墓である可能性がある。また、グリット一括遺物や流れ込み造物には、泥面子や駒などが検出され、烟があった可能性も高く、調査区の東側は烟の色合いが濃く、西側は墓地の色合いが濃い。同時期に展開したかどうかは明確に判断できない。

## 参考文献

- 柿沼修平ほか 1985 「(3) 地下式土塁」「棒作遺跡発掘調査報告」佐倉市棒作遺跡調査会
- 林田利之 1993 「第5節 中世」『千葉県成田市駒井野荒追遺跡』(財)印旛郡市文化財センター
- 石本俊則 1999 「大網山田台遺跡群No.6地点(一本松遺跡)階段状遺構の報告」「研究ノート山武」第3号 (財)山武郡市文化財センター
- 中野修秀 2001 「上引切遺跡—金谷郷遺跡群V—」(財)山武郡市文化財センター
- 鶴志田篤二ほか 2002 「井戸状遺構」「東中根遺跡群発掘調査報告書」ひたちなか市遺跡調査会
- 吉田直哉・稻見英輔 2003 「遠山瓜ヶ作谷遺跡・遠山瓜ヶ作台遺跡」(財)山武郡市文化財センター
- 千葉県立房総のむら編集 2004 『中世房総やきもの市場』(財)千葉県社会教育施設管理財団
- 島立 桂・椎名信也 2006 「寺方古墳群」(財)山武郡市文化財センター

# 写 真 図 版

図版1 旧石器時代遺物出土状況



第1地点



第2地点 (5G-49)



第2地点 5H-40



第2地点 5H-50



第3地点 東より



第3地点 西より



第4地点



作業風景

図版2 第1地点・第2地点出土遺物(1)

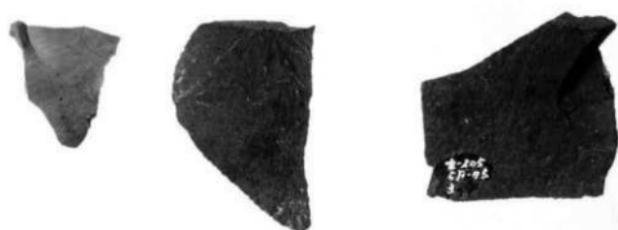


第1地点(1)



第2地点(1)

図版3 第1地点・第2地点出土遺物(2)

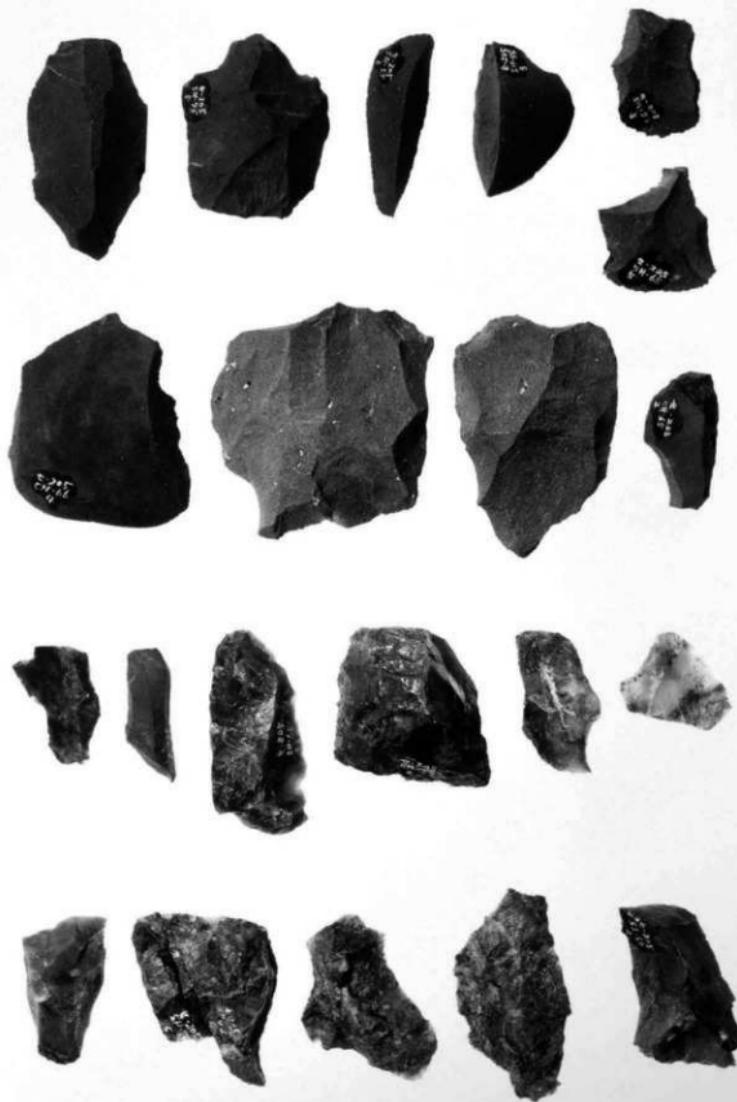


第1地点(2)



第2地点(2)

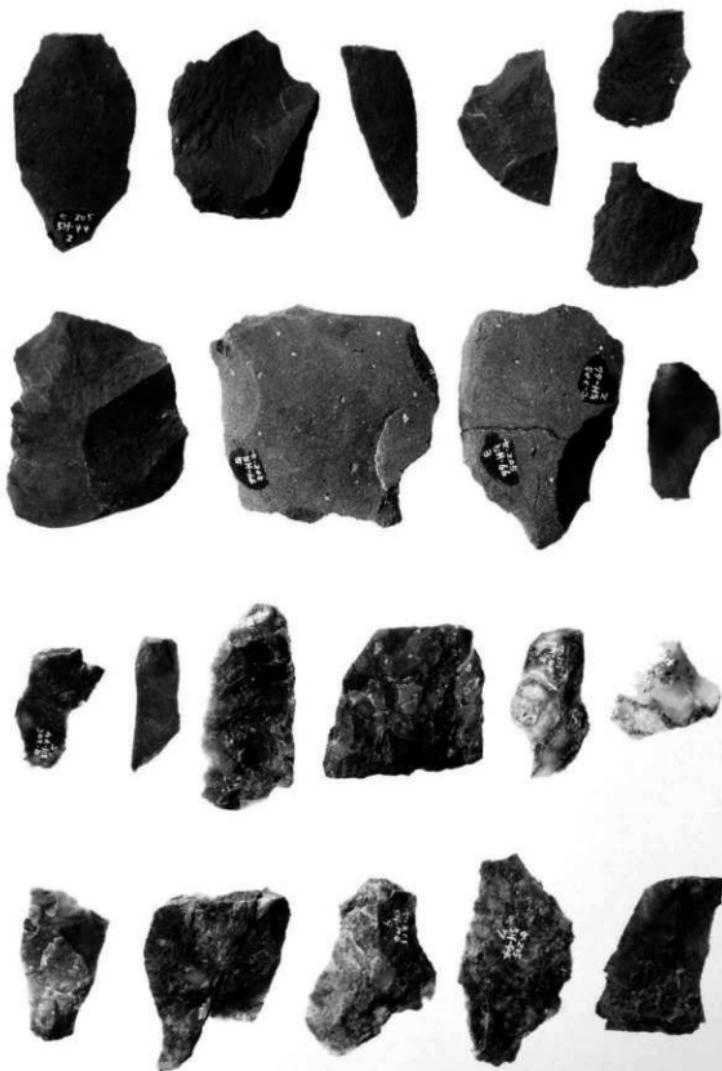
图版4 第3地点·第4地点出土遗物(1)



第3地点(1)

第4地点(1)

### 図版5 第3地点・第4地点出土遺物(2)



第3地点(2)

第4地点(2)

図版6 弥生時代集落(1)



M-021 遺物出土状況



H-023



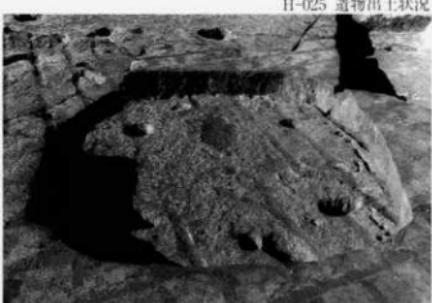
H-021



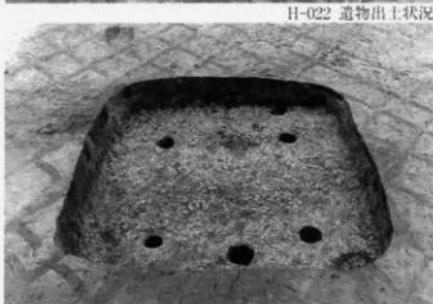
H-025 遺物出土状況



H-022 遺物出土状況



H-025

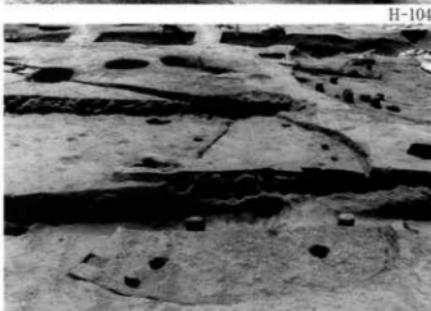
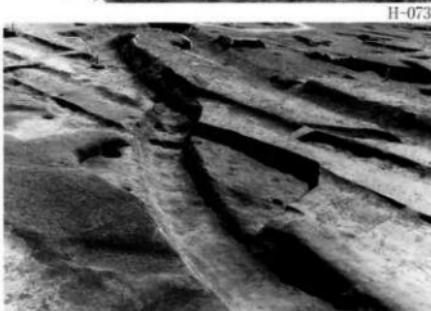
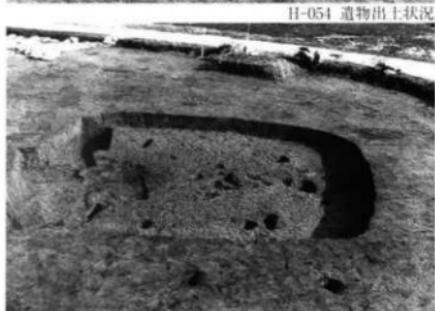
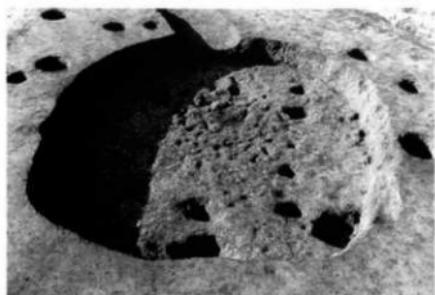


H-022 完掘



H-039

図版7 弥生時代集落(2)



図版8 古墳時代集落①



H-001



H-006



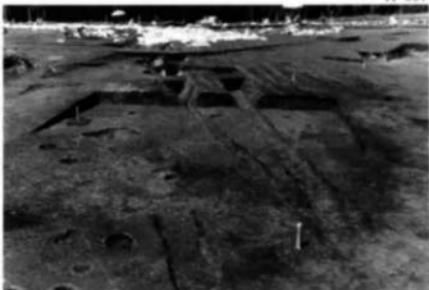
H-002 + 003



H-007



H-004



H-008



H-005

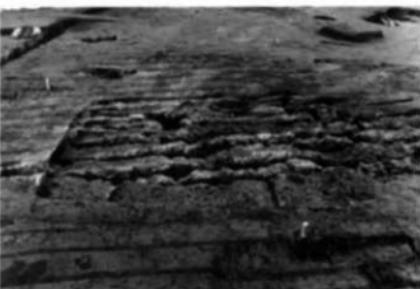


H-009

図版9 古墳時代集落(2)



H-010



H-016



H-011



H-018 遺物出土状況



H-013・034・035



H-017

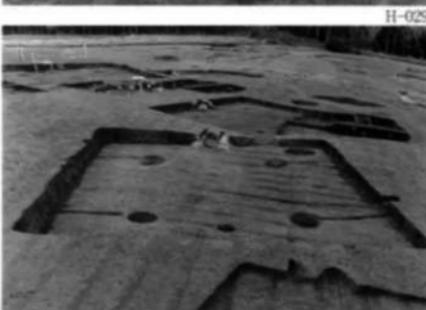
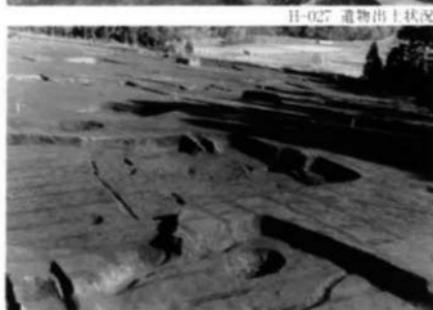


H-014



H-019

図版10 古墳時代集落(3)



図版11 古墳時代集落(4)



H-031



H-038・041・042



H-032



H-043



H-036・040



H-045・046



H-041 遺物出土状況



H-047

図版12 古墳時代集落 5



H-048



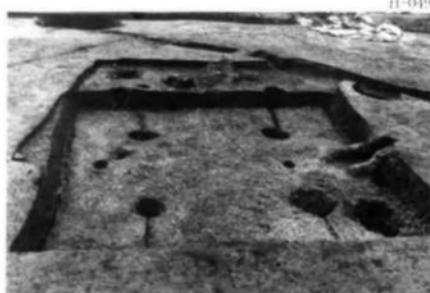
H-056



H-049



H-058



H-050 - 059



H-059

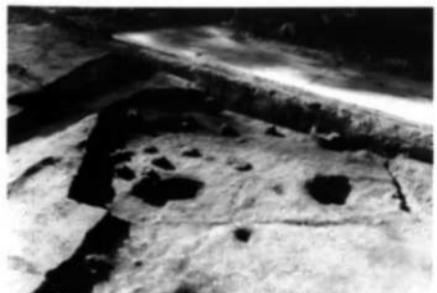


H-053



H-060

図版13 古墳時代集落(6)



H-062



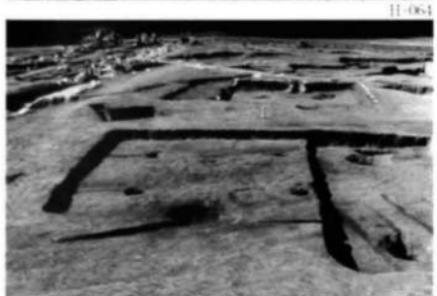
H-071



H-064



H-074



H-067



H-076

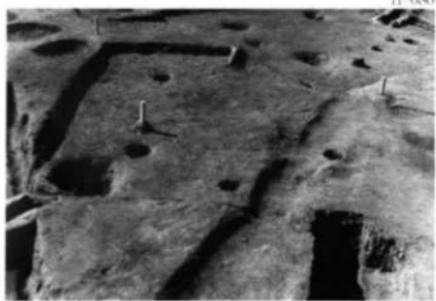


H-069 - 072



H-077

図版14 古墳時代集落 7)



図版15 古墳時代集落⑧



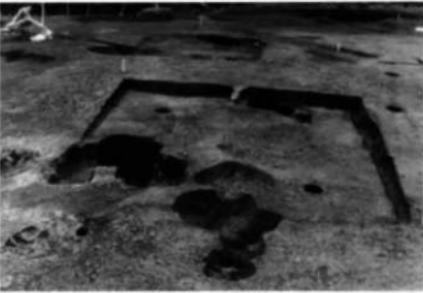
H-086



H-091



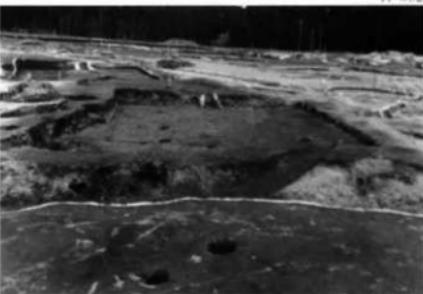
H-087



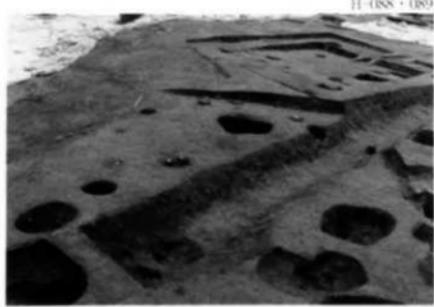
H-092



H-088 + 089



H-093 + 094

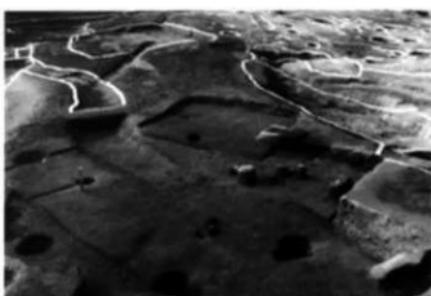


H-090



H-096

図版16 古墳時代集落 9



H-106



H-105



H-107



H-102



H-110・111



H-105

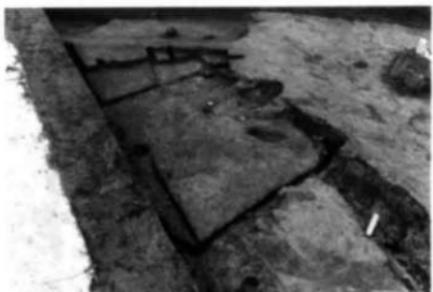


H-114

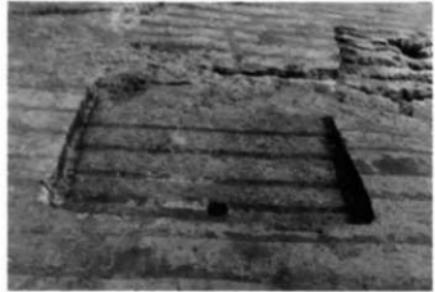
図版17 奈良・平安時代集落(1)



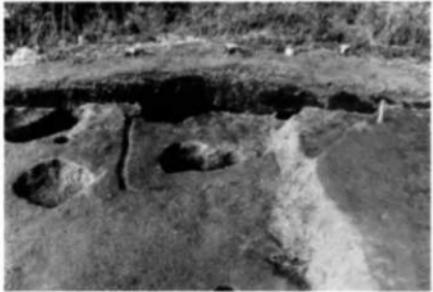
H-012



H-061



H-015



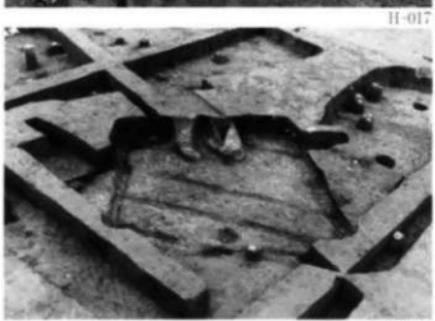
H-065



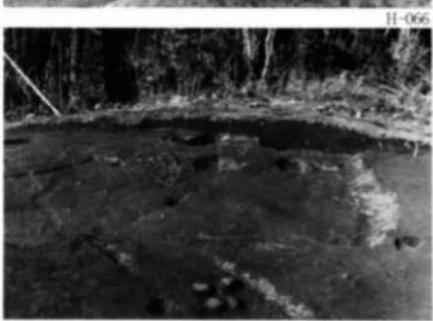
H-016



H-066



H-037



H-065 - 066 通景

図版18 奈良・平安時代集落 2)



H-079



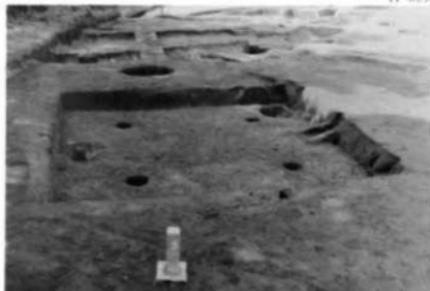
H-101



H-099



H-108



H-100



H-103



H-101 カマド出土状況



H-113

図版19 弥生時代集落の出土遺物1



H-021-1



H-022-1



H-022-10



H-022-6



H-022-3



H-022-7



H-022-12



H-022-4

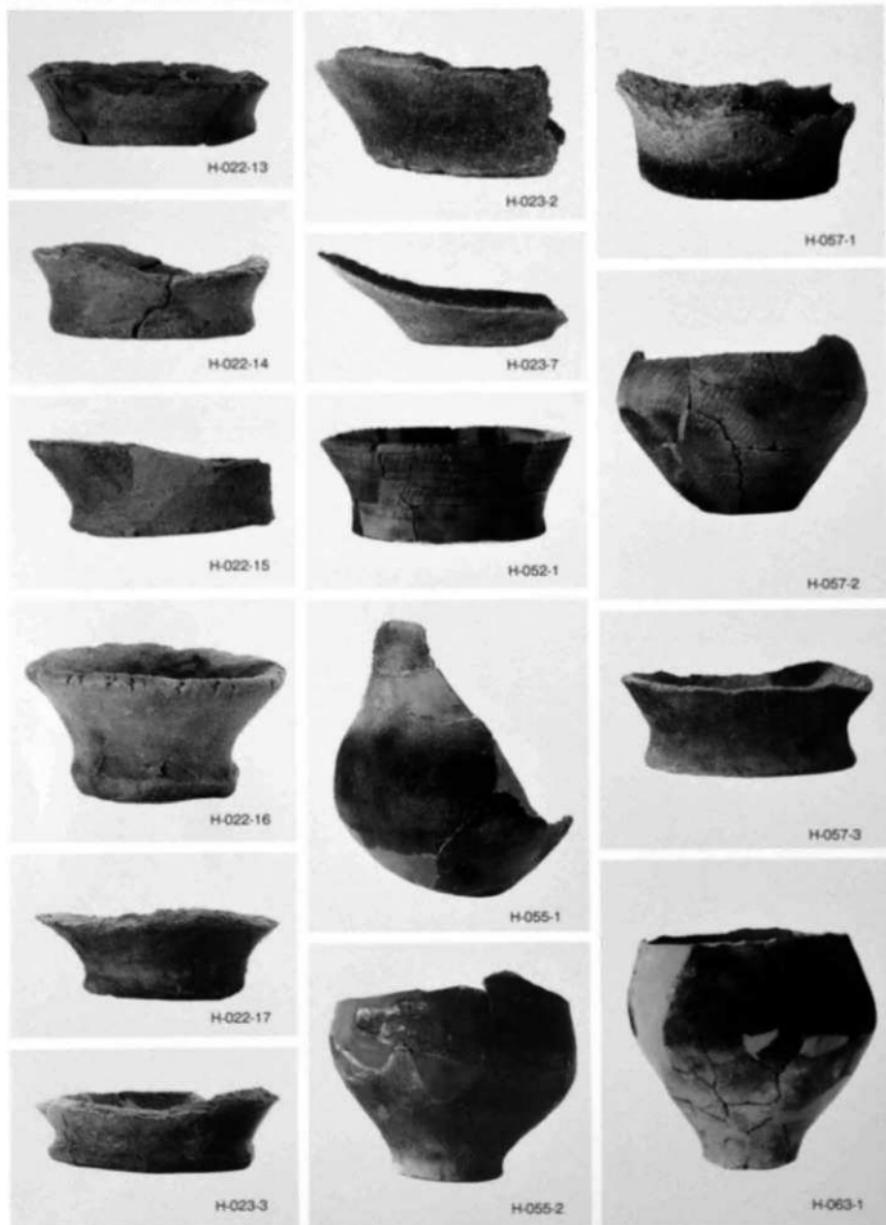


H-022-8



H-022-5

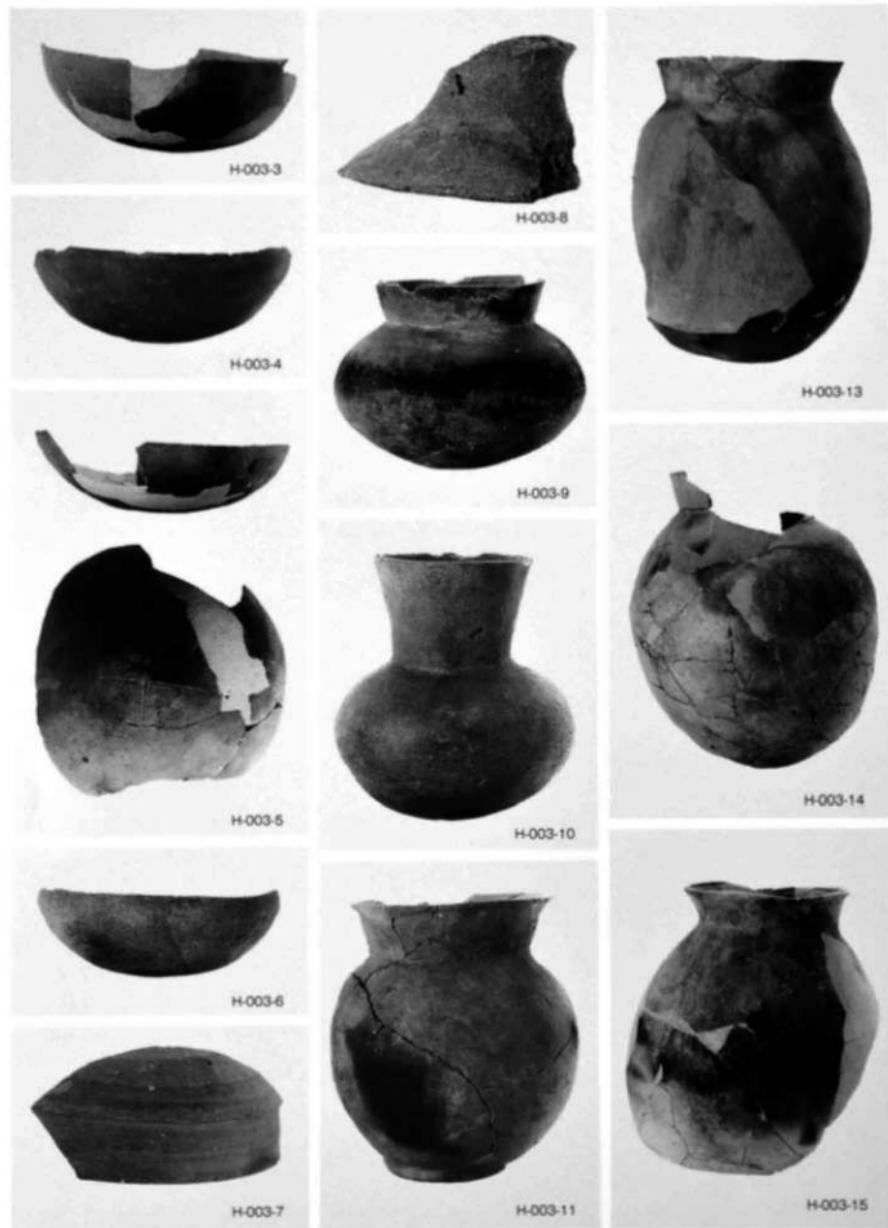
図版20 弥生時代集落の出土遺物(2)



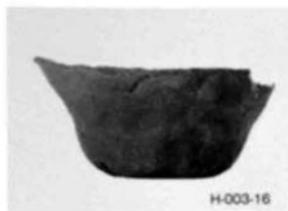
図版21 古墳時代集落の出土遺物(1)



図版22 古墳時代集落の出土遺物(2)



図版23 古墳時代集落の出土遺物(3)



H-003-16



H-004-5



H-005-1



H-004-1



H-004-7



H-005-2



H-004-2



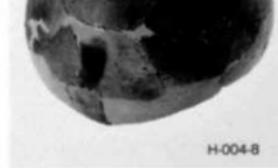
H-004-8



H-005-4



H-004-3



H-004-9



H-005-5



H-004-4

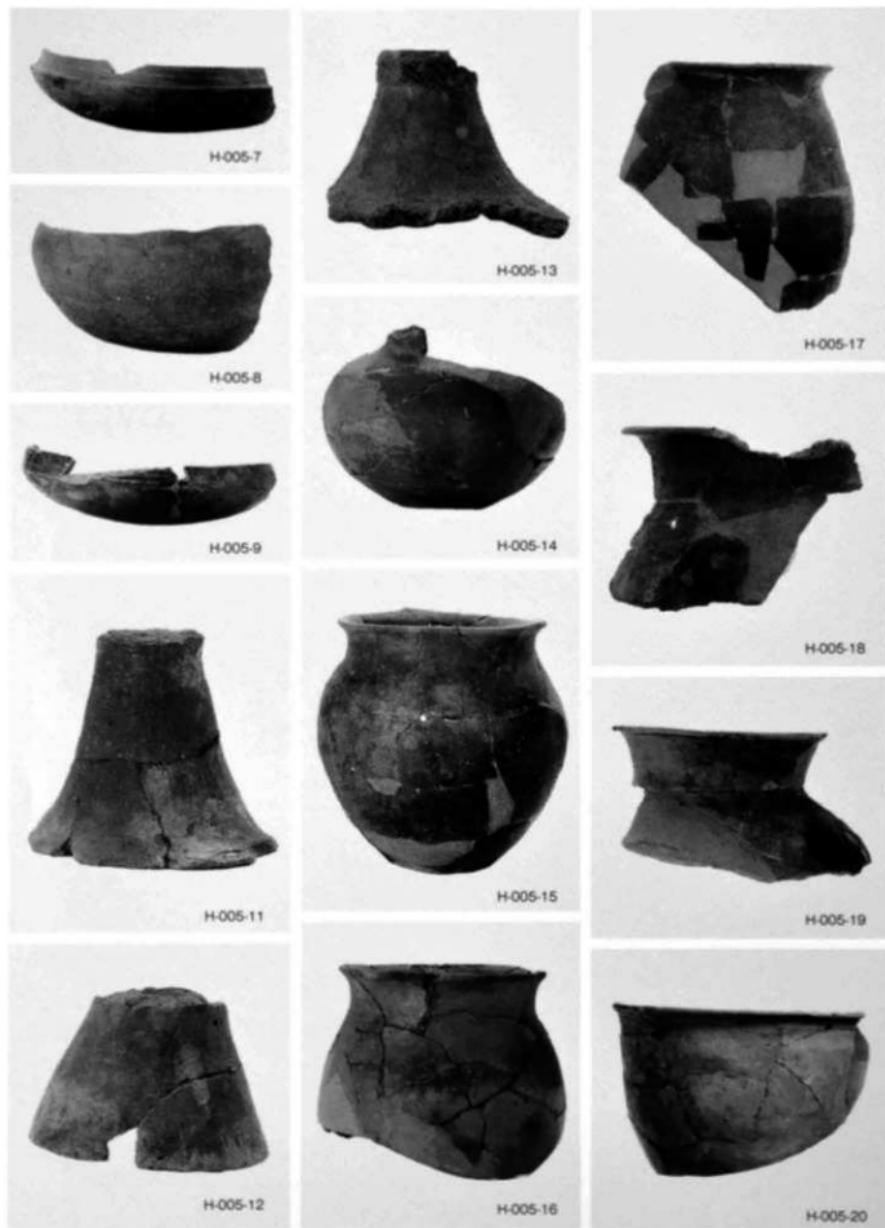


H-004-6

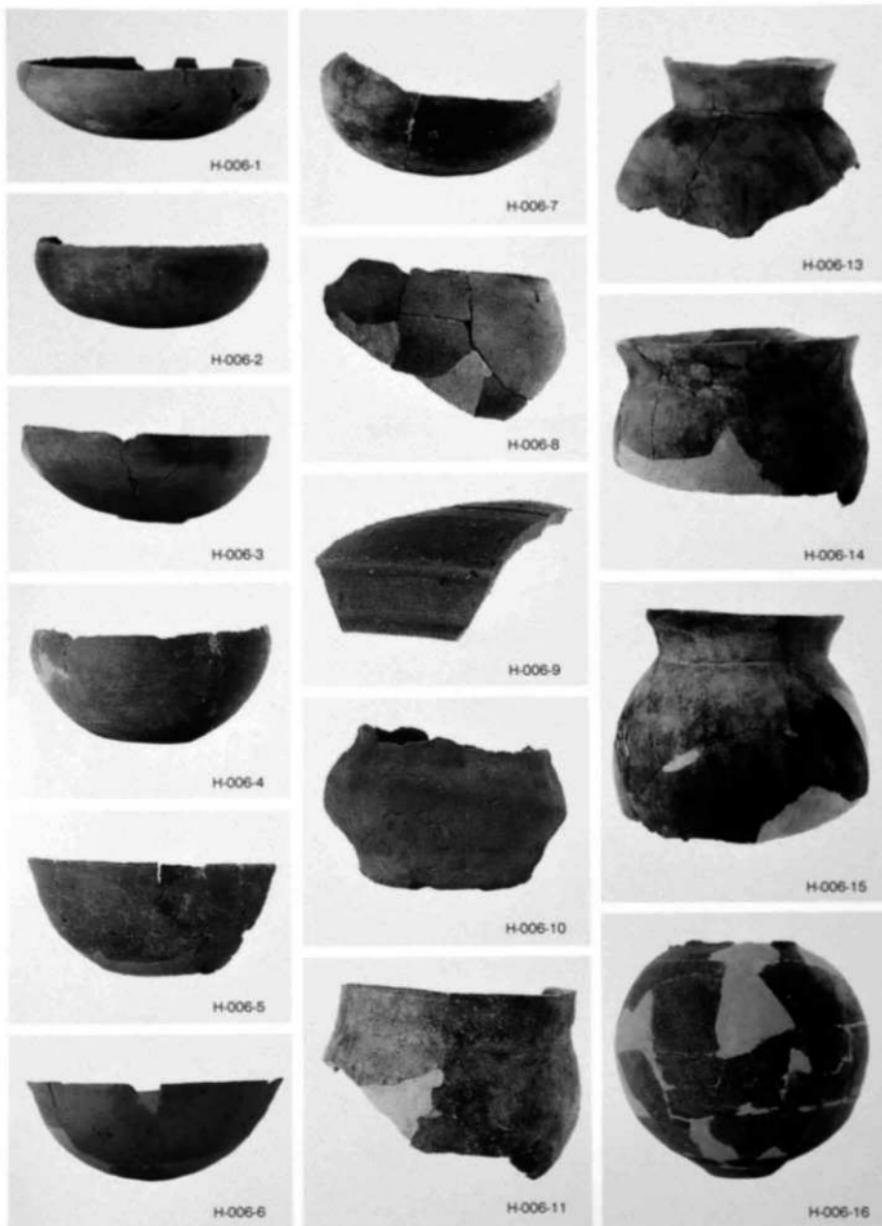


H-005-6

図版24 古墳時代集落の出土遺物(4)



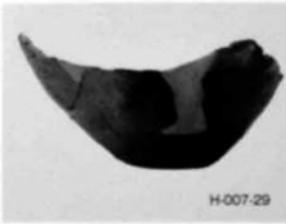
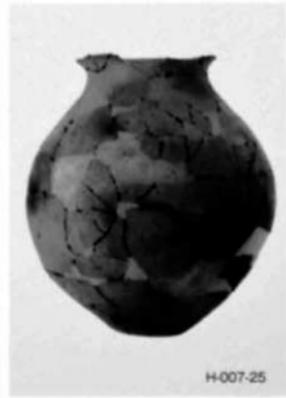
図版25 古墳時代集落の出土遺物(5)



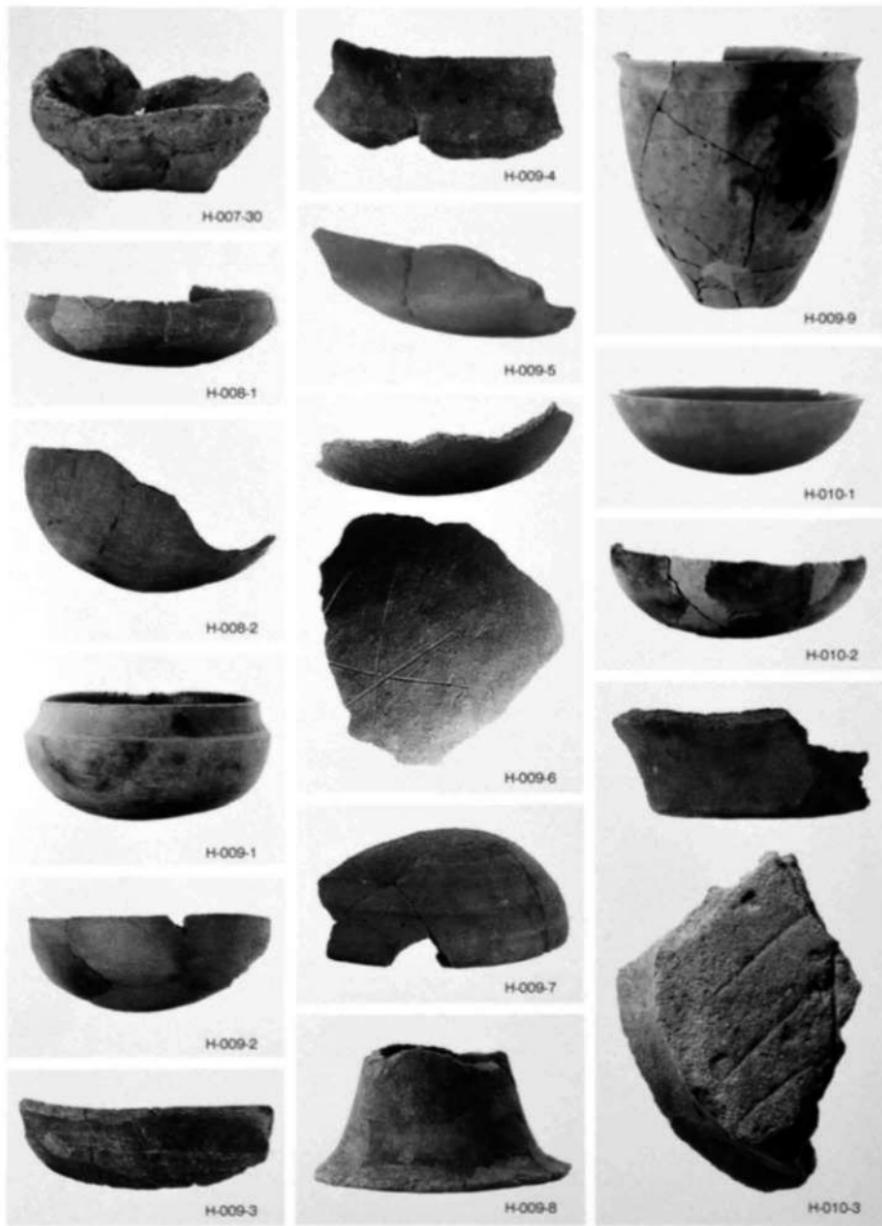
図版26 古墳時代集落の出土遺物 6



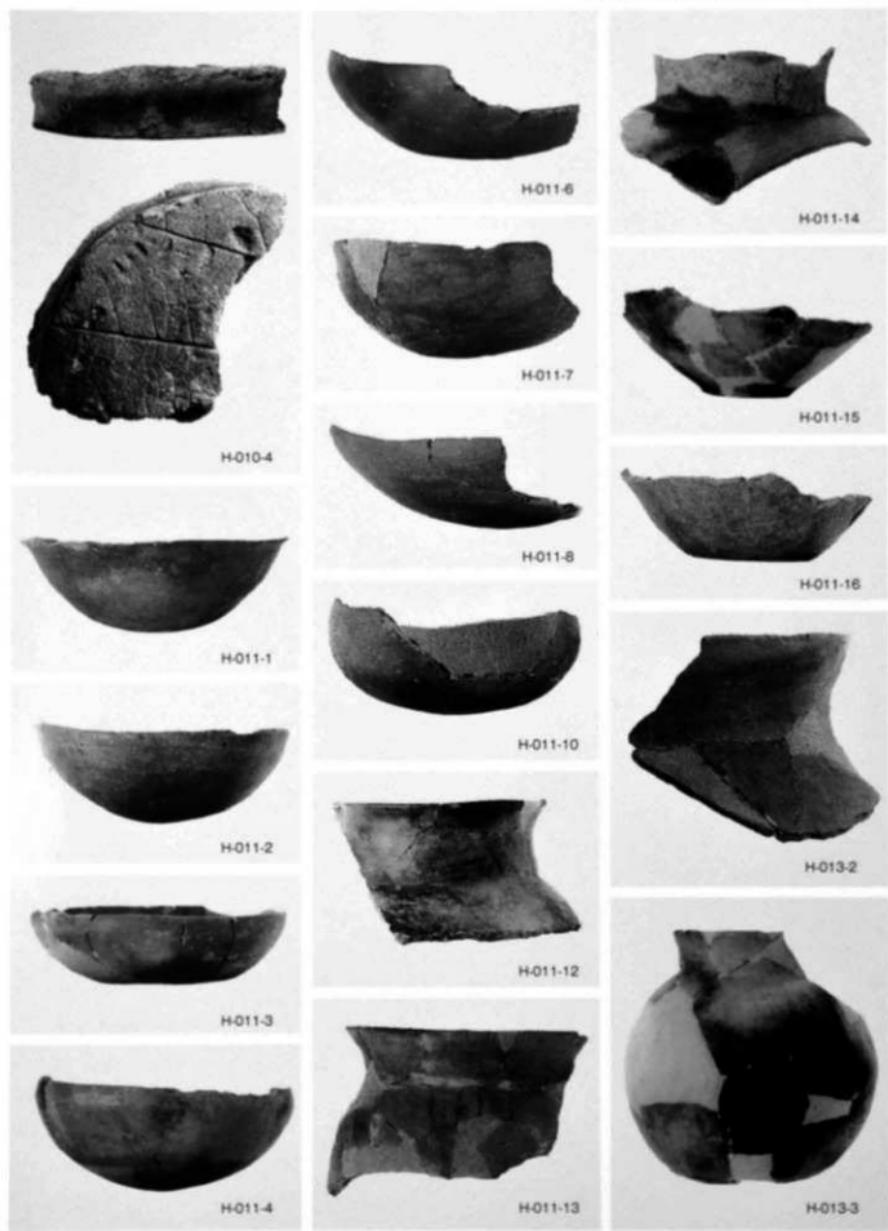
図版27 古墳時代集落の出土遺物(7)



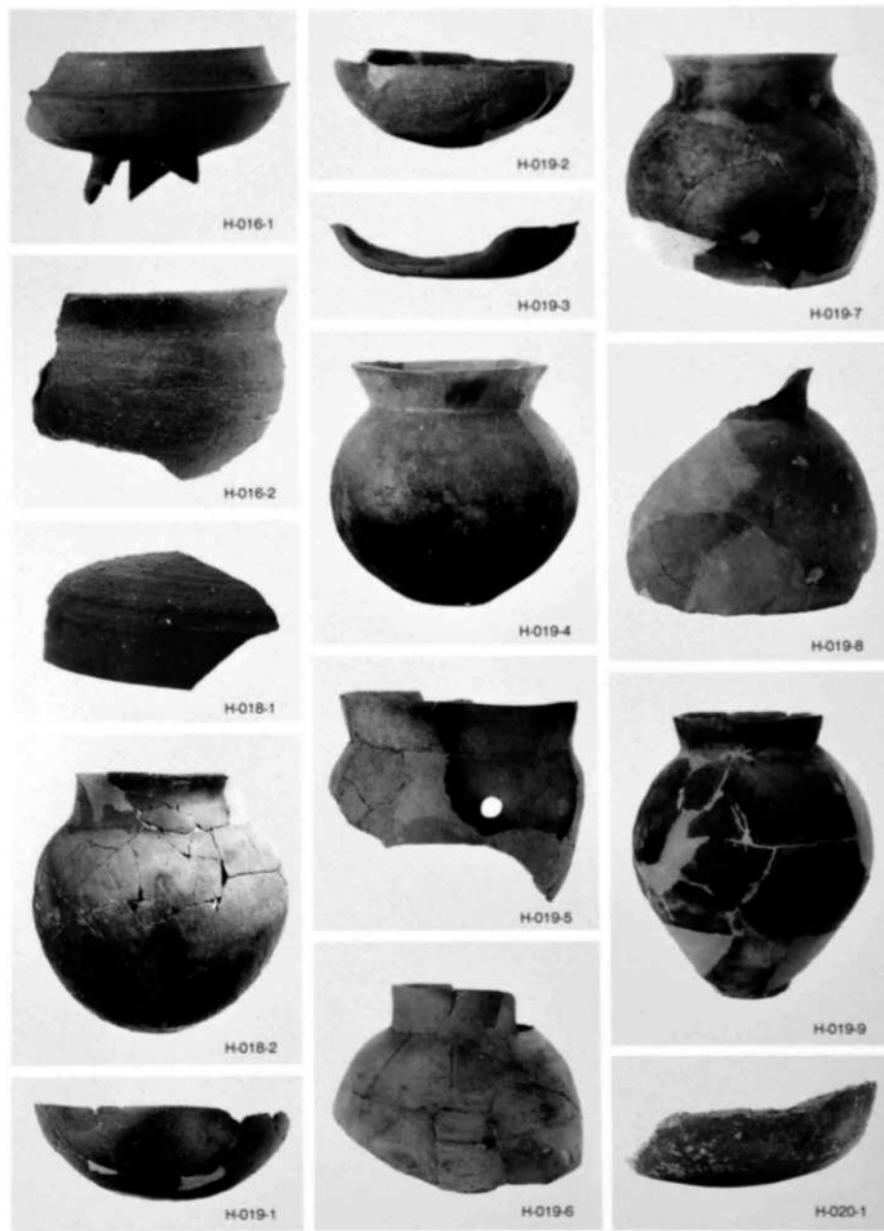
図版28 古墳時代集落の出土遺物(8)



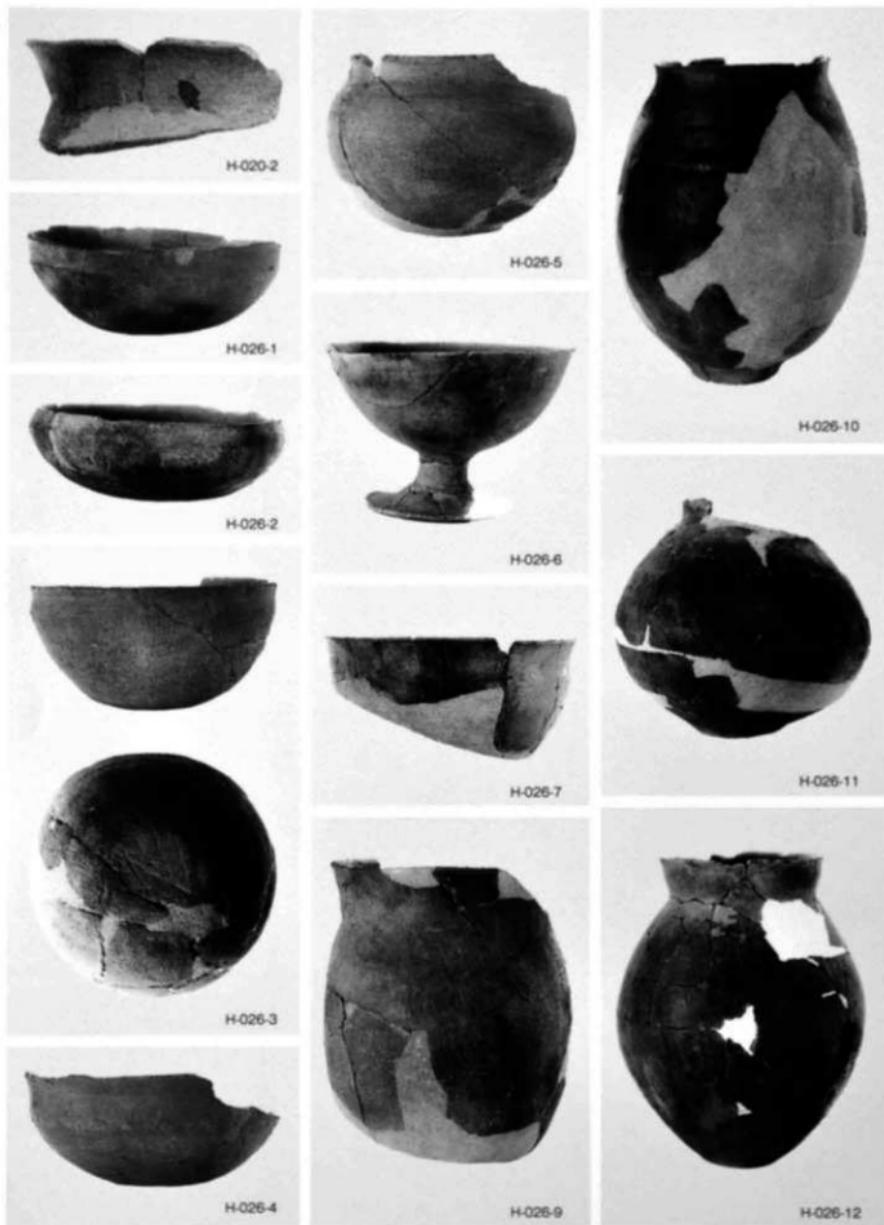
図版29 古墳時代集落の出土遺物(9)



図版30 古墳時代集落の出土遺物⑩



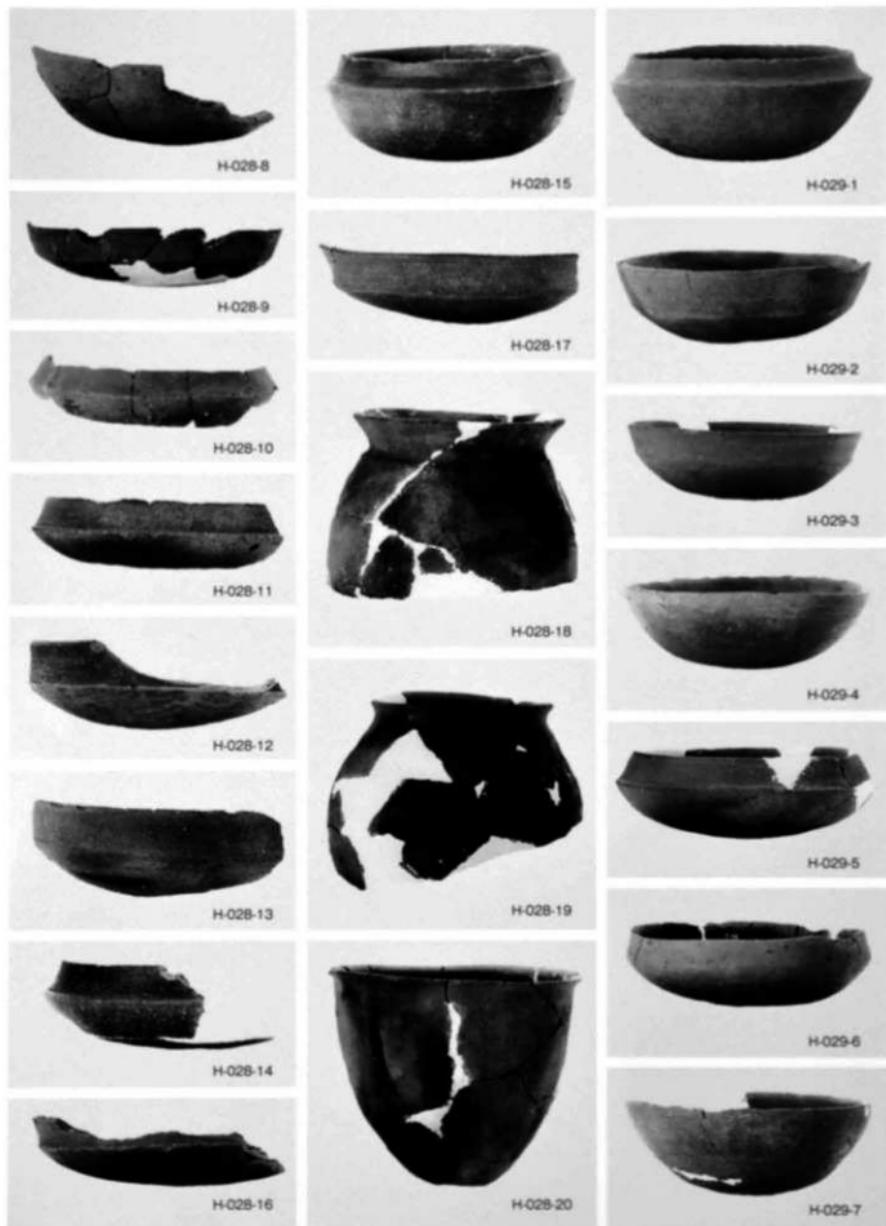
図版31 古墳時代集落の出土遺物(1)



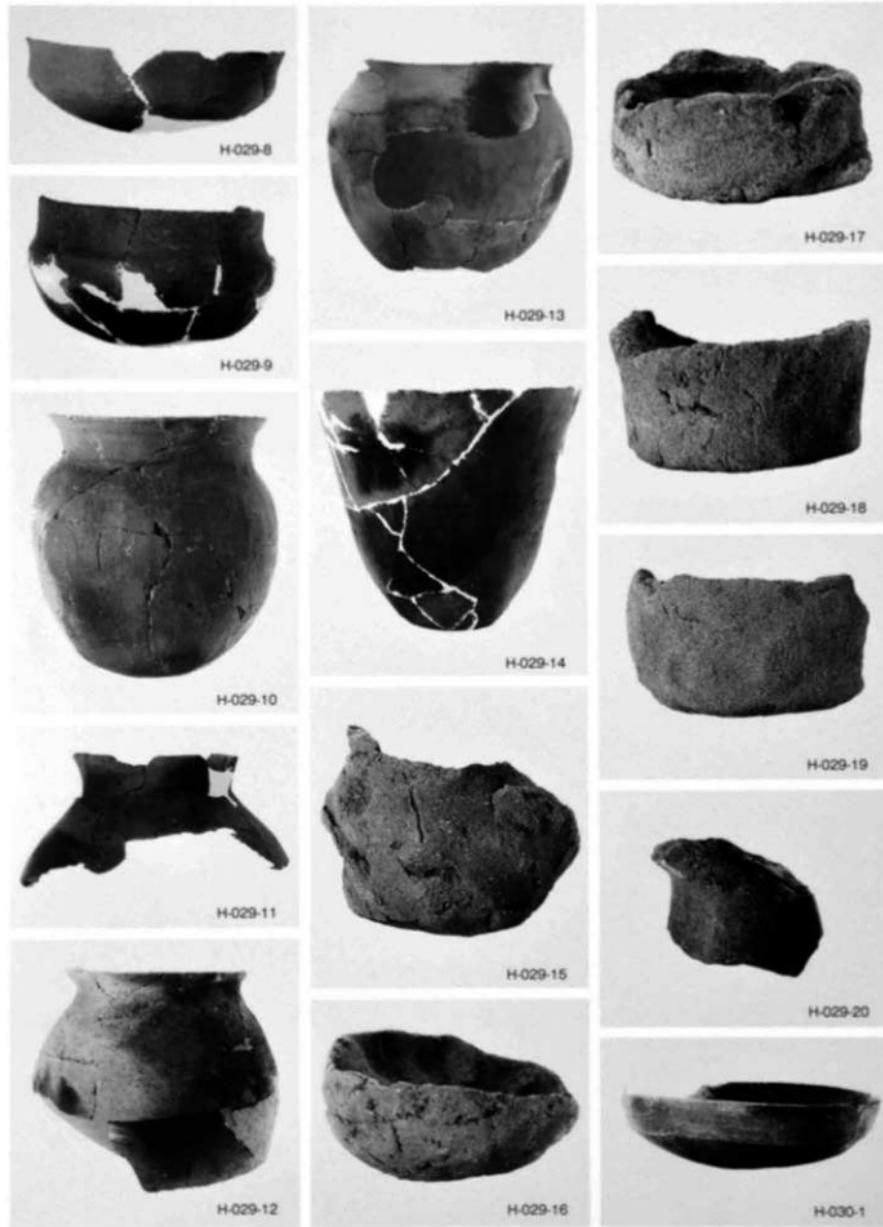
図版32 古墳時代集落の出土遺物⑫



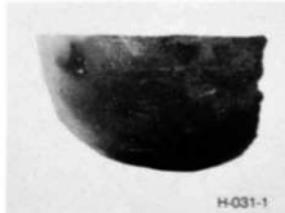
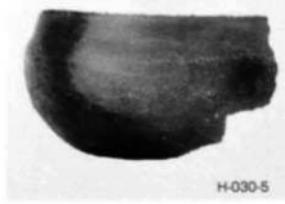
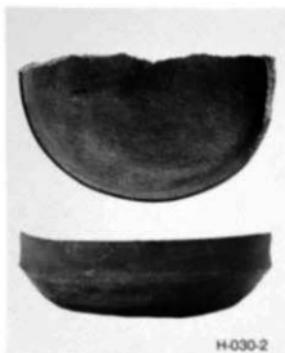
図版33 古墳時代集落の出土遺物13



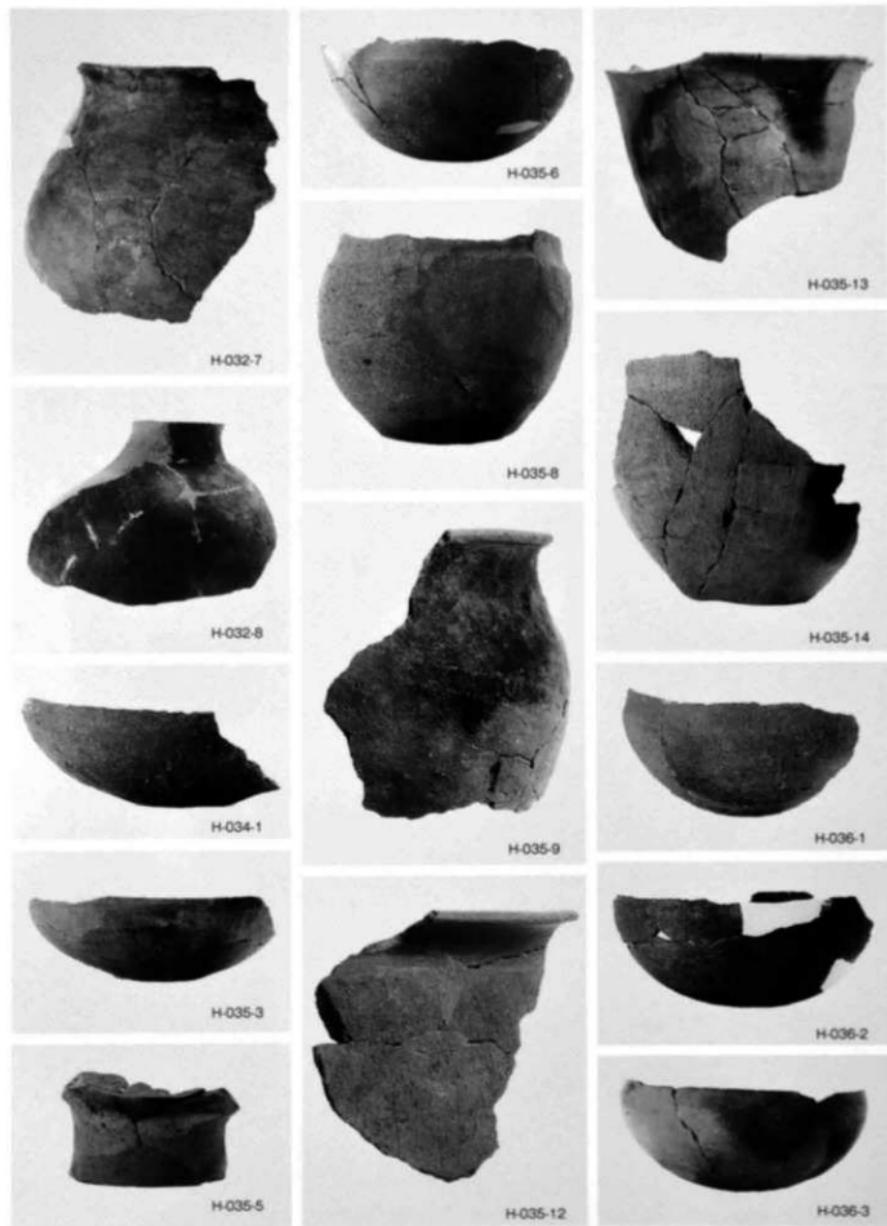
図版34 古墳時代集落の出土遺物(14)



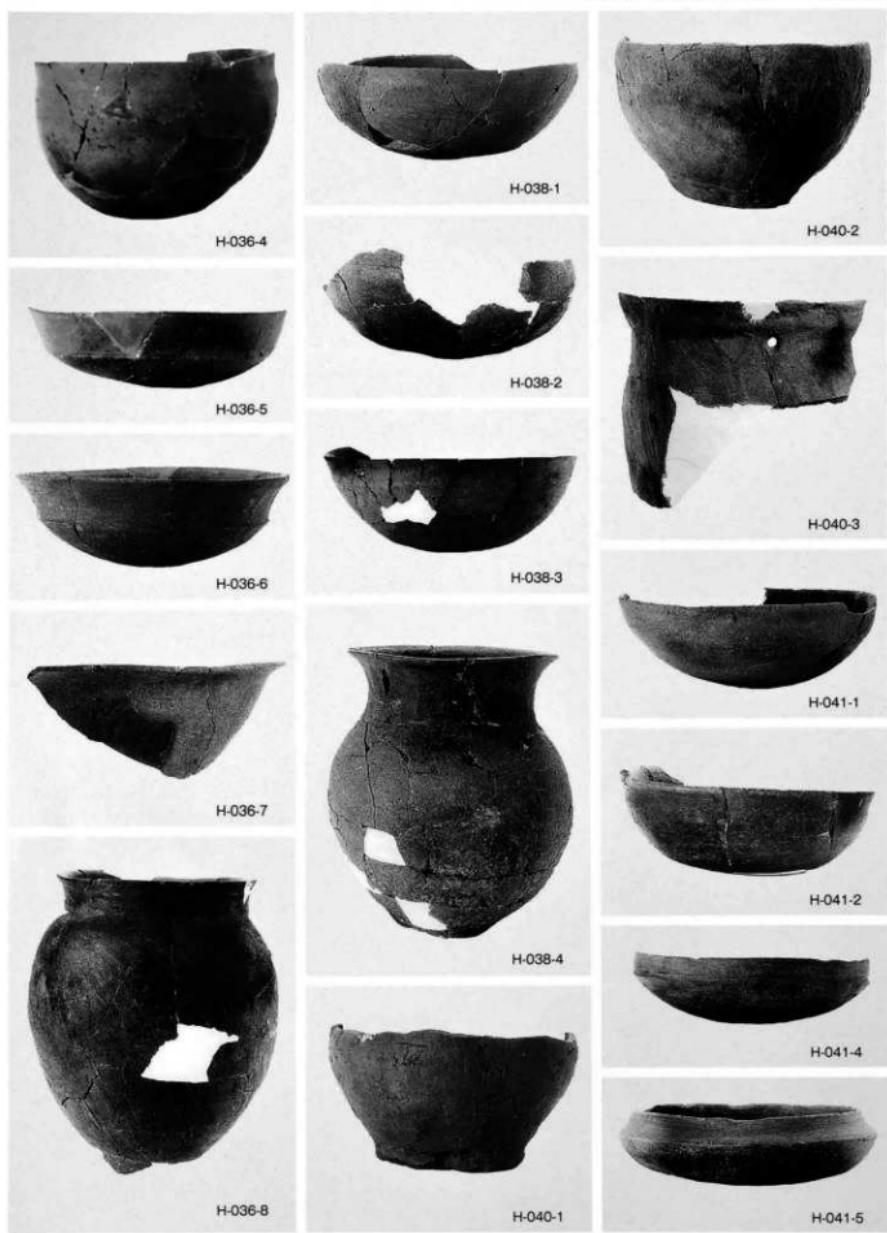
図版35 古墳時代集落の出土遺物15



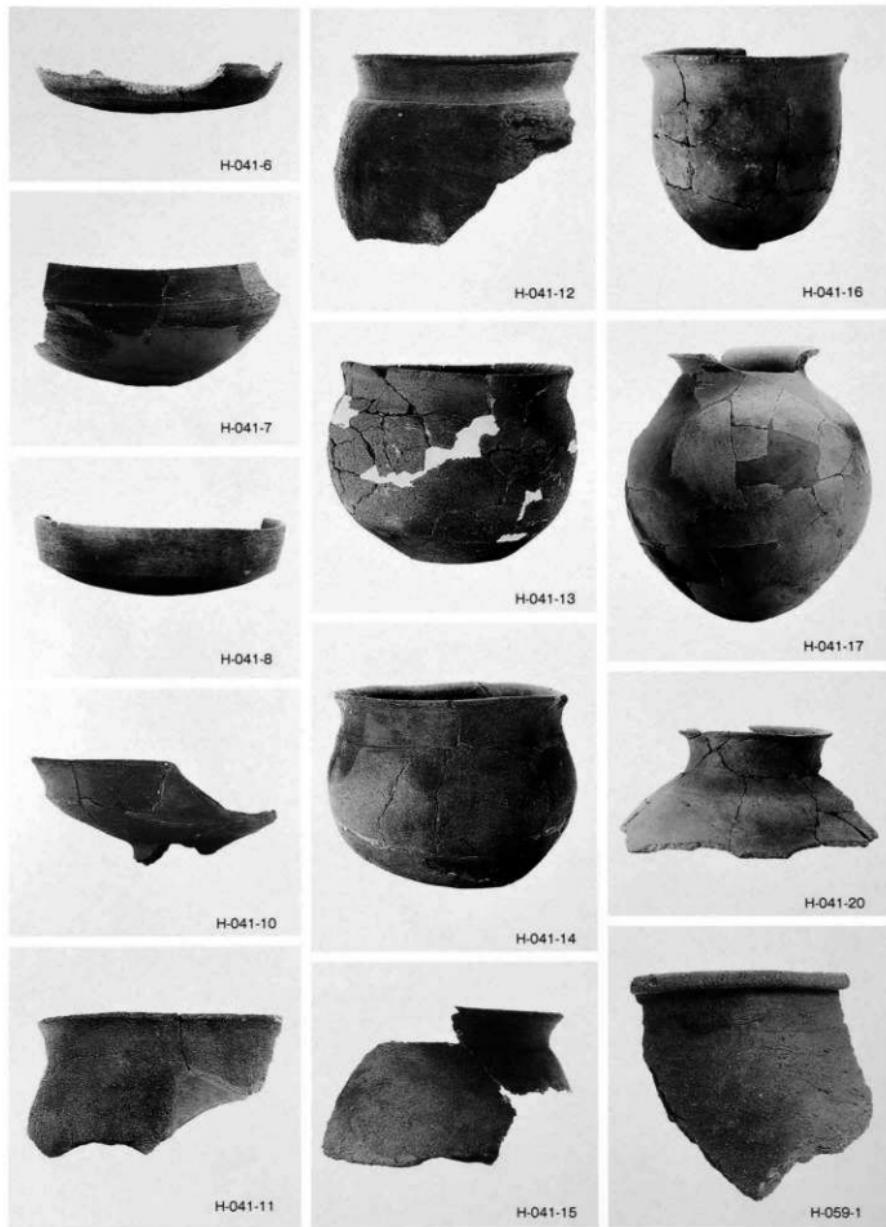
図版36 古墳時代集落の出土遺物<sup>16</sup>



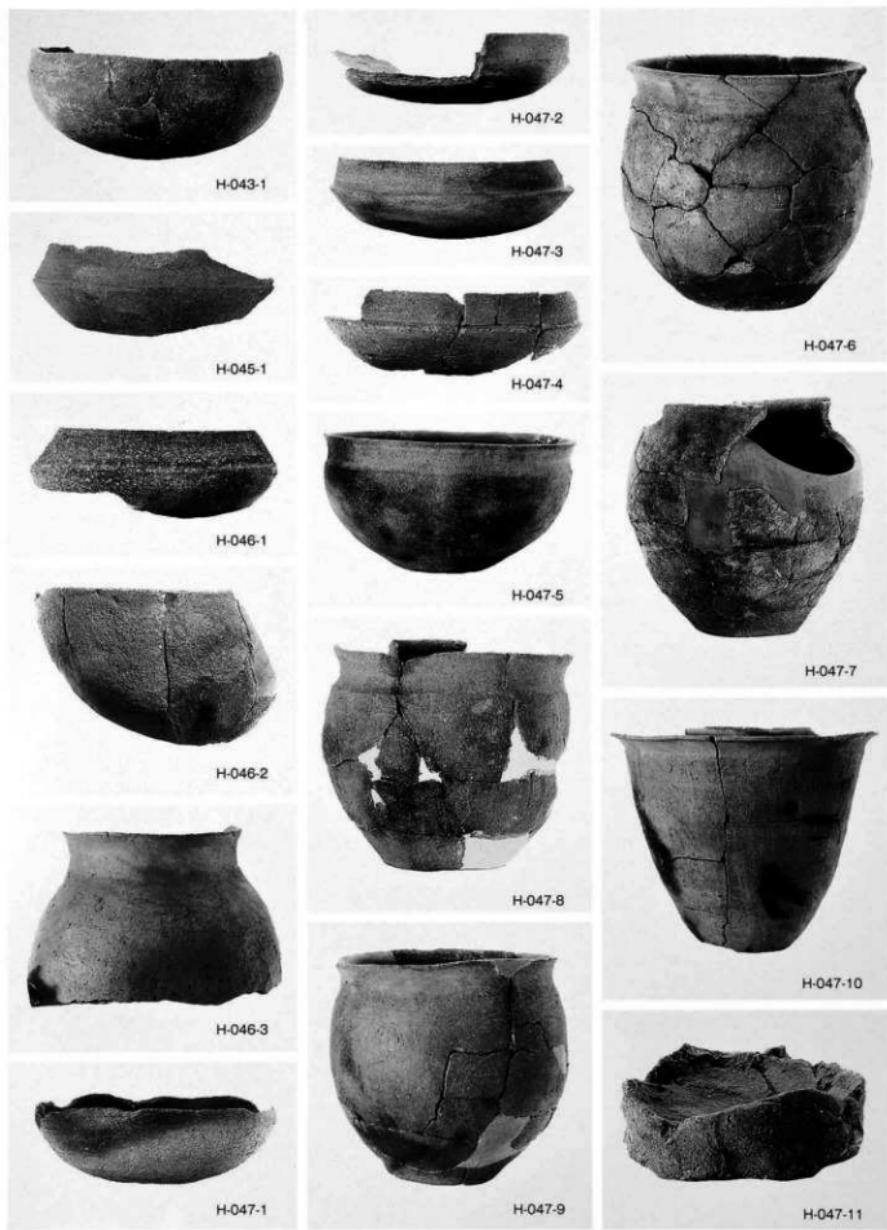
図版37 古墳時代集落の出土遺物(1)



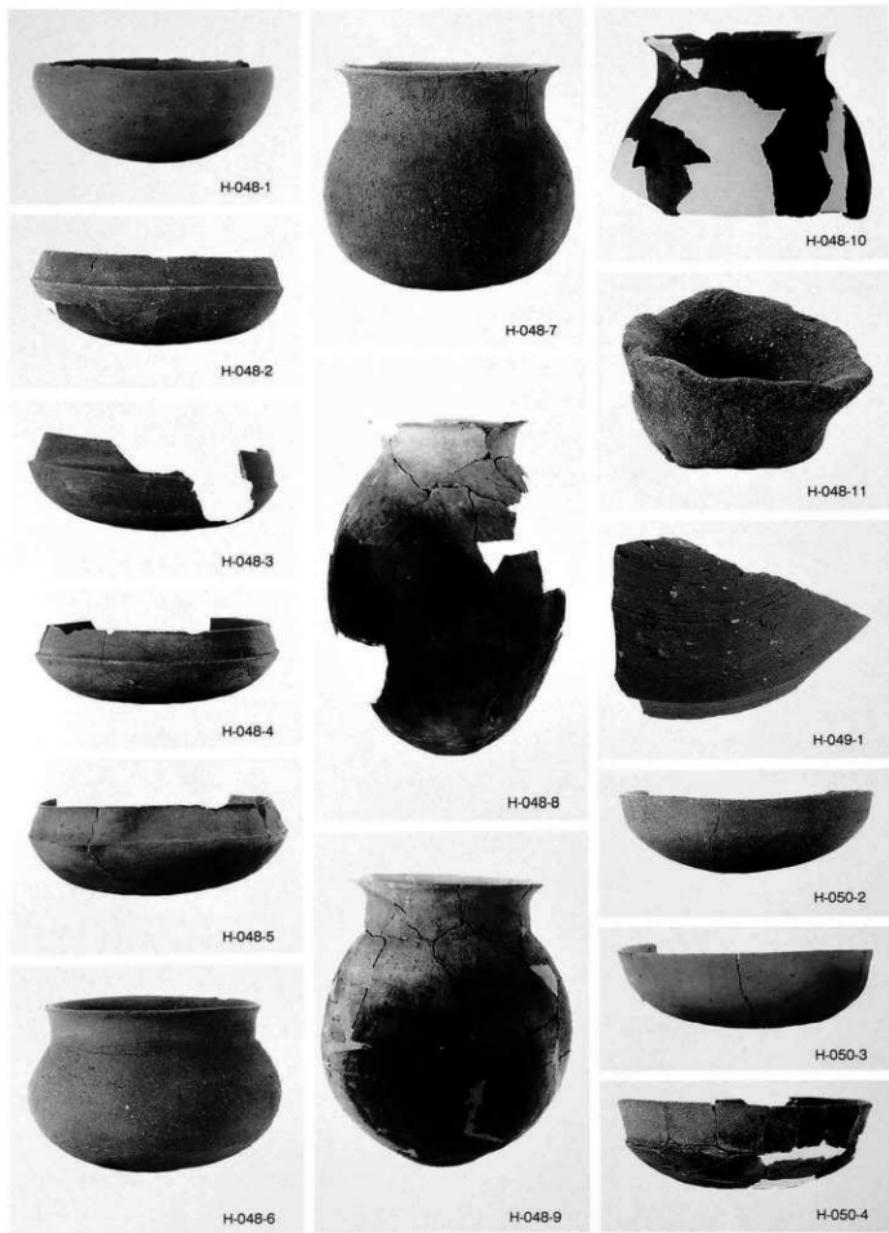
図版38 古墳時代集落の出土遺物(18)



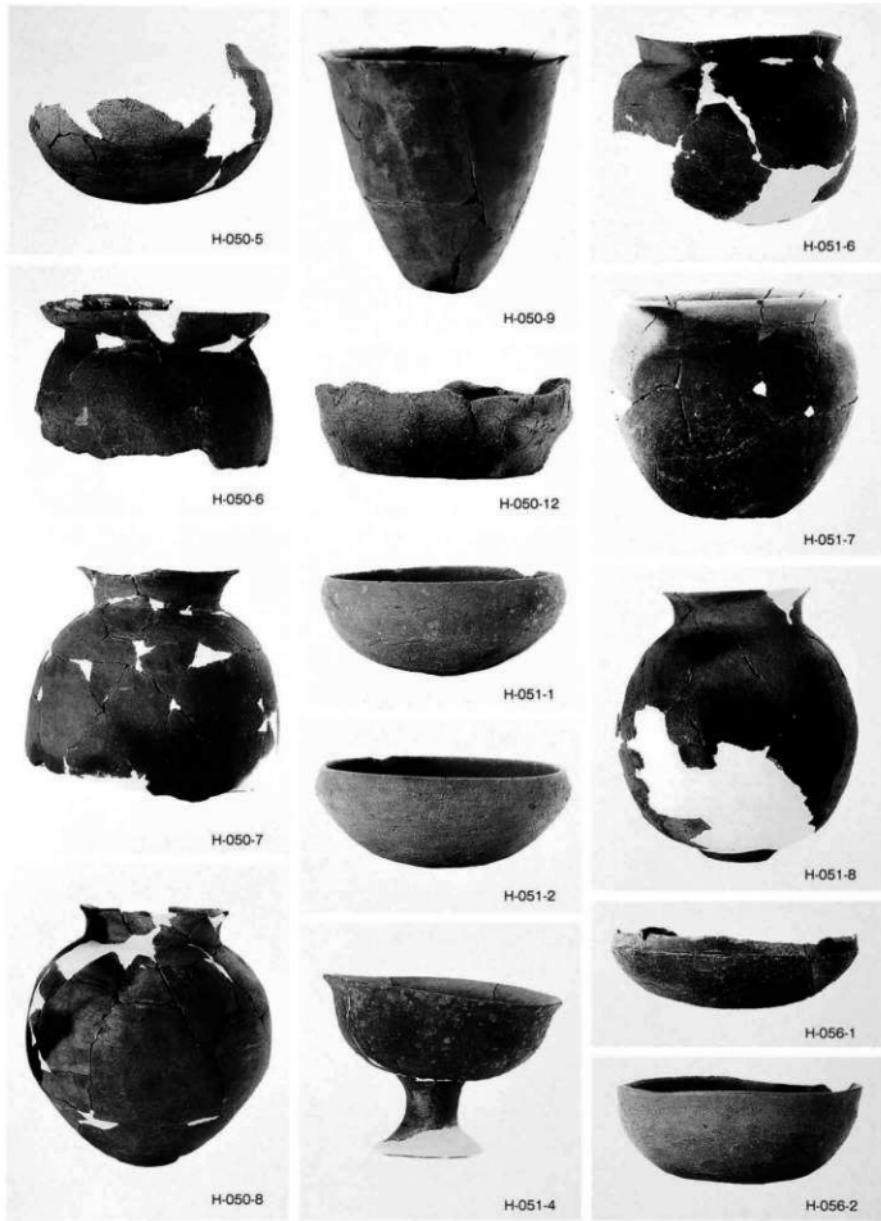
図版39 古墳時代集落の出土遺物(19)



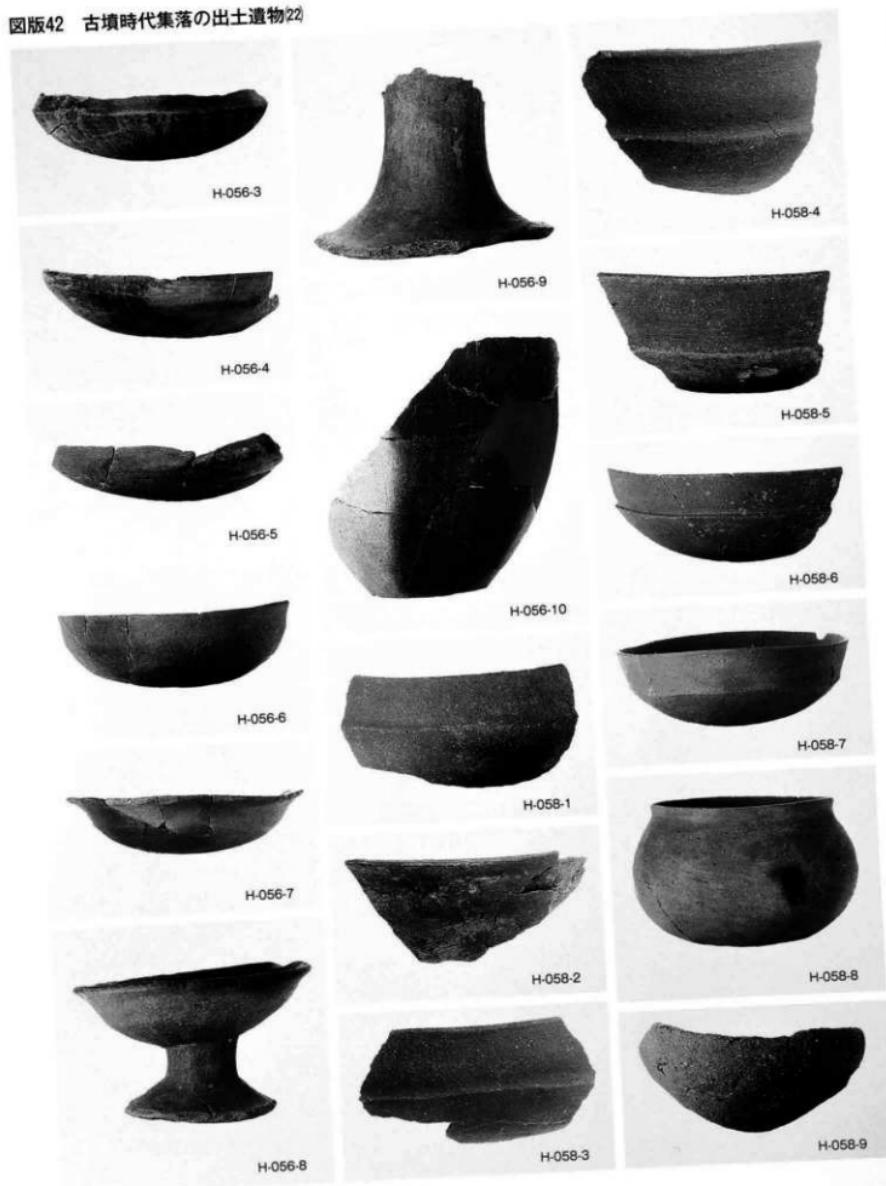
図版40 古墳時代集落の出土遺物20



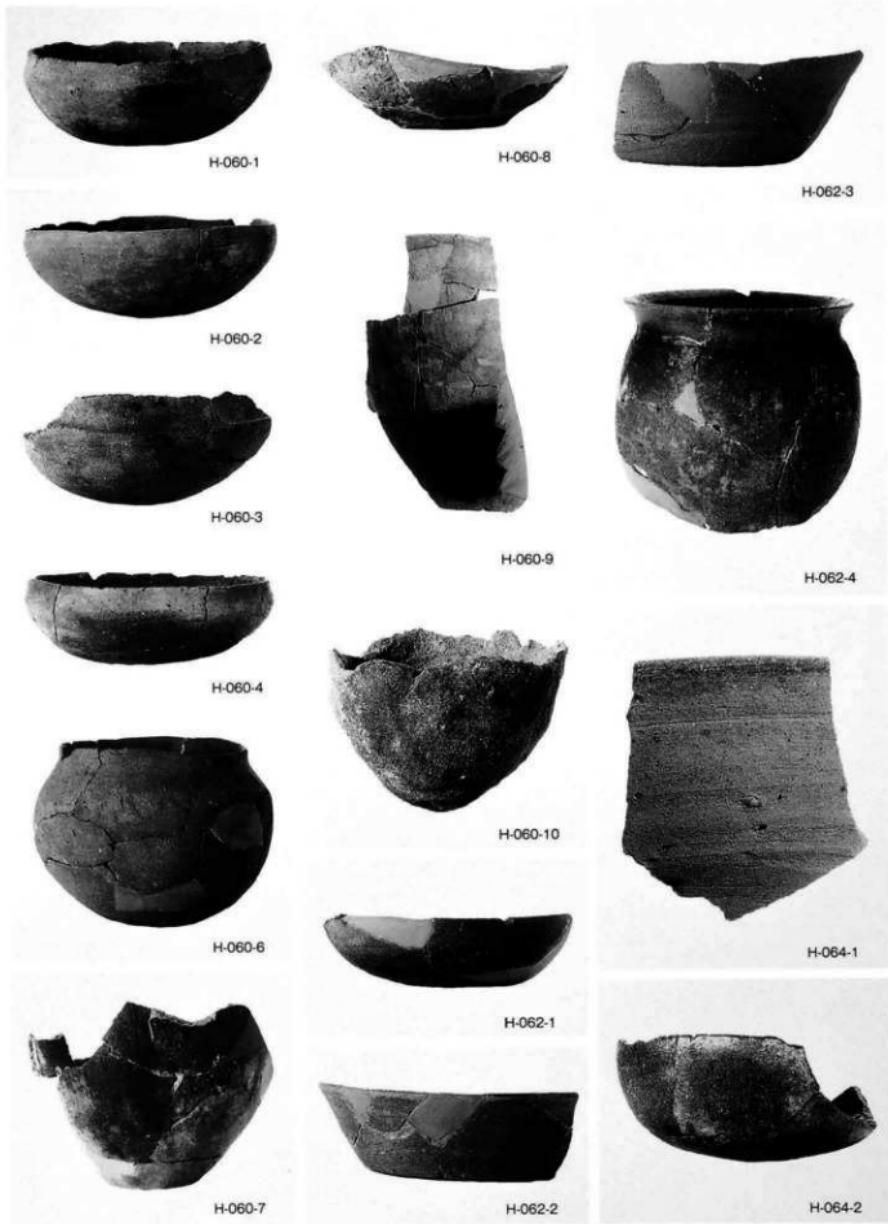
図版41 古墳時代集落の出土遺物<sup>21)</sup>



図版42 古墳時代集落の出土遺物22



図版43 古墳時代集落の出土遺物<sup>[23]</sup>



図版44 古墳時代集落の出土遺物24



H-067-1



H-067-8



H-067-2



H-067-9



H-067-14



H-067-3



H-067-10



H-067-15



H-067-4



H-067-11



H-067-16



H-067-5



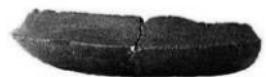
H-067-12



H-067-6



H-067-13



H-067-7



H-067-17

図版45 古墳時代集落の出土遺物<sup>25</sup>



H-067-18



H-069-1



H-072-2



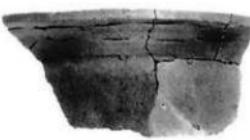
H-069-2



H-072-3



H-067-19



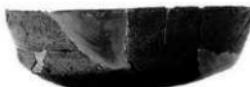
H-069-3



H-072-4



H-067-20



H-071-1



H-076-1



H-067-21



H-071-2



H-076-2



H-072-1

図版46 古墳時代集落の出土遺物26



H-077-1



H-078-1



H-078-9



H-077-2



H-078-2



H-078-10



H-077-3



H-078-3



H-078-11



H-077-4



H-078-4



H-078-12



H-077-5



H-078-6

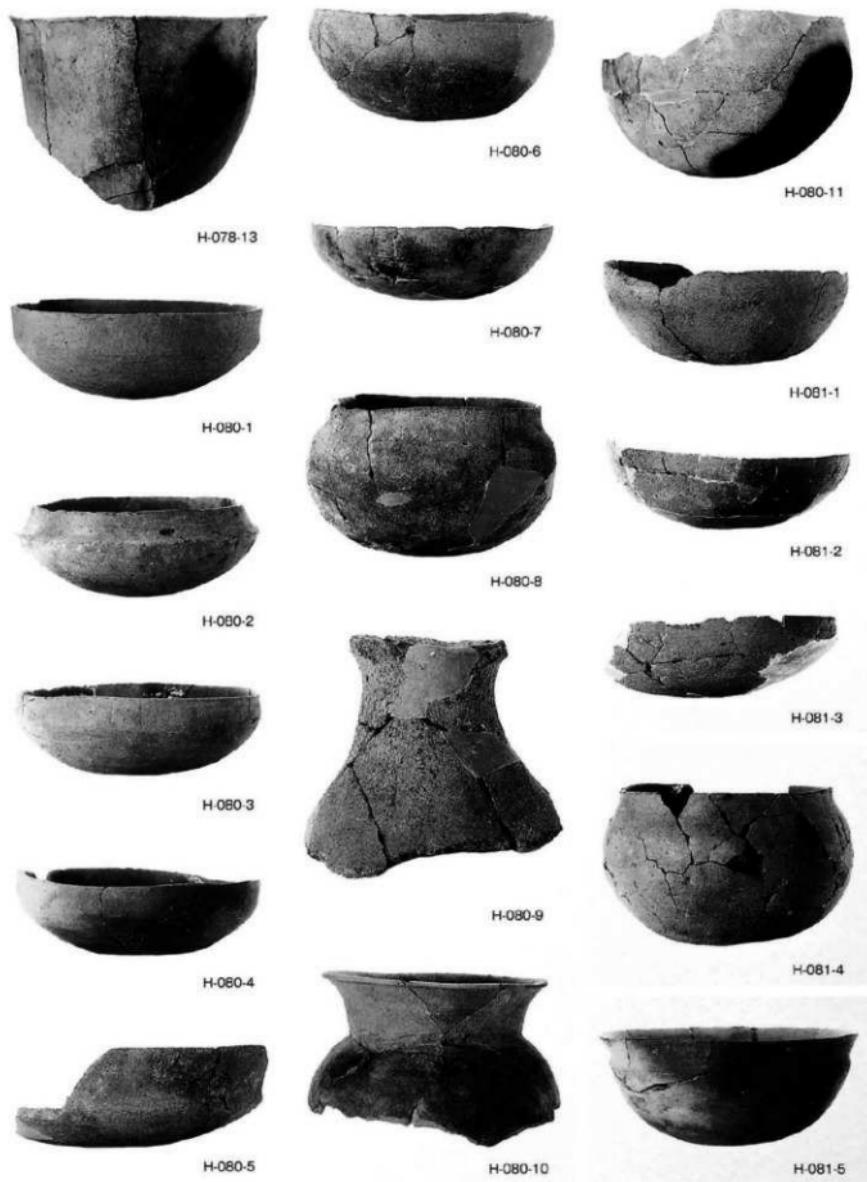


H-078-13



H-078-7

図版47 古墳時代集落の出土遺物<sup>27</sup>



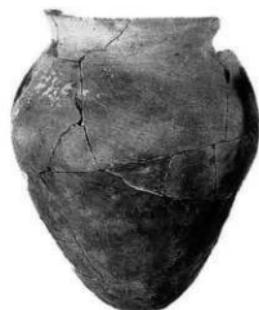
図版48 古墳時代集落の出土遺物<sup>28</sup>



H-081-6



H-081-11



H-082-6



H-081-7



H-082-1



H-083-1



H-082-2



H-083-2



H-081-8



H-082-3



H-083-3



H-081-9



H-082-4



H-083-4



H-082-5

図版49 古墳時代集落の出土遺物<sup>29</sup>



H-083-5



H-083-9



H-083-12



H-083-6



H-085-1



H-083-7



H-083-10



H-086-1



H-083-8



H-083-11



H-086-2



H-086-3

図版50 古墳時代集落の出土遺物(30)



H-088-4

H-089-1



H-086-4

H-089-2

H-086-5

H-088-5

H-089-3



H-086-6

H-088-7

H-089-4



H-088-1

H-088-8

H-089-5



H-088-2

H-088-9

H-090-1



H-088-3

H-088-9

H-090-2

図版51 古墳時代集落の出土遺物(3)



H-091-1



H-092-1



H-092-7



H-091-2



H-092-2



H-091-3



H-092-3



H-092-8



H-091-4



H-092-4



H-091-5



H-092-5



H-092-6



H-092-9

図版52 古墳時代集落の出土遺物<sup>32</sup>



H-092-10



H-093-5



H-093-11



H-093-6



H-094-1



H-093-1



H-093-7



H-094-2



H-093-2



H-093-8



H-093-3



H-093-9



H-095-1



H-093-4

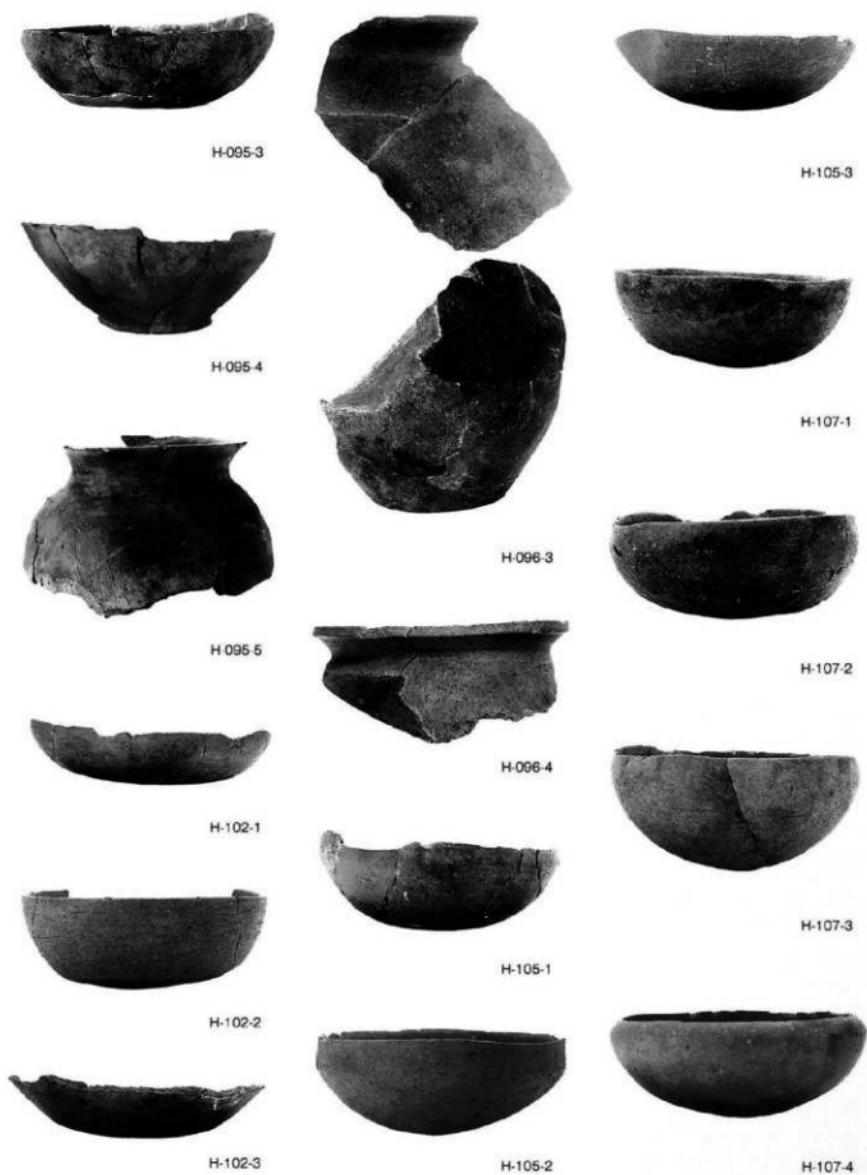


H-093-10



H-095-2

図版53 古墳時代集落の出土遺物<sup>33</sup>



図版54 古墳時代集落の出土遺物34



H-110-1



H-114-1



H-110-2



H-114-2



H-114-7



H-110-4



H-114-3



H-114-4



H-114-8



H-110-5



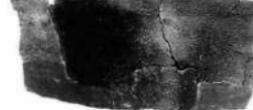
H-114-5



H-114-6



H-111-1



H-114-9

図版55 奈良・平安時代集落の出土遺物(1)



H-012-1



H-012-6



H-017-5



H-017-6



H-015-1



H-012-3



H-017-1



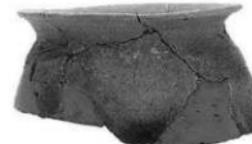
H-037-1



H-012-4



H-017-2



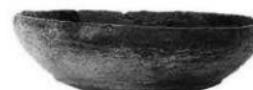
H-037-2



H-012-5



H-017-3

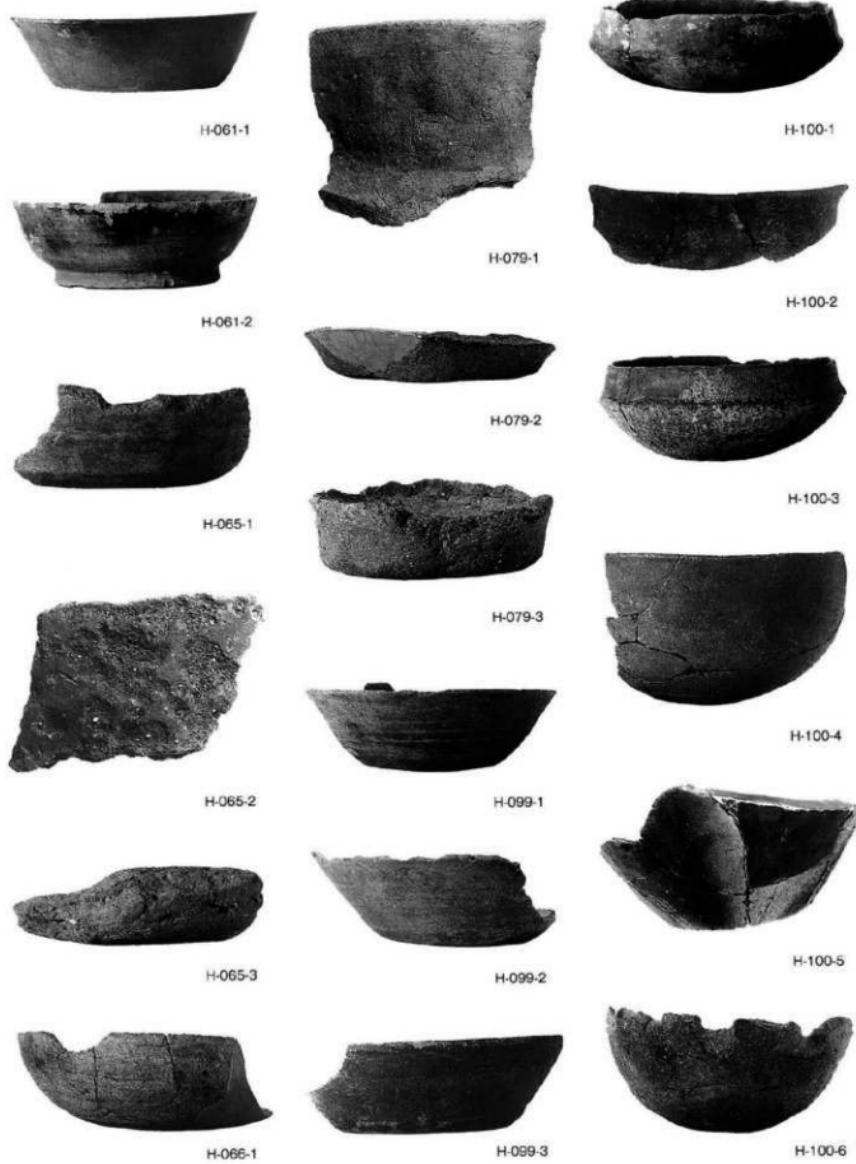


H-017-4



H-037-3

図版56 奈良・平安時代集落の出土遺物(2)



図版57 奈良・平安時代集落の出土遺物(3)



H-101-1



H-101-2



H-101-7



H-103-2



H-101-3



H-101-9



H-103-3



H-101-5



H-101-10



H-108-1



H-101-6

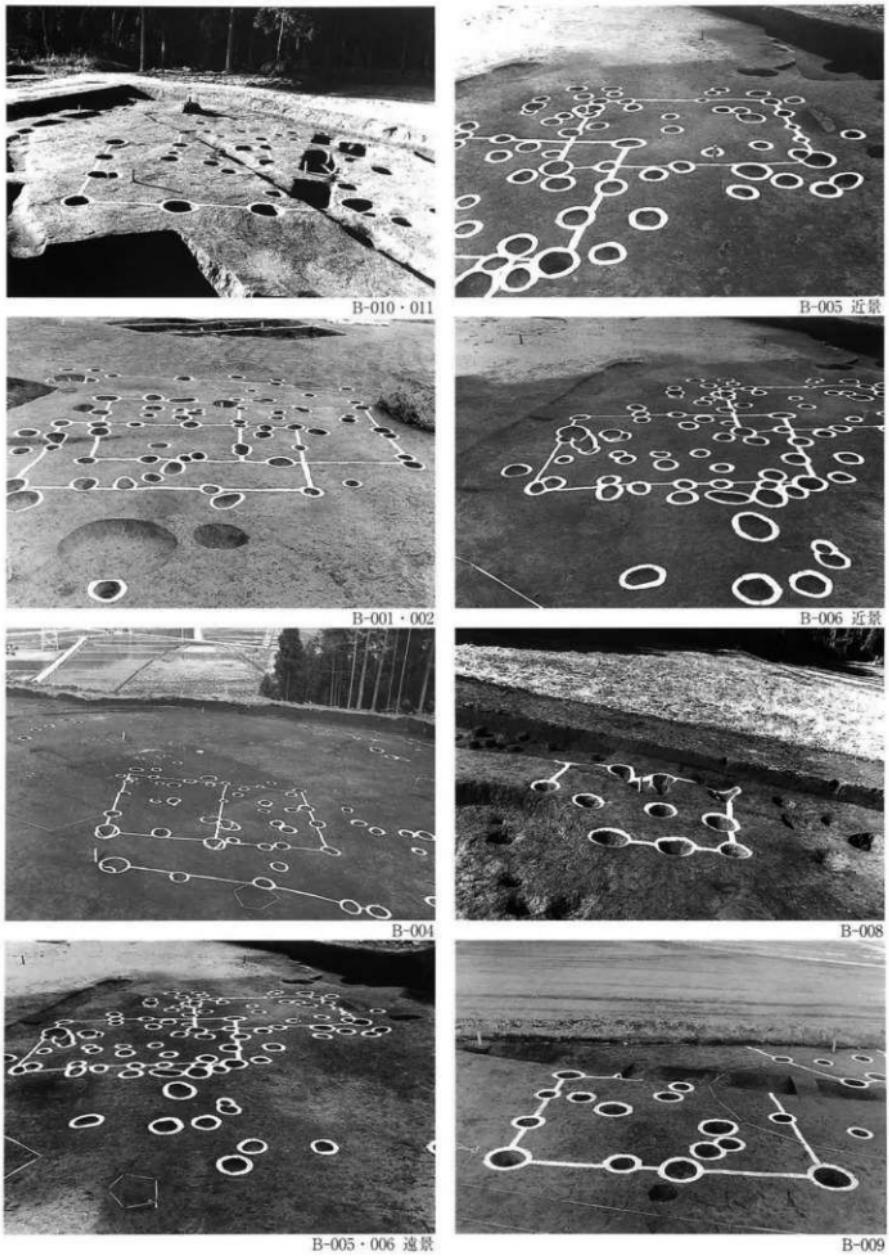


H-103-1



H-108-2

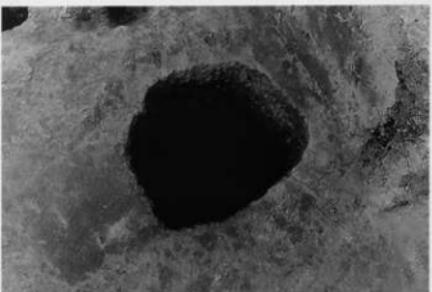
図版58 奈良・平安時代、中世集落



図版59 繩文、古墳時代集落



D-004



D-188



D-005



D-200



D-025



D-209



D-051



D-193 - 194

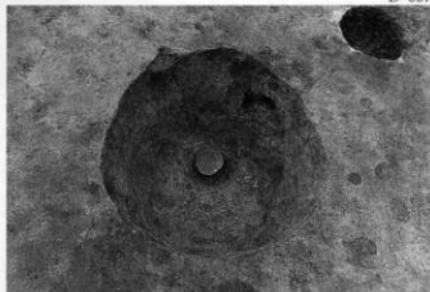
図版60 奈良・平安時代集落および中世集落(1)



D-007



D-024 宅地



D-017



D-042



D-027



D-043



D-024 遺物出土状況

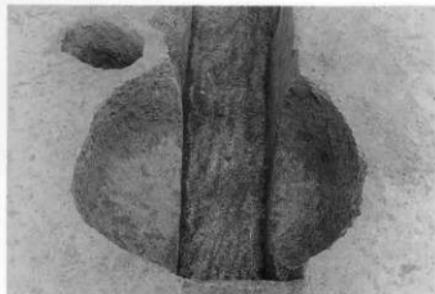


D-078

図版61 中世集落(2)



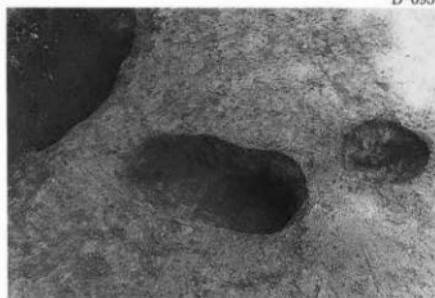
図版62 中世集落(3)



D-095



D-102



D-096



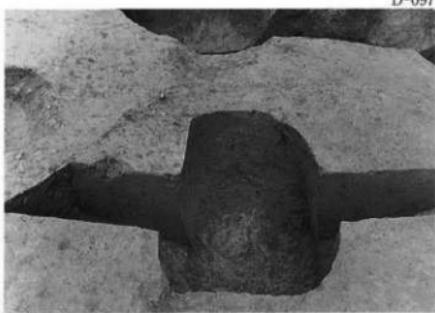
D-103



D-097



D-104

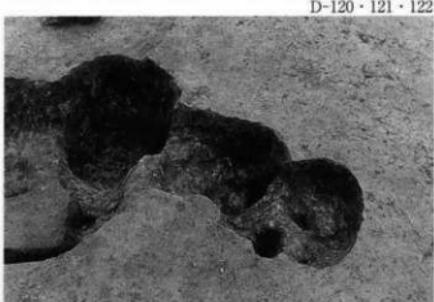
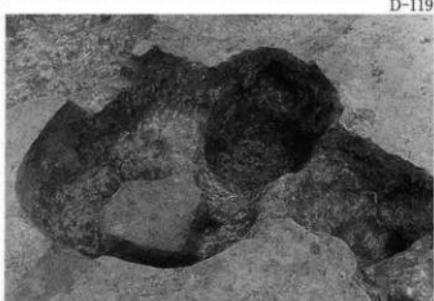
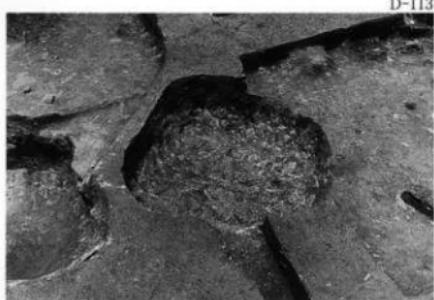
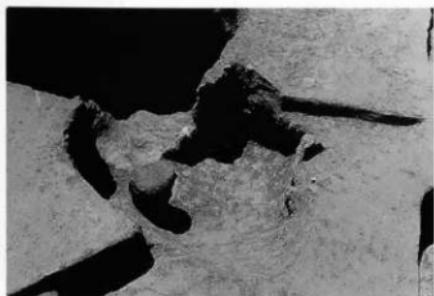


D-100

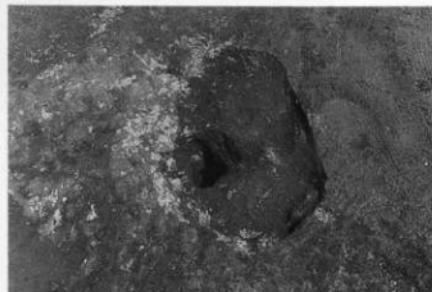


D-112

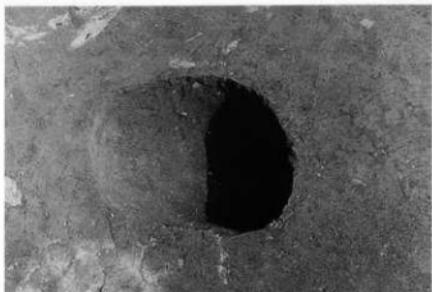
図版63 中世集落(4)



図版64 中世集落(5)



D-136



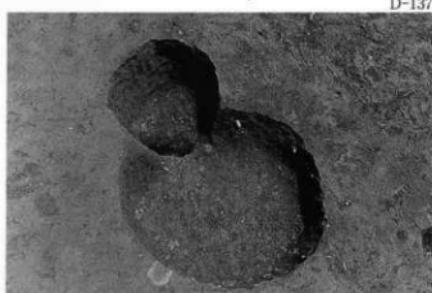
D-145



D-137



D-155・158



D-138・139



D-156

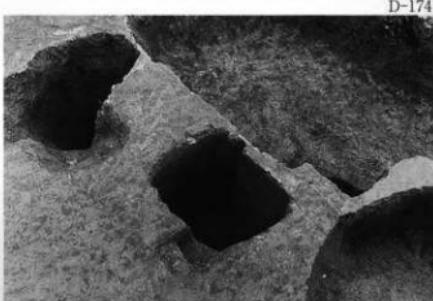
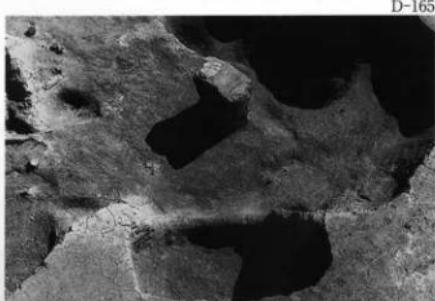
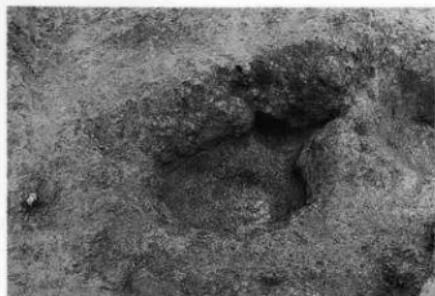


D-140

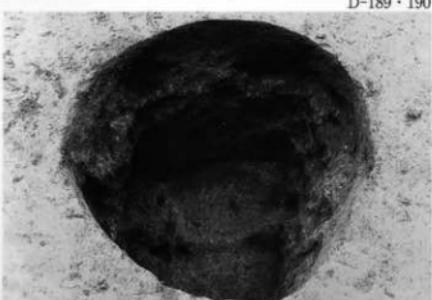
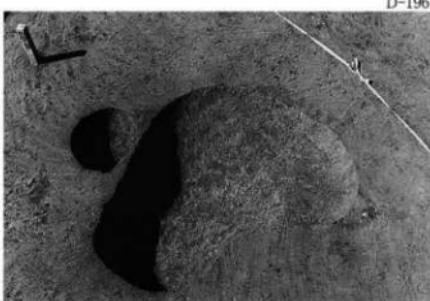
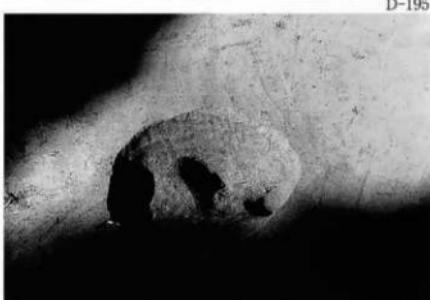
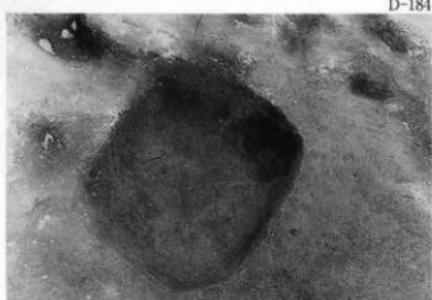


D-159

図版65 中世集落(6)



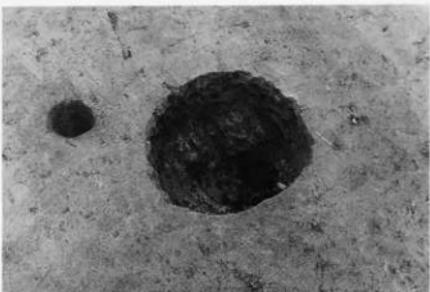
図版66 中世集落(7)



図版67 中世集落(8)



D-202



D-208



D-203



D-210



D-204



D-215

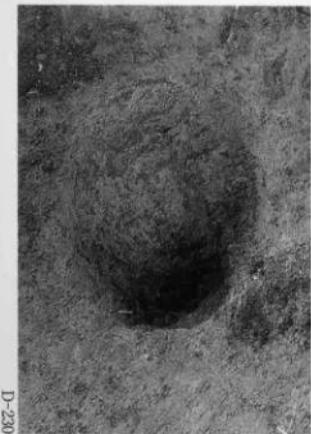


D-207



D-216

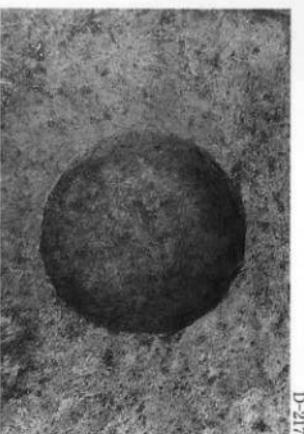
図版68 中世集落(9)



D-230



D-229



D-228



D-217



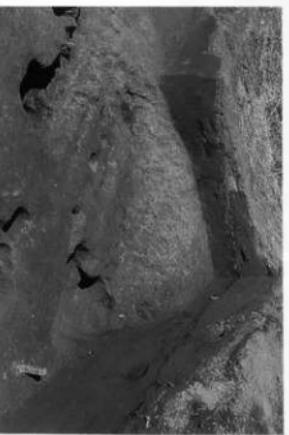
D-1003  
完掘



D-1003 遺物出土状況



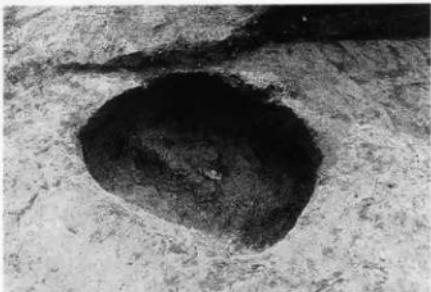
D-1001



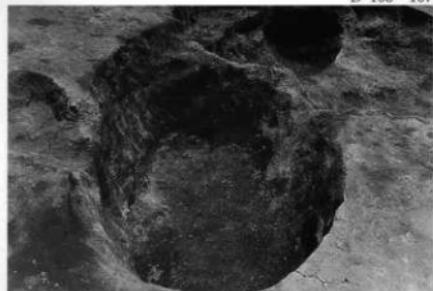
图版69 中世土坑墓(1)



D-105 · 107



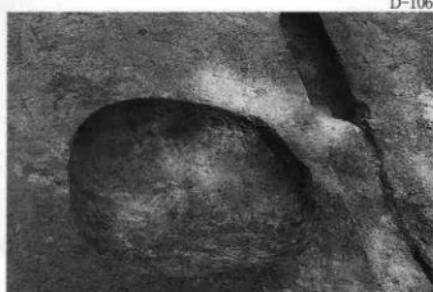
D-114 遺物出土状况



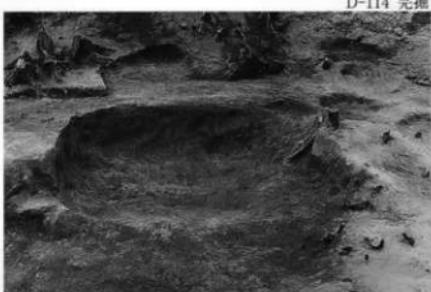
D-106



D-114 完掘



D-110



D-115



D-111



D-116

图版70 中世土坑墓(2)



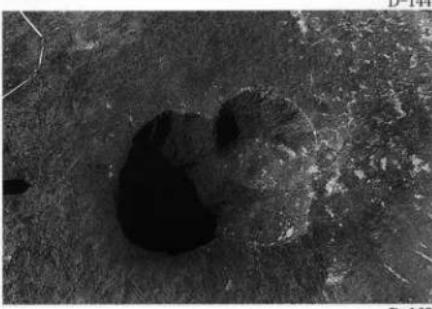
D-117



D-144



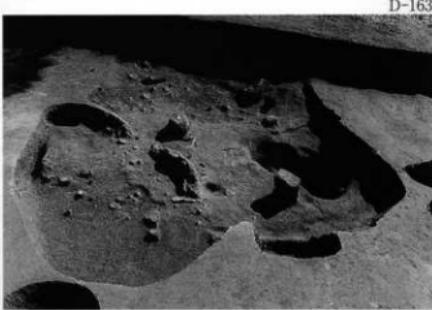
D-118



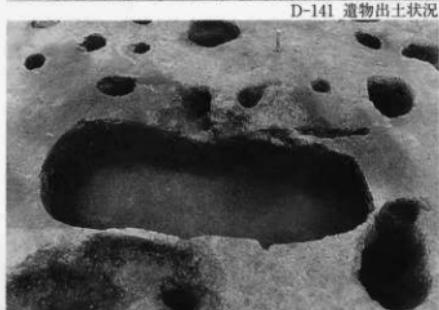
D-163



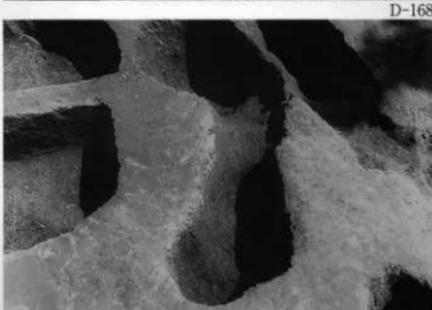
D-141 遗物出土状况



D-168

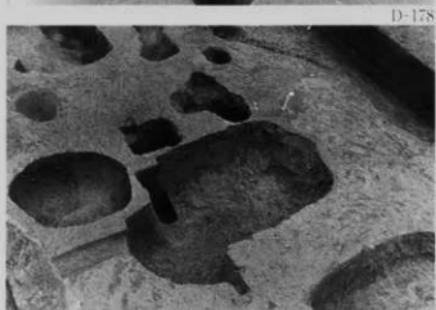
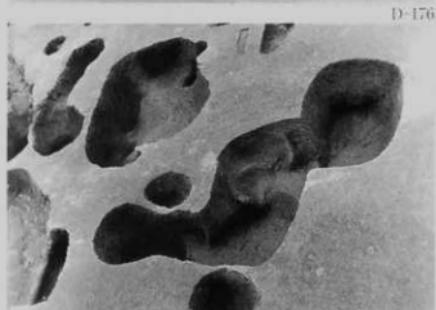
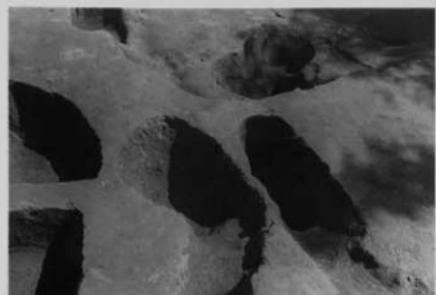


D-141 完掘

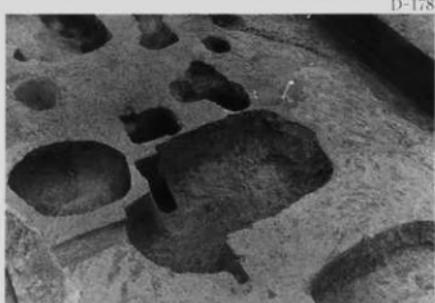
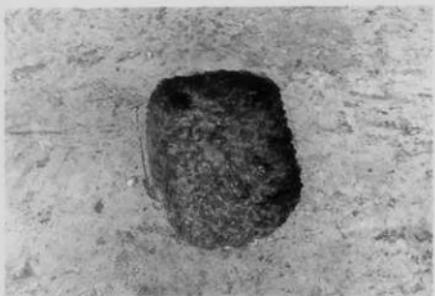
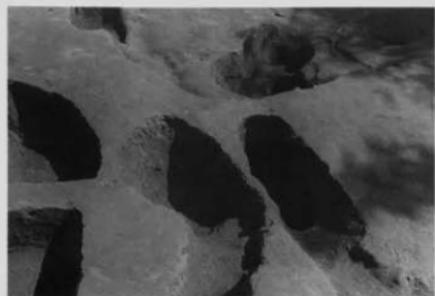


D-172

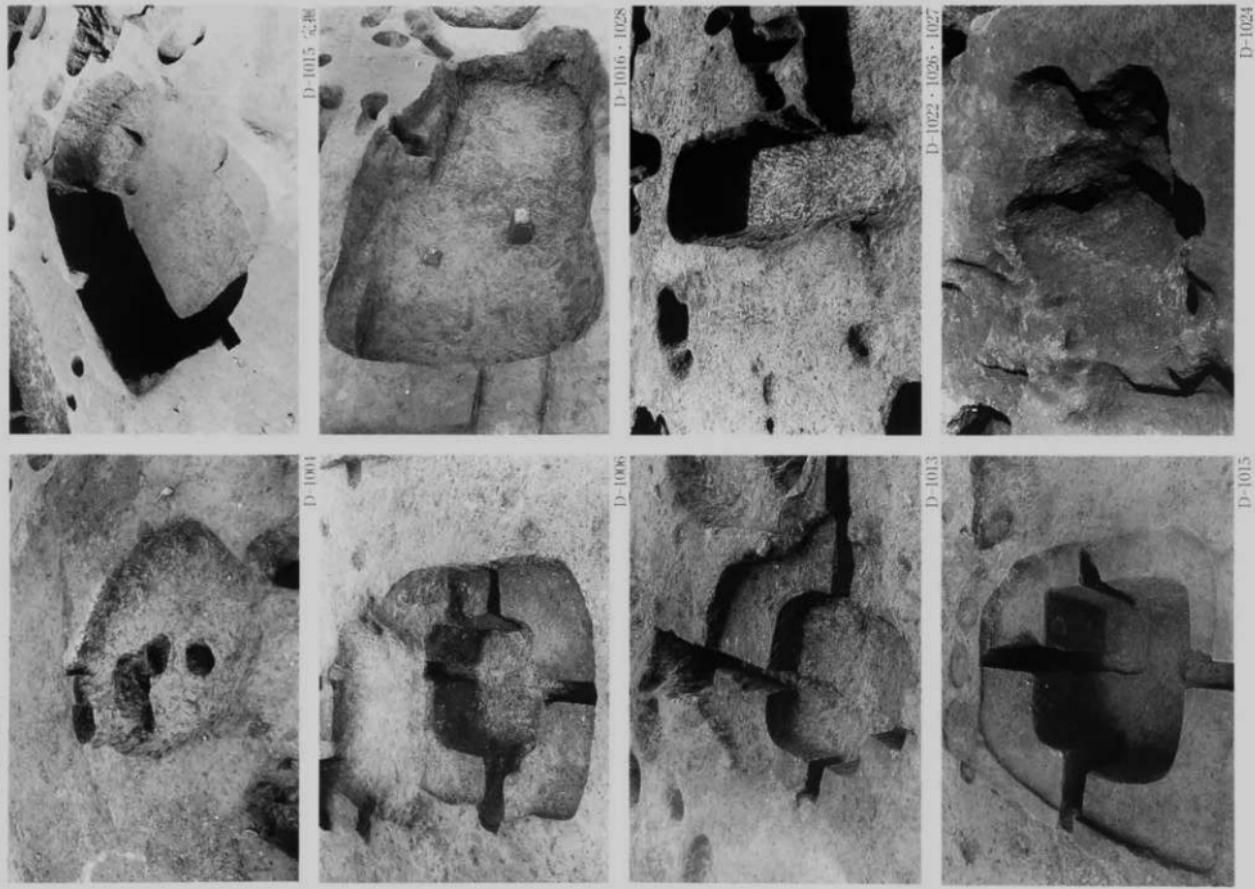
図版71 中世土坑墓 3



図版71 中世土坑墓(3)



圖版72 中世土坑墓4



図版73 中世粘土貼り土坑墓(1)



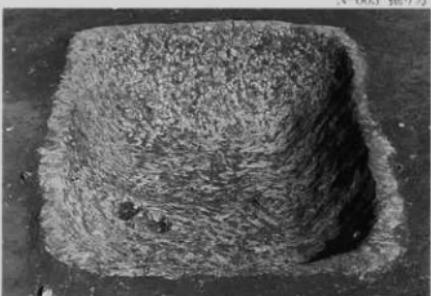
N-001



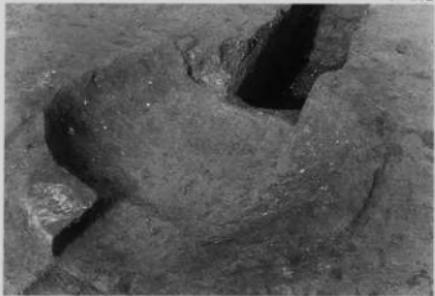
N-003 掘り方



N-002



N-004



N-002 掘り方



N-004 掘り方

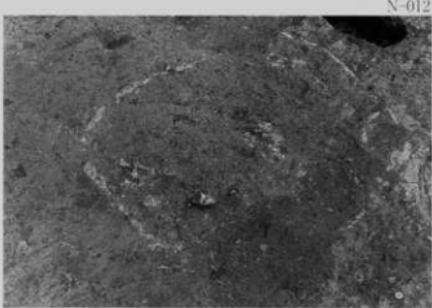


N-003



N-005

図版74 中世粘土貼り土坑墓(2)



図版75 近世集落(1)



D-037



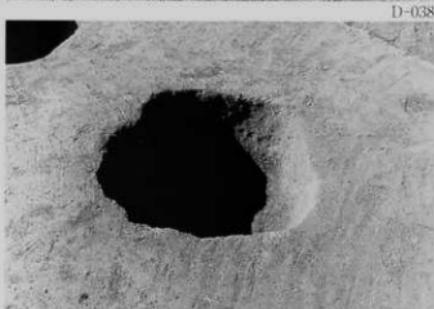
D-075



D-038



D-076



D-039



D-077



D-073



D-079

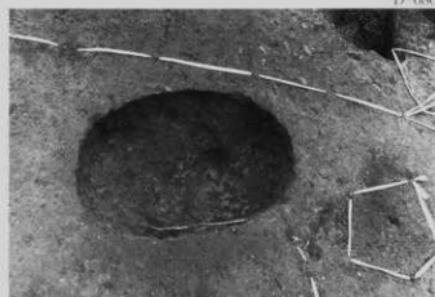
図版76 近世集落(2)



D-080



D-087



D-084



D-088



D-085



D-089

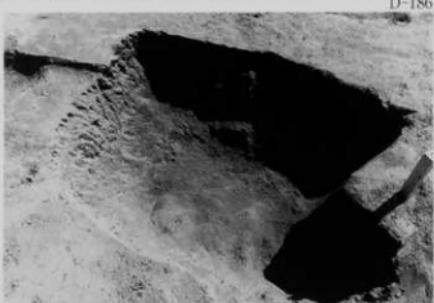
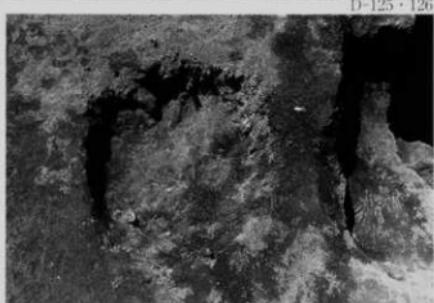
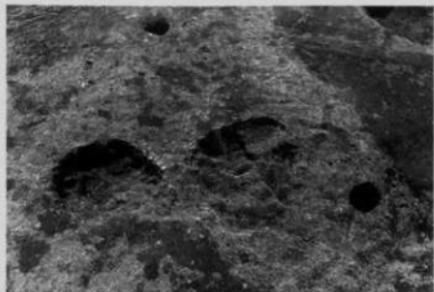


D-086



D-098 - 099

図版77 近世集落(3), 地下式坑



図版78 奈良・平安時代、中世および遺構外出土遺物



D-017-1



D-113-1



D-124-4



D-024-2



D-124-1



D-211-2



D-024-3



D-124-2



D-141-1



D-043-2

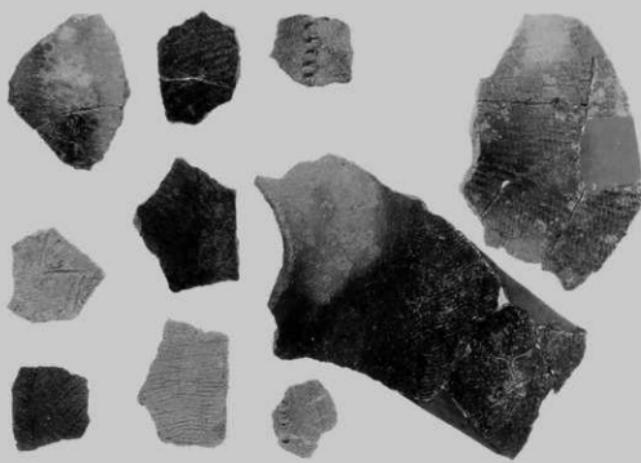


D-124-3

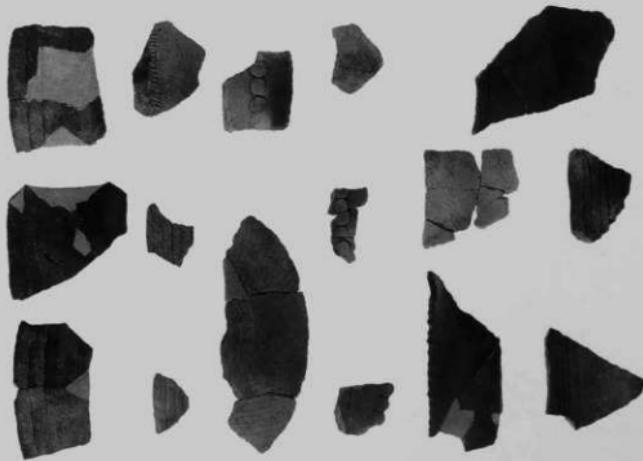


遺構外-7

図版79 弥生土器

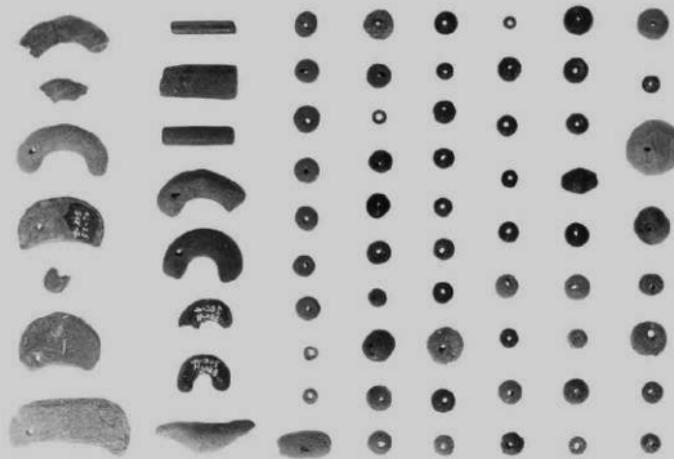


弥生土器 2)

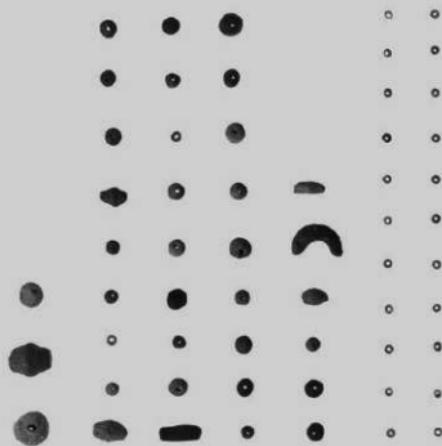


弥生土器 1)

図版80 玉・勾玉類



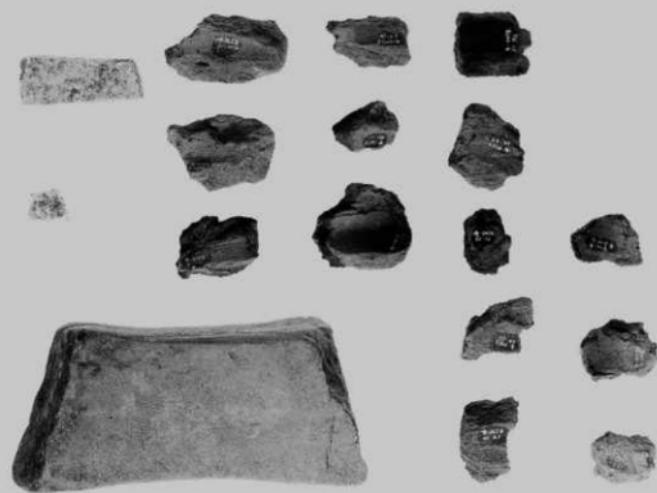
E・勾玉類



F・勾玉類

図版81 砥石・羽口

石器・羽口



砥石



図版82 石製品・支脚



支脚



石製品

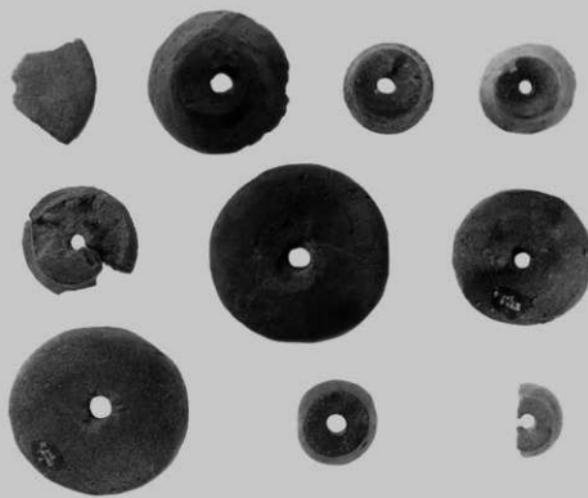
图版83 中世、近世陶磁器



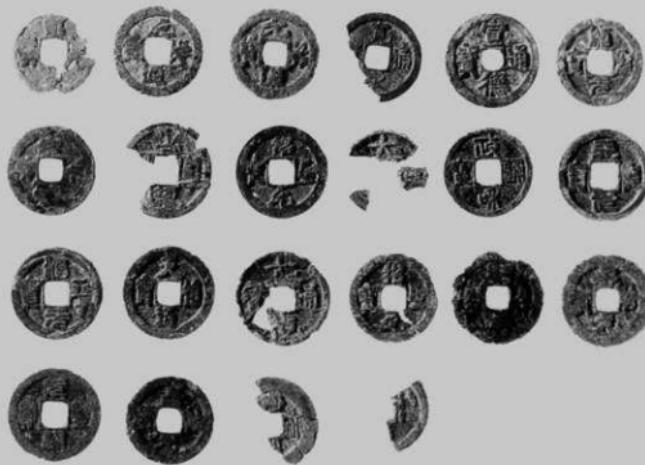
江井陶磁器

中世陶磁器

図版84 紡錘車・古銭

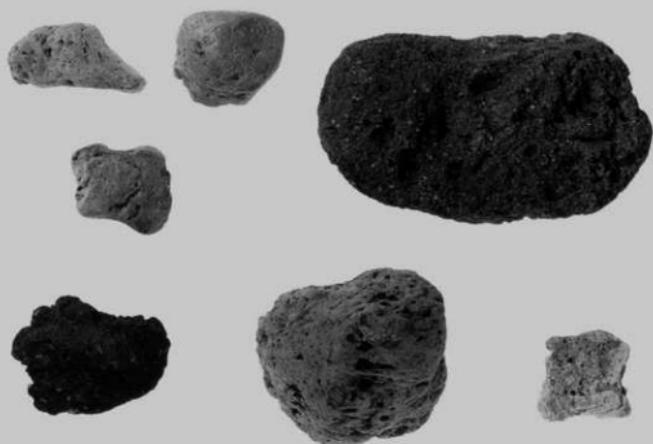


紡錘車

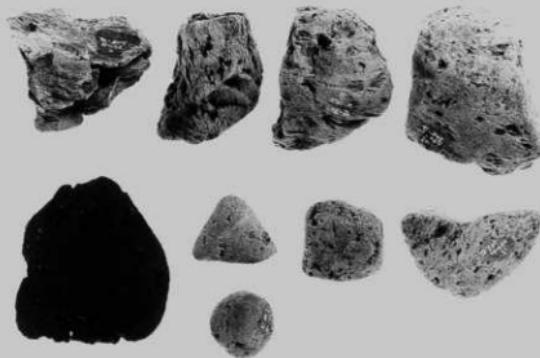


古銭

図版85 軽石



軽石1



軽石2

図版86 土製品・種子



土製品

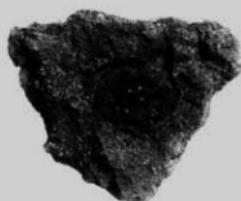


種子

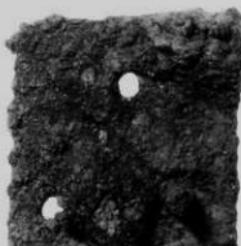
図版87 鉄製品 1)



H-003  
20



H-005  
26



H-008  
3



H-009  
10



H-010  
6



H-016  
6



H-016  
7



H-016  
8



H-027  
7



H-029  
29



H-029  
30



H-030  
9



H-030  
10



H-030  
11



H-030  
12

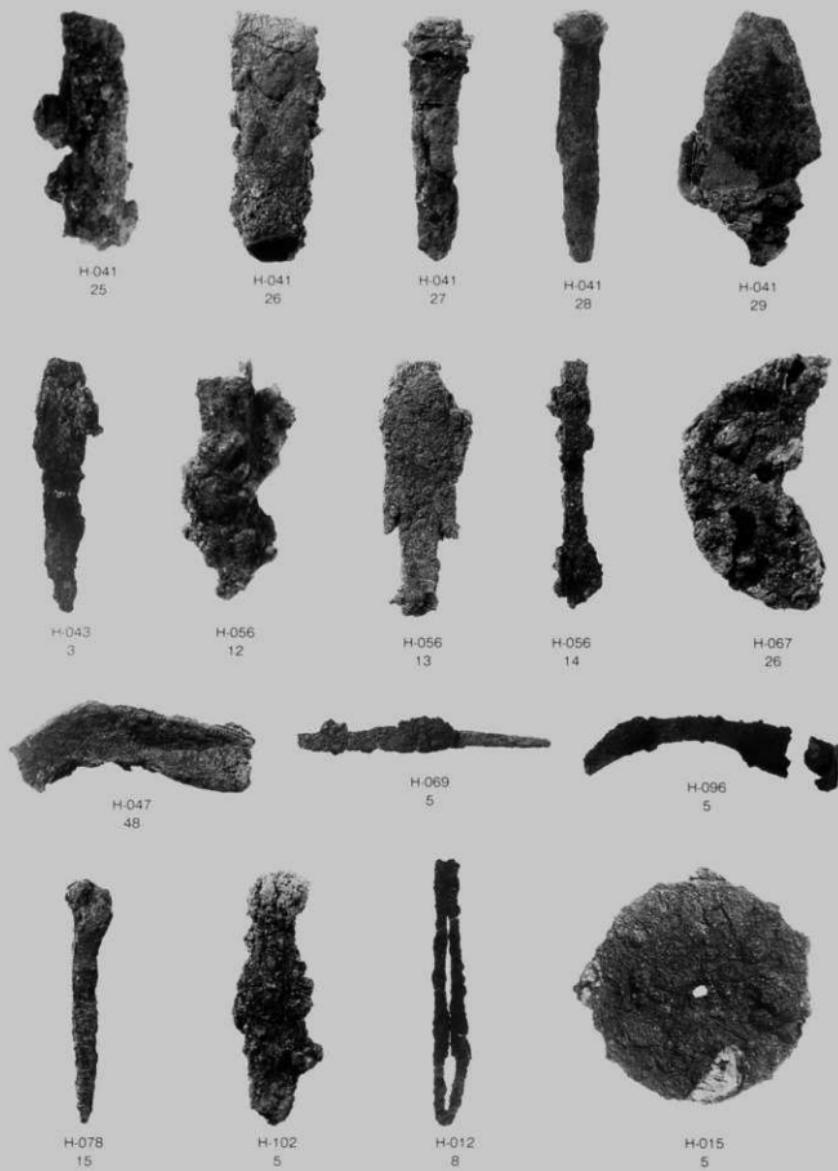


H-030  
13



H-030  
14

図版88 鉄製品 2)



図版89 鉄製品(3)



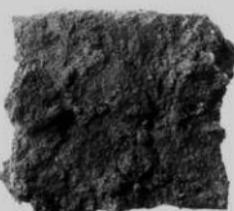
D-211  
15



D-211  
16



D-211  
14



D-1003  
7



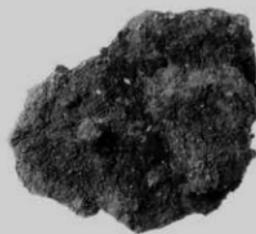
D-1003  
6



D-1000  
1



D-1000  
3



D-1000  
2



D-1015  
2



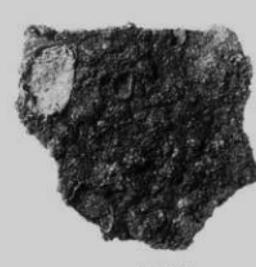
D-1015  
3



D-1015  
4



D-1006  
1



D-1000  
4



D-1024  
1



D-1024  
2



D-1026  
1



D-1028  
1



D-1028  
2

図版90 鉄製品(4)

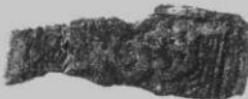
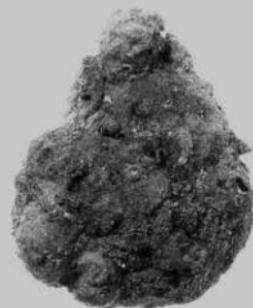


図版91 梭形渾他

土坑



遺構外



# 報告書抄録

ふりがな 所蔵遺跡名	なぐくらかじやだいいせき 長倉鍛冶屋台遺跡						
書名	長倉鍛冶屋台遺跡						
副書名							
シリーズ名	財団法人山武都市文化財センター調査報告書 V						
シリーズ番号	第93集						
編著者名	島立 桂・田中万里子						
編集機関	財団法人山武都市文化財センター						
所在地	〒299-3242 千葉県山武市大網白里町金谷郷1356-2 Tel0475-72-3211						
発行年月日	西暦2007年3月20日						
ふりがな 所蔵遺跡名	ふりがな 所 在 地	コード 市町 遺跡番号	北緯 ***	東経 ***	調査期間	調査面積	調査 原因
長倉鍛冶屋台遺跡	山武市横芝光町 長倉字鍛冶屋台 765-1番地他	12408 205	山文七 - 35° 37° 46°	140° ~ 32°	20020225 20020327 20020401 ~ 20020430  20020501 ~ 20030331  20030401 ~ 20040323  20040412 ~ 20040615	(上層確認) 1,040m <sup>2</sup> / 10,400m <sup>2</sup> (上層本調査) 800m <sup>2</sup>  (上層本調査) 5,380m <sup>2</sup> (下層確認) 164m <sup>2</sup> / 4,100m <sup>2</sup> (下層本調査) 284m <sup>2</sup>  (上層本調査) 4,550m <sup>2</sup> (上層確認) 12m <sup>2</sup> / 100m <sup>2</sup> (下層確認) 236m <sup>2</sup> / 3,600m <sup>2</sup> (下層本調査) 20m <sup>2</sup>  (上層本調査) 50m <sup>2</sup> (下層確認) 84m <sup>2</sup> / 2,700m <sup>2</sup> (下層本調査) 200m <sup>2</sup>	道路 建設
	山武市横芝光町 長倉字上北田 763番地他						
	山武市横芝光町 長倉字鍛冶屋台 725-10番地他						
山武市横芝光町 長倉字上北田 766-1番地他							
所蔵遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項	
長倉鍛冶屋台遺跡	包蔵地	旧石器時代	石器集中地点 4か所		ナイフ形石器、石斧		
	包蔵地	縄文時代	隙穴				
	集落地	弥生時代	住居跡		弥生土器		
		古墳時代	住居跡、土坑		土師器、須恵器、ミニチュア土器、鏡形土製品、土玉、白玉、子持勾玉、砥石、軽石、鉄製品		
		奈良・平安時代	住居跡、掘立柱建物、土坑、櫛列、溝		土師器		
		中世	掘立柱建物、土坑、櫛列、井戸状遺構、土坑墓、粘土張土坑墓、溝		土師器、中世陶磁器、鉄製品		
	包蔵地	近世	土坑、地下式坑、溝		近世陶磁器		

千葉県山武郡山武町  
**長倉鍛冶屋台遺跡**

—国道126号山武東線道路建設に伴う発掘調査報告書V—

---

印刷 平成19年3月16日

発行 平成19年3月20日

編 集 財團法人 山武都市文化財センター

千葉県山武郡大網白里町金谷郷1356-2

TEL 0475(72)3211

発 行 千葉県道路公社

印 刷 株式会社 **ぎょうせい**

---